ISSN　1883-132X

沖縄県立博物館・美術館年報

No. 4

２０１１

沖縄県立博物館・美術館

沖縄県立博物館・美術館年報　No.4　2011

沖縄県立博物館・美術館

序

沖縄県立博物館は2007年11月１日に首里から現在のおもろまちへ移転し、県民待望の美術館を合わせ持つ複合施設「沖縄県立博物館・美術館」として開館しました。同時に組織体制が新しくなり、館の運営に当たっては指定管理者制度が導入されました。おかげさまで旧館時代と比較しますと年間の入館者数は約10倍増となっており、2011（平成23）年１月19日には入館者150万人を達成いたしました。これもひとえに県民の皆様をはじめとする県内外各位の本館に対する大きな期待の表れであると考えております。

博物館の常設展では「海と島に生きる」をメインテーマに、沖縄の「海洋性」、「島嶼性」といった特徴の中で育まれてきた個性豊かな自然や歴史、文化などを体系的に展示しています。美術館ではこれまでに収集された沖縄及び沖縄県にゆかりのある作家の近現代美術作品を中心にして、日本及びアジア諸国、アメリカの現代美術作品のコレクション展示が行われています。2010年度は博物館特別展として「海のクロスロード　八重山」、企画展として「琉球陶器の来た道」、「骨の科学」、「新収蔵品展」、「大嶺薫コレクション展」を開催し、美術館では企画展「母たちの神－比嘉康雄」、「安谷屋正義展－モダニズムのゆくえ」を開催しました。また、指定管理者主催の展示会として「いわさきちひろ」、「遠き道－はて無き精進の道程－」、「沖縄マンガ」、「ちゅくいむじゅくい　風土と建築」が開催され、外部団体主催を含めますと年間に20本以上の展示会が開催されました。その他にも教育普及活動として各種講座や体験学習教室、展示解説会をはじめとする様々な取り組みを行ってまいりました。26年ぶりに石垣市民会館で行われた移動展では３日間の開催期間中に延べ6,800人余りの入場者を集め、八重山地域の皆様に当館の資料をご覧いただきました。このような活動は、本県の特色ある自然、歴史、文化、芸術等を県内外に発信するとともに、教育、学術、文化、生活福祉等の向上に資するものとして今後も大きな役割を担っています。

博物館・美術館の活動には本県に関わりのある資料の収集や保管、展示、教育普及および調査研究があり、それらを集約した沖縄県立博物館・美術館は「県民の知的共有財産」であります。県民の皆様が楽しみながら学習することによって自らの来歴に自信と誇りを持ち、主体的に生きていく意識形成の拠点になりうるものと考えています。これからも現状に甘んじることなく常に進化する博物館・美術館を目指して職員一同微力を投入していこうと決意を新たにしています。

今後ともより一層のご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2011年（平成23）11月

沖縄県立博物館・美術館

館長　白保台一

目　次

序

概要 …… 1

Ⅰ　沿革 …… (2)
Ⅱ　日誌抄 …… (6)
Ⅲ　施設・設備 …… (9)
Ⅳ　組織 …… (12)
Ⅴ　沖縄県立博物館・美術館協議会 …… (17)
Ⅵ　予算 …… (18)
Ⅶ　収蔵資料現在高 …… (18)

利用統計 …… 19

Ⅰ　入館者統計 …… (20)
　1．総入館者集計　2．団体別入館者月別集計　3．展覧会別入館者集計
　4．2010年度月間入館者数　5．年間入館者数の年次推移　6．減免申請集計
　7．団体入館内訳
Ⅱ　施設利用者統計 …… (26)
　1．月別施設利用集計　2．施設貸出内訳

博物館 …… 39

Ⅰ　調査研究等の活動 …… (40)
　1．調査研究の概要　2．博物館総合調査－竹富島総合調査－
　3．博物館共同研究事業－人類学調査－
　4．調査・研究・講演・著作論文等　5．職員研修
Ⅱ　展示活動 …… (50)
　1．展示活動概要　2．常設展　3．総合展示室展示替え
　4．部門展示替え　5．企画展「新収蔵品展－平成21年度新収蔵品展－」
　6．特別展「海のクロスロード　八重山」
　7．三館合同展「宝庫からのメッセージ～琉球・沖縄の貴重資料」
　8．企画展「アイヌ－美を求める心」　9．企画展「琉球陶器の来た道」
　10．企画展「骨の科学」　11．企画展「大嶺薫コレクション展」
Ⅲ　教育普及活動 …… (69)
　1．博物館教育普及活動の概要　2．学校連携事業　3．博物館体験学習教室
　4．博物館文化講座　5．学芸員講座　6．展示解説会
　7．バックヤードツアー　8．夏休み子ども相談週間　9．博物館ボランティア活動
　10．ふれあい体験室　11．沖縄県立博物館・美術館フリーパス
　12．職場研修受入　13．職場体験受入　14．普及資料の貸出
Ⅳ　資料収集・保存管理 …… (81)
　1．収蔵資料現在高　2．2010（平成22）年度新収蔵資料高
　3．2010（平成22）年度新収蔵資料目録
　4．所蔵指定文化財　5．修理事業　6．レプリカ等製作事業
　7．資料収集事業―資料収集―　8．資料収集事業－基金－　9．資料貸出
　10．写真貸出

美術館 …… 89

Ⅰ　調査研究等の活動 …… (90)
　1．調査研究の概要　2．調査・研究・講演・著作論文等
Ⅱ　展示活動 …… (92)
　1．展示活動概要　2．コレクション展（常設展）
　3．企画展「母たちの神－比嘉康雄展」　4．企画展「安谷屋正義展－モダニズムのゆくえ」
Ⅲ　教育普及活動 …… (99)
　1．美術館教育普及活動の概要　2．鑑賞活動支援　3．バックヤード・ツアー
　4．ボランティア育成講座　5．コレクション・企画展関連シンポジウム
　6．ワークショップ　7．教員向け講座　8．アウトリーチ（移動美術館）
　9．美術館ガイドブック製作

Ⅳ　資料収集・保存管理　……（105）
　1．収蔵作品現在高　　2．2010（平成22）年度新収蔵作品高
　3．2010（平成22）年度新収蔵作品目録　　4．作品収集事業
　5．保存管理業務　　6．作品貸出

文化の杜共同企業体（指定管理者）　…… 121

Ⅰ　文化の杜共同企業体概要　……（120）
Ⅱ　運営方針　……（120）
Ⅲ　組織　……（121）
Ⅳ　文化の杜共同企業体・美術館企画アドバイザー会議　……（123）
Ⅴ　展示活動　……（123）
　1．展示活動概要（美術館企画展）
　（1）「いわさきちひろ展」　（2）「遠き道－はて無き清進の道程」
　（3）「沖縄マンガ」展　（4）県民キュレーター展「ちゅくいむじゅくい　風土と建築」
　2．展示活動概要（自主事業展覧会）
　（1）「石川直樹写真展 ARCHIPELAGO」　（2）「展示会図録展」
　（3）写真展「定点　慰霊の日」
　3．県民ギャラリー
Ⅵ　教育・イベント活動（自主活動）…（136）
　1．ワークショップ・観察会等　2．映画上映
　3．平成22年度文化庁メディア芸術人材支援事業　4．おもろ夜会
　5．しまくとぅばプロジェクト　6．職場体験等の受け入れ
Ⅶ　広報・交流事業活動　……（145）
　1．広報事業　2．地域イベントへの参加
Ⅷ　調査・研究等の活動　……（146）
　1．調査・視察等
Ⅸ　その他　……（147）
　1．職員研修　2．スタッフ接客研修　3．特別展・企画展研修
　4．消防訓練等
　5．観光庁「博物館等の文化施設における外国人旅行者受け入れに関する調査業務」実施協力

全館共同事業　…… 153

Ⅰ　学芸員実習　……（152）
　1．博物館実習　2．美術館実習
Ⅱ　国際博物館の日　……（153）
Ⅲ　移動展　……（154）
Ⅳ　燻蒸・消毒処理　……（160）
Ⅴ　刊行物　……（161）
Ⅵ　主要展覧会一覧（2010年度）……（162）

その他の活動　…… 165

Ⅰ　沖縄県博物館協会　……（164）
Ⅱ　全国組織との関わり　……（164）
　1．日本博物館協会　2．九州博物館協議会　3．美術館連絡協議会
Ⅲ　沖縄博物館友の会　……（165）
Ⅳ　happ（美術館友の会）　……（167）

関係法規抄録　…… 171

○博物館法　○博物館法施行令
○博物館法施行規則　○博物館の登録に関する規則
○沖縄県立教育機関組織規則　○沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例
○沖縄県立博物館・美術館管理規則　○沖縄県立博物館・美術館館長執務規程
○博物館・美術館学芸業務嘱託員設置規程　○博物館・美術館教育普及業務嘱託員設置規程
○美術品調査嘱託員設置規程　○美術品保存修復嘱託員設置規程
○沖縄県立博物館保管資料の利用に関する取り扱い要領

概　要

Ⅰ　沿革
Ⅱ　日誌抄
Ⅲ　施設・設備
Ⅳ　組織
Ⅴ　沖縄県立博物館・美術館協議会
Ⅵ　予算
Ⅶ　収蔵資料現在高

Ⅰ．沿革

【前史】

1936年（昭和11）沖縄縣教育會附設として旧首里城北殿を利用して『郷土博物館』が創設されたが、沖縄戦により全焼した。終戦直後の1945年（昭和20）８月、米国海軍軍政府は石川市（現うるま市）東恩納の地に『沖縄陳列館』を設立した。また、有志により首里城周辺の廃墟の中から残欠文化財の収集が行われ、1946年（昭和21）３月頃、首里の汀良に『首里市立郷土博物館』が設立された。

【創設】

1946年（昭和21）４月24日、沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され、『東恩納博物館』と改称して、新発足した。これが当館の創立にあたる。

【発展】

1953年（昭和28）東恩納博物館と首里の博物館が合併、1955年（昭和30）には『琉球政府立博物館』に改称した。また、1966年（昭和41）には首里大中町の旧中城御殿跡に新館を建設して移転した。1972年（昭和47）の日本への復帰に伴い名称を『沖縄県立博物館』と改め、1973年（昭和48）に２階部を増築し展示スペースを拡充した。

1980年代末（昭和60年代）頃から建物の老朽化が顕著になり、新館建設・移転が具体的に計画される。2004年（平成16）に那覇市新都心に新館の建設を着工。首里在の博物館は、新館への移転準備のため2006年４月１日より休館。2007年（平成19）11月１日に那覇新都心（おもろまち）に美術館を併設した『沖縄県立博物館・美術館』として開館した。

【あゆみ】

1946（昭和21）４月　沖縄陳列館を「東恩納博物館」と改称し、沖縄民政府の所管となる。（４月24日）
1947（昭和22）12月　前年３月に首里汀良町に設立された首里市立郷土博物館も同民政府に移管し「沖縄民政府立首里博物館」に改称する。
1953（昭和28）３月　東恩納博物館を首里博物館に移転合併する。
５月　首里博物館は汀良町から当蔵町に移り、龍潭池畔に瓦葺の本館が完成した。
米国民政府によりペルリ来琉百周年記念事業の一環として、ペルリ記念館を附設して落成、贈呈される。
1955（昭和30）９月　「首里博物館」の名称を「琉球政府立博物館」に改称する。
1965（昭和40）９月　大中町の旧尚家屋敷跡（中城御殿）を購入する。
1966（昭和41）10月　米国による援助で鉄筋コンクリート建の新館を新敷地に建設し移転する。
11月　開館する。
1972（昭和47）２月　サントリー美術館との共催で、『50年前の沖縄』写真展開催
５月　日本への復帰に伴い「沖縄県立博物館」に改称する。
1973（昭和48）２月　国庫補助により2階部を増築し、展示室を３室増設する。
1976（昭和51）４月　創立30周年記念式典を行う。
12月　『博物館30年の歩み展』開催
1979（昭和54）６月　特別展『沖縄の洞穴と洞穴生物』開催
1980（昭和55）１月　特別展『日本の美－救世熱海美術館名品展－』及び『沖縄県立博物館名品展』開催
２月　「移動博物館」を久米島の具志川・仲里両村で開催する。以後、離島市町村で毎年実施する（2008年度からは「移動展」に改称）。
８月　特別展『琉球のシダ植物』開催
11月　特別展『失われた生物たち－大恐竜展－』開催
1981（昭和56）３月　博物館法に基づき『登録博物館』として登録される。（３月30日付け）
10月　特別展『沖縄の美－日本民芸館蔵－』及び『戦前の沖縄写真展』開催
1982（昭和57）５月　新たに常設展として自然部門を設置
７月　企画展『沖縄の昆虫』開催
10月　特別展『熊本県・沖縄県交流展－熊本の歴史と文化－』開催
1983（昭和58）５月　企画展『琉球の漆工芸』開催
11月　特別展『沖縄県･熊本県交流展－沖縄の美 風土と美術工芸－』を熊本県立美術館にて開催
1984（昭和59）６月　企画展『玉城朝薫生誕三百年記念展－琉球芸能の世紀－』開催
７月　企画展『沖縄のシダ・貝・昆虫標本展』開催

10月　企画展『今帰仁グスク展』開催
1985（昭和60）２月　企画展『紅型衣装と型紙展』開催
11月　特別展『グスクーグスクが語る古代琉球の歴史とロマンー』開催
1986（昭和61）２月　特別展『大嶺薫コレクションー美術工芸の美を求めてー』開催
1987（昭和62）10月　スポーツ芸術・特別展『沖縄の自然･歴史･文化』『沖縄近代の絵画ー物故作家ー』開催
12月　企画展『田名家収蔵品展ーある首里士族の400年ー』開催
企画展『現代沖縄の陶芸ー天野鉄夫コレクションー』開催
1988（昭和63）８月　特別展『ヤンバルの自然』開催
11月　特別展『三線名器100挺展』開催
1989（平成元）11月　特別展『インドネシア更紗展』開催
12月　企画展　真境名由康生誕100年記念『芸能資料展』開催
1990（平成２）１月　特別展『大アンデス文明展』開催
８月　企画展『沖縄の野鳥展』開催
11月　企画展『沖縄の祭り』開催
1991（平成３）２月　企画展『技と美ー大城志津子の世界ー』開催
８月　企画展『沖縄のチョウ展』開催
９月　企画展『壺屋陶工遺作展』開催
10月　特別展『アジアの祭りと芸能』開催
1992（平成４）２月　企画展『琉球の香り・あわもりの歴史と文化』開催
６月　特別展『古代メキシコ至宝展』開催
８月　特別展『沖縄の貝類展』開催
10月　復帰20周年記念特別展『琉球王国展』開催
1993（平成５）１月　特別展『尚家継承琉球王朝文化遺産展』開催
２月　企画展『謝花雲石展』開催
７月　企画展『芭蕉布と平良敏子』開催
８月　特別展『沖縄の川と生きもの』開催
11月　企画展『刻まれた歴史ー沖縄の石碑と拓本ー』開催
1994（平成６）７月　特別展『子どもの世界』開催
1995（平成７）６月　戦後50周年記念特別展『甦る沖縄・戦災文化財と戦後生活資料展』開催
1996（平成８）７月　特別展『大久米島展』開催
12月　企画展『沖縄県立博物館50年の歩み』開催、創立50周年式典を行う。
1997（平成９）４月　特別展『アルゼンチンの大恐竜展』開催
1998（平成10）７月　企画展『琉球王国時代の植物標本展』開催
11月　特別展『包むこころ　ふろしき展』開催
1999（平成11）８月　特別展『三線のひろがりと可能性展』開催
10月　企画展『日本の技ー伝統のかたちー』開催
（第７回全国重要無形文化財保持団体秀作展『日本の伝統美と技の世界』巡回展）
2000（平成12）２月　企画展『工芸王国ーきらめく手わざの世界を沖縄からー』開催
７月　特別展サミット開催記念『大琉球展』開催
11月　特別展ハワイ移民100周年記念『日系移民1世紀展』開催
2001（平成13）２月　企画展『沖縄の繊維・染料植物展』開催
３月　企画展『工芸王国ー人・技・心ー』開催
11月　特別展『かざりとかたち展』開催
2002（平成14）９月　特別展『港川人展』開催
10月　企画展『沖縄の文化財展』開催
2003（平成15）２月　企画展『おきなわナースものがたり』開催
７月　企画展『旅する種子ー運ばれるための巧妙なしかけー』開催
10月　特別企画展『沖縄織物へのメッセージー田中俊雄の研究ー』開催
2004（平成16）２月　企画展『戦前・戦後の文化財保護ー仲座久雄の活動をとおしてー』開催
８月　企画展『沖縄歴史を綴る秘宝展』開催
11月　企画展『自然界のエイリアンー海をこえて持ちこまれた動物たちー』開催
2005（平成17）２月　特別展『いま・むかし、おもちゃ大博覧会ー入江正彦児童文化史コレクションー』開催
2006（平成18）２月　閉館記念特別展『柳宗悦の心と眼ー柳宗悦の民藝と巨匠たち展ー』開催
３月　『ありがとう・さよなら』キャンペーン（３月22日～３月31日　無料入館）
企画展『わたしの宝もの展』（博物館友の会主催）開催

2007（平成19）３月　閉館の集い実施（31日）
４月1日から博物館新館移転準備のため2007年（平成19）10月末まで休館する。
新館へ事務所移転（29日）。首里在の沖縄県立博物館閉館式（30日）を行い、沖縄県立博物館の全ての組織・機能等は教育庁文化施設建設室に、また首里の博物館敷地及び建物の管理は教育庁文化課にそれぞれ引き継ぐ（31日）。
４月　新館での事務を開始する。（１日）
７月　沖縄県立博物館・美術館の指定管理者として「文化の杜共同企業体」が指定を受ける。（３年５ヶ月）
８月　指定管理者・文化の杜共同企業体が開館事前準備のため事務をはじめる。
11月　那覇市おもろまちに沖縄県立博物館・美術館が開館する。同時に、博物館新館開館記念展『人類の旅－港川人の来た道－』と美術館開館記念展『沖縄文化の軌跡 1872－2007』を開催する。（１日）
指定管理者・文化の杜共同企業体が県と共に運営業務をはじめる。（１日）
2008（平成20）２月　博物館企画展『新収蔵品展－平成17・18年度収蔵資料－』」開催
３月　指定管理者企画展『世界の現代アーティスト50人展』開催
美術館常設展開会式（25日）
５月　博物館企画展『新収蔵品展－平成19年度収蔵資料－』開催
指定管理者企画展『情熱と戦争の狭間で－無言館・沖縄・画家たちの表現－』開催
７月　美術館企画展『新収蔵品展　ポリエドール～沖縄・アジアの多様性～』開催
指定管理者特別展『恐竜ミュージアム2008』開催
９月　指定管理者企画展『しまくぅば』開催
博物館企画展『ずしがめの世界』開催
11月　開館一周年記念博物館特別展『甦る琉球王国の輝き』開催
美術館企画展『美術家たちの「南洋群島」』開催
2009（平成21）１月　博物館企画展『発掘された日本列島2008』開催
博物館企画展『沖縄考古学ニュース』開催
美術館企画展『移動と表現－変容する身体・言語・文化－』開催
４月　指定管理者企画展『アトミックサンシャインの中へ　in　沖縄』開催
５月　博物館企画展『新収蔵品展－平成20年度資料－』開催
指定管理者企画展『王昭展』開催
指定管理者企画展『豊潤の美を求めて－金城安太郎と高畠華宵－』開催
７月　指定管理者企画展『琉球絵画展』開催
９月　指定管理者企画展『オキナワデザインの現在』開催
10月　博物館特別展『琉球使節、江戸へ行く！』開催
美術館企画展『名渡山愛順展－名渡山愛順が見た沖縄』開催
12月　博物館企画展『大嶺コレクション展』開催
2010（平成22）１月　美術館企画展『タカエズトシコ展』開催
２月　博物館企画展『造礁サンゴ－楽園をつくった偉大な建築家－』開催
博物館企画展『ものづくり今昔－自然の恵みを活かす－』開催
４月　総務班が設置され、三班体制となる
指定管理者企画展『いわさきちひろ』展開催
指定管理者企画展『石川直樹写真展』開催
５月　博物館企画展『新収蔵品展－平成21年度収蔵資料－』開催
指定管理者企画展『遠き道－はて無き精進の道程－』開催
７月　指定管理者県民キューレーター展『沖縄マンガ』展開催
９月　指定管理者企画展『ちゅくいむじゅくい　風土と建築』開催
博物館特別展『海のクロスロード　八重山展』開催
11月　美術館企画展『母たちの神－比嘉康雄』展開催
12月　博物館・指定管理者企画展『アイヌ～美を求める心～』開催
2011（平成23）１月　美術館企画展『安谷屋正義展－モダニズムのゆくえ』展開催
博物館企画展『琉球陶器の来た道』開催
２月　博物館企画展『骨の科学』開催
３月　博物館企画展『大嶺薫コレクション展』開催

【歴代館長】

東恩納博物館

大嶺　　薫（1946年４月～1953年３月）

首里博物館

豊平　良顕（1947年12月～1948年３月）
原田　貞吉（1948年８月～1953年３月）

沖縄民政府立首里博物館

原田　貞吉（1953年３月～1955年５月）

琉球政府立博物館

山里　永吉（1955年５月～1958年８月）
大城　知善（1962年２月～1969年11月）
金城増太郎（1958年９月～1961年12月）
外間　正幸（1969年12月～1972年４月）

沖縄県立博物館

外間　正幸（1972年５月～1981年３月）
大城　立裕（1983年４月～1986年３月）
宜保榮治郎（1992年４月～1994年３月）
當間　一郎（1996年４月～1999年３月）
平田　與進（2000年４月～2002年３月）
名嘉　政修（2005年４月～2006年３月）
新垣　隆雄（2007年４月～2007年10月）
大城徳次郎（1981年４月～1983年３月）
大城　宗清（1986年４月～1992年３月）
糸数　兼治（1994年４月～1996年３月）
大城　将保（1999年４月～2000年３月）
當眞　嗣一（2002年４月～2005年３月）
宮城　清志（2006年４月～2007年３月）

沖縄県立博物館・美術館

牧野　浩隆（2007年11月～2011年３月）

Ⅱ．日誌抄（2010年４月1日～2011年３月31日）

2010年（平成22）

４月１日　館長辞令交付式／博物館・美術館職員辞令交付式
２日　指定管理者企画展『いわさきちひろ展』開会式（～５月９日）
５日　台湾事務所所長来館
７日　鯨岡氏寄贈記者会見
９日　博物館･美術館歓迎会
13日　指定管理者企画展『石川直樹写真展「ARCHIPELAGO」』開会式（～５月９日）
14日　日本人類学会長金沢先生来館
20日　警察庁九州管区警察局視察
23日　アイヌ工芸品展企画委員会（於：札幌、濱口班長が参加）
27日　千里文化財団千地先生・ニッセイ財団藤原さん来館
５月６日　県警本部長（他15名）視察
12日　博物館継続ボランティ交付式
14日　九州教育長会議（20名）来館
14日　博物館企画展『新収蔵品展』開会式（～６月６日）
17日　八重山展展示検討委員会
18日　指定管理者企画展『遠き道ーはて無き精進の道程』展開会式（～６月６日）
18日　伊覇政行氏感謝状贈呈式
19日　平成22年度博物館ボランティア養成講座　開講式
20日　佐世保市議会（５名）視察
27日　九州博物館協議会総会（於：熊本県立美術館）
31日　宮内庁事前視察
６月７日　全館燻蒸・消毒（～６月15日）
８日　日本博物館協会評議員会（於：東京、千木良副館長参加）
９日　全国博物館長会議（於：文部科学省講堂、千木良副館長参加）
10日　全国科学系博物館協議会総会（於：国立科学博物館、千木良副館長参加）
14日　消防訓練
18日　沖縄県博物館協会春の総会・研修会（於：読谷村文化センター）
21日　学芸員実習（前期）開講式
23日　内閣府審議官視察
25日　JAICA 研修生研修
30日　博物館ボランティア養成講座閉講式
７月１日　指定管理者企画展『まんが展』開会式（～８月29日）
１日　九州管区局長、皇宮警察本部長代理視察
８日　第1回美術館収集委員会
13日　八戸市議会（１名）視察
13日　指定管理者制度運用委員会
22日　琉球大学図書館長来館
22日　県立美術館副館長等事務責任者会議（於：富山県立美術館、翁長副館長参加）
28日　皇太子殿下来館（総体関連）
29日　鏡が丘特別支援学校長他来館
８月10日　沖縄県特別支援学校中等部総合文化祭開会式（於：講堂）
12日　美術館対教師講座開校式(於：美術館講座室)
15日　日本科学未来館毛利館長来館
16日　学芸員実習（後期）開講式
19日　大分県議会政務調査委員会視察
19日　博物館特別文化講座（小玉正任氏）
26日　檀王法林寺信ケ原氏来館
27日　台中市関係者視察
29日　兵庫沖縄友愛事業関係者来館
29日　韓国大使館文化部長来館

31日　台風７号で休館
９月３日　第２期指定管理者募集現地説明会
３日　八重山展展示検討委員会
７日　福島県議会議員視察／神戸市議会議員視察
７日　指定管理者企画展『風土と建築展』開会式（～９月30日）
10日　資料保存機関連絡協議会（於：沖縄県公文書館）
12日　『甲子園優勝旗展示』開会式（～20日）
21日　八重山郷友会表敬
24日　博物館特別展『海のクロスロード－八重山－』開会式（～11月23日）
27日　第２回美術館収集委員会
10月15日　カンボジア博物館職員来館
16日　沖縄県芸術文化祭公募展開会式
19日　美術館企画展『母たちの神－比嘉康雄』展プレスリリース（於：博物館講座室）
20日　指定管理者選定審査会（於：博物館実習室）
24日　静岡県知事来館
24日　浦添文化協会（文芸部）来館
27日　広島県議会議員視察
27日　博物館ボランティア専門講座閉講式
29日　博物館・美術館移動展（於：石垣市民会館、31日まで）
11月２日　美術館企画展『母たちの神－比嘉康雄』展開会式（～2011年１月５日）
３日　県功労者表彰式典（於：パシフィックホテル）
５日　沖縄県博物館協会秋季研修会（於：奄美）
６日　世界遺産10周年シンポジウム関係者視察
９日　平成22年度沖縄県文化功労者表彰式（於：講堂）
10日　九州博物館協議会研修会（於：宮崎県総合博物館、千木良副館長参加）
12日　うるま市市制５周年記念企画開会式（於：うるま市うるみん）
13日　博物館特別展『海のクロスロード－八重山』関連シンポジウム「白保竿根田原洞穴人と2万年前」（於：博物館講座室）
23日　国立歴史民俗学博物館松尾氏来館
24日　全国博物館大会（26日まで。於：奈良県、牧野館長参加）
30日　博物館･県立図書館･琉球大学図書館三館合同企画展『貴重書展』開会式（～12月５日）
12月３日　博物館企画展『アイヌ－美を求める心』開会式（～2011年１月10日）
５日　美術館企画展『母たちの神－比嘉康雄展』シンポジウム
８日　韓国国立古宮博物館（４名）来館
12日　アイヌ工芸品展記念講演会
25日　美術館企画展『母たちの神－比嘉康雄』展関連シンポジウム

2011年（平成23）
１月８日　美連協事務局長来館
12日　島根県元教育委員長来館
19日　美術館企画展『安谷屋正義－モダニズムのゆくえ』展開会式（～３月31日）
19日　沖縄修学旅行現地視察研修会（離島コース）
19日　入館者通算150万人達成
20日　沖縄修学旅行現地視察研修会（本島コース）
22日　博物館企画展『琉球陶器の来た道』開会式（～３月６日）
23日　収蔵庫燻蒸・消毒（～25日）
27日　河南博物館副院長来館
30日　美術館企画展『安谷屋正義－モダニズムのゆくえ』展講演会
２月４日　博物館企画展『骨の科学』」開会式（～３月21日）
８日　袖井氏ハイネ版画寄贈記者会見（於：館長室）
９日　定期監査
12日　美術館企画展『安谷屋正義－モダニズムのゆくえ』展関連シンポジウム
17日　第２回沖縄県博物館･美術館協議会
19日　文科省勝山課長来館

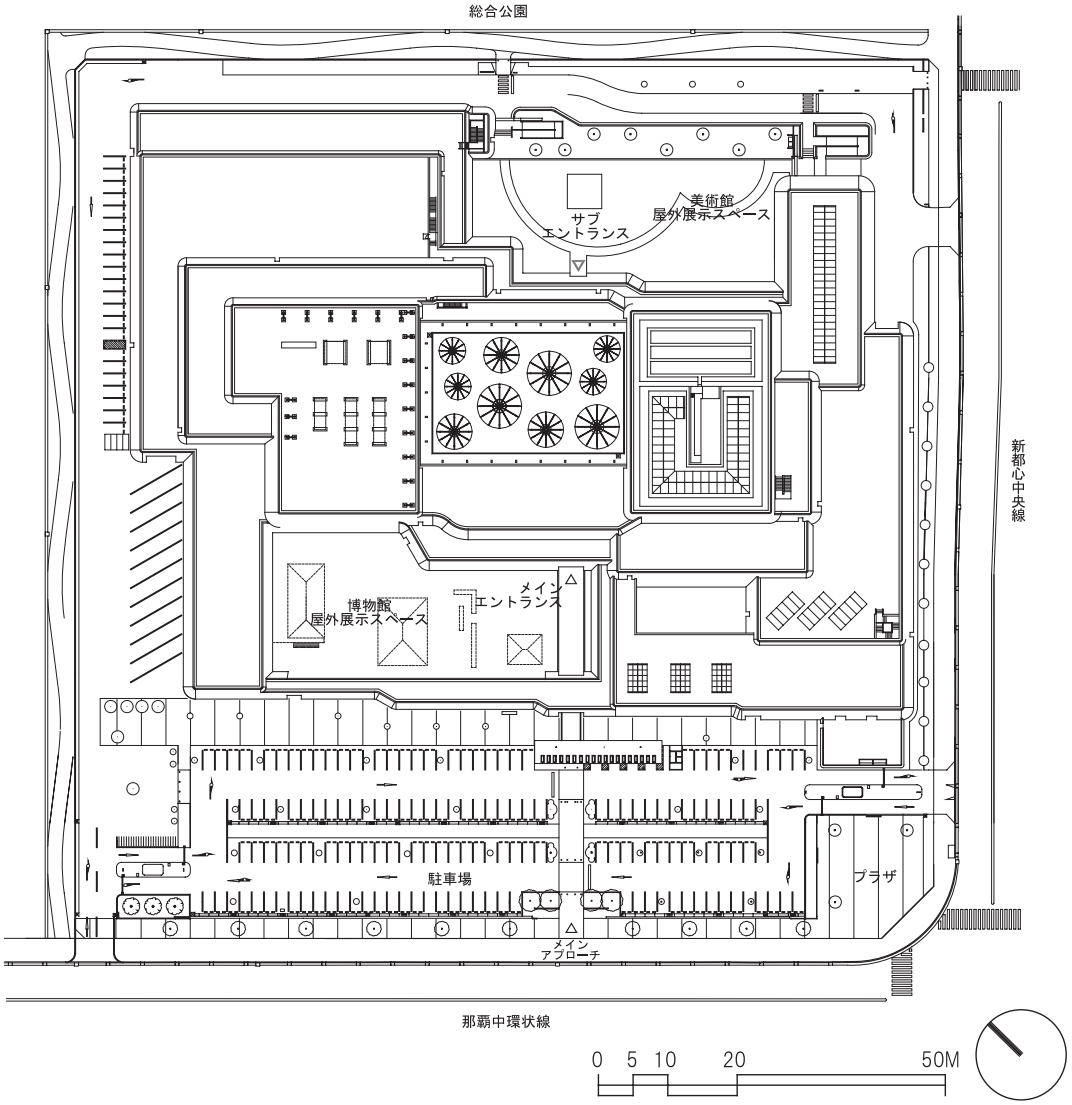
23日　全国科学系博物館協議会研究発表会（於：千葉中央博物館、千木良副館長参加）
３月２日　大林組代表取締役会長来館
４日　美術館企画展 『安谷屋正義－モダニズムのゆくえ』展関連シンポジウム
９日　瀬底氏来館（麻姓家譜の寄託）
15日　博物館企画展『大嶺薫コレクション展』開催（～４月10日）
18日　台湾交流協会視察
18日　博物館ボランティア臨時全体会（於：博物館講座室）
23日　茅原南龍書作展開会式
28日　博物館・美術館送別会
30日　美術品寄贈者感謝状贈呈式（於：博物館講座室）
化石資料整理事業終了



「海のクロスロード　八重山」展開会式


「母たちの神－比嘉康雄展」ギャラリートーク

Ⅲ. 施設・設備



建築概要

●敷地面積…… 31,287㎡
●建築面積…… 13,452㎡
●延床面積…… 23,721㎡
　博物館専有面積…… 10,478㎡
　美術館専有面積…… 7,537㎡
　共有面積…… 5,708㎡
●高さ（最高高さ）… GL＋21.8m
●駐車場
　一般駐車場…… 140台
　（うち身障者用４台）
　大型バス駐車場…… 10台
　駐輪場…… 25台
　関係者駐車場…… 22台

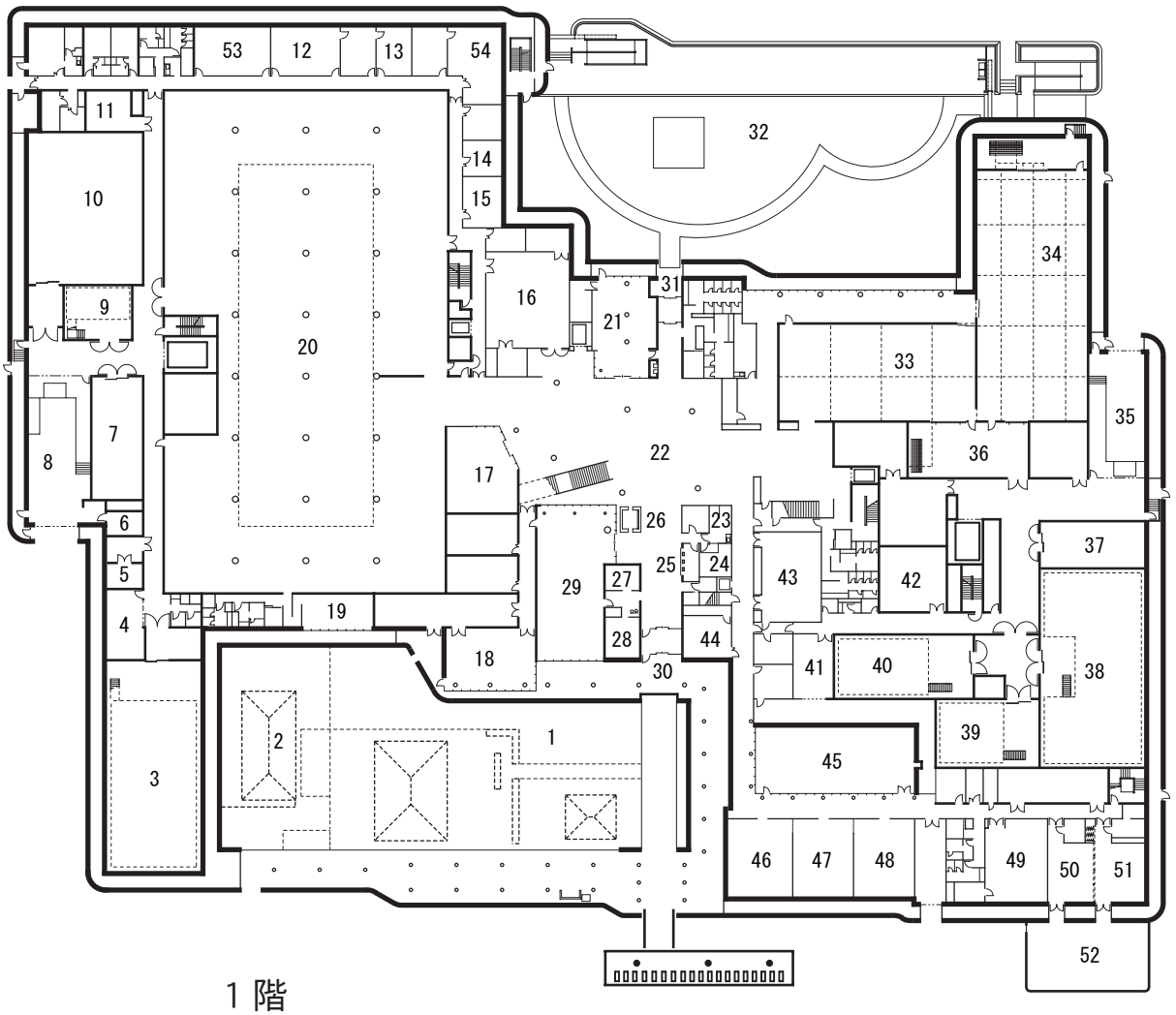
供用施設
●エントランスホール‥ 724㎡
●情報センター…… 217㎡
●講堂（212席）…… 349㎡

博物館の主たる施設

●展示施設
　総合展示室…… 1,252㎡
　部門展示室…… 1,344㎡
　自然史部門…… 360㎡
　考古部門…… 262㎡
　美術工芸部門…… 180㎡
　歴史部門…… 120㎡
　民俗部門…… 421㎡
　屋外展示場…… 1,425㎡
　企画展示室…… 351㎡
　特別展示室…… 459㎡
●教育普及施設
　ふれあい体験室… 110㎡
　博物館講座室…… 191㎡
　実習室…… 108㎡
●収蔵施設（ダブルデッキ含む）
　自然史収蔵庫…… 417㎡
　化石収蔵庫…… 245㎡
　考古・陶磁器収蔵庫…… 613㎡
　特別収蔵庫…… 439㎡
　民俗収蔵庫…… 668㎡
　大型収蔵庫…… 358㎡
　液浸標本室…… 97㎡
　一時保管庫…… 119㎡
●調査研究施設
　研究室…… 176㎡
　研究資料室…… 111㎡
　会議室…… 72㎡

美術館の主たる施設

●展示施設
　企画ギャラリー1…… 394㎡
　企画ギャラリー2…… 490㎡
　コレクションギャラリー1‥ 164㎡
　コレクションギャラリー2‥ 284㎡
　コレクションギャラリー3‥ 370㎡
　県民ギャラリー（1～3）… 277㎡
　県民ギャラリー（スタジオ）‥ 111㎡
　県民アトリエ…… 65㎡
　こどもアトリエ…… 70㎡
　屋外展示場…… 1,368㎡
●教育普及施設
　美術館講座室…… 109㎡
●収蔵施設（ダブルデッキ含む）
　収蔵庫Ａ…… 683㎡
　収蔵庫Ｂ…… 248㎡
　収蔵庫Ｃ…… 204㎡
●調査研究施設
　研究室…… 98㎡
　研究資料室…… 98㎡
　会議室…… 58㎡



1 階

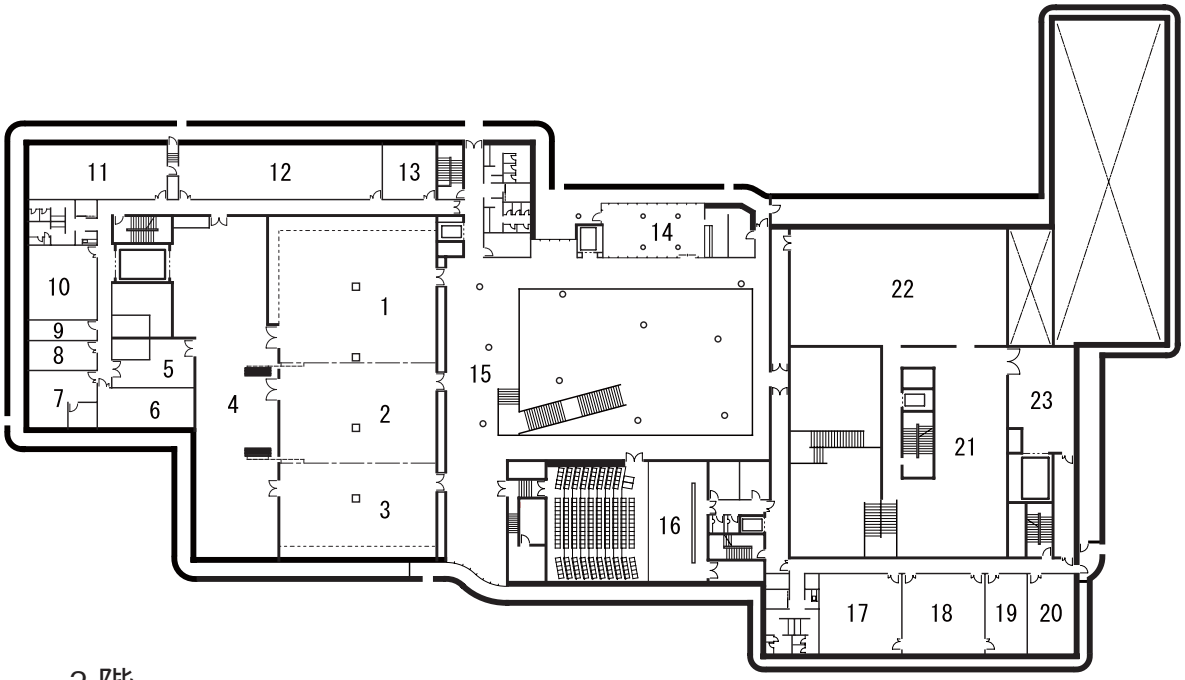
1 階

（博物館）
1　博物館野外展示
2　湧田古窯
3　民俗収蔵庫
4　写真撮影室
5　冷凍庫
6　石工室
7　一時保管庫
8　トラックヤード
9　液浸標本室
10　大型収蔵庫
11　修理修復室
12　博物館・美術館庶務室
13　館長室
14　支援会室
15　博物館ボランティア室
16　博物館講座室
17　博物館ふれあい体験室
18　博物館実習室
19　博物館常設展示休憩室
20　博物館常設展示室

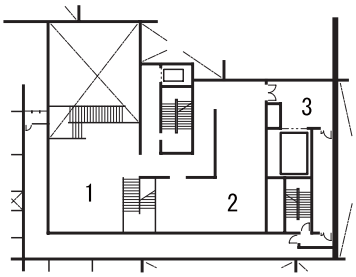
（共有）
21　ミュージアムショップ
22　エントランスホール
23　授乳室
24　託児室
25　券売
26　総合案内
27　救護室
28　コインロッカー
29　情報センター
30　メインエントランス
31　サブエントランス

（美術館）
32　美術館屋外展示
33　美術館企画ギャラリー１
34　美術館企画ギャラリー２
35　トラックヤード
36　展示準備室
37　一時保管庫
38　収蔵庫Ａ
39　収蔵庫Ｂ
40　収蔵庫Ｃ
41　保存修復室
42　工作室
43　美術館講座室
44　美術館ボランティア室
45　中庭
46　県民ギャラリー１
47　県民ギャラリー２
48　県民ギャラリー３
49　県民ギャラリー（スタジオ）
50　県民アトリエ
51　こどもアトリエ
52　屋外活動スペース

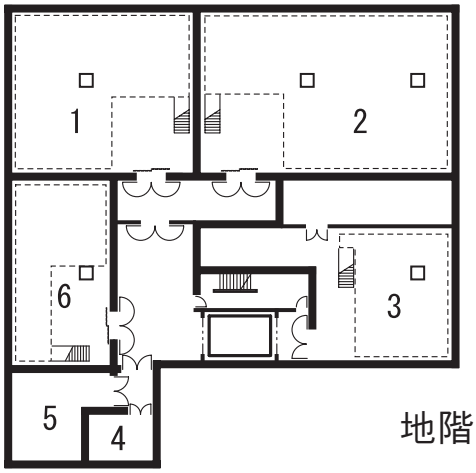
（文化の杜共同企業体・指定管理者）
53　会議室
54　事務室
55　展示交流員控室



3 階



2 階



地階

3 階

（博物館）
1　企画展示室
2　特別展示室１
3　特別展示室２
4　展示準備室
5　工作室
6　自然史実験室
7　保存科学室
8　フィルム保管庫
9　映像編集室
10　学芸員会議室
11　研究資料室
12　学芸員研究室
13　研修室

（共有）
14　喫茶室
15　ホワイエ
16　講堂

（美術館）
17　研究資料室
18　学芸員研究室
19　情報処理室
20　副館長室
21　コレクションギャラリー２
22　コレクションギャラリー３
23　展示準備室

地階

（博物館）
1　特別収蔵庫
2　考古陶磁器収蔵庫
3　自然史収蔵庫
4　劣化フィルム収蔵庫
5　写真パネル収蔵庫
6　化石収蔵庫

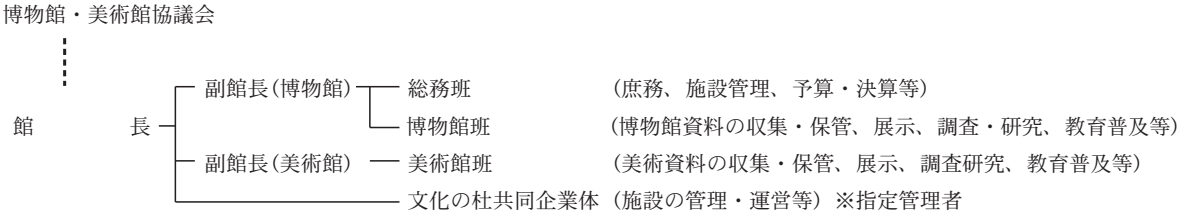
2 階

（美術館）
1　ホワイエ
2　コレクションギャラリー1
3　展示準備室

Ⅳ．組織

【組織】

沖縄県立博物館・美術館は首里に在った博物館に新たに美術館を併設し、那覇市新都心地区に2007年（平成19）11月１日に移転・開館した。この新館開館を機に指定管理者制度も導入しているため、組織は以下のように「総務班」「博物館班」「美術館班」「文化の杜（指定管理者）」の４つにより構成されている（総務班は平成22年度設置）。なお、文化の杜共同企業体に関しては別項にて記述しているので参照頂きたい。



【職員構成】　　2010年４月１日　現在

職　　名	氏　　名	担　　当　　業　　務
館　　長	牧野　浩隆	◎博物館・美術館業務の総括に関すること。
参　事　兼 博物館副館長	千木良芳範	◎博物館業務の統括に関すること。 ◎博物館・美術館の統括に関すること。
美術館副館長 兼　班　長	翁長　直樹	◎美術館業務の統括に関すること。

（総務班）

職　　名	氏　　名	担　　当　　業　　務
班　　長	前田　直昭	◎博物館・美術館の事務の総括に関すること。 ◎予算・執行の総括に関すること。 ◎文書管理の総括に関すること。 ◎指定管理者との調整に関すること。 ◎経営調整会議に関すること。 ◎博物館・美術館の連絡調整に関すること。 ◎九州博物館協議会に関すること。 ◎議会対応に関すること。 ◎視察対応に関すること。 ○広報宣伝に関すること。 ◎その他庶務事務に関すること。
主　　査	大城　洋子	◎博物館・美術館の庶務業務に関すること。 ◎出納業務に関すること。 ◎決算の資料作成に関すること。 ◎会計業務（負担行為、支出）に関すること。 ◎文書、公印、公用車の管理業務に関すること。 ◎職員の給与、福利、服務及び研修業務に関すること。 ◎県債、建物及び使用料等歳入に関すること。 ◎博物館・美術館の連絡調整に関すること。 ◎その他庶務事務に関すること。
主　　査	上原　善彦	◎施設・財産関連業務に関すること。 ◎予算の資料作成及び備品の登録業務に関すること。 ◎博物館・美術館広報宣伝に関すること。 ○視察対応に関すること。 ◎情報管理（ホームページ等）に関すること。 ◎博物館・美術館の連絡調整に関すること。 ○経営調整会議に関すること。 ◎その他庶務事務に関すること。
主　　査	新里　　勝	◎施設管理に関すること。 ◎施設管理にかかる指定管理者との調整業務に関すること。 ◎その他施設管理事務に関すること。
事務補助員	佐藤みゆき	○文書受付に関すること。 ○業務補助に関すること。

（博物館班　学芸員）

職　　名	氏　　名	担　　当　　業　　務
博物館班長	濱口　寿夫	◎博物館班の総括に関すること。 ◎博物館予算に関すること。 ◎沖縄県博物館協会に関すること。 ◎議会対応に関すること。 ◎視察対応に関すること。 ◎博物館資料の収集方針に関すること。 ◎博物館活動の計画に関すること。 ◎学芸員実習の受け入れに関すること。 ◎博物館特別展示室・企画展示室の運営・管理に関すること。 ◎指定管理者との調整に関すること。 ◎2010年度「アイヌ展」に関すること。 ◎研修の受け入れに関すること。 ◎博物館ガイドブックの編集に関すること。 ◎学芸資料・博物館学の調査研修に関すること。 ○2010年度緊急雇用事業に関すること。 ○博物館友の会に関すること。
主任学芸員 （美術工芸）	與那嶺一子	◎美術工芸資料（染色・書跡・彫刻）の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ◎2010年度特別展「八重山展」に関すること。（主担当２） ◎班長の補佐に関すること。 ○2010年度企画展「やきもの」にかんすること。 ○博物館資料収集事業（基金）に関すること。 ○博物館資料修理事業に関すること。 ○ふれあい体験室の運営に関すること。
主任学芸員 (自然史･生物)	田中　　聡	◎生物資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ◎屋外展示（植生）に関すること。 ◎博物館総合調査に関すること。 ○博物館紀要の編集・発行に関すること。 ○学芸研究資料室の図書に関すること。 ○2010年度特別展「八重山展」に関すること。
主任学芸員 （民　　俗）	岸本　　敬	◎民俗資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ◎屋外展示（民家・高倉）に関すること。 ○収蔵品データの総括管理（収蔵品台張）に関すること。 ○保存環境調査（展示室・収蔵庫）に関すること。（副担当２） ○新収蔵品展に関すること。 ○文化財公開承認施設及び登録博物館に関すること。 ○沖縄県博物館協会に関すること。 ○2010年度特別展「八重山展」に関すること。
主任学芸員 （歴　　史）	岸本　弘人	◎歴史資料（近現代）の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ◎常設総合展示室に関すること。 ◎「国際博物館の日」関連事業に関すること。 ◎2010年度特別展「八重山展」に関すること。（主担当１） ◎県立図書館・琉大との共同「貴重文書展」に関すること。 ○『博物館・美術館年報』の編集・発行に関すること。 ○保存環境調査（展示室・収蔵庫）に関すること。
主任学芸員 (自然史･地学)	仲里　　健	◎地質・化石資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ◎化石資料整理事業に関すること。 ◎IPM 及び博物館資料の保存環境・燻蒸・消毒に関すること。 ○沖縄県博物館協会に関すること。 ○2010年度企画展「八重山展」に関すること。
主任 （考　　古）	羽方　　誠	◎考古資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ◎屋外展示（湧田窯）に関すること。 ◎考古資料の複製・修復に関すること。 ◎文化財公開承認施設及び登録博物館に関すること。 ◎移動展に関すること。 ○2010年度特別展「八重山展」に関すること。 ○常設総合展示室に関すること。 ○情報センターの図書・データに関すること。 ○世界遺産登録10周年関連巡回展に関すること。

職　　名	氏　　名	担　　当　　業　　務
主　　任 （歴　　史）	崎原　恭子	◎歴史資料（古琉球･近世）の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ◎資料収集事業に関すること。 ◎常設総合展示室に関すること。 ○「国際博物館の日」関連事業に関すること。 ○博物館資料修理事業に関すること。 ○収蔵品台帳に関すること。 ○沖縄県博物館協会に関すること。 ○県立図書館・琉大との共同「貴重文書展」に関すること。 ○2010年度特別展「八重山展」に関すること。
主　　任 （美術工芸）	平川　信幸	◎美術工芸資料（絵画・陶器・漆器）の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ◎博物館資料収集事業（基金）に関すること。 ◎博物館資料修理事業等に関すること。 ◎保存環境調査(展示室・収蔵庫)に関すること。 ◎2010年度企画展「やきもの」に関すること。 ◎写真資料等の整理に関すること。 ○IPM 及び博物館資料の燻蒸・消毒に関すること。 ○写真資料の貸出、博物館資料の撮影等に関すること。 ○2010年度特別展「八重山展」に関すること。
主　　任 （人　　類）	藤田　祐樹	◎人類学資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ◎港川人骨の管理に関すること。 ◎収蔵品データの総括管理（収蔵品台帳）に関すること。 ◎新収蔵品展に関すること。 ◎博物館紀要の編集・発行に関すること。 ◎共同研究事業に関すること。 ◎2010年度企画展「骨の科学」に関すること。 ○自然史部門展示に関すること。 ○博物館総合調査に関すること。 ○博物館ホームページに関すること。 ○2010年度特別展「八重山展」に関すること。
主　　任 （人　　類）	山崎　真治	◎人類学資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ◎図書の受入・整理に関すること。 ◎博物館ホームページに関すること。 ○2010年度企画展「骨の科学」に関すること。 ○共同研究事業に関すること。 ○自然史部門展示に関すること。 ○港川人骨の管理に関すること。 ○移動展に関すること。（副担当１） ○2010年度特別展「八重山展」に関すること。
嘱　託　員 （学　　芸）	宮平真由美	◎『博物館・美術館年報』の編集・発行に関すること。 ◎撮影等の受付に関すること。 ◎発送業務集約に関すること。 ◎展示公開事業の補佐に関すること。 ◎学芸員の補佐に関すること。 ◎写真資料の貸出、博物館資料の撮影等に関すること。 ○学芸研究資料室の図書に関すること。 ○写真資料等の整理に関すること。

（博物館班　教育普及）

任 学 芸 員 （教育普及）	池原　盛浩	◎教育普及事業（ふれあい体験室、実習室、講座等）に関すること。 ◎教育普及資料の収集・購入・受入・保管・整理に関すること。 ◎博物館学習等の調査研究に関すること。 ◎博物館友の会に関すること。 ◎総合・部門展示の学習プログラムの策定・指導に関すること。 ◎ボランティア活動事業に関すること。 ◎体験学習教室の企画及び野外展示の活用に関すること。 ◎学校連携事業に関すること。（大学含む） ◎文化講座の企画等に関すること。 ◎ふれあい体験室の運営に関すること。 ○視聴覚機器の整理・保管に関すること。 ○移動展に関すること。

嘱　託　員 （教育普及）	宮平妃奈子	◎視聴覚機器の整理・保管に関すること。 ◎ボランティア活動の連絡調整に関すること。 ◎博物館学習への各種照会事項対応の補助に関すること。 ◎教育普及担当学芸員の補佐に関すること。 ○ふれあい体験室、実習室、講座等に関すること。 ○教育資料の収集・購入・受入・保管・整理等に関すること。 ○博物館学習等の調査研究に関すること。 ○文化講座の企画等に関すること。 ○ふれあい体験室の運営に関すること。 ○総合・部門展示の学習プログラムの策定・指導に関すること。

（美術館班）

美術館副館長 兼美術館班長	翁長　直樹	◎美術館班総括に関すること。 ◎美術館予算に関すること。 ◎議会対応の総括に関すること。 ◎視察対応の総括に関すること。 ◎博物館・美術館協議会に関すること。 ◎美術館資料の収集方針及び収集に関すること。 ◎美術館活動の計画に関すること。 ◎美術館の鍵の管理に関すること。 ◎指定管理者との調整に関すること。 ◎文化課との調整に関すること。 ◎展示企画アドバーザー会議に関すること。 ◎県芸術祭に関すること。 ◎経営者調整会議に関すること。 ◎県企画展２「安谷屋正義展」に関すること。 ○IPM 会議に関すること。 ○美術館支援団体 happ に関すること。
主任学芸員	瑞慶山　昇	◎美術館学芸員の総括に関すること。 ◎企画展示の総括に関すること。 ◎調査研究の総括に関すること。 ◎美術館資料の収集に関すること。 ◎学芸員実習の受け入れに関すること。 ◎沖縄美術第２期（戦後～復帰）絵画、版画の調査研究に関すること。 ◎常設展示室１に関すること。 ○博物館・美術館協議会に関すること。 ○経営者調整会議に関すること。 ○県企画展２「安谷屋正義展」に関すること。 ○美術館予算に関すること。 ○議会対応に関すること。
主任学芸員	豊見山　愛	◎常設展示総括に関すること。 ◎常設展示室３に関すること。 ◎常設展示室２に関すること。 ◎沖縄美術第１期（戦前期）、沖縄のデザイン、工芸の調査研究に関すること。 ◎美術館紀要に関すること。 ◎移動展に関すること。 ○収集委員会資料作成に関すること。
主任学芸員	新里　義和	◎沖縄美術アーカイブに関すること。 ◎写真、映像作品の調査研究に関すること。 ◎常設展示室２に関すること。 ◎県民スタジオの運営に関すること。 ◎資料収集の事務に関すること。 ◎「国際博物館の日」関連事業に関すること ○寄贈者表彰に関すること。 ○沖縄県博物館協会に関すること。
主任学芸員	大城　仁美	◎収蔵作品の保存総括に関すること。 ◎沖縄美術第２期（戦後～復帰）の調査研究に関すること。 ◎写真作品の調査研究に関すること。 ◎作品貸出業務に関すること。 ◎常設展示室１に関すること。 ◎県企画展１「比嘉康雄展」に関すること。 ◎IPM 及び美術館資料の燻蒸・消毒に関すること。 ○県民スタジオの運営に関すること。
主任学芸員	國吉　亮子	◎美術館の教育普及総括に関すること。 ◎美術館ホームページに関すること。

主任学芸員	國吉　亮子	◎学校見学に関すること。 ◎沖縄美術第３期（復帰後）の調査研究に関すること。 ◎美術館支援団体 happ に関すること。 ◎常設展示室２に関すること。 ◎学校との連携に関すること ◎ボランティアの指導育成に関すること。 ◎各種講座の企画・運営に関すること。 ○県企画展１「比嘉康雄展」に関すること。 ○美術館広報に関すること。 ○移動展に関すること。
嘱　託　員	吉田　祥子	◎作品の調査に関すること。 ◎収蔵品のデータベースに関すること。 ◎収蔵品の画像管理に関すること。 ◎作品画像貸出に関すること。 ○収集委員会資料作成に関すること。 ○情報センターのデータに関すること ○美術館ホームページに関すること。
嘱　託　員	仲村美奈子	◎展示室等の環境点検管理に関すること。 ◎収蔵庫の環境点検管理に関すること。 ◎作品の保存管理に関すること。 ◎作品の修復に関すること。 ○作品貸出に関すること。 ○IPM に関すること。 ○展示会の補助に関すること。
事務補助員	上原　祐子	◎文書の収受、発送に関すること。 ◎図書の受付、整理に関すること。 ○業務補助に関すること

※◎は主担当として行う業務、○は副担当として行う業務である。

【人事異動】　　2010年４月１日　現在

	職　名		氏　名	摘　要
転　出	博物館班（総務）	主　幹	前田直昭	
		主　査	大城洋子	
		主　査	上原善彦	
	博物館班（学芸）	主任学芸員	上原成美	石垣市立崎枝中学校校長
転　入	総務班	班　長	前田直昭	組織変更
		主　査	大城洋子	〃
		主　査	上原善彦	〃
		事務補助員	佐藤みゆき	採用
	博物館班（学芸）	主任学芸員	池原盛浩	与那国町久部良中学校教頭
	博物館班（学芸）	嘱託員	宮平真由美	
	博物館班（教育普及）	嘱託員	宮平妃奈子	
	美術館班（学芸）	事務補助員	上原祐子	採用
昇　任	博物館班（学芸）	主　任	藤田祐樹	専門員（昇任）
		主　任	山崎真治	専門員（昇任）
退　職	博物館班（総務）	事務補助員	与那覇美幸	
	博物館班（学芸）	嘱託員	上原　久	
	博物館班（教育普及）	嘱託員	宮平真由美	
	美術館班（学芸）	事務補助員	友寄寛子	

Ⅴ．沖縄県立博物館・美術館協議会

【第１回会議】
日　時：2010年10月13日（水）　14：00～16：00
場　所：博物館講座室
委嘱状交付式：委嘱状交付（新任の委員のみ）
会　議
館長あいさつ（牧野浩隆館長）
報告事項
・2009年度事業実績報告
・2010年度事業説明
協議事項
・2011年度事業計画

【第２回会議】
日　時：2011年２月17日（木）　10：00～12：00
場　所：博物館講座室
会　議
館長あいさつ（牧野浩隆館長）
報告事項
・2010年度事業経過説明
協議事項
・2011年度事業計画

【沖縄県立博物館・美術館協議会委員会名簿】　（任期：2010年２月15日～2012年２月14日）

分野		氏名	所属	職名
学識経験者	自然史	○新城　和治	元琉球大学	元教授
	歴　史	高良　倉吉	琉球大学法文学部	教　授
	考　古	當眞　嗣一	元沖縄県立博物館	元館長
	民　俗	稲福みき子	沖縄国際大学	教　授
	人　類	土肥　直美	琉球大学医学部	准教授
	美　術（画）	◎宮城　篤正	沖縄県立芸術大学	学　長
	美　術（立体）	西村　貞雄	元琉球大学	元教授
	美　術（写真）	前原　基男	沖縄県写真連盟	会　長
学校教育関係者	小学校教育	川村　和久	沖縄県小学校長会	総務部長
	中学校教育	大城　朗	沖縄県中学校長会	総務部長
	高校教育	前新　健	沖縄県高等学校長会	会　長
社会教育関係者	社会教育	藏根　芳雄	沖縄県社会教育委員連絡協議会	会　長
	PTA	棚原　勝	沖縄県高等学校 PTA 連合会	副会長

（◎会長、○副会長　2011年３月31日現在）

Ⅵ. 予　算

2010年度歳出状況（決算）　　（単位：円）

	博物館・美術館一般管理運営費	博物館・美術館指定管理費	博物館費	美術館費	博物館・美術館収蔵資料等整理事業（緊急雇用）	合　計
報酬	6,207,420		3,732,240	3,732,900		13,672,560
共済費					7,392	7,392
賃金	1,532,711			1,532,711		3,065,422
報償費	75,600		394,818	267,744		738,162
旅費	131,100		4,181,900	2,763,182		7,076,182
需用費	458,489		6,885,519	2,799,400		10,143,408
役務費	99,875		804,132	2,862,252		3,766,259
委託料		320,000,000	25,016,436	39,410,848	39,362,020	423,789,304
使用料及び賃借料			269,810	468,762		738,572
備品購入費			9,243,250	15,985,805		25,229,055
負担金補助及び交付金			85,000	6,000		91,000
繰出金				49,413		49,413
公課費	15,000		20,000			35,000
合　　計	8,520,195	320,000,000	50,633,105	69,879,017	39,369,412	488,401,729

2010年度歳入状況　　（単位：円）

	収入金額	説　　明
土地使用料	25,760	自動販売機土地使用料
建物使用料	6,907,198	喫茶室、ミュージアムショップの建物使用料
利子及び配当金	49,413	美術品等取得基金利子
雑　　入	1,226,772	電気料金、雇用保険料等
合　　計	8,209,143	

Ⅶ. 収蔵資料現在高

当館が所蔵する資料の件数は以下の通りである。詳しい内訳は博物館、美術館それぞれの章において詳しく記述しているのでその頁をご参照頂きたい。

2010年３月31日現在

	分　　類	件　　数	小　　計
博物館	自然史	55,852	90,602
	人類	79	
	美術工芸	10,168	
	歴史	11,666	
	考古	6,670	
	民俗	6,167	
美術館	平面	3,043	3,263
	立体	124	
	映像	24	
	その他	72	
総　　計			93,865

利用統計

Ⅰ　入館者統計
Ⅱ　施設利用者統計

Ⅰ．入館者統計

1．総入館者集計

月別総入館者

（単位：人）

年	月	博物館												美術館									全体				総入館者	開館日数	入1日館者平均数
		常設展			企画展			特別展			全体			コレクション展			企画展			全体			展示室合計			展示以外（共有）			
		有料	無料	小計	有料	無料	小計	有料	無料	小計	有料	無料	小計	有料	無料	小計	有料	無料	小計	有料	無料	小計	有料	無料	小計				
2009	4	4,216	2,557	6,773	759	67	826	0	0	0	4,975	2,624	7,599	1,167	968	2,135	9,036	534	9,570	10,203	1,502	11,705	15,178	4,126	19,304	10,039	29,343	26	1,129
	5	4,262	5,123	9,385	2,074	1,468	3,542	0	0	0	6,336	6,591	12,927	1,538	2,773	4,311	8,516	2,842	11,358	10,054	5,615	15,669	16,390	12,206	28,596	4,702	33,298	27	1,233
	6	4,180	1,826	6,006	371	23	394	0	0	0	4,551	1,849	6,400	1,294	814	2,108	589	614	1,203	1,883	1,428	3,311	6,434	3,277	9,711	12,889	22,600	19	1,189
	7	4,135	2,820	6,955	0	0	0	0	0	0	4,135	2,820	6,955	1,171	1,005	2,176	3,642	270	3,912	4,813	1,275	6,088	8,948	4,095	13,043	32,528	45,571	27	1,688
	8	4,772	3,159	7,931	0	0	0	0	0	0	4,772	3,159	7,931	1,328	834	2,162	7,391	472	7,863	8,719	1,306	10,025	13,491	4,465	17,956	50,109	68,065	26	2,618
	9	4,470	3,050	7,520	0	0	0	427	167	594	4,897	3,217	8,114	1,122	876	1,998	1,916	509	2,425	3,038	1,385	4,423	7,935	4,602	12,537	56,345	68,882	26	2,649
	10	4,966	3,831	8,797	0	0	0	1,583	225	1,808	6,549	4,056	10,605	1,864	1,337	3,201	197	50	247	2,061	1,387	3,448	8,610	5,443	14,053	23,215	37,268	26	1,433
	11	3,559	8,497	12,056	0	0	0	2,113	415	2,528	5,672	8,912	14,584	885	3,037	3,922	1,182	324	1,506	2,067	3,361	5,428	7,739	12,273	20,012	19,496	39,508	25	1,580
	12	5,418	2,521	7,939	1,832	225	2,057	0	0	0	7,250	2,746	9,996	1,409	950	2,359	1,461	221	1,682	2,870	1,171	4,041	10,120	3,917	14,037	10,693	24,730	24	1,030
2010	1	4,171	1,443	5,614	1,711	274	1,985	0	0	0	5,882	1,717	7,599	1,192	574	1,766	1,528	376	1,904	2,720	950	3,670	8,602	2,667	11,269	14,031	25,300	25	1,012
	2	3,465	1,467	4,932	3,112	590	3,702	0	0	0	6,577	2,057	8,634	1,070	527	1,597	1,012	176	1,188	2,082	703	2,785	8,659	2,760	11,419	12,641	24,060	24	1,003
	3	3,823	1,874	5,697	1,940	1,187	3,127	0	0	0	5,763	3,061	8,824	1,146	787	1,933	1,188	387	1,575	2,334	1,174	3,508	8,097	4,235	12,332	21,545	33,877	27	1,255
合計		51,437	38,168	89,605	11,799	3,834	15,633	4,123	807	4,930	67,359	42,809	110,168	15,186	14,482	29,668	37,658	6,775	44,433	52,844	21,257	74,101	120,203	64,066	184,269	268,233	452,502	302	17,820
目標		158,501			8,740			14,613			181,854			35,357			62,102			97,459			279,313						
達成率		32.45%			135.00%			28.21%			37.04%			42.95%			60.64%			54.22%			43.04%						

※文化の日は特別対応として博物館常設展を無料とした。その人数は常設展にはカウントされていない。

2．団体入館者集計

（単位：人）

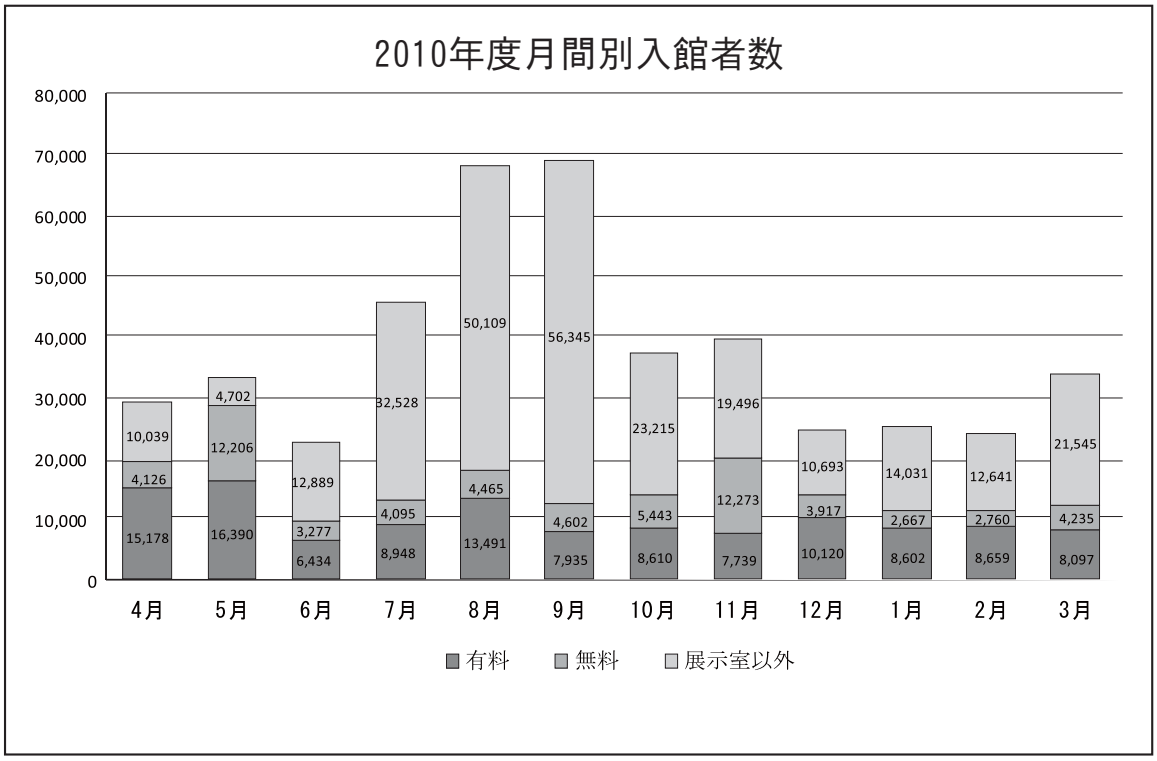
月	日	県内										県外										国外										合計	
		小中生		高大生		特別支援校		その他		小計		小中生		高大生		特別支援校		その他		小計		小中生		高大生		特別支援校		その他		小計			
		団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
2010	4	2	335	4	937	0	0	1	40	7	1,312	3	228	3	416	0	0	0	0	6	644	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	1,956
	5	11	787	2	56	3	54	3	68	19	965	3	186	1	26	0	0	0	0	4	212	1	21	0	0	0	0	0	0	1	21	24	1,198
	6	14	704	7	704	2	42	2	61	25	1,511	5	164	7	1,215	0	0	0	0	12	1,379	1	48	0	0	0	0	0	0	1	48	38	2,938
	7	7	422	10	373	1	7	2	62	20	864	0	0	2	142	0	0	0	0	2	142	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	1,006
	8	2	51	1	37	0	0	9	365	12	453	0	0	1	39	0	0	0	0	1	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	492
	9	13	1,242	1	11	1	23	2	128	17	1,404	0	0	3	81	0	0	0	0	3	81	1	155	0	0	0	0	0	0	1	155	21	1,640
	10	20	1,855	3	252	1	36	3	65	27	2,208	3	260	13	1,290	0	0	0	0	16	1,550	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43	3,758
	11	68	5,421	2	396	1	16	2	100	73	5,933	1	45	3	399	0	0	0	0	4	444	2	82	0	0	0	0	0	0	2	82	79	6,459
	12	30	1,945	2	37	0	0	0	0	32	1,982	1	54	13	2,394	0	0	0	0	14	2,448	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	46	4,430
2011	1	4	348	6	166	0	0	2	48	12	562	1	95	3	537	0	0	0	0	4	632	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	1,194
	2	5	317	4	115	1	4	6	362	16	798	0	0	2	111	0	0	0	0	2	111	1	67	1	54	0	0	0	0	2	121	20	1,030
	3	10	753	4	49	2	4	1	27	17	833	0	0	4	402	0	0	0	0	4	402	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	1,235
合計		186	14,180	46	3,133	12	186	33	1,326	277	18,825	17	1,032	55	7,052	0	0	0	0	72	8,084	6	373	1	54	0	0	0	0	7	427	356	27,336

※その他に含まれる団体は幼稚・保育園などの教育機関である。※数値は団体見学を事前予約し観覧した学校である。

3．展覧会別入館者集計

（単位：人）

展覧会名		観覧者区分	当日券	団体券	前売券	優待(障害)	1日利用券	全館1日利用券	年間パス	その他割引	有料者合計	無料者数	総合計
博物館	企画展「新収蔵品展」	一般	155	0	0	0	917	0	52	0	1,124	1,363	2,487
		高・大学生	6	0	0	0	45	0	0	0	51	0	51
		小・中学生	34	0	0	0	17	0	0	0	51	1	52
	特別展「八重山展」	一般	1,617	40	56	100	1,568	0	167	194	3,742	807	4,549
		高・大学生	72	40	6	1	123	0	0	2	244	0	244
		小・中学生	111	0	4	2	20	0	0	0	137	0	137
	企画展「アイヌ～美を求める心～」	一般	1,367	0	2	0	1,086	0	87	29	2,571	342	2,913
		高・大学生	116	0	1	0	109	0	0	1	227	0	227
		小・中学生	86	0	0	0	50	0	0	2	138	0	138
	企画展「琉球陶器の来た道」	一般	980	0	1	0	1,008	0	99	184	2,272	632	2,904
		高・大学生	94	0	0	0	103	0	0	14	211	0	211
		小・中学生	20	0	0	0	21	0	0	1	42	5	47
	企画展「骨の科学展」	一般	1,194	4	0	0	992	0	94	22	2,306	515	2,821
		高・大学生	163	0	0	0	187	0	0	2	352	0	352
		小・中学生	379	29	0	0	47	0	0	3	458	0	458
	大嶺薫コレクション展	一般	0	0	0	0	0	0	18	0	18	579	597
		高・大学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	62	62
		小・中学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	141	141
美術館	企画展「母たちの神ー比嘉康雄」展	一般	1,925	0	57	90	1,057	0	182	148	3,459	794	4,253
		高・大学生	164	0	6	0	70	0	0	4	244	0	244
		小・中学生	39	0	2	1	19	0	0	1	62	0	62
	企画展「安谷屋正義」展	一般	1,137	22	15	71	736	0	173	92	2,246	690	2,936
		高・大学生	129	69	1	1	128	0	0	3	331	0	331
		小・中学生	24	0	0	0	5	0	0	0	29	0	29
指定管理者	企画展「いわさきちひろ」展	一般	6,509	65	2,728	434	752	296	252	2,985	14,021	1,041	15,062
		高・大学生	292	248	63	5	70	30	0	31	739	0	739
		小・中学生	1,262	115	556	26	28	6	0	291	2,284	0	2,284
	企画展「遠き道ーはて無き精進の道程ー」展	一般	321	0	14	0	321	0	76	268	1,000	2,947	3,947
		高・大学生	47	0	9	0	26	0	0	0	82	1	83
		小・中学生	13	0	1	0	1	0	0	0	15	1	16
	企画展「沖縄マンガ」展	一般	3,570	121	234	162	875	0	202	2,632	7,796	742	8,538
		高・大学生	443	169	102	11	99	0	0	7	831	0	831
		小・中学生	1,974	175	132	23	85	0	0	17	2,406	0	2,406
	企画展「風土と建築」	一般	1,137	0	71	54	376	0	129	95	1,862	559	2,421
		高・大学生	115	0	4	0	49	0	0	2	170	0	170
		小・中学生	67	0	5	2	2	0	0	5	81	0	81
	自主事業「石川直樹展」	一般	695	0	51	47	567	296	86	7	1,749	166	1,915
		高・大学生	58	0	0	0	27	30	0	49	164	0	164
		小・中学生	30	0	0	0	29	6	0	0	65	28	93
	合計	一般	20,607	252	3,229	958	10,255	592	1,599	6,656	44,166	11,177	55,343
		高・大学生	1,699	526	192	18	1,036	60	0	115	3,646	63	3,709
		小・中学生	4,039	319	700	54	324	12	0	320	5,768	176	5,944


2010年度月間別入館者数
80,000
70,000
60,000
50,000
40,000
30,000
20,000
10,000
0
4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月
10,039 4,126 15,178
4,702 12,206 16,390
12,889 3,277 6,434
32,528 4,095 8,948
50,109 4,465 13,491
56,345 4,602 7,935
23,215 5,443 8,610
19,496 12,273 7,739
10,693 3,917 10,120
14,031 2,667 8,602
12,641 2,760 8,659
21,545 4,235 8,097
有料
無料
展示室以外


年間入館者数の年次推移
600,000
500,000
400,000
300,000
200,000
100,000
0
73,162
58,235
50,741
54,602
46,651
44,270
46,010
0
211,509
496,767
408,670
452,502
1999年 2000年 2001年 2002年 2003年 2004年 2005年 2006年 2007年 2008年 2009年 2010年

４．減免申請集計

（単位：人）

項　目		学校関係（下見）		旅行社（視察・引率）		マスコミ（視察）		福祉施設（引率）		博物館･美術館（関係者､視察）		その他		合　計	
		件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
2010	４月	8	24	6	11	0	0	0	0	0	0	0	0	14	35
	５月	11	21	0	0	0	0	1	10	0	0	0	0	12	31
	６月	9	21	0	0	0	0	1	9	0	0	0	0	10	30
	７月	23	79	0	0	0	0	0	0	0	0	2	62	25	141
	８月	44	161	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	44	161
	９月	11	33	2	2	0	0	0	0	1	2	0	0	14	37
	10月	28	77	10	19	0	0	3	4	1	6	2	26	44	132
	11月	15	67	0	0	0	0	2	3	0	0	1	5	18	75
	12月	15	51	4	18	0	0	0	0	0	0	0	0	19	69
2011	１月	8	44	2	6	0	0	0	0	0	0	5	54	15	104
	２月	11	24	7	10	0	0	1	2	0	0	5	14	24	50
	３月	13	51	0	0	0	0	1	2	1	1	2	16	17	70
合　計		196	653	31	66	0	0	9	30	3	9	17	177	256	935

５．団体入館内訳

県内　小学校　　のべ163校　11,703名

No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数
1	4	28	大山小学校	203	47	10	21	高良小学校　４年生	149	92	11	18	西崎小学校	128
2		30	古堅南小学校	132	48			高良小学校　５年生	164	93			神原小学校	73
3	5	7	翔南小学校	84	49			城前小学校	82	94			野甫小学校	18
4			沖縄三育小学校	101	50		22	安和小学校	18	95		19	久辺小学校	37
5		11	北谷小学校	87	51			東小学校	14	96			漢那小学校	21
6		20	佐良浜小学校	32	52			古堅南小学校	128	97			与那国小学校	14
7		26	城辺小学校	17	53			伊江小学校	17	98			渡慶次小学校	87
8			古堅小学校	109	54		26	天妃小学校	83	99			あげな小学校	70
9		27	大名小学校	52	55		27	中原小学校	129	100			勝連小学校	88
10			鏡原小学校	33	56			西原東小学校	80	101			上原小学校	10
11	6	1	渡名喜小学校	5	57	11	2	赤道小学校	130	102			真和志小学校	110
12		2	砂川小学校	18	58			北中城小学校	138	103			瀬喜田小学校	11
13		3	伊良部小学校	18	59			光洋小学校	104	104			嘉芸小学校	41
14			銘苅小学校	166	60			嘉数小学校	146	105			下地小学校	40
15		4	久松小学校	47	61			具志川小学校	54	106			古宇利小学校	11
16			北小学校	75	62			大謝名小学校	114	107			コザ小学校	79
17			カトリック学園　海星小学校	17	63			田場小学校	132	108			辺土名小学校	32
18		6	狩俣小学校	9	64		4	壺屋小学校	37	109			登野城小学校	91
19		16	阿嘉小学校	10	65			仲泊小学校	56	110			真喜良小学校	53
20		18	塩屋小学校	25	66			嘉手納小学校	127	111			中の町小学校	108
21			平良第一小学校	101	67			開南小学校	46	112		20	八島小学校	60
22			宜野座小学校	37	68			仲泊小学校	31	113		24	曙小学校	63
23			慶留間小学校	3	69		5	羽地小学校	58	114			小禄小学校	67
24		30	泊小学校	173	70			真喜屋小学校	27	115		25	上間小学校	120
25	7	2	南小学校	107	71			志真志小学校	111	116			瀬底小学校	14
27		13	大原小学校	12	72			名護小学校	95	117		26	金城小学校・４年生	179
28		16	ｱﾒﾗｼﾞｱﾝｽｸｰﾙ･ｲﾝ･ｵｷﾅﾜ	42	73			与那原東小学校	78	118		30	松田小学校	20
29	9	9	安謝小学校	122	74			普天間小学校	114	119			安富祖小学校	21
30		15	具志頭小学校	65	75		9	津覇小学校	90	120	12	2	大宜味小学校	10
31		17	馬天小学校	76	76		10	百名小学校	42	121		3	北玉小学校	78
32		17	久米島小学校	31	77			美原小学校	171	122			室川小学校	69
33		24	宇栄原小学校	94	78			佐敷小学校・６年	81	123			久志小学校	25
34		25	沖縄カトリック小学校	101	79			佐敷小学校・４年	61	124			高原小学校	137
35		29	兼城小学校	92	80		11	喜名小学校	100	125		7	大名小学校	55
36		29	多良間小学校	27	81		12	坂田小学校	165	126		8	識名小学校	159
37		30	石嶺小学校	148	82			仲井真小学校	118	127		9	石嶺小学校	150
38		30	北大東小学校	18	83			大宮小学校	152	128			北美小学校	100
39		1	名蔵小学校	14	84			米須小学校	23	129			与儀小学校	94
40		7	津嘉山小学校	113	85			諸見小学校	122	130			比屋定小学校	11
41		13	大里南小学校	135	86			与那城小学校	114	131			美崎小学校	25
42		15	屋部小学校	63	87		16	豊見城小学校	85	132		10	兼次小学校	23
43			読谷小学校	94	88			宮城小学校	146	133			小禄南小学校	149
44			南原小学校	53	89		17	真地小学校	84	134		14	久茂地小学校	29
45		19	久高小学校	12	90			清水小学校	33	135		15	前島小学校	68
46		20	城南小学校	76	91			白川小学校	83	136		16	美東小学校	137

No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数
137	12	16	普天間第二小学校	111	146	12	22	久志小学校	9	155	2	23	さつき小学校	104
138			ｵｷﾅﾜｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙｽｸｰﾙ	11	147			東風平小学校	133	156	3	1	さつき小学校	121
139			天底小学校	27	148	1	21	東江小学校	107	157		8	内間小学校	127
140			ニューライフアカデミー	9	149			吉原小学校	5	158		9	松川小学校	96
141		17	ｵｷﾅﾜｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙｽｸｰﾙ	11	150		28	西表・白浜・船浮小学校	14	159		15	泊小学校	33
142			野底小学校	14	151	2	3	天妃小学校	93	160			大名小学校　若夏分教室	10
143			上本部小学校	21	152			境港市伊平屋村児童交流事業	23	161			うるま市の小学校	12
144		21	城東小学校	110	153		10	宮森小学校	84	162		16	銘苅小学校	150
145			渡名喜小学校	11	154		16	銘苅小学校	13	163		18	若狭小学校	78

県内　中学校　　のべ22校 2,461名

No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数
1	5	7	コザ中学校	226	9	9	17	長嶺中学校	227	17	11	30	上本部中学校	24
2		21	恩納中学校	46	10		30	昭和薬科大学附属中学校	230	18	12	7	琉球大学教育学部附属中学校	79
3	7	2	具志川東中学校	195	11	10	15	糸満中学校	147	19		10	琉球大学教育学部附属中学校	80
4		22	首里中学校	26	12		20	真志喜中学校	284	20	1	28	西原中学校	222
5		29	伊江中学校	24	13	11	4	鳩間小中学校	4	21	3	3	松城中学校	119
6	8	4	那覇市立小禄中学校	31	14		5	具志頭中学校	106	22		18	神原中学校	7
7		12	伊江中学校生徒会	20	15		18	南風原中学校	231					
8		15	仲井真中学校	11	16		19	真和志中学校	122					

県内　高校　　のべ34校 2,754名

No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数
1	4	16	石川高等学校	201	13	7	8	首里高等学校	12	25	1	21	精華学園高等学校	12
2		22	北谷高等学校	300	14		13	浦添工業高等学校	85	26		27	北部農林高等学校	37
3		30	コザ高等学校	415	15		22	真和志高等学校	9	27			南風原高等学校	29
4	5	25	美里工業高校	34	16		24	与勝高等学校	55	28	2	10	首里高等学校	23
5	6	2	興南高等学校・１年	279	17	9	22	沖縄工業高等学校	11	29			八重山農林高等学校	26
6		3	興南高等学校・３年	295	18	10	19	西原高等学校	194	30		24	美来工科高等学校	43
7		17	首里東高等学校	8	19		20	豊見城南高等学校	36	31	3	2	宜野湾高等学校	28
8		18	那覇工業高等学校	31	20	11	5	辺土名高等学校	59	32		15	真和志高等学校	4
9		29	浦添工業高等学校	42	21		16	前原高等学校	337	33		16	沖縄工業高等学校	11
10	7	2	美来工科高等学校	42	22	12	15	沖縄工業高等学校	11	34			真和志高等学校	6
11		6	首里高等学校	11	23	1	7	北部農林高等学校	42					
12		7	首里高等学校	8	24		14	泊高等学校　定時制課程夜間部	18					

県内　専門学校・大学　　12校 362名

No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数
1	4	22	サイテクカレッジ那覇	21	5	7	1	KBC 学園	21	9	10	23	琉球大学　桑原ゼミ	22
2	5	9	沖縄国際大学　考古学研究室	22	6		9	沖縄看護専門学校	100	10	12	11	琉球大学	26
3	6	18	沖縄工業高等専門学校	29	7		24	沖縄キリスト教学院大学	30	11	1	26	専門学校 経ビジネス	28
4		26	とびこみ団体	20	8	8	4	琉球大学	37	12	2	15	天野クラス	23

県内　特別支援学校　　のべ12校 186名

No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数
1	5	12	泡瀬特別支援学校（沖縄市）	23	5	6	17	沖縄ろう学校（北中城村）	38	9	11	25	桜野特別支援学校・小学部（名護市）	16
2		19	鏡が丘特別支援学校（浦添市）	20	6	7	13	適応障害支援学級	7	10	2	9	大平特別支援学校（久米島町）	4
3		20	沖縄高等特別支援学校南風原高等学校分教室〈南風原町）	11	7	9	24	那覇学園（那覇市）	23	11	3	2	沖縄県立那覇特別支援学校（那覇市）	2
4	6	6	大平特別支援学校高等部久米島高等学校分教室（久米島町）	4	8	10	20	大平特別支援学校（浦添市）	36	12		15	城北中学校　若夏分校（那覇市）	2

県内　幼稚園・保育園・その他　　のべ34団体 1,342名

No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数
1	4	6	こざくら児童クラブ	40	13	8	5	渡喜仁こども会	30	25	11	18	泊幼稚園	72
2	5	8	めだか保育園	9	14		11	東江区学童園	34	26	1	12	ｵｷﾅﾜｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙｽｸｰﾙ	24
3		11	ｵｷﾅﾜｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙｽｸｰﾙ（園児）	28	15			よなは学童クラブ	43	27			エミール保育園	24
4		29	パークサイド児童学園	31	16		13	上田学童クラブ	47	28	2	15	銘苅幼稚園	93
5	6	22	あやめ保育園	20	17		15	湧川子ども会	30	29		22	ｵｷﾅﾜｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙｽｸｰﾙ	27
6		23	牧港学童クラブ	41	18		20	よなは学童クラブ	43	30			松島幼稚園	74
7	7	9	(那覇市) ｵｷﾅﾜｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙｽｸｰﾙ	16	19	9	18	木の国学童	68	31		23	城南幼稚園	36
8		23	すこやか児童クラブ	36	20		30	童夢幼稚園・保育園	60	32		24	安謝幼稚園	88
9		31	愛心学園	26	21	10	9	みどり学童	21	33		27	嘉手納町中央区子ども会	44
10	8	4	学童館	86	22		15	みつる保育園	21	34	3	9	ありあけ保育園	27
11			パークサイド児童学園	23	23		22	宮城ヶ原保育所	23					
12			いずみ児童クラブ	29	24	11	16	沖縄インターナショナルスクール	28					

県外　小学校

のべ４校 208名

No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数
1	5	11	伊仙町３校合同小学校（鹿児島県）	36	3	10	26	和光鶴川小学校（東京都）	80					
2	6	2	龍瀬小学校（鹿児島県）	12	4			富士国際旅行社・県外小学校	80					

県外 中学校

のべ13校 824名

No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数
1	4	16	松梅中学校（佐賀県）	11	6	6	22	清川中学校（和歌山県）	11	11	11	2	高瀬のぞみが丘中学校（香川県）	45
2		21	満濃中学校（香川県）	167	7		25	中返路中学校（和歌山県）	29	12	12	11	博多女子中学校（福岡県）	54
3		25	東かがわ市立引田中学校（香川県）	50	8			本宮中学校（和歌山県）	24	13	1	14	八次中学校（広島県）	95
4	5	12	和歌山大学教育学部附属中学校（和歌山県）	127	9			竹原市３校合同旅行（広島県）	88					
5		21	津田学園中学校（三重県）	23	10	10	29	みなまた第一中学校	100					

県外 高校

のべ47校 6,754名

No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数
1	4	21	陸上自衛隊　自衛隊中央病院高等看護学院	69	17	10	13	茨城高等学校（茨城県）	120	33	12	9	甲府西高等学校（山梨県）	86
2		23	国際基督教大学高等学校	262	18		15	聖隷クリストファー高等学校（静岡県）	73	34			久喜工業高等学校（埼玉県）	25
3	5	11	品川エトワール女子高等学校（東京都）	26	19		19	真岡工業高等学校（栃木県）	165	35			富士宮東高等学校（静岡県）	247
4	6	22	明法高等学校（東京都）	166	20		20	農産高等学校（東京都）	26	36		10	法政大学第二高等学校B団（神奈川県）	279
5			九州産業高等学校（福岡県）	141	21		21	安積黎明高等学校（福島県）	164	37		11	小山高等学校（静岡県）	40
6		23	所沢西高等学校（埼玉県）	338	22		22	工業高等学校（石川県）	42	38		11	聖和学園高等学校（宮城県）	76
7			九州産業高等学校（福岡県）	144	23		24	安積黎明高等学校（福島県）	161	39		16	南平高等学校（東京都）	292
8		24	九州産業高等学校（福岡県）	122	24		27	富士宮原高等学校（静岡県）	20	40	1	13	調布北高等学校（東京都）	250
9		25	九州産業高等学校（福岡県）	151	25		28	東総工業高等学校（千葉県）	80	41		16	調布南高等学校（東京都）	247
10		26	九州産業高等学校（福岡県）	153	26	11	9	湘南高等学校・定時制（神奈川県）	50	42		19	常滑高等学校（愛知県）	40
11	7	15	鎌倉女子大学高等部（神奈川県）	119	27		23	共栄学園高等学校（とびこみ）（東京都）	292	43	2	15	龍谷大学附属平安高等学校（京都府）	88
12	8	24	富山工業高等学校（富山県）	39	28	12	4	大田原高等学校（栃木県）	250	44	3	4	成城高等学校（東京都）	89
13	10	5	土岐紅陵高等学校（岐阜県）	121	29			山梨園芸高等学校（山梨県）	116	45		10	大垣日本大学高等学校A団（岐阜県）	140
14		7	吉田高等学校（山梨県）	42	30			静岡市立高等学校（静岡県）	342	46		11	大垣日本大学高等学校B団（岐阜県）	135
15		11	座間高等学校（神奈川県）	153	31		5	越ヶ谷高等学校（埼玉県）	331	47		15	同志社国際高等学校（京都府）	38
16		13	浜松北高等学校（静岡県）	123	32		9	法政大学第二高等学校A団（神奈川県）	281					

県外 専門学校･大学

のべ８校 298名

No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数
1	4	18	昭和学院短期大学（千葉県）	85	4	9	7	近畿大学（大阪府）	35	7	12	11	札幌国際大学観光学部（北海道）	29
2	7	7	防衛大学校（神奈川県）	23	5		11	関西学院大学（兵庫県）	23	8	2	18	同志社大学（京都府）	23
3	9	3	東海大学（北海道）	23	6	11	27	高松市医師会看護専門学校（香川県）	57					

県外 その他（基地内含む）

のべ７団体 427名

No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数
1	5	6	ザイオン　クリスチャンアカデミー	21	4	11	23	ボブホープ小学校（嘉手納基地内）	50	7	2	4	嘉手納ハイスクール	54
2	6	24	Kinser School Age Care	48	5	11	10	シンガポール中学校団体（団体名不明）	32					
3	9	20	カデナエレメンタリースクール	155	6	2	18	アメリアエアハートスクール	67					

Ⅱ．施設利用者統計

1．月別施設利用集計

単位：件

		博物館				美術館							共有		その他			
		特別展示室	企画展示室	博物館講座室	実習室	企画ギャラリー1	企画ギャラリー2	美術館講座室	県民アトリエ	子供アトリエ	スタジオ	県民ギャラリー	講堂	エントランス	3階回廊	屋外展示場	中庭	合計
2010	4月	0	0	12	7	0	0	15	0	1	1	4	7	0	0	0	0	47
	5月	1	0	11	7	0	0	13	3	1	1	2	5	0	1	0	0	45
	6月	1	1	9	8	1	1	19	2	2	2	4	8	1	0	0	0	59
	7月	1	1	12	8	0	0	18	3	2	3	5	14	1	0	1	0	69
	8月	1	1	12	1	0	0	10	2	2	3	7	7	0	0	0	0	46
	9月	0	0	14	10	0	0	23	1	3	10	7	8	4	1	1	0	82
	10月	0	0	14	7	0	0	21	4	5	4	8	12	2	2	4	1	84
	11月	0	0	13	16	0	0	27	10	11	10	7	19	2	0	1	0	116
	12月	0	0	10	11	0	0	23	6	5	7	6	11	0	0	0	0	79
2011	1月	0	1	18	6	0	0	15	2	4	3	6	13	0	0	1	0	69
	2月	0	0	22	13	0	0	23	2	3	9	6	10	0	0	0	0	88
	3月	0	0	17	14	1	1	19	6	1	13	6	18	0	0	0	0	96
合計		4	4	164	108	2	2	226	41	40	66	68	132	10	4	8	1	880

2．施設貸出内訳

【2010年４月】

No	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）	No	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
1	1	木	博物館講座室	ナインフィールド	21	18	日	博物館講座室	自治労連地方自治問題研究機構「自治と分権」沖縄シンポ
2	1	木	博物館講座室	朝川兼行先生の栄養学 講演会	22	20	火	美術館講座室	株式会社エクセレントパートナーズ水素説明会
3	1	木	美術館講座室	e-ラーニング研修会	23	21	水	博物館実習室	野口医学研究所　サン・アイ講習会
4	4	日	博物館実習室	「野口医学研究所」光明水セミナー	24	21	水	スタジオ	e-ラーニング研究所
5	6・8・20・22		博物館実習室	パッセジャータ・ウォーキングレッスン	25	21	水	美術館講座室	冒険王　業務改善セミナー
6	6	火	美術館講座室	オム・ファム株式会社第16期経営計画発表会	26	22	木	美術館講座室	大城マネジメント株式会社～改正労基法にも対応する～労働時間・割増賃金・込み込み賃金
7	7	水	博物館講座室	サンワコムシス　安全大会	27	22	木	講堂	西村恵信先生講演会禅の世界－自己を見つめて生きる－
8	7	水	講堂	糸数剛テナー演奏会～定年退職記念歌手活動スタートリサイタル～	28	24	土	美術館子供アトリエ	エッテン友の会　版画教室サークル
9	8	木	美術館講座室	盛和塾　勉強会	29	24	土	美術館講座室	「立て直そう日本・女性塾」
10	8・9		講堂	琉球ジャスコ株式会社入社式	30	25	日	博物館講座室	建物診断設計事業協同組合沖縄支部マンションの大規模修繕
11	9	金	美術館講座室		31	25	日	美術館講座室	貴宝株式会社　S・A研修会
12	10	土	博物館 講座室・美術館 講座室	沖縄弁護士会　遺言の日記念講演会・無料法律相談会	32	25	日	講堂	ヤマハ音楽教室新入会生オリエンテーション・コンサート
13	11	日	講堂	糸数剛テナー演奏会　～定年退職記念歌手活動スタートリサイタル～	33	27	火	美術館講座室	アンジュ勉強会
14	11	日	博物館講座室	株式会社クインアッシュ新規事業説明会	34	28	水	博物館講座室	りゅうせき商事株式会社会社説明会
15	14	水	講堂	株式会社沖縄ダイケン那覇地区安全大会	35	25	日	博物館講座室	建物診断設計事業協同組合沖縄支部マンションの大規模修繕
16	15	木	美術館講座室	盛和塾　キックオフ会	36	25	日	美術館講座室	貴宝株式会社　S・A研修会
17	16	金	美術館講座室	株式会社不二家九州支店　会議	37	25	日	共有講堂	ヤマハ音楽教室新入会生オリエンテーション・コンサート
18	17	土	博物館講座室	沖縄返還密約シンポジウム	38	27	火	美術館講座室	アンジュ勉強会
19	17	土	美術館講座室	教育を考える会テレビ「生命の光」上映会	39	28	水	博物館講座室	りゅうせき商事株式会社会社説明会
20	18	日	博物館実習室	沖縄美術家連盟会議	40	28	水	博物館講座室	サンワコムシスエンジニアリング株式会社安全大会

【2010年４月】

No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）	No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
41	28	水	博物館 講座室	サンワコムシスエンジニアリング株式会社 安全大会	43	29	木	博物館 講座室	株式会社マクロビ　マクロビオティックセミナー「健康への扉」
41	28	水	美術館 講座室	アークシステム 次世代の通信事業の説明	44	30	金	博物館 講座室	食育クラブ 朝川兼行先生の栄養学講演会

【2010年５月】

No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）	No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
1	3～5		県民アトリエ	てぃーだキッズミュージアム 五つの浜の貝世界	18	16	日	講堂	琉球大学がんセンター ガン対策推進条例のための講演会
2	8	土	スタジオ	写真する人　スライドショー	19	18	火	博物館 講座室	平成22年度　ISMS、Pマーク、CMMI普及セミナー
3	9	日	博物館 実習室・講堂前ホワイエ・講堂	琉球大学病院九州「呼吸の日」2010 市民公開講座	20	20	木	美術館 講座室	盛和塾　キックオフ会
4	11・13・25・27		博物館 実習室	パッセジャータ・ウォーキングレッスン	21	20	木	美術館 講座室	燦愛株式会社　勉強会
5	12	水	博物館 講座室	りゅうせき商事株式会社　会社説明会	22	22	土	美術館 講座室	happ理事会
6	12	水	講堂	沖縄キャリアセンター 県外就職活動セミナー	23	22	土	子供アトリエ	エッテン友の会　版画教室
7	13	木	博物館 講座室	盛和塾沖縄　定例会	24	23	日	美術館 講座室	コーヒーエネマご愛用者フォローアップ講習会
8	13	木	美術館 講座室	冒険王株式会社　未来塾	25	25	火	博物館 講座室	県立高等学校就業体験担当教諭向けビジネスマナー講習会
9	14	金	博物館 講座室	日本損害保険代理業協会保険大学セミナー	26	26	水	美術館 講座室	キャリアプランニング研修
10	14	金	講堂	KEITH　THE　CONGRESS 2010	27	26	水	美術館 講座室	eーラーニング教育の未来
11	15	土	博物館 講座室		28	28	金	博物館 講座室	沖縄県文化協会　総会
12	15～16		博物館 実習室	ユニバーサルコンパス	29	28	金	美術館 講座室	AIU沖縄代理店会　総会
13	15	土	美術館 講座室	教育を考える会　テレビ「生命の光」上映会	30	29・30		美術館 講座室	ウニココ楽団　脚本講座
14	15	土	美術館 講座室	上海アニメビジネス過去現在未来シンポジウム	31	29	土	講堂	琉球大学人体解剖学講座 人類の移動誌第４回研究会
15	16	日	博物館 講座室	沖縄県美術家連盟総会	32	29～6／6		博物館 特別展示室	東川町へのトリビュート写真展「郷愁のコスモロジー」
16	16	日	博物館 講座室	琉球二ライ大学開校オリエンテーション	33	30	日	博物館 講座室	人類の移動誌第５回研究会
17	16	日	美術館 講座室	G・PLANT アンチエイジングセミナー	34	30	日	博物館 講座室	沖縄の教育を考える会　親学講演会

【2010年６月】

No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）	No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
1	1・3・22・24		博物館　実習室	パッセジャータ・ウォーキングレッスン	12	17	木	講堂	沖縄事業再生研究会　勉強会
2	4	金	博物館 講座室	サンワコムシスエンジニアリング 安全講習会	13	18～20		企画ギャラリー1・2、美術館 講座室・博物館 実習室・博物館 講座室・講堂	第16回九州高文連　美書写展
3	4	金	美術館 講座室	株式会社みたのクリエイト社員勉強会					
4	5	土	美術館 講座室	マネから現在まで。沖縄で考える、現代アートの入門の入門集中講座					
5	6	日	県民アトリエ	ミキ・ワールド沖縄　食育会議	14	19	土	博物館 実習室	happ理事会
6	6	日	博物館 講座室	健康セミナー	15	19・20		博物館 講座室	新学術領域　琉球列島先史・原始時代における環境と文化の変遷に関する実証的　研究研究会
7	6	日	美術館 講座室	教育を考える会 「日本の未来を考える集い」	16	19	土	子供アトリエ	エッテン友の会　版画教室
8	16	水	美術館 講座室	沖縄の教育を考える会 「生命の光」上映会	17	19	土	美術館 講座室	沖縄県労働福祉基金協会 事例検討会議
9	16	水	美術館 講座室	全管協　平成22年度活動計画（セミナー開催等）会議	18	19	土	美術館 講座室	管理費等滞納料金の法的処理についてセミナー
10	17	木	美術館 講座室	冒険王株式会社　未来塾	19	20	日	美術館 講座室	G・PLANT アンチエイジングセミナー
11	17	木	美術館 講座室	大城マネジメント研究所　算定礎届の概要・最適賃金の算出・助成金制度の活用「社会保険・労働保険の実務	20	20	日	講堂	日本消化器病学会　日本消化器病学会九州支部　第64回市民公開講座

【2010年６月】

No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）	No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
21	22～30		美術館 講座室	沖縄 DFS 会議	28	25・26		スタジオ・ 県民アトリエ・子供アトリエ	沖縄平和詩歌祭2010
22	22	火	講堂	NPO 法人琉米歴史研究会 ジョージファイファー講演会					
23	23	水	博物館 講座室	海邦市民文化センター　慰霊の日に考える「－遺骨からのメッセージ」	29	26	土	博物館 実習室	シナリー化粧品ベーシックセミナー
24	23	水	講堂	第５回女性セミナー　あなたは絶対に変われる	30	26	土	博物館 講座室	株式会社情報バンク 沖縄ブロック研修会
25	24	木	博物館 講座室	社団法人公共建築協会 沖縄地区事務局　平成23年度新営予算単価説明会	31	27	日	博物館 講座室	株式会社トリム　トリムフーズ飲食事業部繁盛集会（総会）
26	24	木	講堂	映画「やぎの冒険」完成披露試写会	32	27	日	講堂	「未来と平和」を輝かせよう ハローディアエネミー展特別講演
27	25～ 8 /20		博物館特別展示１・２、企画展示室	「古代エジプト　神秘のミイラ展」	33	29	火	博物館 実習室	e-ラーニングの未来

【2010年７月】

No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）	No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
1	1・6・ 15・29		博物館 実習室	パッセジャータ･ウォーキングレッスン	25	15	木	美術館 講座室	盛和塾沖縄　勉強会
2	1・2		美術館 講座室	DFS 会議	26	17	土	博物館 実習室	沖縄経済学会
3	2	金	博物館 講座室	盛和塾沖縄	27	17	土	美術館　子供アトリエ	エッテン友の会　版画教室
4	2	金	美術館　県民アトリエ	りゅうせき商事　リーダー研修会	28	17	土	講堂	「アジアの中の沖縄 －持続可能な発展を目指して－」
5	2・3 ・4		講堂	「蘇る古琉球　浦添ようどれ」 映画上映会	29	18	日	博物館　実習室・美術館 県民アトリエ・美術館屋外展示場･講堂・エントランスホール	沖縄タイムス　ワラビー祭り
6	3	土	博物館 講座室	セレモニー武双 第２回生きがい講座	30				
7	3	土	美術館 講座室	株式会社アークシステム　勉強会	31				
8	3	土	講堂	株式会社西山音楽事務所 リトミック発表会リハーサル	32				
9	4	日	博物館 実習室	沖縄県美術家連盟	33	19	月	美術館 講座室	沖縄の教育を考える会
10	4	日	美術館　県民アトリエ	ミキ・ワールド沖縄　食育会議	34	22	木	博物館　実習室・講堂	全管協　原状回復委員会
11	6	火	美術館 講座室	株式会社アークシステム　勉強会	35	22	木	博物館 講座室	株式会社ジーオフィス　元気が出る就活応援講演会「感動サービスの作り方」
12	7	水	美術館 講座室	株式会社クインアッシュ 事業説明会	36	22	木	美術館 講座室	株式会社ジーオフィス プレゼンテーション中級セミナー
13	8	木	美術館 講座室	冒険王株式会社　未来塾	37	24	土	博物館 講座室	NPO 法人教育支援協会 子育て EQ 講演会
14	10・11		博物館 講座室	NPO 法人沖縄県マンション管理組合連合会 長期修繕工事計画の作成と資金調達セミナー	38	24	土	スタジオ	happ 理事会
15	11	日	美術館 講座室	株式会社プラス　セミナー	39	24	土	美術館 講座室	G・PLANT アンチエイジングセミナー
16	11	日	講堂	organic cafeLohasu produce NOAH ４周年記念　地球交響曲最　新作第７番上	40	24	土	講堂	～うつ病：ホンネを語れば～ 市民公開講座
17	13	火	美術館 講座室	コーヒーエネマご愛用者フォローアップ講習会	41	24	土	講堂	沖縄県民カレッジ　夏期セミナー
18	13	火	講堂	三井住友海上株式会社　脳卒中セミナー　脳卒中は防げる、治せる	42	25	日	博物館 講座室	育英義塾教員養成学院 明星大学沖縄学習センター　スクーリング
19	14	水	博物館 講座室	サンワコムシスエンジニアリング株式会社 安全大会	43	25	日	美術館 講座室	沖縄型次世代リーダー発掘・育成プログラム「人財 Qubic」特別講座
20	14	水	スタジオ	写真現像	44	25	日	講堂	第３回 沖縄県診療情報管理セミナー
21	14	水	美術館 講座室	ワーラック博士の講演会	45	27	火	美術館 講座室	D-CREATOR　講演会
22	14	水	美術館 講座室	ACT 説明会	46	30	金	博物館 講座室	空間情報シンポジウム　2010 那覇
23	15	木	博物館 講座室	琉球モダンプロダクツデザイン発足説明会及び交流会	47	30	金	美術館 講座室	全管協 キャリアプランニング新人研修
24	15	木	美術館 講座室	大城マネジメント研究所 人事賃金セミナー	48	30	金	スタジオ	現像室

【2010年７月】

No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）	No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
49	31	土	講堂	沖縄県民カレッジ　夏期セミナー	51	31	土	講堂	琉球大学生涯学習教育センター かみ合わせ、悩んでいませんか？ ～かみ合わせ、アゴのゆがみの治療法～
50	31	土	博物館 講座室	「夢をかなえる大人の学校　サクセスウーマン講座」					

【2010年８月】

No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）	No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
1	3	火	美術館 講座室	共同求人学習会＆参加企業会議	18	18	水	美術館 講座室	沖縄県キャリアセンター 若手社員セミナー
2	4	水	講堂	ヤギの冒険　上映会	19	18	水	美術館 講座室	PRB ビジネスセミナー
3	6	金	博物館 講座室	株式会社ドリームバンク 全国リーダー会議	20	17～19		博物館 講座室	りゅうぎんキッズスクール
4	7	土	講堂	知花花織展関連講演会	21	18・19		スタジオ	暗室現像使用
5	7	土	講堂	おきなわ水素研究会 沖縄県民カレッジ夏期セミナー	22	19	木	美術館 講座室	盛和塾沖縄　キックオフ会
6	8	日	博物館 講座室	水素について	23	21	土	博物館 講座室	みんなで学ぶ囲碁入門教室
7	8	日	美術館　県民アトリエ	ミキ･ワールド沖縄　食育会議	24	21	土	スタジオ	happ 理事会
8	10	火	博物館 講座室	高校生就活セミナー	25	25	水	博物館 講座室	盛和塾沖縄　会計学講座
9	10	火	美術館 講座室	講演会延期についてのお詫びの会	26	25	水	美術館 講座室	県立高等学校就業体験担当教諭向けビジネスマナー講習会
10	9・10		講堂	沖縄県特別支援学校中学部総合文化祭	27	26	木	博物館 実習室	パッセジャータ･ウォーキングレッスン
11	11	水	博物館 講座室	組合員活動支援者スキルアップ研修会	28	26	木	博物館 講座室	りゅうせき商事　会社説明会
12	12	木	博物館 講座室	盛和塾沖縄　勉強会	29	26	木	美術館 講座室	第35期定期総会
13	12	木	美術館 講座室	冒険王株式会社　未来塾	30	27	金	博物館 講座室	電力負荷平準化対策推進事業セミナー
14	12	木	講堂	おもろそうし	31	28	土	美術館 講座室	市民ランナーのためのマラソン講座
15	14	土	美術館　子供アトリエ	エッテン友の会　版画教室	32	28	土	県民アトリエ･ 子供アトリエ	アートキャンプ 夏休みワークショップ
16	14	土	講堂	『就職･生活･自立支援フォーラム』in 沖縄	33	28～９/12		企画・特別 展示室	台中市文化局　台中展
17	17	火	美術館 講座室	株式会社クインアッシュ 事業説明会					

【2010年９月】

No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）	No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
1	1	水	エントランス	興南写真パネル展	13	5	日	県民アトリエ	ミキ･ワールド沖縄　食育会議
2	1	水	エントランス	興南高校優勝旗展	14	8	水	博物館 講座室	エクスフューズ事業説明会
3	1	水	博物館 講座室	エクスフューズ事業説明会	15	8	水	美術館 講座室	D-クリエイト講習会
4	1・3		スタジオ	暗室現像使用	16	9	金	美術館 講座室	丸の内・朝大学の地域コミュニティーづくりに関するノウハウレクチャー
5	1	水	美術館 講座室	レコ琉球　社員ミーティング	17	10・11		スタジオ	那覇情報システム専門学校 デジタルクリエイター科作品展
6	2	木	美術館 講座室	沖縄県囲碁連盟	18	10・11		美術館 講座室	理学博士 鵜澤正和講演会
7	4	土	博物館 講座室	玉木流琉装からじ結い研究所 結いあしび、美ら姿、くしの日	19	12	日	美術館 講座室	美術家連盟
8	4・5		博物館 実習室	フラメンコ プブリカシオン15 控え室	20	14	火	博物館　実習室・講堂	山口　啓メイクアップセミナー
10	4・5		講堂	フラメンコ プブリカシオン15	21	14	火	美術館 講座室	エクスフューズ事業説明会
11	5	日	博物館 講座室	子どもの発達に役立つ美順トレーニング講習会	22	15	水	美術館 講座室	川口隆夫 アーティスト･トーク in 沖縄県立博物館･美術館
12	5	日	博物館 講座室	AI 会沖縄ブロック　研修会	23	9・14・15		スタジオ	暗室現像使用

【2010年９月】

No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）	No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
24	16	木	博物館 講座室	ジョブチャンネル	41	24	金	博物館 講座室	オキナワ・スタイルの系譜 亜熱帯のコンクリートデザイン
25	16	木	博物館 講座室	グローバルチェーンビジネス説明会	42	24	金	博物館 講座室	沖縄税理士会北那覇支部 書面添付制度について
26	16	木	美術館 講座室	コーヒーエネマご愛用者フォローアップ講習会	43	24	金	美術館 講座室	株式会社クインアッシュ事業説明会
27	16	木	美術館 講座室	盛和塾　キックオフ会	44	18・25		子供アトリエ	写真作家入門第２期募集
28	17	金	スタジオ	専門学校 IDA　マンガ展	45	26	日	博物館 講座室	ママための子育て勉強会
29	17	金	美術館 講座室	不二家九州総括支店会議	46	26	日	博物館 講座室	沖縄科学の最前線2010シンポジウム
30	18	土	美術館 講座室	沖縄の教育を考える会 「生命の光」上映会	47	26	日	子供アトリエ	エッテン友の会　版画教室
31	18	土	博物館 実習室	happ	48	26	日	講堂	沖縄タイムス 沖縄こども環境調査隊
32	18	土	エントランス・美術館屋外展示場・3階　ホワイエ・講堂	琉米高校生漫画コンテスト 2010	49	22・28		美術館 講座室	大城マネジメント研究所 会員に対する教育研修
					50	28	火	美術館 講座室	沖縄県囲碁連盟
33	20	月	博物館 実習室	「立て直そう日本・女性塾」	51	28	火	講堂	銀職カードセミナー
34	20	月	博物館 講座室	村田有季彦先生「引き寄せセミナー」	52	29	水	博物館 講座室	盛和塾　勉強会
35	20	月	美術館 講座室	株式会社みたのクリエイト	53	29	水	美術館 講座室	e-ラーニング
36	20	月	美術館 講座室	劇映画「沖縄」再上映を支援する会の集い	54	2・7・14・16・28		博物館 実習室	パッセジャータ・ウォーキングレッスン
37	22	水	博物館 講座室	平成22年度　業務用ヒートポンプ式給湯システム普及促進セミナー	55	30	木	スタジオ	
38	22	水	スタジオ	暗室現像使用	56	30	木	美術館 講座室	レコ琉球　社員研修
39	22	水	美術館 講座室	冒険王株式会社　未来塾	57	30	木	講堂	昭和薬科附属中学校 オリエンテーション
40	23	木	美術館 講座室	G. PLANT　アンチエイジング	58	30	木	講堂	第８回防衛セミナー 安全保障環境の安定化に向けて～自衛隊の国際平和協力活動～

【2010年10月】

No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）	No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
1	1	金	博物館 講座室	組み込みスキル標準（ETSS）を活用した IT 人材育成の仕組み作りについて	15	7	木	美術館 座室	全管協　キャリアプラン二ング研修
2	1・2		美術館 講座室	リゾネット	16	7	木	美術館 講座室	冒険王株式会社　未来塾
3	2	土	博物館 講座室	三井生命保険株式会社 住宅ローンセミナー	17	8	金	博物館 講座室	一般求職者対象　就職ガイダンス「会社選びのいろは」
4	3	日	博物館 実習室	琉球アーユルヴェーダ研究会会議	18	8	金	共有 講堂	沖縄デジタル映像祭 2010
5	3	日	博物館 講座室	琉球大学熱帯生物圏研究センター 市民公開講座	19	9	土	美術館 子供アトリエ	写真作家入門第２期募集
6	3	日	県民アトリエ	ミキ・ワールド沖縄食育会議	20	9	土	美術館 講座室	エクスフューズ事業説明会
7	5	火	博物館 実習室	パッセジャータ・ウォーキングレッスン	21	9	土	美術館 屋外展示場	一緒懸命　夢　心　愛展関連イベント『遊書ライブ＆唄・三線』
8	14	木	美術館 講座室		22	10	日	共有 講堂	運動器の10年「骨と関節の日」市民セミナー※講堂前ホワイエも使う
9	21	木	スタジオ		23	11	月	美術館 講座室	沖縄の教育を考える会 「生命の光」上映会
10	5	火	博物館 講座室	サンワコムシスエンジニアリング株式会社　平成22年度下期安全大会	24	11	月	共有　講堂	沖縄・暮らしのでざいん講演会
11	5	火	美術館 講座室	ZU 美アカデミーエキスパートインストラクター講習会	25	14	木	博物館 実習室	ECOSWAY　勉強会
12	6・14		美術館 講座室	盛和塾	26	15～16		エントランスホール・博物館　実習室・美術館　屋外展示場	新都心祭り
13	6	水	美術館 講座室	株式会社エクセレント・パートーナーズ 水素新事業説明会					
14	7	木	博物館 実習室	ECOSWAY					

【2010年10月】

No	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
27	15～17		中庭・講堂・スタジオ・県民アトリエ・子供アトリエ	専門学校 IDA　卒業作品展
28	16	土	美術館講座室	AI メンバー会研修会
29	16	土	博物館講座室	エクスフューズ事業説明会
30	16～20		美術館企画ギャラリー１．２	沖縄県芸術文化祭
31	17	日	博物館講座室	健康セミナー
32	17	日	博物館実習室	専門学校 IDA ファッションショー控え室
33	17	日	３階　回廊	専門学校 IDA ファッションショー
34	17	日	美術館　屋外展示場・３階　ホワイエ・講堂	そばの日
35	19～20・22		美術館講座室	沖縄 DFS　研修会
36	20・21		博物館講座室	2010年度　IPA 中小企業情報セキュリティーセミナー
37	21	木	講堂	CMC 試写
38	22	金	講堂	平成22年度自主財源確保対策研修会
39	23	土	博物館講座室	第46回全国糖尿病週間市民講座
40	23	土	子供アトリエ	エッテン友の会　版画教室
41	23	土	美術館講座室	翔べ!!尚邑志講演実行委員会 翔べ!!尚邑志
42	23	土	講堂	『第６回沖縄県高校生中国語発表大会』
43	24	日	博物館講座室	育英義塾教員養成学院　明星大学沖縄学習センター　スクーリング
44	24	日	講堂	ヤマハ音楽教室新入会生オリエンテーション
45	26	火	博物館講座室	事業説明会
46	26	火	美術館講座室	ECOSWAY e-ラーニング教育の未来
47	26	火	講堂	「相原滋弘のアジアビジネスセミナー」～アジアビジネス成功のノウハウを会得する～
48	27	水	美術館講座室	株式会社アークシステム　勉強会
49	27	水	美術館講座室	福働会　キャリア開発セミナー
50	28	木	博物館講座室	パワースポットセミナー
51	30	土	美術館講座室	フリーベル天久新都心管理組合総会
52	30	土	講堂	玉城流いずみ会おもろまち支部道場 第１回学習発表会
53	31	日	博物館講座室	株式会社ユニベール 水素と生命の健康講演会
54	31	日	講堂・美術館 講座室	玉城流いずみ会おもろまち支部道場 第２回学習発表会

【2010年11月】

No	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
1	2	火	博物館実習室	「元気プロジェクト」助成金講習
2	2	火	講堂	「元気プロジェクト」助成金決定交付式及び記者発表
3	2	火	美術館講座室	レコ琉球　社員研修
4	2	火	美術館屋外展示場	株式会社プラット 「KAMIGAKARI」展 2010 パッケージデザインレセプションパーティー
5	２～７		県民アトリエ・子供アトリエ	株式会社プラット 「KAMIGAKARI」展 2010 パッケージデザイン
6	2	火	講堂	沖縄防衛局　第９回防衛セミナー
7	3	水	博物館　実習室	沖縄県美術家連盟
8	3	水	美術館　講座室	ミキ･ワールド沖縄　食育会議
9	4・18・27		スタジオ	パッセジャータ･ウォーキングレッスン
10	５・６		博物館実習室	琉球アーユルヴェーダ研究会会議
11	5	金	講堂・博物館 講座室	ビルメンテナンスフェア’10
12	５・６		美術館講座室	リゾネット
13	7	日	博物館実習室	株式会社 NTH　勉強会
14	7	日	講堂	沖縄県臨床皮膚科医会　皮膚の日公開講座
15	9	火	博物館実習室	パワースポット勉強会
16	9	火	美術館講座室	冒険王株式会社　未来塾
17	10	水	博物館講座室	コーチング・リーダーシップ講演会
18	10	水	美術館講座室	盛和塾　勉強会
19	10	水	美術館講座室	琉球ジャスコ　衛生教育
20	10	水	講堂	仕事と家庭の両立支援普及促進セミナー
21	11	木	博物館実習室	ベルシステム24
22	11	木	美術館講座室	日本損害保険大学セミナー
23	11	木	講堂	沖縄 DFS 研修会
24	11	木	講堂	世界糖尿病デー記念イベント糖尿病からあなたを守るライブトーク
25	11～12		博物館　講座室・スタジオ・県民アトリエ・子供アトリエ・エントランスホール・講堂	OCC フェア
26	12	金	美術館講座室	日本損害保険大学セミナー
27	13	土	博物館実習室	ビオ倶頼部　研修会
28	13	土	スタジオ	合資会社324　セミナー
29	14	日	博物館実習室	文教楽器　音楽検定

【2010年11月】

No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）	No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
30	14	日	博物館 講座室	第６回社会福祉会計簿記認定試験	54	23	火	美術館 講座室	株式会社みたのクリエイト
31	14	日	県民アトリエ	ワールドデップサービス	55	24	水	美術館 講座室	キャリアセンター 若手社員向けセミナー
32	14	日	子供アトリエ	那覇地方法務局　創元会沖縄支部 研究会	56	24	水	講堂	オーシャーン21　売上アップセミナー
33	14	日	美術館　講 座室・講堂	那覇地方法務局　筆界（ヒッカイ） 特定制度に関するイベント	57	25	木	博物館 実習室	和現（日本のモノと暮らそう）展示
34	16	火	美術館 講座室	税を考える習慣　無料相談会	58	25	木	博物館 講座室	（財）沖縄県産業振興公社 「ベンチャー市場の動向」
35	16	火	講堂	税を考える習慣講演会	59	25	木	博物館 講座室	（財）沖縄県産業振興公社 IT 経営力強化セミナー
36	17	水	博物館 講座室	盛和塾　会計学講座	60	25	木	美術館 講座室	阪急トラッピクス海外旅行説明会
37	17	水	スタジオ	ITOP 講座「第１回クレーム応対とストレスコーピング」に向けて	61	25	木	講堂	我喜屋監督講演会
38	17	水	美術館 講座室	キャリアパス人事制度 職務・職責給 導入と運用基準の定め方	62	26～28		博物館 実習室	和現（日本のモノと暮らそう）展示
39	17	水	講堂	情報労連 総決起集会	63	26	金	博物館 講座室	『和現―日本のモノと暮らそう― Vol.２～全国の産地にある「技術」 や「素材」を活かしたモノづくり 講演会
40	18	木	博物館 講座室	ジョブチャンネル					
41	18	木	美術館 講座室	賃貸仲介管理スキルUPセミナー	64	26	金	美術館 講座室	盛和塾
42	19～21		博物館 実習室	「沖縄県三味線事業共同組合・匠の技」展	65	26	金	美術館 講座室	第２回沖縄バイオマス資源活用促進 協議会
43	19	金	美術館 講座室	パワースポットセミナー	66	26	金	講堂	犯罪被害者支援講演会
44	19	金	講堂	公共建築教会沖縄地区事務局 講演会「地域に育む木材利用」	67	27	土	子供アトリエ	写真作家入門第２期募集
45	19・20		博物館 講座室	第３回琉球大学オープン	68	27	土	美術館 講座室	アークシステム
46	20	土	スタジオ	スクイークワークショップ	69	27	土	講堂	仲宗根ピアノ教室 リトルピアノコンサート
47	20	土	県民アトリエ	happ	70	27	土	講堂	JAPAN MISSION PROJECT in 沖縄特別講演会
48	20	土	子供アトリエ	版画教室	71	28	日	美術館 講座室	エクスフューズ事業説明会
49	20	土	美術館 講座室	沖縄の教育を考える会 「生命の光」上映会	72	28	日	美術館 講座室	AIメンバー会沖縄ブロック　研修会
50	20	土	美術館 講座室	AI メンバー会沖縄ブロック　研修会	73	28	日	講堂	おんがく広場 momo. 音楽ひろば POPO.　ピアノ発表会
51	21	日	スタジオ	ファスティングマススター認定プログラム	74	30	火	スタジオ	ECOSWAY　Japan　セミナー
52	21	日	博物館 講座室・美 術館 講座室	デジタル・アーキビスト講習会 2010 in 沖縄	75	30	火	美術館 講座室	コーヒーエネマご愛用者フォローアッ プ講習会
					76	30	火	美術館 講座室	e-ラーニングの未来
53	21	日	講堂	第５回ミュージックスクールグロー リア　音楽発表会					

【2010年12月】

No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）	No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
1	1	水	博物館 実習室	COSWAY　Japan	8	3	金	スタジオ	ノボノルディスクファーマ㈱　社内 会議
2	1	水	美術館 講座室	レコ琉球　社員ミーティング	9	3・4		美術館 講座室	リゾネット
3	1・2		スタジオ・ 県民アトリ エ・美術館 講座室	株式会社琉球光和 ダヴィンチルームへようこそ	10	3	金	美術館 講座室	沖縄県建築士会　建築士会九州ブロッ ク会会長会議
4					11	4	土	博物館 講座室	有限会社エムティ企画タボ・肥満予 防健康セミナー
5	2	木	博物館 実習室	パッセジャータ・ウォーキングレッスン	12	4	土	県民アトリエ	有限会社ラ・ブランド　健康セミナー 「ワールドレップサービス」
6	8・9		スタジオ		13	4	土	子供アトリエ	光画文化研究所 写真作家入門第２期募集
7	2	木	博物館 講座室	株式会社クリエイティブネクサスズー ムイン SUPER	14	4	土	講堂	琉球大学附属図書館　3館合同企画展「宝庫からの メッセージ」特別講演「學先生が語る琉球芸能」

【2010年12月】

No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）	No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
15	5	日	博物館 実習室	マニマニセミナー	39	17	金	美術館 講座室	全国賃貸管理協会　平成22年度下期 「少額短期保険研修会
16	5	日	博物館 実習室	モリセフ株式会社　セミナー	40	17	金	美術館 講座室	ブリリアント上田 メイクアップフォーラム
17	7	火	博物館 実習室	ビオ倶頼部　会社説明会及び勉強会	41	17	金	講堂	沖縄情報通信懇談会 沖縄デジタル映像祭2010
18	7	火	美術館 講座室	株式会社みたのクリエイト　会議	42	18	土	美術館 講座室	？
19	8	水	講堂	パワースポット勉強会	43	18	土	博物館 実習室	ホリスティク・エクスプロア　TAW プログラム～人生は自分で作るもの～
20	9	木	美術館 講座室	社団法人沖縄県建築士会 第９回定例理事会	44	18	土	スタジオ	happ 理事会
21	10	金	博物館　実習室・スタジオ	株式会社阪急交通社 阪急トラピックス旅行説明会	45	18	土	県民アトリエ・子供アトリエ	第８回創元会沖縄支部展
22	10	金	博物館 講座室	平成22年度建築設備設計基準に基づく ヒートポンプ・蓄熱システムセミナー					
23	10	金	美術館 講座室	「HIV 人権ネットワーク」沖縄 「人権フォーラム」控え	46	18	土	美術館 講座室	沖縄の教育を考える会「生命の光」 上映会
24	10	金	講堂	HIV 人権ネットワーク沖縄　人権フォーラム2010 in 那覇～エイズのこと	47	19	日	博物館 実習室	ホリスティク・エクスプロア　TAWプログラム～人生は自分で作るもの～
25	11	土	子供アトリエ	光画文化研究所 写真作家入門第２期募集	48	19	日	県民アトリエ・子供アトリエ	第８回創元会沖縄支部展
26	11	土	博物館 実習室	沖縄いのちの電話　研修会					
27	12	日	博物館 実習室	株式会社 KIO 講演会	49	19	日	美術館 講座室	美術家連盟
28	12	日	博物館 講座室	有限会社元気塾　村田有季彦先生 「引き寄せセミナー」	50	19	日	講堂	ヤマハ大人の教室クリスマスコンサート
29	12	日	美術館 講座室	南西諸島水中文化遺産研究会会議	51	21	火	美術館 講座室	AI メンバー会研修会
30	12	日	講堂	リトルピアノ発表会	52	21	火	講堂	北大グローバル COE プログラム　島の 記憶・戦争と国境ー樺太・千島と沖縄ー
31	14	火	博物館 講座室	沖印友好協会　講演会	53	22	水	博物館 講座室	PLANNING OFFICE Coda「Web × クリエイティブ」で実現する地域活性
32	14	火	美術館 県民アトリエ	ベルシステム24予防接種	54	22	水	講堂	有限会社シー・エム・シー 映画「Nothing Parts71」の試写
33	14	火	美術館 講座室	冒険王株式会社未来塾	55	22～24		美術館 講座室	沖縄漫画工房展
34	15	水	博物館 講座室	「相原滋弘のアジアビジネスセミナー」 ～アジアビジネス成功のノウハウを 会得する～	56	23	木	博物館 実習室	ECOSWAY
					57	23	木	博物館 講座室	沖縄ヨーガニケタン ヨガ療法講演会
35	15	水	美術館 講座室	就職支援センター那覇・南部 第10回就職・生活支援セミナー	58	23	木	講堂	レイチェル音楽教室　ピアノ発表会
36	16	木	博物館 講座室	パワースポットセミナー	59	25	土	子供アトリエ	エッテン友の会　版画教室
37	16	木	講堂	沖縄タイムス　我喜屋監督講演会	60	25・26		美術館 講座室	HIV 人権ネットワーク沖縄 演劇指導の実演と方法
38	17	金	博物館 講座室	全国賃貸管理協会支部定例会	62	26	日	講堂	日本建築家協会沖縄支部建築文化講演会

【2011年１月】

No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）	No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
1	5	火	美術館 講座室	レコ琉球ミーティング	9	8	金	美術館 講座室	フォーラム「琉球社会における言語 運用の諸相を考える」
2	6	水	博物館 講座室	パワースポット株式会社	10	8	金	子供アトリエ	光画文化研究所 写真作家入門第２期募集
3	7	木	博物館 講座室	日刊工業新聞社　特別講演会in沖縄	11	8	金	講堂	沖縄口腔ケアー研究会
4	7	木	講堂	石川洋先生　新春講演会	12	9	土	博物館 講座室	森ビルメディア芸術オープントーク
5	7	木	美術館 講座室	リゾネット トリニティクラブ説明会	13	9	土	県民アトリエ・子供アトリエ	第27回未来の科学の夢絵画展
6	8	金	スタジオ						
7	8	金	博物館 講座室	チュチェ思想と沖縄、平和に関する 国際シンポジウム	14	9	土	講堂	あらなまぬ年　誇らしゃや ボリビアと八重山の歌と踊り

【2011年１月】

No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）	No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
15	10	日	美術館 講座室	マニマニ株式会社　事業説明会	39	20	水	博物館 講座室	Jobチャンネル　医療・福祉業界編
16	12	火	美術館 講座室	株式会社ユニベール 水素と健康講演会	40	20	水	講堂	TKC 九州会　生涯研修
17	12	火	講堂	那覇市職員メンタルヘルス研修 ～毎日がワクワクする心の元気力アップセミナー～	41	21	木	博物館 講座室	琉球ガラスブランドに向けた活動報告
18					42	21	木	美術館 講座室	コーヒーエネマご愛用者フォローアップ講習会
19	13・27		博物館 実習室	パッセジャータ･ウォーキングレッスン	43	22	金	子供アトリエ	光画文化研究所 写真作家入門第３期募集
20	13	水	博物館 講座室	プランニングオフィス 島田氏による講演会	44	22	金	博物館 講座室	沖縄の教育を考える会　親学講演会
21	13	水	美術館 講座室	バイオアロマ　講演会	45	22	金	スタジオ	沖縄の教育を考える会 「生命の光」上映会
22	13	水	美術館 講座室	盛和塾　勉強会	46	22	金	美術館 講座室	happ 理事会
23	14	木	博物館 講座室	沖縄タイムス若手会研修会	47	22	金	講堂	宇宙の旅を終えた小惑星探査機 ～「はやぶさ」が残したもの～
24	15	金	博物館 実習室	ビオ倶頼部　会社説明会及び勉強会	48	23	土	博物館 実習室	新春特別講座開催「中谷ミミ氏の耳占い講座」
25	15	金	博物館 講座室・美術館 屋外展示場	沖縄県森林緑地課 緑の美ら島づくりシンポジウム	49	26	火	博物館 講座室	りゅうせき商事　会社説明会
					50	26	火	講堂	那覇市役所 平成22年度監督者等特別研修
26	15	金	子供アトリエ	エッテン友の会	51	27	水	博物館 講座室	全国健康保険協会 医療機関担当者研修会
27	16	土	博物館 講座室	㈱トリムフーズ社員総会、飲食事業部　繁盛会議	52	27	水	美術館 講座室	福働会　新年講演会
28	16	土	スタジオ	ノーブルメディカルセンター 作品保管	53	27	水	講堂	沖縄県産業廃棄物協会 排出事業者向け説明会
29	16	土	美術館 講座室	ミキワールド沖縄勉強会	54	28	木	博物館 実習室	パワースポット
30	16	土	博物館 実習室	琉球大学医学部　相談コーナー	55	28	木	博物館 講座室	住宅事業者様向け［フラット35］Ｓの技術基準説明会
31	16	土	講堂	琉大病院　市民講座	56	28	木	美術館 講座室	沖縄における世界水準の観光リゾートの形成に向けた調査」第２回検討委員会
32	18	月	博物館 講座室	琉球ジャスコ株式会社　取締役会	57	28	木	美術館 講座室	損害保険労連ユニオンミティーング
33	18	月	講堂	琉球ジャスコ株式会社　政策発表会	58	28	木	講堂	沖縄県文化協会 シンポジウム琉球文化の現状と課題
34	18	月	博物館 講座室	豊見城市地域雇用労働推進協議会 第４回講座説明会	59	29	金	博物館 講座室	エクスフューズ事業説明会
35	18	月	美術館 講座室	日本損害保険大学セミナー	60	29	金	県民アトリエ	琉球リハビリステーション学院 指導者会議
36	19	火	講堂	第２回　沖縄ねんりんピック かりゆし美術展　　表彰式準備	61	29	金	美術館 講座室	ワークシステム　勉強会
37	20	水		第２回　沖縄ねんりんピック かりゆし美術展　表彰式	62	30	土	博物館 講座室	ミキグループ営業所研修
38	20～23		博物館 企画展示室	第２回　沖縄ねんりんピック かりゆし美術展					

【2011年２月】

No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）	No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
1	1	火	講堂	組踊銘苅子リハーサル	8	4	金	美術館 講座室	株式会社エムズ　表彰式
2	2	水	博物館 講座室	レコ琉球　社員ミーティング	9	5	土	博物館 講座室・美術館 講座室	琉球大学　アフリカ観光事情
3	2	水	美術館 講座室	沖縄県キャリアセンター 若手社員向けセミナー					
4	3	木	博物館 実習室	インテリジェンスプロフェッショナルコーチング	10	5	土	子供アトリエ	光画文化研究所 写真作家入門第２期募集
5	3	木	博物館 講座室	沖縄県軍用地転用促進・基地問題協議会　通常総会	11	5	土	講堂	田村様結婚式
6	3	木	講堂	那覇市役所職員研修所 管理職特別研修	12	5	土	博物館 実習室	沖縄語講座
7	4	金	博物館 講座室	沖縄県損害保険代理店協会セミナー	13	6	日	博物館 実習室	ミキワールド沖縄勉強会

【2011年２月】

No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
14	6	日	博物館 講座室	キャリア、コンサルティング研修
15	6	日	スタジオ	水素研究会
16	8	火	博物館 実習室	研修会
17	8	火	博物館 講座室	デザイン活用講習会
18	8	火	美術館 講座室	勉強会
19	8	火	美術館 講座室	バイオアロマ社長講演会
20	8	火	講堂	新春トーク・沖縄の問題ちゃーすが？
21	9	水	博物館 講座室	全国高校総体那覇市実行委員会 第４回総会
22	9	水	美術館 講座室	定例会
23	9	水	美術館 講座室	原状回復実例研修会2011
24	10	木	博物館 実習室	パッセジャータ･ウォーキングレッスン
25	24	木	スタジオ	
26	10	木	スタジオ・県民アトリエ・子供アトリエ・美術館　講座室	ダヴィンチルームへようこそ
27	10	木	講堂	みはら保育園 おゆうぎ会リハーサル
28	10	木	講堂	株式会社アメニティ 山田豊文先生講演会「食が変われば人生が変わる」－山田式細胞から元気になる食事
29	11	金	博物館 講座室	沖縄小児歯科研究会　Dr おかざきの「世界で一番受けたい授業」
30	11	金	博物館 実習室	琉球大学ワークショップ　観光資源の発掘と村機能からの資源の再評価
31	11	金	博物館 講座室	株式会社ジョイ　乳酸菌生産エキス
32	11	金	スタジオ	株式会社 KIO　勉強会
33	11	金	美術館 講座室	組踊銘苅子控え室
34	11	金	講堂	組踊銘苅子
35	12	土	博物館 講座室	琉球環境文化史研究
36	12	土	美術館 講座室	“ストップ子ども兵士アクション” 『Invisible Children ～見えない子どもたち』
37	12	土	博物館 実習室	沖縄語講座
38	13	日	博物館 講座室	琉球環境文化史研究
39	13	日	博物館 実習室	琉球アーユルヴェーダ研究会
40	13	日	博物館 講座室	漫画展「中国から引き揚げ～少年たちの記憶」の理解を深める講演会
41	15	火	博物館 講座室	「石田良恵のボディデザイン
42	15	火	スタジオ	第３回　沖縄 IT 産業戦略研究会
43	15	火	美術館 講座室	平成22年度　沖縄地域における環境共生推進事業
44	16	水	博物館 座室	「相原滋弘のアジアビジネスセミナー」～アジアビジネス成功のノウハウを会得する～
45	16	水	美術館 講座室	第３回今後の跡地利用施策の展開方策に関する検討委員会
46	17	木	博物館 講座室	タマホーム協力業者工程会議
47	17	木	美術館 講座室	大城マネジメント研究所　研修会
48	17	木	美術館 講座室	盛和塾　勉強会
49	18	金	博物館 実習室	ベストグループ　講演会
50	18	金	博物館 講座室	優越的地位の乱用に関する独占禁止法説明会
51	18	金	美術館 講座室	コーヒーエネマご愛用者フォローアップ講習会
52	19	土	博物館 実習室・博物館 講座室	パワースポット　勉強会
53	19	土	スタジオ	「生命の光」上映会
54	19	土	子供アトリエ	版画教室
55	19	土	美術館 講座室	第４回県民のためのアレルギーフォーラム
56	19	土	講堂	デイサービスクバノハ　講演会
57	19	土	博物館 実習室	沖縄語講座
58	20	日	博物館 実習室	ufuta salon　第２回特別講座
59	20	日	博物館 講座室	貴宝　研修会
60	20	日	スタジオ	エクスフューズ勉強会
61	20	日	美術館 講座室	家庭倫理の会　役職研修
62	22	火	美術館 講座室	バイオアロマ株式会社　講演会
63	23	水	講堂	平成22年度「沖縄企業人材活性化事業」人材活性シンポジウム
64	24	木	博物館 講座室	中小企業を元気にするセミナー
65	24	木	美術館 講座室	大城マネジメント　セミナー
66	25	金	博物館 講座室	「最新税法改正について」＆「スグできる！人事評面制度の実践編」
67	25	金	美術館 講座室	満喜株式会社 会社説明会及び採用式
68	25	金	美術館 講座室	「100年先に伝えたいおきなわのうた」説明会
69	26	土	県民アトリエ	ビオ倶頼部　会社説明会及び勉強会
70	26	土	美術館 講座室	ZU 美アカデミー インストラクター講習会
71	26・27		スタジオ	レキオファーマー　TAW 講座
72	26	土	博物館 実習室	沖縄語講座
73	27	日	博物館 講座室	レキオファーマ健康づくりセミナー
74	27	日	博物館 講座室	語る「開戦前夜」講演会
75	27	日	美術館 講座室	AI メンバー会沖縄ブロック会議
76	27	日	講堂	みはら保育園　おゆうぎかい

【2011年３月】

No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
1	1	火	美術館 講座室	レコ琉球社員ミーティング
2	1	火	講堂	中島信也氏講演会「日本のクリエイティブと未来」
3	2	水	スタジオ	講師会議　「ヒューマンアカデミー那覇校、卒業･修了展示会」
4	2	水	美術館 講座室	あいおいニッセイ同和労働組合沖縄区会　第２回沖縄区会総会
5	3	木	美術館 講座室	ドテラ　アロマ勉強会
6	3	木	講堂	講演会「未来への扉を開く！進化するアメリカ高等教育」
7	3	木	講堂	リジョイスコンサート　リハーサル
8	3・17		博物館 実習室	パッセジャータ･ウォーキングレッスン
9	4	金	博物館 講座室	ビオ倶頼部　会社説明会及び勉強会
10	4	金	スタジオ	株式会社 KIO　カイヤニ勉強会
11	4	金	美術館 講座室	ナチュラリープラス　NP事業説明会
12	4	金	美術館 講座室	株式会社アースボックス　フラッグスターパートナーズ資産運用講演会
13	5	土	博物館 実習室	沖縄語講座
14	5	土	博物館 講座室	FC 琉球　社員ミーティング
15	5	土	スタジオ	美術館支援会 happ　理事会
16	5	土	講堂	平成22年度 GP 海を活かした教育に関する実践研修報告会
17	6	日	博物館 実習室	株式会社 EVER　勉強会
18	6	日	スタジオ	株式会社ジョイ 乳酸菌生産エキスの健康セミナー
19	6	日	県民アトリエ	ミキ・ワールド沖縄　食育会議
20	6	日	博物館　講座室・講堂	琉球大学医学部耳鼻科市民公開講座 耳の日講演会
21	8	火	博物館 実習室	日本道路交通情報センター面接
22	8	火	美術館 講座室	マエダ電気工事株式会社　エクスフューズ事業説明会
23	9	水	博物館 講座室	建設技術センター　公共事業における景観形成実務研修会
24	9	水	博物館 講座室	アークシステム　世界の通信システムの未来・可能性
25	9～11		美術館 講座室	現代ツーリスト　日中科学者会議
26	10	木	博物館 講座室	沖縄県金融広報委員会　平成22年度知るぼるとセミナー
27	10	木	県民アトリエ	沖縄県金融広報委員会　託児ルーム
28	10	木	講堂	タイムスカルチャースクール琉舞 リハーサル
29	10	木	博物館 実習室	琉球大学観光産業科学部 観光記念に関する学際的研究会
30	10	木	博物館 実習室	第2回国際環境問題シンポジウム
31	11	金	博物館 実習室	琉球大学観光産業科学部 観光記念に関する学際的研究会
32	11	金	講堂	沖縄県総合事務局総務部地域密着金融に関するシンポジウム
33	12	土	博物館 講座室	首里城公園友の会文化講演会
34	12・13		県民アトリエ	ホリスティック･エクスプロア TAW 講座
35	12	土	博物館 講座室	第２回国際環境問題シンポジウム
36	13	日	博物館 実習室	沖縄県美術家連盟
37	13	日	博物館 講座室	那覇市障害者福祉協議会　那覇市障害者美術展
38	13	日	博物館 講座室	日経フォーラム「３か月で思考力がミルミル身につく自宅でできるカンタン勉強法」
39	13	日	美術館 講座室	家庭倫理の会中央　子育てセミナー
40	13	日	講堂	リジョイス18周年コンサート
41	14	月	スタジオ	那覇市障害者福祉協議会　那覇市障害者美術展
42	15～18		博物館 実習室	株式会社チェスコム　新入社員研修
43	15	火	美術館 講座室	タマホーム協力業者工程会議
44	15～18		スタジオ	ヴィデオ・パフォーマンスによる、オキナワ・アート・アクション！
45	16	水	博物館 講座室	日本建築家協会沖縄支部第14回卒業設計作品選奨
46	16	水	美術館 講座室	就業規則と労務管理セミナー
47	16・17		講堂	NPO 法人映像産業振興機構 ndjc 2010 合評上映会
48	17	木	美術館 講座室	盛和塾　キックオフ会
49	18	金	博物館 講座室	博物館友の会　崎間麗進先生が語る「戦前の首里と那覇のくらしと文化」講演会
50	18	金	美術館 講座室	株式会社ハウ　コーヒーエネマご愛用者フォローアップ講習会
51	18	金	講堂	NPO 法人プロミスキーパーズ ホームレス＆弱者支援活動セミナー 「貧困救済活動と行政との関わり」
52	19	土	県民アトリエ	株式会社ギャラント　セミナー
53	19	土	美術館 講座室	沖縄の教育を考える会 「生命の光」上映会
54	19	土	講堂	御冠船踊り研究会 連続シンポジウム《御冠船踊り－近世琉球の自己表象－》 第２回　御膳進上と芸能
55	19	土	スタジオ・ 博物館 講座室	ヴィデオ・パフォーマンスによる、オキナワ・アート・アクション！
56	15･16～18･20･21		スタジオ	
57	21	月	博物館 講座室	社会福祉法人大竹福祉会合同学習会
58	21	月	美術館 講座室	NPO 法人沖縄の教育を考える会 親子議員セミナー
59	21	月	県民アトリエ	ミュージックスクール控え室
60	21	月	講堂	ミュージックスクール・華音発表会 ～宮里郁子門下生による Spring Concert～
61	23	水	講堂	エキスパートパートナーズホールディング会長兼社長中川博講演会
62	24	木	博物館 実習室	株式会社サンリオ面接
63	24	木	博物館 講座室	盛和塾　勉強会

【2011年３月】

No	日	曜日	施 設 名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
64	24	木	美術館 講座室	第４回沖縄バイオマス資源活用推進協議会
65	24	木	講堂	沖縄・済州島平和交流実行委員会 金時鐘－特別講演＆いのりの舞台 「遅れた祈式」
66	25	金	博物館 実習室	ビオ倶頼部株式会社会社説明会及び勉強会
67	25	金	美術館 講座室	文理融合ワークショップ「沖縄人の表象をめぐって」
68	26	土	スタジオ	株式会社 KIO 琉球カイヤニ勉強会
69	26	土	子供アトリエ	エッテン友の会　版画教室
70	26	土	美術館 講座室	パナホーム　介護医療セミナー
71	26	土	講堂	第４回　沖縄県在宅セミナー
72	27	日	博物館 講座室	世日フォーラム 沖縄と日本の未来を考える講演会
73	27	日	講堂	楽の会　ピアノ発表会
74	23～31		美術館 企画ギャラリー１・２	茅原南龍書業50年記念展

博 物 館

Ⅰ　調査研究等の活動
Ⅱ　展示活動
Ⅲ　教育普及活動
Ⅳ　資料収集・保存管理

Ⅰ．調査研究等の活動

１．調査研究の概要

博物館の機能は、調査研究、資料収集・保管、資料の展示、教育普及活動という四つの大きな柱によって構成されている。これらは互いに関連しているが、調査研究は他の機能の基礎となる重要な部分である。

当館における調査研究活動は、全学芸員が一地域を対象に実施する総合調査、他機関との共同研究、学芸員それぞれによる個別の調査研究がある。

総合調査では、各離島において自然、歴史、民俗、考古、美術工芸、建築の基礎資料の掘り起こしと収集を行ってきた。久米島（19931994年度）を皮切りに、波照間島（1996、1997年度）、西表島（1998～2000年度）、小浜島（2001～2003年度）、与那国島（2004～2008年度）を経て、2009、2010年度は竹富島で実施した。八重山諸島における調査は、2010年度特別展「八重山」の開催として結実した。

共同研究事業としては、国立科学博物館、東京大学と共同で、南城市玉城のハナンダガマ遺跡（2006、2007年度）、南城市玉城おきなわワールド内の武芸洞遺跡（2007年～2010年度）、サキタリ洞（2010年度）において人類学分野の発掘調査を実施している。

学芸員個別の調査研究事業は、学芸員自身がテーマを設定し自主的に実施しているものや外部から依頼を受けて行うもの等様々である。その成果は論文の形で発表されるとともに、講演等の形でも生かされている。

以下、2010年度における調査研究等の活動状況を報告する。

（濱口　寿夫）

２．博物館総合調査　－竹富島総合調査－

【趣旨】

沖縄県は多くの島嶼から成り立ち、それぞれの島には独自の自然とそれを背景としたくらしがあり、その中から生み出された独自の文化がみられる。このような、島々の多様な自然やくらし・文化については個々の分野の断片的な報告が散見されるものの、基礎的なデータはまだ十分とはいえない。

近年、県内各地で森林伐採・道路建設・土地改良等の開発が活発におこなわれている上、移入された外来種による攪乱の結果、自然環境は大きく変貌しつつある。さらに、地域住民の生活や伝統行事の形態などの文化的側面も大きく変わりつつある。このままでは、島々の自然・文化・社会等に関する貴重な資料が失われてしまうことは想像に難くない。

そこで、本事業は県内各地の自然・歴史・文化について調査・研究し、その成果を記録・報告するとともに、当館の展示会等をとおして島々の自然や文化の現状を伝えることによって、自然環境の保全や文化的資料の保存に対する普及啓発を目的とする。2009年度から3年計画で竹富島を対象とした調査を実施する。

【予算額】

872,000円

【組織】

本調査組織は2009年度から2011年度に沖縄県立博物館・美術館（博物館班）に在籍した各分野の学芸員により構成される。

【調査方法】

分野ごとにテーマを設定し、調査は個別に実施した。2009年度から2010年度までは現地調査を実施し、2011年度は若干の補足調査を実施し、報告書を刊行する。

【調査実績】

仲　里　　健	（2010年12月９日～12月10日）	田　中　　聡	（2010年７月14日～７月16日）
羽　方　　誠	（2010年３月22日～３月23日）	崎　原　恭　子	（2010年４月21日～４月23日）
岸　本　弘　人	（2010年４月21日～４月23日）	與那嶺　一　子	（2010年４月21日～４月23日）
岸　本　　敬	（2010年10月８日）		

（田中　聡）

３．博物館共同研究事業　－人類学調査－

【趣旨】

東アジア地域や日本列島へ新人が到達したのは、５万～３万年前ごろと考えられている。日本列島の人類史を解明するためにはこの時代の人類化石が不可欠であるが、発見例はきわめて少ない。沖縄県からは、３万２千～１万年前と推測される複数の人類化石が発見されており、とりわけ、八重瀬町港川フィッシャー遺跡からは、１万８千年前とされる成人４体の人骨化石（港川人）が発見されている。しかし、同遺跡からは生活の痕跡は発見されず、多くの謎が残されている。

そこで、本事業では、沖縄県立博物館・美術館、国立科学博物館、東京大学等との共同研究として、港川人をはじめとした沖縄出土の更新世人類化石の研究を推進するとともに、新たな人類化石や生活の痕跡の発見を目指した発掘を推進している。



サキタリ洞I区で更新世の堆積層を試掘する



サキタリ洞I区で出土化石を撮影する



港川フィッシャー遺跡にて崖面の木を伐採しながら測量を実施

【組織】

本事業に関わる研究組織は、沖縄県立博物館・美術館の専門員、東京大学および国立科学博物館の研究者、沖縄県内の研究者により構成される。

【事業概要】

沖縄県南城市の武芸洞遺跡およびサキタリ洞において発掘調査を行った。武芸洞遺跡からは、縄文時代前期の土器、石器、獣骨などの遺物が数多く発見されたほか、前年度までに発見していた縄文時代晩期の石棺墓の周辺から、同様の石棺墓と推測される遺構を発見した。サキタリ洞においては、二か所の試掘ピットを発掘し（Ⅰ区、Ⅱ区）、洞穴の形成プロセスを推測するためにボーリング調査を行った。I区では良好な更新世の堆積層を確認した。この堆積層からは、小動物骨やマイマイ、カニ爪などとともに、少量のシカ化石が発見されている。また、サキタリ洞のⅡ区からは、グスク時代とみられる埋葬人骨と、その下層から縄文土器の小破片を発見した。

また、事業の一環として本年度から関係諸機関と共同で港川フィッシャー遺跡の1968～74年にかけての発掘調査の情報整理を開始した。関係諸機関に保管されている情報を統合するとともに、現地の測量調査や、人骨出土情報の整理、1968～69年に東大チームが発掘した資料の整理等を実施した。この成果の一部は平成23年度に人類学会等において公表していく予定である。

（藤田　祐樹・山崎　真治）

４．調査・研究・講演・著作論文等

濱口　寿夫（博物館班班長）

○調査・研究

・博物館常設展示観覧者の動向調査（2010年６月21日～７月２日、８月16日～27日）

・コウダカカラマツガイ（貝類）生態調査（2010年７月～2011年３月）

○講演

・名　　称：沖縄県博物館協会研修「沖縄県立博物館・美術館における広報・宣伝・集客の取組み」
　　[仲程香野（沖縄県立博物館・美術館指定管理者）と共同発表]
　期　　日：2010年６月18日

・名　　称：JICA 研修「沖縄県立博物館・美術館におけるデジタル素材の活用例紹介」
　期　　日：2010年６月25日
　依頼機関：財団法人日本国際協力センター沖縄支所

・名　　称：琉球大学教育学部生活科実習「博物館活動について」
　期　　日：2010年６月26日
　依頼機関：琉球大学教育学部

・名　　称：宜野湾市立博物館第11期わらばー体験じゅく第６回「ヤドカリの学習」
　期　　日：2010年11月21日
　依頼機関：宜野湾市立博物館

・名　　称：琉球大学教育学部生活科実習「博物館活動について」
　期　　日：2010年12月11日
　依頼機関：琉球大学教育学部

・名　　称：宮城学院女子大学沖縄研究グループ研修「沖縄県立博物館・美術館について」
　期　　日：2010年12月22日
　依頼機関：宮城学院女子大学沖縄研究グループ

・名　　称：学芸員講座「海辺の奇妙ななかまたち―海岸生物観察入門―オカヤドカリの生活」
　期　　日：2010年12月25日

・名　　称：社会教育主事研修「沖縄県立博物館・美術館について」
　期　　日：2011年２月15日
　依頼機関：教育庁生涯学習推進センター

○著作論文

・「博物館常設展示における展示項目は入場者に見られているか？」『沖縄県立博物館・美術館　博物館紀要』第４号　2011年３月31日

田中　聡（主任学芸員　自然史・生物）

○調査・研究

・沖縄島北部におけるカエル類の音声モニタリング（2010年４月１日～2011年３月31日）

・沖縄島中部における両生類の生態ならびに保全に関する研究（2010年４月１日～2010年３月31日）

・外来種シロアゴガエルの生態ならびに防除に関する研究（2010年４月１日～2011年３月31日）

・竹富島総合調査（2010年７月14日～16日）

・特別展「生物多様性ホットスポット JAPAN」に向けた資料調査（茨城・群馬・東京）（2010年11月30日～12月３日）

○講演

・名　　称：沖縄生物学会第47回大会シンポジウム「生物多様性地域戦略－戦略に資するモニタリングデータの効果的収集－」
　期　　日：2010年５月29日
　依頼機関：沖縄生物学会

・名　　称：平成22年度「天然記念物緊急調査（キシノウエトカゲ）」第１回調査会
　期　　日：2010年６月15日
　依頼機関：沖縄県教育庁文化課

・名　　称：自然史展示解説
　期　　日：2010年６月18日
　依頼機関：沖縄工業高等専門学校

・名　　称：学芸員講座「ここだけのトカゲのはなし」
　期　　日：2010年９月11日
・名　　称：平成22年度新沖縄県史各論編「自然環境」編集専門部会第１回動物班会議
　期　　日：2010年12月６日
　依頼機関：沖縄県文化振興会
・名　　称：平成22年度「天然記念物緊急調査（キシノウエトカゲ）」第２回調査会
　期　　日：2011年１月17日
　依頼機関：沖縄県教育庁文化課
・名　　称：沖縄県青少年科学作品展審査
　期　　日：2011年１月18日
　依頼機関：沖縄電力株式会社
・名　　称：第１回八重瀬町自然環境及び観光資源保全審議会
　期　　日：2011年１月20日
　依頼機関：八重瀬町
・名　　称：ハワイ交流高校生向け講話「島に生きる生きものたち－ハワイ研修に先立ち、知ってほしい沖縄の自然－」
　期　　日：2011年１月22日
　依頼機関：沖縄県教育庁県立学校教育課
・名　　称：沖縄県民カレッジ　美ら島沖縄講座「琉球列島の自然史入門－陸生動物を中心に－」
　期　　日：2011年１月29日
　依頼機関：沖縄県教育庁生涯学習振興課
・名　　称：第３回西表島森林生態系保護地域設定委員会
　期　　日：2011年２月22日
　依頼機関：九州森林管理局
・名　　称：第２回八重瀬町自然環境及び観光資源保全審議会
　期　　日：2011年３月２日
　依頼機関：八重瀬町

○著作論文
・「沖縄島における外来種シロアゴガエルの複雄配偶について」『沖縄県立博物館・美術館　博物館紀要』第４号（千木良芳範と共著）2011年３月31日

仲里　健（主任学芸員　自然史・地学）

○調査・研究
・普天間宮洞穴調査（宜野湾市）（2010年７月１日）
・玉泉新洞調査（南城市）（2010年７月12日）
・特別展「海のクロスロード　八重山」における与那国島地質調査及び標本採集（与那国町）（2010年７月27日～28日）
・白保竿根田原洞穴遺跡調査（石垣島）（2010年10月４日～６日）
・白保竿根田原洞穴遺跡調査及び竹富島総合調査（石垣島、竹富島）（2010年12月６日～10日）
・白保竿根田原洞穴遺跡より出土した石材調査（浦添市）（2011年２月３日）
・久米島地質調査及び岩石標本採集（久米島）（2011年２月６日～７日）
・白保竿根田原洞穴遺跡より出土した石材調査（浦添市）（2011年２月14日）
・白保竿根田原洞穴遺跡調査（石垣島）（2011年３月22日～25日）

○講演
・名　　称：「沖縄島北部の銅精錬後の残滓の薄片作成とその観察　～たたら製鉄を通して～」
　期　　日：2010年11月16日
　依頼機関：沖縄県高等学校地学教育研究会（沖縄県立総合教育センター）
・名　　称：学芸員講座「琉球石灰岩と人々とのかかわり」
　期　　日：2010年11月27日
・名　　称：名桜大学公開講座「島々のジオツアー～本部半島の石灰岩とカルスト」
　期　　日：2011年３月５日
　依頼機関：名桜大学及び琉球列島ジオサイト研究会

羽方　誠（主任　考古）

○調査・研究

・竹富島総合調査（2011年３月22日～23日）

○講演

・名　　称：学芸員講座「沖縄の墓」
　期　　間：2010年６月26日

・名　　称：沖縄県博物館協会春の研修会　現地研修の講師
　期　　間：2010年６月19日
　実施機関：沖縄県博物館協会

○著作論文

・「八重瀬町新里洞穴遺跡で採集された銅鏃」『沖縄県立博物館・美術館　博物館紀要』第４号
　2011年３月31日（仲座久宜と共著）

崎原　恭子（主任　歴史・古琉球／近世）

○調査・研究

・竹富島総合調査（石垣島・竹富島）（2010年４月21日～23日）

・沖縄大学地域研究所　烽火ネットワーク実証実験のサポート（首里城公園･西のアザナ）（2010年12月７日）
　依頼機関：沖縄大学地域研究所

○講演

・名　　称：学芸員講座「那覇港－往来する人とモノ～展示室探訪のツボ～」
　期　　日：2010年８月28日

・名　　称：沖縄博物館友の会　県外研修旅行（東京・栃木）の講師
　期　　日：2011年１月13日～15日
　依頼機関：沖縄県博物館友の会

○著作論文

・「[資料紹介]『廉姓家譜』について」『沖縄県立博物館・美術館　博物館紀要』第４号　2011年３月31日

岸本　弘人（主任学芸員　歴史・近現代）

○調査・研究

・竹富島総合調査（竹富町）（2010年４月21日～23日）

・特別展「海のクロスロード　八重山」にかかる資料調査（小浜島・西表島・石垣島）（2010年６月19日～21日）

・特別展「海のクロスロード　八重山」にかかる資料調査（黒島・石垣島）（2010年７月14日～16日）

・特別展「海のクロスロード　八重山」にかかる展示資料借用作業立ち会い（竹富島・石垣島）（2010年８月24日～26日）

・特別展「海のクロスロード　八重山」にかかる展示資料返却作業立ち会い（大阪府・東京都）（2010年11月30日～12月２日）

○講演

・名　　称：学芸員講座「近現代分野の収蔵品紹介」
　期　　日：2011年１月22日

與那嶺　一子（主任学芸員　美術工芸・染織／書跡／彫刻）

○調査・研究

・竹富島総合調査（竹富島・石垣島）（2010年４月21日～23日）

・特別展「海のクロスロード　八重山」のための鳩間島調査（鳩間島・石垣島）（2010年６月10日～11日）

・鎌倉資料「風呂敷図案帳」の調査（沖縄県立芸術大学）（2011年２月17日）

・無形文化財（工芸技術）「手機製作・読谷山花織」に関する調査（2011年３月８日～18日）
　依頼機関：文化庁文化財部伝統文化課

○講演

・名　　称：学芸員講座「八重山上布のはなし」
　期　　日：2010年10月23日

・名　　称：2010年県立芸術大学附属研究所文化講座「琉球から沖縄の服飾史」
　期　　日：2010年11月11日

○著作論文
・「資料紹介　染織資料Ⅴ　風呂敷－包み物・掛け物・被り物－」『沖縄県立博物館・美術館　博物館紀要』第４号　2011年３月31日

平川　信幸（主任　美術工芸・絵画／陶器／漆器）
○調査・研究
・琉球陶器調査１（首里城公園管理センター）（2010年５月３日）
・琉球陶器調査２（県立埋蔵文化財センター）（2010年５月７日）
・琉球陶器調査３（名護博物館　恩納村博物館）（2010年８月７日）
・御後絵復元特別事業にかかる調査（東京芸術大学）（2010年７月７日～９日）
依頼機関：海洋博覧会記念公園管理財団　首里城公園管理センター
○講演等
・名　　称：企画室「琉球陶器の来た道」シンポジウム「沖縄窯業史研究の今」（パネリストとして参加）
期　　日：2011年１月29日（土）14：00～
・名　　称：学芸員講座「美術品鑑定の現場」
期　　日：2010年３月26日
○著作論文
・「士族の教養」『2010年度　沖縄県立博物館・美術館　博物館特別展「海のクロスロード　八重山」』沖縄県立博物館・美術館　2010年
・「「御用植木鉢下図」から見る王府の産業」
『沖縄県立博物館・美術館×那覇市立壺屋焼物博物館　合同企画展　琉球陶器の来た道』
沖縄県立博物館・美術館　2011年１月22日
・「琉球陶器の来た道」（企画展紹介）琉球新報　２月25日（金）付

岸本　　敬（主任学芸員　民俗）
○調査・研究
・特別展「海のクロスロード　八重山」にかかる資料調査（与那国島）（2010年７月27日～28日）
・石垣市字登野城「結願祭」調査（石垣市）（2010年10月７～８日）
・竹富島総合調査（竹富島）（2010年10月８日）
○講演
・名　　称：学芸員講座「こどもとあそび　－ソテツの葉で虫カゴづくり－」
期　　日：2010年７月24日

藤田　祐樹（主任　人類）
○調査・研究
・武芸洞・サキタリ洞発掘調査（南城市）（2010年５月17日～６月２日）
・石垣市白保竿根田原洞穴遺跡発掘調査支援（石垣市）（2010年６月10日～11月11日）
依頼機関：沖縄県立埋蔵文化財センター
・石垣市白保竿根田原洞穴遺跡発掘調査支援（石垣市）（2011年２月15日～２月16日）
依頼機関：沖縄県立埋蔵文化財センター
・港川フィッシャー遺跡測量調査（八重瀬町）（2011年２月22日～２月23日）
・ニアー洞窟視察（マレーシア）（2011年２月26日～３月６日）
依頼機関：国立科学博物館
・サキタリ洞ボーリング調査（南城市）（2011年３月７日～３月10日）
・港川・山下町出土資料調査（お茶の水女子大学）（2011年３月14日～３月16日）
○講演
・名　　称：博物館文化講座「港川人骨を訪ねてⅢ」
期　　日：2010年４月24日
・名　　称：学芸員講座「動物の姿勢と運動のひみつ」
期　　日：2010年５月22日
・名　　称：骨講座～骨が語る人類のすがた～「旧石器時代の骨 港川人ってどんなヒト？」
期　　日：2010年６月13日
主　　催：石垣市教育委員会・日本人類学会 後援：沖縄県教育委員会・沖縄考古学会

・名　　称：公開シンポジウム　　白保竿根田原洞穴と旧石器時代人骨の発見
　　「人類進化における沖縄・石垣島の更新世人類」
　期　　日：2010年７月31日
　主　　催：石垣市教育委員会・日本人類学会 後援：沖縄県教育委員会（於：石垣市市民会館大ホール ）
・名　　称：最新恐竜学2010「鳥の観察から恐竜の姿を考える―鳥たちの見方、食べ方、歩き方―」
　期　　日：2010年８月７日
　依頼機関：米子水鳥センター
・名　　称：港川人の由来を探る－下顎骨再検討の成果－
　期　　日：2010年９月19日～９月26日
　学 会 名：沖縄科学の最前線2010
・名　　称：沖縄島南部における更新世化石調査.
　期　　日：2010年10月２～３日
　学 会 名：第６４回日本人類学会大会 だて歴史の杜カルチャーセンター（山崎真治、大城逸朗と連名）
・名　　称：港川人研究の現在「更新世の沖縄島を考える－糸満市真栄平・南城市サキタリ洞の発掘成果－」
　期　　日：2011年１月15日
　主　　催：八重瀬町教育委員会（於：八重瀬町立具志頭改善センター）
・名　　称：沖縄島南部における後期更新世の動物相の変化について
　期　　日：2010年２月12～13日
　研究会名：平成22年度第２回琉球環境文化史研究会（於： 沖縄県立博物館・美術館）

○著作論文
・「旧石器時代の日本列島人：港川人骨を再検討する」『科学』４月号 岩波書店　2010年４月１日発行（海部陽介と共著）
・「沖縄県立博物館・美術館―港川人をめぐる調査と研究の最前線―」『社会科教育』55号 日本文教出版 2010年５月31日
・「比較形態学教育用体験キット「骨スーツ」の開発」『沖縄県立博物館・美術館博　物館紀要』第４号 2011年３月31日

山崎　真治（主任　人類）

○調査・研究
・博物館共同研究事業に伴う発掘調査（南城市）（2010年５月17日～５月28日）
・博物館共同研究事業に伴う資料調査（鹿児島）（2010年７月20日～７月22日）
・石垣市白保竿根田原洞穴遺跡発掘調査支援（石垣市）（2010年９月１日～12月３日）
　依頼機関：沖縄県立埋蔵文化財センター
・石垣市白保竿根田原洞穴遺跡出土の石材に関する調査（石垣市）（2010年12月６日～12月８日）
・石垣市新石垣空港内洞穴調査支援（石垣市）（2011年１月11日～１月12日）
　依頼機関：沖縄県教育庁文化課
・奄美諸島における先史人類学的調査（奄美市・喜界町）（2011年２月18日～２月20日）
・博物館共同研究事業に係る資料調査（東京）（2011年３月７日～３月８日）
・博物館共同研究事業に係る資料調査（東京）（2011年３月14日～３月１５日）
・石垣市白保竿根田原洞穴遺跡出土の石材に関する調査（石垣市）（2011年３月22日～３月24日）

○講演
・名　　称：博物館文化講座「港川人を訪ねてⅢ」
　期　　日：2010年４月24日
・名　　称：「沖縄における更新世／完新世移行期の人類学・考古学的調査」
　期　　日：2010年５月23日
　学 会 名：日本考古学協会第76回総会（藤田祐樹、大城逸朗、西秋良宏、菅原広史、江田真毅、松浦秀治、近藤恵、海部陽介、坂上和弘、久保麦野、溝口優司、諏訪元、馬場悠男と連名）
・名　　称：骨講座－骨が語る人類のすがた　第２回旧石器時代について学びましょう！「旧石器時代ってどんな時代？」
　期　　日：2010年６月13日
・名　　称：「南城市親慶原ウフニクガマ採集の遺物について」
　期　　日：2010年６月18日
　学 会 名：沖縄考古学会６月定例会　（横尾昌樹、大城秀子と連名）

・名　　称：「洞穴遺跡の調査事例」
期　　日：2010年７月18日
学 会 名：沖縄考古学会総会
・名　　称：「沖縄・先島の先史文化と人類」公開シンポジウム　白保竿根田原洞穴と旧石器時代人骨の発見
期　　日：2010年７月31日
・名　　称：沖縄科学の最前線2010「土器の科学」（宮城直樹、仲里健と連名）
期　　日：2010年９月19日～９月26日
・名　　称：「八重山の２万年を掘る」
期　　日：2010年10月25日
依頼機関：八重山地区校長会
・名　　称：「沖縄県南城市武芸洞遺跡における2009－2010年度の発掘調査」
期　　日：2010年10月２日
学 会 名：第64回日本人類学会大会　（藤田祐樹、大城逸朗、西秋良宏と連名）
・名　　称：「出土遺物から見た武芸洞遺跡における過去6000年間の人類活動」
期　　日：2010年10月２日
学 会 名：第64回日本人類学会大会（藤田祐樹、海部陽介、坂上和弘、伊藤圭、山田浩久、横尾昌樹、菅原広史、赤嶺信哉、大堀皓平と連名）
・名　　称：「港川人ってどんな人？」
期　　日：2010年11月18日
依頼機関：崎枝中学校（出前授業）
・名　　称：「白保竿根田原洞穴人と２万年前の沖縄」
期　　日：2010年11月29日
依頼機関：白保中学校（出前授業）
・名　　称：学芸員講座「港川人の時代を掘るⅡ」
期　　日：2011年２月26日

○著作論文
・「南城市親慶原ウフニクガマ採集の遺物について」『南島考古』第29号　沖縄考古学会　2010年６月　横尾昌樹、大城秀子と連名
・「沖縄貝塚時代早期土器に関する総合的研究」『高梨学術奨励基金年報』2010年度　2010年11月
・「洞穴遺跡の調査事例」『考古学はどのように遺跡を掘るか』沖縄考古学会2010年度研究発表会資料集　2010年７月
・「白保竿根田原洞穴遺跡の発掘調査と沖縄における更新世人類研究の現段階」『考古学研究』第57巻第３号　考古学研究会　2010年12月（片桐千亜紀、米田穣と連名）
・「更新世人骨の発見-沖縄県石垣市白保竿根田原洞穴遺跡」『季刊考古学』第114号　雄山閣　2011年２月（片桐千亜紀、藤田祐樹と連名）
・「白保竿根田原洞穴遺跡の概要」『南島考古だより』第89号　沖縄考古学会　2011年２月　（片桐千亜紀、藤田祐樹と連名）
・「沖縄県における縄文時代後期前葉の土器－『市来式以前』の土器群について」　九州縄文研究会　2011年３月
・「沖縄島南部における先史遺跡の分布と立地について」『沖縄県立博物館・美術館　博物館紀要』第４号　2011年３月
・「沖縄先史土器の胎土に関する基礎的観察」『沖縄県立博物館・美術館　博物館紀要』第４号　2011年３月（宮城直樹、仲里健と連名）

池原　盛浩（主任学芸員　教育普及）

○講演
・名　　称：新規採用・初任者研修「博物館を利用した授業のあり方」
期　　日：2010年８月６日
・名　　称：学芸員講座「学芸員の仕事ってな～に？」
期　　日：2010年８月18日

宮平真由美（嘱託員　学芸）

○調査・研究

・特別展「海のクロスロード　八重山」にかかる資料調査（石垣島）（2010年７月15日～16日）

宮平妃奈子（嘱託員　普及）

○講演等

・名　　称：うんな祭り JAXA ブース（補助講師として参加）
　期　　日：2010年７月24日～25日
　依頼機関：JAXA 宇宙教育センター

５．職員研修

博物館法第４条の４は「学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる」と規定しており、学芸員は学問的専門性を要求されている。最先端の知識と技術を修得し、生涯学習時代における新しい博物館の展望を持てるよう、学芸員は適宜研修を受講している。

【沖縄県博物館協会研修会】

○総会・春の研修会・現地研修

日　　時：2010年６月18日（金）　13：00～17：15（総会・春の研修会）
　　19日（土）　９：30～12：30（現地研修）
場　　所：読谷村文化センター（総会・春の研修会）、山田グスク（現地研修）
参 加 者：牧野浩隆、千木良芳範、濱口寿夫、田中聡、仲里健、藤田祐樹、山崎真治、岸本弘人、
　　與那嶺一子、平川信幸、宮平真由美、崎原恭子、羽方誠、岸本敬、翁長直樹、新里義和、
　　瑞慶山昇、豊見山愛、国吉亮子、吉田祥子、前田直昭、上原善彦

○秋の研修会

日　　時：2010年11月５日（金）　13：30～17：30（研修）
　　６日（土）　９：00～17：00（赤木名城、赤木名集落、原野農芸博物館）
場　　所：笠利農村環境改善センター（研修）
参 加 者：牧野浩隆、濱口寿夫、仲里健、岸本敬、岸本弘人

（濱口　寿夫）

【第７回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー】

研 修 者：平川信幸
期　　間：2010年６月27日（日）～７月３日（土）
研 修 地：東京国立博物館
概　　要：研修は全国から30館の学芸員が参加して行われた。30の美術館・博物館は規模も県立から私立までと運営の形態も様々で、それぞれ状況の違う館との情報交換を行うことができた。

今年度は２年研修の１年目で、内容は文化財の調査方法から展示会の輸送のための梱包方法まで及んだ。文化財の調査方法は伝世してきたモノが調査によって「文化財」という価値を得て、博物館などの公開施設で保存・管理・活用される一連の流れを体系化し具体化していくというものであった。輸送のための梱包研修は実習と講座があり、実習は絵画、彫刻、工芸、書跡、考古、歴史、美術工芸の取り扱いについて、資料ごとの特性から実際の梱包方法に多くの時間が当てられた。こうした資料の扱いは常に行っている業務であるが多くの新しい知見を得られた。



研修が行われた東京国立博物館



大型の仏像の梱包実習

また講座は、調査によってモノが新たに「文化財」として公共の価値を得るためのプロセスが説明され、大変興味深いものであった。当館では日常の業務の中で資料を受け入れていくが明確な基準がなく、モノを「博物館資料」＝「文化財」として価値付けしていく行程は参考になった。

（平川　信幸）

【財団法人日本博物館協会 平成22年度こどもゆめ基金助成事業 子どものための体験活動教材「“食べる”でつながる地球のなかま」普及研修会】

研 修 者：岸本　敬（主任学芸員）
期　　間：2011年２月27日～３月１日
研 修 地：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）
概　　要：当研修は、財団法人日本博物館協会が、独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」より助成を受けて開発・制作した、子どもの体験活動のガイドとなるデジタル教材とその活用方法の紹介を目的として開催されたものである。2010年度は「食」をテーマに掲げ、博物館が持つ資料、教育普及活動の実績等を活用して、科学、自然、動物、歴史、民俗、美術の各分野から、さまざまな体験活動プログラムが開発されていた。理科や社会科だけでなく、国語の単元『鳥とくちばし』を博物館の資料を結びつけて活用した体験活動プログラムが紹介されていた。さらに、江戸時代の安藤広重の絵から「食」ついて考える教材などもあり、さまざまな視点から博物館の資料を活用できるということに気付かされた。

また、葛飾区郷土と天文の博物館などの体験講座を紹介したポスターセッションも行われており、博物館の資料や教育普及で行われる体験講座などの活動を、学校や地域とどう結びつけ活用していくかを考える上で大変参考になるものであった。

（岸本　敬）

【博学連携ワークショップ－学校と博物館が学びあえる場の構築をめざして－】

研修者：池原盛浩（主任学芸員）
　　宮平妃奈子（嘱託員）
期　　間：2011年２月20日（日）
研 修 地：国立民俗博物館
対　　象：博学連携に関心のある－学校教員、博物館職員、その他
概　　要：申込み時点で選択していたキーワードを元に、各班約８名の人数で10の班分けが行われていた。内訳は学校教諭や博物館職員などで構成され、日曜日開催にも関わらず"博学連携"に関心の高い人たち約80名が各地から集まっていた。

はじめに、中学校の社会科教諭から、博物館を利用した仮面製作の実践例が紹介された。民博の展示品とそっくりの仮面を制作させることを通して、調べる力と情報収集能力の育成ができたとの事であったが、社会科の授業で仮面を制作させる事に関して、美術科との横断的な連携ができなかったのか疑問が残る。次に博物館側からのワークシート作製の実践例が紹介された。ワークシートは、学芸員(館)と教員と生徒をつなぐものであるが、それは博物館との出会い(来館)の始まりであり、博物館を理解しワークシート活用を推進できる教員との連携強化が今後の課題だと発表された。

昼食を挟んで実施されたワークショップは、『国立民族学博物館にあるものを使って授業案を作る』という制限時間３時間の課題が与えられた。すべての班が時間内にパワーポイントでのプレゼンテーションを行ったが、短時間にも関わらずその発表内容は充実したものであり、参加者の意識と技能の高さには関心させられた。文科省の生涯学習局・上月政策課長の講演では『新しい公共』についての説明があった。次年度のボランティア活動のあり方を模索している中で、この「地域住民や企業等も、受け身的な立場にとどまることなく、自らも社会の一員として教育に責任を共有するとの認識の下、学校運営や教育活動に積極的に協力し、参画することなどが期待される」という、『新しい公共』の考え方はとても参考になった。３月のボランティア全体会での説明資料作成の参考としたい。

この博学連携ワークショップ参加は、他館学芸員との交流を含め、当館教育普及運営の参考となる各種情報を収集できた研修であった。

（池原　盛浩・宮平　妃奈子）

Ⅱ．展示活動

１．展示活動概要

年間の展示活動としては、常設展示を中心に、特別展１本、企画展２本、大嶺薫コレクション展及び新収蔵品展を開催することを基本としているが、これに加えて2010年度は他機関との共催による企画展も実施した。また、旧博物館において実施してきた「移動博物館」については、「移動展」として2008年度からは美術館と共同で開催している。

海洋性、島嶼性の地理的要因により、沖縄には豊かな自然環境が形成されるとともに、海を介して日本本土や中国をはじめとするアジア諸国と交流することを通じて独自の歴史、文化が形成されてきた。常設展示では「海と島に生きる―豊かさ、美しさ、平和を求めて」をテーマとし、沖縄の自然・歴史・文化に係る総合的かつ体系的な展示を行っている。

2010年度は総合調査の結果を活かした特別展「八重山（やいま）」を開催した。その他、企画展「琉球陶器の来た道」及び「骨の科学」、並びに他機関との共催で「掘り出された琉球王国のグスク及び関連遺産群」、「宝庫からのメッセージ～琉球･沖縄の貴重資料～」「アイヌ―美を求める心」を開催した。　　（濱口　寿夫）

２．常設展

【総合展示】

常設展は、総合展示と専門分野ごとの部門展示からなり、沖縄の自然・歴史・文化を、「海洋性」と「島嶼性」という二つの側面から読み解いている。古来より、沖縄の島々は海によってたがいに隔てられると同時に、海によってアジア、太平洋地域と深く結びつけられてきた。島には固有の自然があり、人々の営みがあり、その一つひとつが沖縄県の特徴ある自然・歴史・文化を形作っている。島に息づく豊かな自然と、島をとりまく海を媒介とした人々の営みを紹介するとともに、トー（唐：中国）とヤマト（日本）との間で花開いた琉球王朝文化、そして目まぐるしい世替わりを体験してきた沖縄の近代史と戦中、戦後史を射程に入れ、常設展のメインテーマを「海と島に生きる－豊かさ、美しさ、平和を求めて－」とした。

常設展へのアプローチでは、イノー（ラグーン）に広がるサンゴ礁を足元に見ながら、あたかも島に上陸するような感覚を体験することができる。また、展示室中央に設けられた「シマの自然とくらし」のコーナーには、鹿児島から台湾まで東西1,000キロ、南北400キロの海域に散在する琉球列島の大小の島々を壮観できる大型ジオラマを配置し、島々の特徴ある自然・歴史・文化を情報端末機を用いて紹介している。また、人工衛星によって撮影された画像を用いて、島々を観察することができる。

○海で結ばれた人々～サークルホールの展示～

「化石の宝庫・沖縄」から発見された、さまざまな化石を展示している。クジラやアンモナイトなど、原始の海にくらした生き物をはじめ、日本人のルーツと目される１万8,000年前の「港川人」や、その頃に生きていたリュウキュウジカ、ヤンバルクイナなどの化石が、ステージ上に展開する。また、正面のスクリーンでは、古生代から現在に至るまでの琉球列島の地史を映像で概観し、沖縄の自然・歴史・文化の旅へと誘う。

○貝塚のムラから琉球王国へ

グスク時代になり、それぞれの地域に有力者が登場するようになると、防御などを目的とした、さまざまなグスクがつくられていく。また、有力者たちは中国への朝貢を通して文化の移入や交易に努め、富が築かれていった。各地の勢力は、やがて北山、中山、南山の３つに収斂し、激しい抗争を繰り広げる。これらの３つの勢力は、15世紀はじめまでに尚巴志によって統一され、琉球王国が築かれた。ここからおよそ500年の長きにわたり、首里を拠点とする王国の歴史がはじまる。

○王国の繁栄

琉球王国は独自の国家として成立したが、国内権力基盤の不安定さによって、第一尚氏から第二尚氏へ王統の交代が起こった。この時代、中国との冊封・朝貢貿易を確立していた琉球は、中国・日本・東南アジアをつなぐ中継貿易を行った。東アジアの大海原の架け橋として船を操り、国際色豊かな産物が国中にあふれるさまを謳った旧首里城正殿鐘の銘文は、往時を偲ぶ貴重な資料である。ここでは、東アジア有数の貿易国家として繁栄したあと、より強固な国家体制がつくられた琉球王国の時代を紹介する。

○薩摩の琉球支配と王国

1609年、薩摩島津氏の侵攻によって琉球は江戸幕府の影響下に置かれたが、中国との関係は引き続き維持された。羽地朝秀、蔡温など政治家の強力なリーダシップによって、王国の経営が行われ、近世文化が創造されていく。またこの時代、貝摺奉行所などによって優秀な工芸品が多くつくられるとともに、「中山世鑑」、

「球陽」などの歴史資料が数多く著された。

○王国の衰亡

中国・日本という両大国との関係を維持しながら、王国を維持してきた琉球だが、19世紀に入ると矛盾が深まる。農村の疲弊や首里王府の財政難などが原因で、王国の経営は行き詰まりが顕著となった。さらに、アジア進出を目指す欧米諸国の外圧が琉球に押し寄せ、王国は危機的な状況に陥った。

○沖縄の近代

1879年、明治政府による琉球処分が行われ、最終的に王国は消滅し、近代国家の一部として沖縄県が誕生した。しかし、しばらく旧慣温存の措置がなされ、社会の安定が図られる。その結果、土地整理による土地所有権の確立や国勢参加は大きく遅れ、資本主義の経済体制や教育制度も大正時代に入ってようやく整った。一方、日本による太平洋戦争の進捗とともに、沖縄も戦争体制に組み込まれていく。1945年、沖縄では住民を巻き込んだ日米両軍による地上戦が行われ、24万余りの尊い人命が失われた。焦土と化した沖縄では、多くの貴重な文化財も焼失し、破壊された。

○戦後の沖縄

沖縄戦によって大きな戦禍をこうむった沖縄。住民たちの生活はゼロからの出発であった。沖縄の施政権は日本からアメリカに移り、27年間のアメリカ統治に入る。米国民政府は東アジアの戦略基地として沖縄を重要視し、基地の機能強化が進められた。米軍関係の事件・事故が多発し、住民への被害も続出したため、日本への復帰運動が起こった。その結果、1972年に沖縄の施政権は日本へ返還されたが、多くの基地が残されるなど、未解決の問題が山積したままである。こういった状況を抱えながらも、現在の沖縄では平和を求め、「沖縄らしさ」を活かした活動が行われている。

○沖縄の今、そして未来へ

復帰後、沖縄は大規模な公共事業のほか、沖縄国際海洋博覧会の開催をきっかけにリゾート開発が各地で始まった。豊かな社会の実現を目指して開発が進められたが、同時に環境の悪化も問題化してきている。2000年には九州・沖縄サミットが名護市で開催され注目を集めた。同年には「琉球王国のグスク及び関連遺産群」が世界遺産に登録されるなど、今日では沖縄文化の優位性が広く認知されてきており、観光客や移住者の大幅増加とともに沖縄は新たな時代を迎えている。

エピローグ「沖縄の現代生活」は、県民に応募いただいた作品で構成された、まさに「現代沖縄の生活」のドキュメント資料である。

【部門展示】

総合展示室の周囲には、自然史、考古、美術工芸、歴史、民俗の５つの部門展示室を設け、収蔵資料を活用しながら、総合展示やそれぞれのテーマをより深め、特化した形での展示と位置づけている。部門展示では、取り扱うテーマに可変性を持たせ、展示替えの頻度を高める工夫を行っている。

○自然史部門展示　「生物が語る沖縄２億年」

琉球列島の成り立ちや、島の環境に適応して独自の進化をとげた生き物の世界を展示するとともに、沖縄が世界に誇る化石人類である港川人の最新の研究成果を紹介している。またジオラマ展示では、ヤンバル(沖縄島北部)、宮古島、西表島、マングローブについて自然の成り立ちを重視した展示を行っている。

○考古部門展示　「沖縄考古学の世界」

発掘調査によって出土した実物資料を用いて、人々の暮らしぶりや地域的な特徴、時代の変化などをわかりやすく紹介している。

○歴史部門展示　「モノから読む歴史」

沖縄は、独立した国家であった琉球王国の歴史に加え、近代以降、日本やアメリカなど国際社会の動向の中で、何度も世替わりを体験した。ここでは年に数回のテーマ展示を通して、沖縄をはじめ各地の様々なモノから歴史をひもとき、歴史の醍醐味や楽しさを紹介している。

○美術工芸部門展示　「琉球の美」

島々に生きた先人たちは、自分たちの生活・文化に海外との交流によってもたらされた「モノ」や「文化」を取り入れることによって、琉球の美術工芸品を生み出した。ここでは王国時代の人々の美意識を伝えながら、現代に生きる私たちにとって、より親しみやすいかたちで、１年に数回テーマを決めて展示替えを行いながら、琉球の美を紹介する。

○民俗部門展示　「沖縄の伝統とくらし」

沖縄の島々に伝わる生活文化について紹介している。村落の成り立ち、信仰と祭り、人の一生、農耕と漁労、衣食住、職人の技、変容する民俗などのテーマを設けて、「観る」、「聴く」、「触る」、「調べる」といった体験的な要素を加えた展示を行っている。　（濱口　寿夫）

３．総合展示室展示替え

○琉球王国のかざりの作法とデザイン

概　　要：王府は漆器などの制作を統括する貝摺奉行、瓦や焼物などの製作を統括した瓦奉行、金工品などを統括した金奉行などの役所を設置し、積極的に工芸技術の育成や導入をはかる。王府が製作したすぐれた工芸品は、王国内で用いられたほか、中国皇帝や江戸の将軍、日本各地の大名たちへ贈られた。

近世琉球の歴史的文物では、今日まで残る美術作品より王府と美術工芸の関わり、さらにはモノ資料から見えてくる時代背景に焦点を当てていく。

内　　容：今回の展示では国王の執務室である御書院に収蔵された美術工芸品の目録「御書院御物帳」、その美術品の飾り方を記した「御座飾帳」、「御書院並南風御殿御床飾」を展示。これらの文献資料によって私たちは首里王府の絵画・書跡のコレクションや、美術作品が首里城内でどのように扱われていたかが分かります。また、「御座飾張」には能書家と知られる清朝３代康熙帝の書跡や画家としても名高い明朝５代宣徳帝による花鳥図、室町時代を代表する画家雪舟の寿老人図などの作品が名を連ね、中国や日本の一級の美術品が琉球国内にもたらされていたことを知ることが出来る。

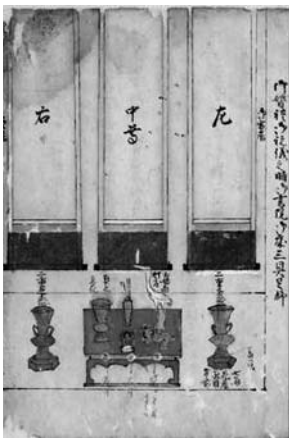
王府と美術工芸のもう一つの関係を示す資料として「国王位牌下図」、「獅子に龍頭下図」があります。この二つの資料は工芸品を作成する際に描かれたもので、今日風にいえばデザインのためのラフデッサンともいえる資料である。その作者は近世琉球期を代表する彫刻家田名宗経（1798～1865年）で、彫刻と同様にその造形力には時代を感じさせない迫力がある。また、今回は「国王位牌下図」、「獅子に龍頭下図」とそれらに類似する作品を展示し、王府と工芸の関わりを示していく。

展示場所：近世琉球の歴史的文物

期　　間：２010年６月22日（火）より

展示資料

① 御書院御物帳』
② 御書院並南風御殿御床飾』
③ 『御座飾帳』
④ 「仏像下図」
⑤ 獅子に龍頭下図」
⑥ 龍下図」
⑦ 国王位牌下図」
⑧ 円覚寺収集位牌」
⑨ 「御絵図」
⑩ 紅型着物・織物着物



御書院並南風御殿御床飾



田名宗経筆「獅子に龍頭下図」

（平川　信幸）

４．部門展示替え

【歴史部門】

歴史部門展示室では、様々な資料から歴史をひも解いていく展示を志し、「モノから読む歴史」という大テーマを設定している。ここでは、様々なテーマに沿った年に数回の展示替えやトピック的な展示を行うなど、柔軟な展示を行う機能を備えている。

歴史部門では、「那覇港～往来する人とモノ～」というテーマの展示を通年で展示している。さらに2010年度は、「地図は語る－琉球国惣絵図（間切集成図）－」、「刻まれた歴史－石碑・拓本－」「大正・昭和初期の沖縄－坂口總一郎撮影写真－」の展示を部分的に行った。

以下に、それぞれの概要を紹介する。

○「那覇港～往来する人とモノ～」

主　　旨：琉球王国から国内外への玄関口として機能し、様々な人やモノが行き交った那覇港の歴史のなかでも、17～19世紀を中心に取り上げ、３つのテーマに分けて紹介する。「１、王国の港・那覇港」では、琉球王国の王都であり政治の中心地であった「首里」と、海上交通の要所であった「那覇」の強い結びつきを示し、「２、往来する人・モノ」では、王国の玄関口である那覇港から行き来した様々な人やモノを紹介する。「３、那覇のマチ」では、歴史読史地図を手がかりとして、「那覇四町」とよばれる地域に隣接する久米村や辻・渡地・仲島という遊郭地区、女性によるマチ（市場）のようすなど、港をとりまく人々のすがたを示す。

展示資料：首里那覇港図屏風（複製）、琉球国惣絵図（間切集成図）（真和志間切他）（複製）、「琉球国全図」（琉球列島並三十六島之図）　他

展示期間：通年展示

○「地図は語る－琉球国惣絵図（間切集成図）－」

主　　旨：琉球王国時代、首里王府主導のもと琉球国内の測量が行われ、様々な地図が作成された。琉球国惣絵図（間切集成図）は、琉球王国時代の行政単位である間切を色分し、河川・道路・集落などの情報や位置関係を示した手書きの絵地図である。これまでに７枚確認されているが、いずれも琉球の一部分で、隣接するいくつかの間切や島がまとめて描かれている。これらは、1737～50年に首里王府が実施した大御支配（おおごしはい：検地のこと）の測量データを基礎とし、描きこまれた内容から、18世紀後半以降に製作されたと考えられている。当展示では、地図から読み取れる情報から、当時の琉球王国の特徴を示す。

展示資料：琉球国惣絵図（間切集成図）①伊平屋（伊平屋島）、②国頭間切、③北谷間切・越来間切、④中城間切・宜野湾間切他、⑤首里・那覇・真和志間切他、⑥大里間切・佐敷間切他、⑦喜屋武間切・高嶺間切他　計７枚

展示期間：2010年６月16日（水）～10月17日（日）

○「刻まれた歴史－石碑・拓本－」（「冊封使の書（拓本）」）

主　　旨：琉球王国時代の沖縄では、記念碑、墓碑、国王の業績を讃える碑、伝来や由来記、名所碑など、石を素材とした多くの記念碑がつくられた。それらに刻まれた文字からは、王国時代の歴史や人々の考え方、書の文化など様々なことを知ることができる。しかし沖縄戦によって、数多くの石碑が破壊・亡失してしまった。それらは刻まれた文字や模様を写し取った拓本で補完し、石碑に刻まれた琉球・沖縄の歴史を紹介する。平成22年度は、石碑や拓本のなかでも中国皇帝の使者として来琉した冊封使たちの書をもとにした石碑の拓本を展示し、特に首里城の龍樋を讃えた冊封使の書を取り上げた。

展示資料：「霊脈流芬」（拓本）、「中山第一」（拓本）、「源遠流長」（拓本）

展示期間：2011年２月８日（火）～６月19日（日）

○「大正・昭和初期の沖縄－坂口總一郎撮影写真－」

主　　旨：坂口總一郎氏（1887～1965年、和歌山県生）は、1920年から1925年まで沖縄県立第一中学校に赴任し、沖縄の動植物を研究した。また、持参したガラス乾板写真機で沖縄の風景や生物などを撮影し、その成果の一部は『沖縄写真帖』第一・二輯（1925年刊）に掲載された。ここでは、2005年に坂口氏の遺族から寄贈されたガラス乾板192枚の中から未公開写真を60点展示した。

展示資料：坂口總一郎撮影ガラス乾板写真60点（初公開）

展示期間：2011年３月８日（火）～６月５日（日）



那覇港の展示風景



琉球国惣絵図（間切集成図）の展示風景



拓本の展示風景



坂口撮影写真の展示風景

（崎原恭子・岸本弘人）

【美術工芸部門】

○「琉球の美」

これまで、美術工芸室は年３回、テーマを変えて展示替えを行っていましたが、2010年度は「琉球の美」とテーマを統一して3期に分けた。

概　　要：琉球、沖縄は湿潤な亜熱帯地方にあり、中国、朝鮮半島、日本、東南アジアの中継地点に位置し、独立した王国を営んできた。強い日差しは艶やかな色彩引き立て、湿った気候は生活の知恵として様々な造形を生み出てきた。　また、島を取り巻く海は海上の道として文化を運んできた。こうした厳しくも豊かな自然環境と500年の長きにわたる王朝の歴史は南海の花、琉球の美を育んだ。

美術工芸展示室では県指定文化財円覚寺関連の彫刻をはじめ沖縄県立博物館・美術館が所蔵する名品を展示公開した。

展示資料

第一期：美術工芸室は博物館・美術館が誇る染織コレクションの中から紅型や読谷山花織りなどの名品、県指定重要文化財の「殷元良画雪中雉子の図」、同じく「殷元良画花鳥図」や琉球最古の絵師である自了の作と伝えられる「寿老人」が展示された。

その他にも県指定重要文化財の漆器作品「黒漆山水楼閣人物螺鈿机」、陶器作品「菊花皿」など多数の美術工芸資料を公開した。

第二期：染色資料の入れ替えを行った。沖縄は染色王国といわれるように多様な技術と生産地がある。沖縄県立博物館・美術館は終戦直後に設立された東恩納博物館などから引き継いだ、王国時代末期から現代に至る、屈指の染織コレクションを収蔵している。

「琉球の美」ではこうしたコレクションのなかから厳選した資料を豊富に展示することによって、沖縄の染織文化の広がりを示した。

第三期：第一期の琉球陶器に代わり第三期では沖縄戦で消失した円覚寺から戦後収集された「円覚寺仏像　普賢菩薩」、「円覚寺仏像　白像」によって、王国時代の沖縄の仏教文化についての展示を行った。また、殷元良筆「雪景山水画」、呉著仁筆「雪景山水図」、慎思九筆「山水図」を展示することによって琉球絵画の系譜を示した。



国内屈指の沖縄の染織コレクションを誇る）



殷元良、毛長禧など近世琉球を代表する画家の作品が展示された

（平川　信幸）

【民俗部門】

○「諸職のワザ　豆腐づくり」

主　　旨：沖縄の伝統的な手仕事の文化は、その自然環境や歴史の中で生まれ、時代の移り変わりとともに発展してきた貴重な文化遺産である。しかし、戦後の高度経済成長の中で、これらの伝統技術や工芸品は、新しい技術や素材に置き換えられ、生活の急激な変化とともに失われようとしている。沖縄の伝統的な「島豆腐」もその代表例であるが、現在でも沖縄県の豆腐の摂取量は、全国平均の約３割増しといわれており、日常の食生活においても行事においても、「島豆腐」は沖縄料理に欠かせない食材である。その沖縄独特の「島豆腐」の昔ながらの製造法や道具を紹介する。



期　　間：2011年２月８日（火）～

展示資料：「ヒチウーシ（石臼）」、「ウスタティムヌ（臼置き籠）」、「アジマー」「トーフウーキ（豆腐桶）」、「豆腐箱」、「豆腐一丁（模型）」

（岸本　敬）

【自然史（地学）部門】

主　　旨：自然史部門展示「島々の成り立ちと生物相の形成」において、恐竜（タルボサウルス）の頭骨レプリカが展示されていた。それに伴って「沖縄にも恐竜がいた」という間違った認識を生み出す可能性があった。そこで、恐竜の展示を取りやめ、沖縄県内で産出する岩石・鉱物の一部を、切断・研磨処理した標本の展示に変更した。また、「世界の化石と岩石」「沖縄の化石と岩石」と展示テーマを分け、全体的なテーマ構成をわかりやすく並べ替えた。

期　　間：通年展示

展示資料：沖縄県内に産出する岩石・鉱物

（仲里　健）

５．企画展『新収蔵品展―平成21年度収蔵資料―』

会　　期：2010年５月14日（金）～６月６日（日）

会　　場：沖縄県立博物館・美術館　企画展示室

観 覧 料：大人200円、高大生150円、小中生100円

観覧者総数：2.590人

予 算 額：186,236円

【開催趣旨】

「新収蔵品展」は、博物館が過年度に寄贈・購入・移管等で受け入れた資料を一堂に展示・公開するとともに、今後の博物館活動の充実と発展をめざして開催するものである。

【事業内容】

2009年度に寄贈・購入・収集された諸資料を自然、歴史、美工、民俗、考古、地学の各分野に分類し、博物館３階企画展示室で展示・公開した。

初日の開会式では、牧野浩隆館長より寄贈者の皆様16名へ感謝状が贈呈され、これに続いて、寄贈者４名と牧野浩隆館長によるテープカットが行われた。式典終了後、参観者は会場内を観覧し、114点の展示品を興味深く鑑賞する姿が見られた。

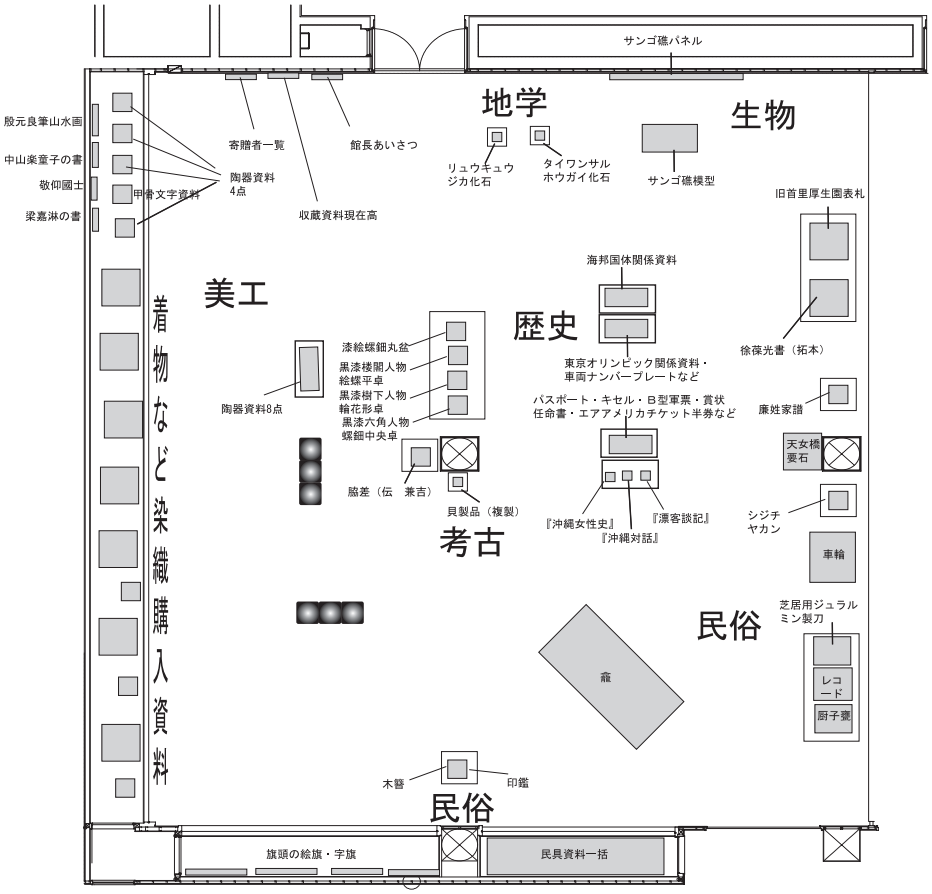
【展示内容】



2009年度は、国内の個人や機関等から多数の貴重な資料をご寄贈いただき、収集、購入したものも合わせて370点の資料を収蔵した。

主だったものとしては、自然史分野では、タイワンサルボウガイの化石、2009年度企画展「造礁サンゴ」で展示したサンゴ礁模型、歴史分野では、1964年から1967年まで那覇と県内離島をむすんだ航空会社「エア・アメリカ」の1966年に使用されたチケット半券などがあげられる。民俗分野では、60年近くにわたり南城市大里字大城区の綱引き行事などを盛り上げてきた旗頭の絵旗（山田真山 画）・字旗（山城正忠 筆）、美術工芸分野では、17世紀頃の漆器の名品である螺鈿の輪花形卓などを収蔵した。

【展示平面図】



博物館企画展「新収蔵品展―平成21年度収蔵資料―」展示配置図

（岸本　敬）

6．特別展「海のクロスロード　八重山」

会　　期：2010年９月24日（金）～11月23日（火）
会　　場：沖縄県立博物館・美術館　特別展示室１，２・企画展示室
観 覧 料：一般：800（640）円　高校・大学生：500（400）円　小・中学生：300（240）円
※（　）内は、前売り及び20名以上の団体料金
観覧者数：4,930人
予 算 額：18,150,680円

【開催形式】
主　　催：沖縄県立博物館・美術館
共　　催：在沖八重山郷友会連合会
後　　援：沖縄タイムス社　琉球新報社　NHK 沖縄放送局　沖縄テレビ放送　琉球朝日放送　琉球放送　ラジオ沖縄　エフエム沖縄　タイフーンfm　エフエムレキオ　八重山毎日新聞社　八重山日報社
協　　力：石垣市教育委員会　竹富町教育委員会　与那国町教育委員会　八重山文化研究会　沖縄・八重山文化研究会　東京・八重山文化研究会　八重山歴史研究会　石垣市立八重山博物館　喜宝院蒐集館　日本民藝館　東京大学総合研究博物館　琉球大学亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構
特別協力：国立民族学博物館

【開催趣旨】
琉球列島の南西に連なる島々を私達はいつの頃からか「八重山」と呼んでいます。
琉球王国の時代も、日本となった今も、西と南の国境である、30近い島から成り立つ八重山。そこをあらゆる角度で眺めてみると、海を道として自然、人、モノが行き交う場としての八重山が見えてきました。
琉球列島のなかでも亜熱帯の要素を色濃くみせる自然、琉球王国に組み込まれていく歴史、来訪する神々への祭祀儀礼とそれに伴う奉納芸能、それと相対するように八重山の支配階級に普及する学芸文化など、八重山の多様な姿は、我々に琉球史の別の側面を示してくれます。
これまで当博物館の展示では、琉球王国の形成から繁栄といった、王国の歴史や文化のみがクローズアップされ、八重山の自然・歴史・文化を総覧して示す機会がありませんでした。この特別展を通して、八重山を多くの人に知ってもらい、沖縄を新たに捉えなおす機会としたいと思います。

【展示内容】
Ⅰ　八重山諸島のあらまし
〔八重山諸島のなりたち〕
島々の地質的な違いを示しながら、八重山諸島全体のなりたちを紹介します。
八重山の衛星写真（グラフィック）・岩石標本等（緑色片岩・層状チャート・蛇紋岩・緑色凝灰岩・石灰藻石灰岩・凝灰各礫岩・於茂登花崗岩・西表海底火山軽石・鈴石等）・植物化石・珪化木・石炭・生痕化石・石炭層剥ぎ取り（グラフィック）

〔八重山とは…〕
「八重山」という概念がどのように固まってきたのか、八重山を描く古地図にみられる表現や史料をもとに紐解いていきます。
島津領国絵図正保琉球国八山絵図写（グラフィック）・琉球国図（グラフィック）・琉球国明細総図・琉球三省並三十六島之図・八重山諸島村落図・「指南広義」・「中山伝信録」

〔八重山の自然・歴史〕
八重山の自然・歴史の概要をパネルと実物で紹介します。
自然は、八重山諸島の生物相（動物相を中心に）を特徴づけるものを展示し、八重山の自然が外来生物によって脅かされている様子を紹介します。
歴史は、先史・近世・近代・現代からその時代を示す実物資料を時間軸に沿って展示しながら、近代の西表島の炭坑開発や、戦後の様子をトピックとして展示します。
標本（リュウキュウアカショウビン・カグラコウモリ・イリオモテヤマネコ・オオハシブトガラス・キンバト・カンムリワシ・インドクジャク・ヨナグニシュウダ・イワサキセダカヘビ・ミヤラヘビ・サキシマハブ・ヤエヤマイシガメ・ヤエヤマセマルハコガメ・ニホンスッポン・ヤエヤママルバネクワガタ・ヤエヤマネグト

クロガタ・チャイロマルバネクワガタ・サキシマヒラタクワガタ・クロカタゾウムシ・イリオモテバッタ・タイワンヒグラシ・イシガキヒグラシ・イシガキニイニイ・イリオモテミナミヤンマ・ヤエヤマクマゼミ・イワサキゼミ・イワサキヒメハルゼミ・アオナガイトトンボ・クロイワカワトンボ・チビカワタトンボ・ヤエヤマハナダカトンボ・サキシマヤマトンボ・ヤエヤマサナエ・ワタナベオシロサナエ・キメホソサナエ・ヨナグニサン・シロオビヒカゲ・ヤエヤマイチモンジ・アサヒナキマダラセセリ・コウトウシロタセセリ・ヤエヤマウラナミシジミ・マサキウラナミジャノメ・リュウキュウヒメジャノメ・オオハナサキガエル・ヒメアマガエル・オオヒキガエル・シロアゴガエル・ショキタテナガエビ・ヤエヤマヤマガニ・ヤシガニ・ヤエヤマルヤスデ・ヤエヤマサソリ・マダラヤスデ)・竿根田原洞穴人骨・下田原式土器・石斧・貝斧・パナリ焼・「おもろさうし」・「慶来慶田城由来記」・「八重山島蔵元公事帳」・板札・藁算・「明和の津波に関する陳情書」・八重山風俗図・「八重山人口調」(明治23年・明治44年)・「開梱願書」・台湾からの入植(グラフィック)・八重山の新聞・カンテラ・歴史年表(グラフィック)等

〔人と自然〕

民謡(アンパルヌミダガーマユンタ)に歌われる干潟や、災害と人の暮らしなど、八重山の自然と人のかかわりをパネルや実物、標本などを使いながら紹介します。

クバ笠・クバ簑・クバの釣瓶・クバの柄杓・クバの扇・瓢箪の柄杓・編袋・茅製の容器・カニ標本(ノコギリガサミ・オオオカガニ・ツノメガニ・オキナワアナジャコ・バルママーカン・フノーラカン・ベンケイガニ・モクズガニ・オオヒライソガニ・ケブカオオギガニ・ベニシオマネキ・オキナワハクセンシオマネキ・キンセンガニ・クロベンケイガニ)

Ⅱ　八重山の諸相

〔土器のはなし〕

八重山における生活の痕跡のはじまりを、特徴的な土器から紹介します。

下田原式土器・荻堂式土器

〔無土器時代の不思議〕

土器が無くなる時代とその生活を模型や遺物で紹介しながら、その謎を考えます。

八重山諸島の貝斧・フィリッピンの貝斧・大当原式土器・ストーンボイリング(模型)

〔近世八重山のくらし〕

史料に描写される人々の暮らし(農作業・機織・貢納・葬送・その他)を蔵元絵師の画稿や残っている実物資料をもとに紹介します。

八重山帆船(模型)・「八重山島諸座御規模帳」・「八重山島人頭税賦課台帳(新本家本)」・「図頭帳」・「酉年定納布并年貢割符帳」・「波照間村万面引合ニ付渡海之時百姓中江申渡候条々」・机・算盤・御用布箱・斗掻き(俵刺)・棹秤・刑罰用具(六尺棒・三尺棒・鞭)・板札・ワラ算・カナグツ・臼・立杵・ヘラ・木鍬・水肥桶・上衣・下衣・八重山蔵元絵師画稿・御絵図・竹富御用布絵形・苧麻花染クヂリ格子・苧麻黄地クヂリ格子・苧麻白地クヂリ格子・苧麻浅地クヂリ格子・地機・スクイ・ピナシ・立杵と板・被り物(ウツパイ)・メンサー帯・ビルイ玉・煙草入れ・貢ウチクイ・バキトゥルボン・白麻八重山上布スディナ・木綿紅型のスディナ・カカン・与那国祖納のガン・霊供盆・黒漆仏前用高膳及び椀・朱漆煙草盆・黒漆松竹梅文堆錦飾重箱・パナリ焼香炉・葬式の際に使用する白い上衣など

〔八重山にやって来た人たち〕

八重山の先には、台湾、大陸、南方の島々があり、その地理的位置は八重山の歴史や文化の形成に大きな影響を与えています。ここでは、展示を「朝鮮民の漂着、西洋船の来航」「やってきた人たち」「八重山を研究した人たち」の三つに分け、八重山を考えます。

1400年代に漂着した朝鮮民は八重山の人々の姿をどのように見ていたのか、また、近世における西洋船の来航など、世界的な動きのなかでの八重山を紹介します。

近世から現代にかけての寄留商人たち、台湾からの入植者など、やって来た人達がどのような影響を八重山に与えたのかを考えてみます。

そして、明治・大正と、八重山を研究した人々、その視線の先にみえた八重山を写真や解説、実物資料を通して紹介します。

朝鮮漂流民のみた八重山(グラフィック)・シタダル遺跡の遺物・「翁長親方八重山島規模帳」・「異国人江返答之心得」・蔵元絵師画稿・唐人墓碑・新聞に掲載された広告(グラフィック)・煤煙啄・研究者達のみた八重

山・川平貝塚出土（土器片・石器片）・「八重山島風俗一斑」・猪狩の女矛・計算、記録用具（藁算）・河村只雄の日記と藁算・鎌倉ノート・鎌倉の原稿・坂口總一郎のカメラ・乾板・坂口の植物標本・大島廣の新聞切り抜き（グラフィック）・「南島探検」・「南島覚書」・「南島情趣」・「沖縄結縄考」・「沖縄植物総目録」・「沖縄写真帖」など

〔八重山文化の多面性〕

八重山士族の教養を八重山に残る絵画・書跡、史料などから示しながら、また島々に残る祭りの祈りや奉納芸能を紹介しつつ、多様な文化の諸相をかたります。

東任鐸の肖像画・宮平長延肖像画・ハチマチ（赤冠）・ハチマチ入れ・「梅公姓系図家譜　小宗」・朱漆家紋入食籠・春慶塗家紋入茶櫃・朱塗天目台・孫著が福州で買い求めた書籍・郭尚先の書・「生華聞書口伝集」・「生花四季華形聞書集」・「立花聞書集　下巻」・竹を使った花生・「手数之形」・「馬稽古聞書」・「馬見様并道具名所」・「示現流目録」・「射法心得覚」・「盆栽絵」・「日置流弓術伝書綴」・「庭作り絵」・「習字手本（鄭嘉訓）」・「豊川親方書礼法式習伝書」・「大和歌集」・「聯句集」・八重山の御嶽（グラフィック）・「八重山御嶽由来記」・「八重山島大安母役目之事」・勾玉（八重山出土）・「旗頭本」・旗頭（大川　松竹梅）・陣羽織・アンガマ面・アンガマ衣装（翁用）・ミルク面・ミルク衣装・オホホの面・ムシャーマの面・ダートゥダの面・ダートゥダの衣装（小道具付き）・アブジャーマ面・アブジャーマの衣装（小道具付）・「笛并鼓大小太鼓打合段」・大胴の鼓・小胴の鼓・大胴小胴の衣装（袴と帯）・６つの島のミルク面ほか

Ⅲ　八重山の島々

石垣島・竹富島・小浜島・黒島・鳩間島・西表島・新城島・波照間島・与那国島の九つの島々の自然・歴史・文化などをダイジェストで紹介します。

九つの島のグラフィック及びPCコンテンツ（「島の言葉」含む）

【関連事業】

〔博物館文化講座〕

「詩と歌でつづる八重山」

期　日：2010年９月25日（土）　14：00～16：00

講　師：平田大一（南島詩人／脚本・演出家）

会　場：沖縄県立博物館・美術館講堂

「海のクロスロード　八重山　シンポジウム」

期　日：2010年10月16日（土）14：00～17：00

講　師：前津栄信（石垣市文化財保護審議会委員長）・三木健（沖縄・八重山文化協会会長）・大城学（琉球大学教授）・里井洋一（琉球大学教授）

会　場：沖縄県立博物館・美術館講堂

「八重山の民謡の伝播と変容」

期　日：2010年11月20日（土）14：00～16：00

講　師：新城亘（沖縄県立芸術大学）

会　場：沖縄県立博物館・美術館講堂

〔特別シンポジウム〕

「白保竿根田原洞穴人と２万年前の八重山　－八重山の人類史を掘る－」

期　日：2010年11月13日（土）13：30～16：00

パネリスト：土肥直美（琉球大学）・米田穣（東京大学）片桐千亜紀（沖縄県立埋蔵文化財センター）・藤田祐樹

会　場：博物館講座室

〔体験教室〕

「八角凧を作ろう」

期　日：2010年10月23・24日（土・日）

講　師：八重山凧愛好会

会　場：博物館実習室（定員15名）

〔学芸員講座〕
「八重山上布のはなし」
期　日：2010年10月23日（土）14：00～16：00
講　師：與那嶺一子
会　場：博物館講座室

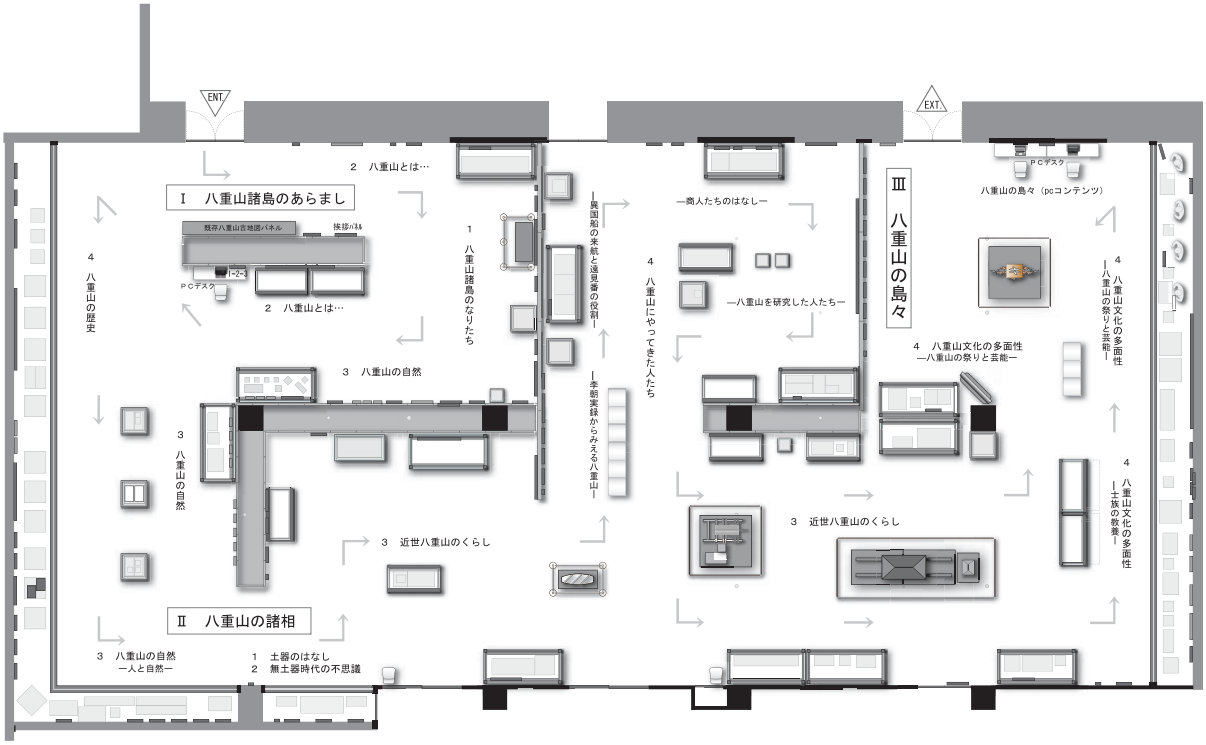
〔展示解説会〕
「八重山の自然」
期　日：2010年10月10日（日）・11月14日（日）14：00～15：00
講　師：田中聡・仲里健

「八重山の歴史」
期　日：2010年10月３日（日）・10月９日（土）14：00～15：00
講　師：岸本弘人・羽方誠

「八重山のくらしと芸能」
期　日：2010年９月26日（日）・10月30日（土）14：00～15：00
講　師：岸本敬・與那嶺一子

「竿根田原洞穴人骨について」
期　日：2010年11月13日（土）16：30～17：00
講　師：藤田祐樹

【展示平面図】





八重山展開会式



八重山展示室の様子

（与那嶺　一子）

7．三館合同展「宝庫からのメッセージ～琉球・沖縄の貴重資料」

三館（琉球大学附属図書館、県立図書館、県立博物館・美術館）合同企画展

会　　期：2010年11月30日（火）～12月12日（日）
会　　場：沖縄県立博物館・美術館県民ギャラリー１,２,３
観 覧 料：無料
観覧者数：1,517名

【開催趣旨】

① 琉球・沖縄関係の文献資料で貴重書扱いしているものを、ひろく県民に公開するための展示会を開催する。
② 地域連携の一環として琉球大学、県立図書館、県立博物館・美術館合同で開催する。
③ 三館が所蔵する郷土関係の貴重な古文献類を同時に展示することで、県民が琉球・沖縄の歴史・文化を総合的に学ぶことができるような資料展とする。
④ 県立図書館開館100周年記念、琉球大学附属図書館貴重資料展第10回記念、県立博物館・美術館開館３周年記念としても取り組む。

【開催形式】

主　催：琉球大学附属図書館、沖縄県立図書館、沖縄県立博物館・美術館
企　画：琉球大学附属図書館研究開発室

【展示内容】

◯琉球の歴史

中山世鑑、中山世譜（蔡鐸本）、中山世譜（蔡温本）、球陽、遺老説伝、御仮屋守日記、喜安日記、薩琉往復文書集 琉球館文書、歴代宝案、牧志恩河一件調書、冊封使渡来之時之覚書、明孝宗より琉球国中山王尚真への勅書、道光五年接貢咨并咨覆正朔咨馬艦謝咨執照、旅行心得之條々、法制之部：首里王府法令集、伊藤博文自筆書簡、ベッテルハイム公文書簡、ペリー提督日本遠征記、進貢船接貢船唐人通船朝鮮人乗船日本他領人乗船各漂着并破損之時八重山島在番役々勤職帳、御三代伊江親方日々記、事々抜書、宗門手札、首里之詔、八重山島諸座御規模帳（八重山島蔵元公事帳）、久米具志川間切規模帳

◯琉球の精神

おもろさうし（田島本）、おもろさうし（尚家本）、おもろさうしの研究、京太郎の歌、くゑな集、諸間切のろくもいのおもり、伊平屋島テルクロ外五頭、君南風由来并位階且公事、ノロクモイ書類綴、女官御双紙、羽地間切の屋我ノロへの辞令書、聞得大君御殿并御城御規式之御次第、聞得大君加那志御新下日記、年中儀礼、今帰仁間切勢理客村兼次親雲上関係文書、琉球国由来記集、琉球国旧記、祭之時膳符日記、八重山島諸座御規模帳、服制、服制、冠婚葬祭典礼記、六論衍義大意（室鳩巣）、琉球版六論衍義、琉球版大学（大学章句）、琉球版論語（論語集註）、久米村神山親雲上弐ヶ村風水御見分之時諸事日記、真喜屋稲嶺弐ヶ村針竿仕付抱護日記、久米村神山親雲上様弐ヶ村風水御見分日記、

○琉球の文物

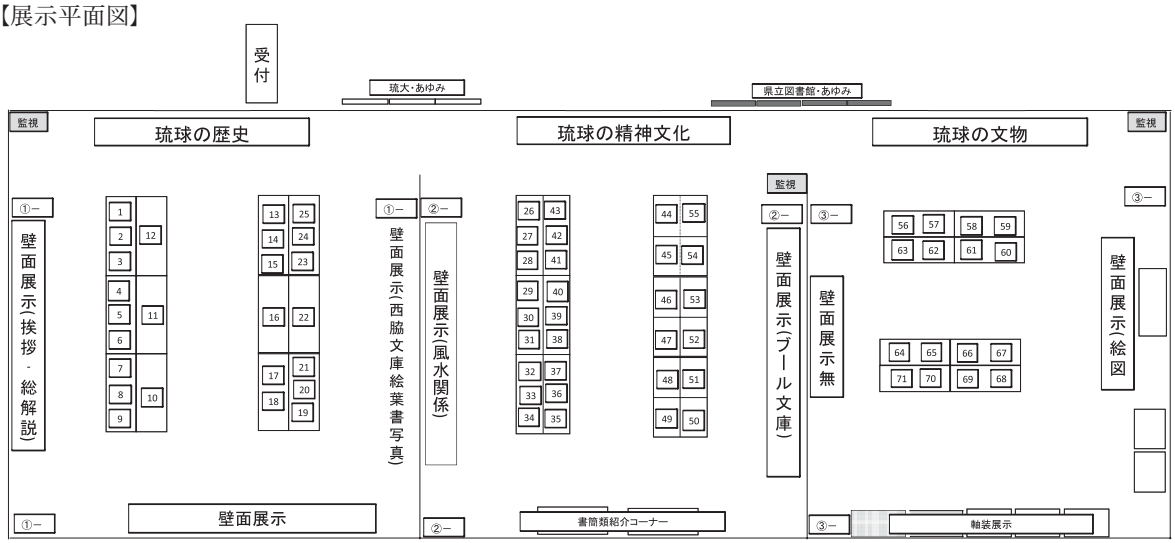
浦添家本伊勢物語、中山詩文集、沖縄集 宜湾朝保編、組踊集、山内盛彬旧蔵の工工四：屋嘉比工工四、工工四（屋嘉比朝寄）、混効験集、東国興詩集、中山物産考、質問本草、組踊集「姉妹敵討」、恩河本・小禄御殿本組踊集、八重山歌工工四、雪堂燕遊草、崎山之御園一件、浮縄雅文集、古今琉歌集、首里城図、唐船図、那覇絵図、周煌 漢詩掛板、鄭嘉訓 書、程順則 書、毛達徳 書、

○明治期の沖縄～明治期琉球写真帳より～

○大正期の沖縄～E. R. ブールのガラス版写真より～

○昭和期の沖縄～沖縄寫眞帳より～

【展示平面図】



（岸本　弘人）

8．企画展「アイヌ－美を求める心」

会　　期：2010年12月３日（金）～2011年１月10日（月）
会　　場：沖縄県立博物館・美術館　企画展示室・特別展示室１
観 覧 料：大人300円、高校・大学200円、小学・中学100円
観覧者数：3,278人

【主催団体等】

主　催：財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構、沖縄県立博物館・美術館、文化の杜共同企業体
協　力：財団法人アイヌ民族博物館、財団法人徳川黎明会・徳川林政史研究所、市立函館博物館、函館市中央図書館、八雲町郷土資料館
後　援：国土交通省、文化庁、北海道、北海道教育委員会、財団法人北海道アイヌ協会

【開催形式】

小樽市総合博物館（2011年７月17日～９月５日）、川崎市市民ミュージアム（2010年９月18日～11月７日）と当館による巡回展である。開催経費は財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構が負担し、展示計画等は各会場館で策定した。

【開催趣旨】

アイヌの工芸品（美術工芸品、生活用具、祭祀用具）、伝統的家屋、映像記録等の展示をとおして、観覧者がアイヌ文化に興味関心を持ち、理解を深めることを目的に開催した。

【展示内容】

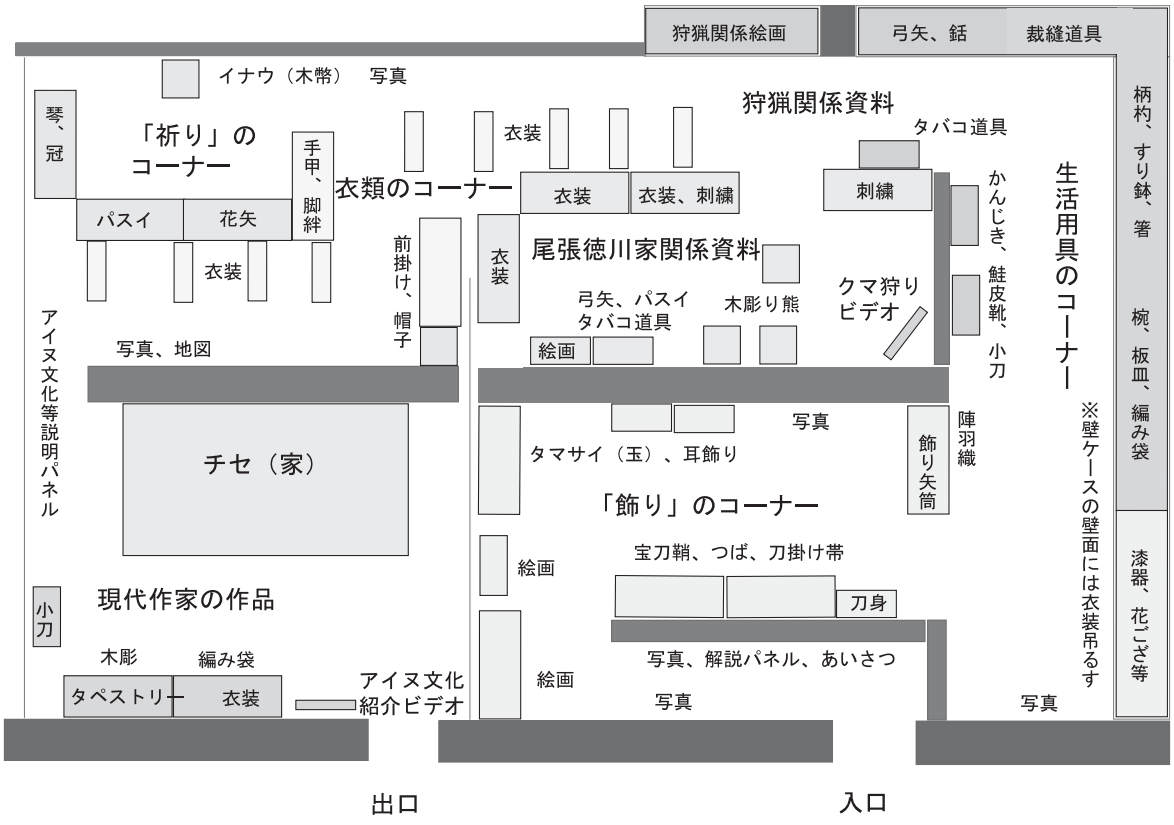
展示資料は、主に明治から昭和初期にかけてアイヌの人たちが実際に使っていたものである。

① 導入部：あいさつ、アイヌ文化の総合的解説、アイヌ絵、アイヌの人びとの大型写真
② タマサイ（ガラス玉の首飾り）、ニンカリ（金属製耳飾り）、宝刀・刀掛け帯、陣羽織、漆器、花ござ等アイヌの人たちが珍重した装飾品のコーナー

③　椀、箸、編み袋等、アイヌの人たちが日常使用する道具のコーナー
④　弓矢、魚突き銛、かんじき・靴、煙草入れ等狩猟関係用具のコーナー
⑤　衣類、帽子、前掛け、手甲・脚絆等身に着けるもののコーナー
⑥　熊祭りで使用する花矢や冠、神にアイヌの言葉を伝える機能を持つ「パスイ」、神の拠り所となる「イナウ」等祭祀関係品のコーナー
⑦　尾張徳川家関係資料（親交のあった八雲アイヌの衣裳、弓矢等。熊狩りの映像。北海道で初めて作られた木彫り熊を含む）
⑧　伝統的家屋「チセ」の復元展示とアイヌ文化振興・研究推進機構の解説パネル
⑨　現代作家による木彫、刺繍、衣装等並びにアイヌ文化紹介ビデオ「イランカラプテ」の上映

【関連催事】
記念講演会
日　時：2010年12月12日（日）　13：00～15：00
場　所：沖縄県立博物館・美術館　講堂
内　容：
講演１「北海道と沖縄と尾張徳川家」
講　師：徳川義崇（徳川美術館館長・尾張徳川家第二十二代当主）
宮里正子（沖縄県立芸術大学非常勤講師）
講演２「アイヌの衣裳」
講　師：児玉マリ（財団法人アイヌ民族博物館特別研究員）
木田瑞恵（財団法人アイヌ民族博物館学芸員）
参加者：85人

【展示平面図】



（濱口　寿夫）

９．企画展「琉球陶器の来た道」

沖縄県立博物館・美術館　那覇市立壺屋焼物博物館共同企画展

会　　期：2011年１月22日（火）～３月６日（日）
会　　場：沖縄県立博物館・美術館　博物館特別展示室１・２
　　那覇市壺屋焼物博物館　企画展示室
観 覧 料：大人300円　高校・大学生200円　小・中学生100円
観覧者数：3,162名（当館）
　　1,969名（那覇市立壺屋焼物博物館）
予 算 額：6,393,000円

【要旨】

九州と台湾のあいだ約1000キロにわたり弧を描いて　連なる琉球列島。沖縄島を中心に2000キロの円を描くと、北は北京、ソウル、東は江戸・東京、西は福建、南はマニラがスッポリと入る。古代から琉球と大陸を隔てる海は 船によって海上の道となり、琉球を取り巻く地域の人とモノが頻繁に行き交った。古琉球期の交易時代に培 calex100った美意識は近世に入り朝鮮や中国、日本から導入された技術と結びつき琉球・沖縄の独自のやきものをはぐくんだ。展示会では、琉球・沖縄でという地で育まれた陶器により、現在の壺屋焼以のやきものの全貌にせまる。

また、展示会は60年の歴史を持ち、多くのやきもを収蔵する沖縄県立博物館・美術館と壺屋というヤチムンのマチを背景に設立された那覇市立壺屋焼物博物館による二館共同開催によって那覇のマチが展示会場となる施設を飛び越えた企画となっている。



【開催形式】

主　　催　沖縄県立博物館・美術館／沖縄県教育委員会
　　那覇市立壺屋焼物博物館／那覇市
協力機関　資料借用館浦添グスク・ようどれ館　浦添市教育委員会　浦添市美術館　うるま市立石川歴史民俗資料館　うるま市立与那城歴史民俗資料館　沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館　　沖縄市立郷土博物館　恩納村博物館　宜野座村立博物館　財団法人海洋博覧会記念公園管理財団 首里城公園管理センター　壺屋町民会自治会　壺屋陶器事業協同組合　壺屋やちむん通り会　那覇市歴史博物館　読谷村立歴史民俗資料館　琉球大学資料館（風樹館）　垣花隆夫　古美術観宝堂
後　　援　沖縄ケーブルネットワーク株式会社　沖縄タイムス社　沖縄テレビ放送株式会社　株式会社エフエム沖縄　FM レキオ　株式会社ラジオ沖縄　財団法人沖縄観光コンベンションビューロー　タイフー fm　琉球朝日放送株式会社　琉球新報社　琉球放送株式会社　NHK 沖縄放送局

【展示構成】

・沖縄県立博物館・美術館企画展示室
　○寺院の荘厳－瓦の成立と仏教寺院
　○花を愛でる－瓦質土器の成立と植木鉢
　○大壺の時代－無釉陶器の成立
　○彩りへのあこがれ－施釉陶器の成立
　○酒器の器－嘉瓶と抱瓶
　○祈りの形－厨子の成立
　○獅子、吼える－シーサーの起源
　○かたちの交流
　○沖縄の美意識



・那覇市立壺屋焼物博物館企画展示室
　○湧田古窯

【関連催事】



① 文化講座

「沖縄の焼物のルーツを探る」Ⅰ

講　師：渡辺芳郎（鹿児島大学教授）

日時及び場所：12月11日（土）16：00～　壺屋町民会館

② シンポジウム

「沖縄の焼物のルーツを探る」Ⅱ

日時及び場所：2011年１月29日（土）

沖縄県立博物館・美術館　講堂

基調報告

「沖縄の焼物について」　宮城篤正（沖縄県立芸術大学前学長）

「考古学的見地から見た沖縄の焼物について」　金武正紀（元那覇市教育委員会文化財課課長）

ディスカッション

新垣力（沖縄県立埋蔵文化財センター）

コーディネーター

池田榮史（琉球大学教授）

③ シンポジウム

「沖縄窯業史研究の今」

日時及び場所：2011年１月29日（土）　沖縄県立博物館・美術館　講堂

主旨説明　倉成多郎（那覇市立壺屋焼物博物館）

基調報告　家田淳一（佐賀県立九州陶磁文化館）

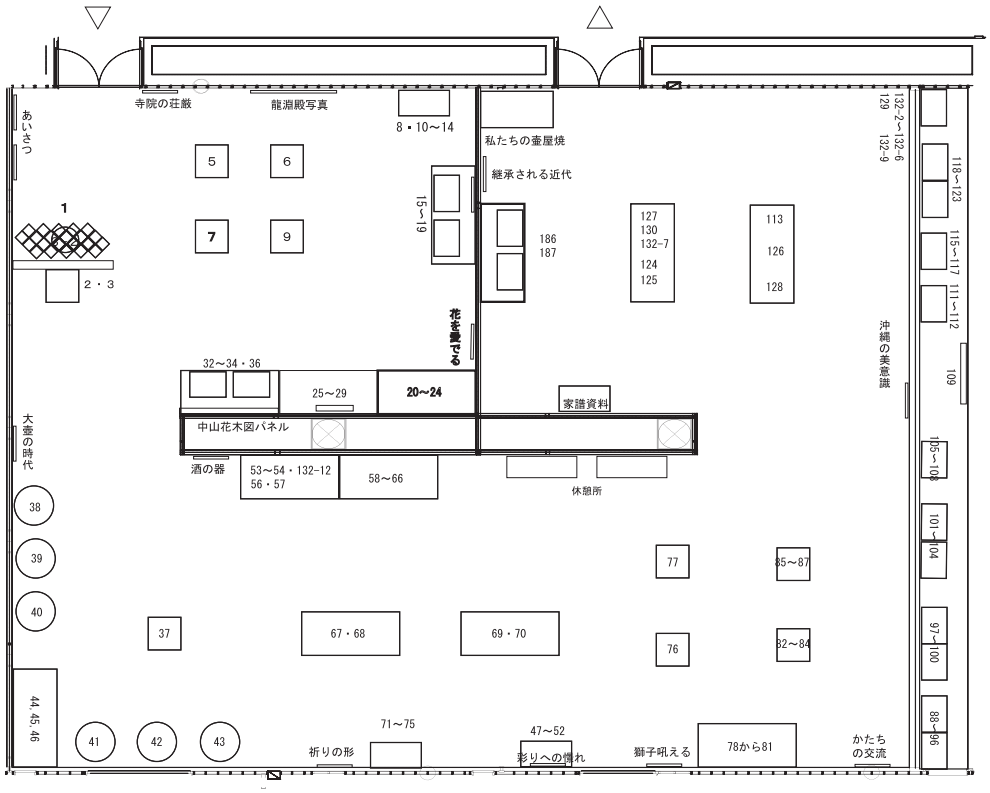
現状報告　仲宗根求（読谷村立歴史民俗資料館館長）：喜名焼

上原　靜（沖縄国際大学教授）：瓦

阿利直治（石垣市教育委員会）：八重山焼

安里　進（沖縄県立芸術大学教授）：厨子

【展示平面図】



（平川　信幸）

10. 企画展『骨の科学』

会　　期：2011年２月４日～３月21日
会　　場：博物館企画展示室
観 覧 料：大人300円、中高生200円、小学生100円
観覧者数：3,631人
予 算 額：3,333,209円

【開催趣旨】

骨と骨格標本は、19世紀以前から博物学や生物学の研究対象として世界各国の博物館や研究機関で収集、利用されてきた。沖縄でも貴重な古人骨や更新世の人類化石、獣類化石が数多く発見され、重要な研究資料として注目されている。最近では、年代測定や安定同位体分析などの理化学分析手法の発展により、古人骨や化石に新たな重要性が見出されている。こうした科学的重要性と同時に、近年、骨や骨格を題材とした子供むけの絵本や書籍も数多く出版され、子供たちへの科学教育における題材としても注目されている。

本展覧会では、「骨の研究」を大きなテーマとして、「骨の生物学的な性質」、「昔の骨や化石」、「動物の骨と系統進化」、「骨を研究する方法」という４つの小テーマにしたがって、さまざまな分野における骨を材料とした研究の歴史と最新成果を展示する。骨と骨格の外見的な面白さだけでなく、骨を科学的に研究することによってはじめてわかる事実を、その手続きと具体例を同時に展示することで、明らかにしていく。

また、実際に動物の姿勢を自分たちがとってみることによって、系統進化のなかでの形態や姿勢の変化を実感するコーナーや、骨と化石をさわって比較するコーナーなど、体験できる展示を盛り込むほか、「骨の科学者」として展示場内で骨の保存処理作業を実演するなど、見る、触れる、感じることによって、子供から大人まで、幅広い年齢層の方々の「科学する心」を引き出し、自然科学に対する興味や好奇心を喚起することを目的とする。

【開催形式】

主　催：沖縄県立博物館・美術館
共　催：文化の杜共同企業体
協　力：（財）沖縄こども未来ゾーン運営財団
　　琉球大学大学院医学研究科人体解剖学講座
　　琉球大学農学部野生動物管理学研究室
　　琉球大学資料館（風樹館）
後　援：FM レキオ、NHK 沖縄放送局、沖縄テレビ放送株式会社、株式会社エフエム沖縄、タイフーンfm、株式会社ラジオ沖縄、琉球朝日放送株式会社、株式会社琉球新報社、琉球放送株式会社、株式会社沖縄タイムス社

【展示内容】

1　骨とはどのようなものか
　骨と骨格の違い、骨の構造、骨の働きなど、骨に関する基本的な知識や生物学的な性質を紹介する。
2　私たち－ヒト－の骨
　性別による骨の形の違い、骨の成長の仕組み、歯の生え変わりや骨の成長から年齢を読み取る方法など、ヒトの骨に関する知識を紹介する。学んだ知識をもとに、化石人類レプリカの年齢や性別を読み取ってみる。
3　動物たちの骨
　食べ物と歯の形、オスとメスの骨の違い、動き方と骨の特徴、動物の骨にみる進化の不思議など、さまざまな動物の骨にみられる特徴をトピックス的に紹介する。動物の骨に触れてみるコーナーや、運動学習教材「テシモ」でヒトの運動の仕組みを実験によって学ぶコーナー、骨スーツを着て骨格を意識しながら動物の姿勢をとって遊ぶなど、体験型展示を充実させる。
4　いろいろな骨格標本
透明標本、交連骨格と剥製、エレメントコレクションなど、いろいろな骨格標本の種類を紹介する。
5　昔の骨や化石の調査
　発掘調査の方法など、昔の骨や化石を調べる方法を紹介する。展示場のなかで古人骨のクリーニング作業を実施し、観覧者に古人骨調査の現場を見学してもらう。

【関連催事】

1）シンポジウム「科学的な骨のはなし」

講　師：山崎剛史（山階鳥類研究所）、江田真毅（鳥取大学医学部）、深瀬均（琉球大学大学院医学研究科）

日　時：2011年２月19日（土）14：00～16：00

場　所：沖縄県立博物館・美術館　講堂

2）体験講座「骨を組み立ててみよう！」

日　時：2011年２月６日（日）、３月19日（土）14：00～15：00および16：00～17：00

場　所：博物館企画展示室

3）展示解説会

日　時：2011年２月12日（土）、３月20日（日）14：00～15：00

場　所：博物館企画展示室

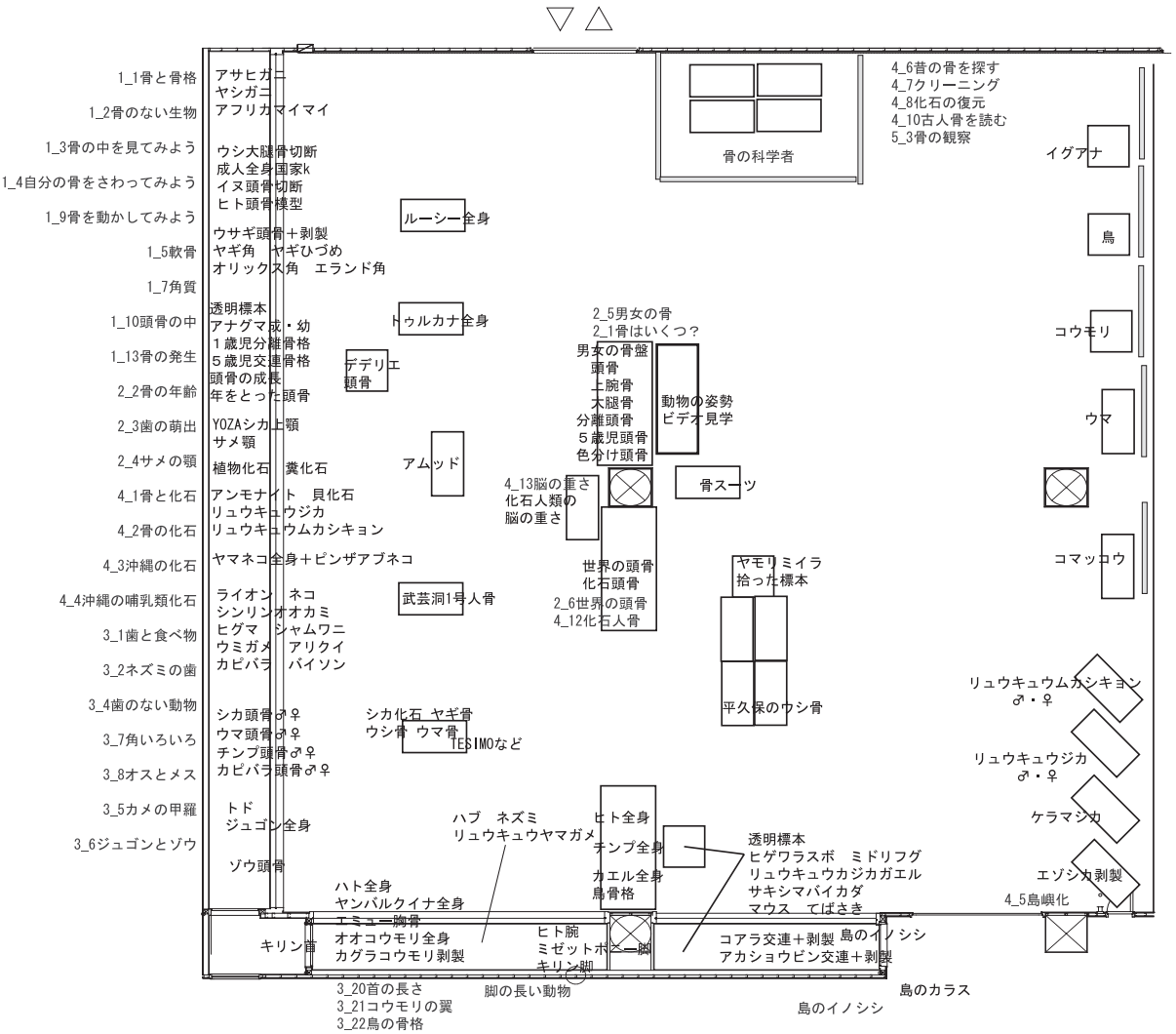
4）体験講座「かんたんレプリカ作り」

日　時：2011年２月13日（日）、27日（日）13：00～16：00

場　所：沖縄県立博物館・美術館エントランスホール

主　：文化の杜共同企業体

【展示平面図】



（藤田　祐樹）



テープカットのようす


展示室内のようす

11. 企画展『大嶺薫コレクション展』

会　期：2011年３月15日～４月10日
会　場：博物館特別展示室２
観覧者数：800名

【開催主旨】
1985（昭和60）年３月に、沖縄県立博物館へ寄贈された大嶺薫美術館が収蔵していた大嶺薫（1905～1970）氏が収集したコレクションの概要を紹介する。

【展示内容】
大嶺薫コレクションは、故大嶺薫（1905～1970）氏が戦前・戦後をとおして収集した資料である。氏の没後、その遺志をひきついだ遺族によって、1971（昭和46）年、大嶺薫美術館が設立され、沖縄の美術工芸文化に貢献してきたが、1985（昭和60）年３月、美術館の閉館にともない、その3,550点の美術工芸資料が沖縄県立博物館へ寄贈された。

コレクションは美術工芸、歴史、考古、民俗の各分野にわたり、その収集範囲も沖縄を中心に、日本や中国、南方諸国はもとより、ヨーロッパやアメリカまでおよんでいる。

戦後、沖縄のおおくの遺産が焼失あるいは海外へ散逸している。大嶺氏が、その文化財の流失を憂慮し、収集を実行したことは高く評価されるものである。氏の業績を顕彰するとともに、大嶺氏が求めた美の概要を紹介した。



（平川　信幸）

Ⅲ. 教育普及活動

1　博物館教育普及活動の概要

博物館は資料をわかりやすく展示し、多くの人々に観覧していただくことを大きな使命としている。同時に、来館者の知的文化的な好奇心を充実させる、地域の中軸施設であることも求められている。近年博物館を訪れる来館者のニーズは多様化し、利用者はそれぞれが様々な目的をもって来館する。このような来館者の要求により多くこたえていくため、当館では今年度も多くの教育普及活動を実施してきた。

博物館の教育普及活動では、首里の博物館時代から取組んできた活動を発展させながら、新館ならではの事業に取り組むことの２本柱で推進してきた。学校連携事業では、学校団体受入の充実した態勢を図るため、ボランティア員を活用した学校団体に対する支援体制の強化を推進し、サービスの向上を図ってきた。また、文化講座及び展示会関連講座は「港川人を訪ねてⅢ」を皮切りに総数15回実施し、県民の皆様に多くの参加をいただき好評を得ることができた。その他にも、体験学習教室では「昆虫標本づくり」をはじめとする３種の体験学習教室の開催や13回の学芸員講座、12回の常設展展示解説会、14回のバックヤードツアーを開催した。

運営面では、指定管理者制度のもと、事業の計画を県職員が立案し事業の実施を指定管理者が行っている。博物館が行う各種事業の中でも、県と指定管理者双方の連携が求められる分野の一つである。博物館教育普及事業の実施に際しては、指定管理者と定例の連絡会議を持ち、運営の方法を協議し事業を推進してきた。

予　算：2010年度の教育普及事業予算総額　　2,500,000円
参加者：2010年度における教育普及事業への参加総数：16,832名（自由見学の学校団体は含まない）

（池原　盛浩）

【学校団体受入れ】

	小・中学校		高校・大学		特別支援		その他		小合計		合　計	
	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
県　内	186	14,180	46	3,133	12	186	33	1,326	277	18,825		
県　外	17	1,032	55	7,052	0	0	0	0	72	8,084		
国　内	6	373	1	54	0	0	0	0	7	427	356	27,336

学習プログラム作成校（学習目的：重複あり）

項目	小学校	中学校	高等学校	大学	特別支援	その他	合計
下見・見学打ち合わせ	40	4	2	1	3	—	50
プログラム作成	40	1	0	1	3	—	45
教科（社会科）	39	2	2	0	3	—	46
教科（総合）	6	2	2	0	3	—	13
教科（生活科）	1	0	0	0	0	—	1
施設見学	1	0	1	1	1	—	4
その他	1	0	2	1	1	—	5
自由見学	168		101		9	33	311

2．学校連携事業

学校連携事業は、大きく二つの事業を実施した。一つは、教育課程の一環として博物館を学習の場として利用する学校団体への学習支援で、館から提供できる支援内容の調整を行った。学校の規模や授業の進度、生徒の実態等を含めた学校からの要望と博物館の施設・職員・ボランティアの支援体制を考慮し、学校と博物館が連携していく学習プログラムを作成した。

また、沖縄県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校に博物館をより有効に活用していただくために『学校団体見学マニュアル』（Ａ３二つ折り）を作成、配布した。

二つめに、今年度は事前の調査研究を目的として、特別支援学校向けの出前授業の事前調査研究を実施した。これは、諸事情で来館が困難な児童生徒を抱える学校に対し、館の資料を持ち出し、学校に居ながら博物館学習

を伝えるようにした新たな学習支援の形態である。検証授業受諾の学校へ担当者が出向き、博物館資料（「ふれあい体験室」の資料を中心としたハンズオン資料）を用いて、教師と重点雇用者双方の協力による博学連携の授業を展開した。2012年度の実施に向けて各種データを収集することが出来た。

【学校団体受入れ】

毎年９月頃より12月にかけて、近隣の小学校から民具体験学習のために４年生が数多く来館する。これまで、ボランティアや博物館側のリードでこの体験学習を進めていたが、今年度の民具体験学習では、平成21年度に行われていたプログラムに一部変更を加え、教師が生徒の実態に合わせて体験メニューを選択し、学習プログラムを組み立てることが出来るようにした。

学習プログラムの変更に伴い、緊急雇用者をボランティア員の指導支援者に当てた。特に体験学習当日のボランティア員全体の動きを見ることが出来る位置に配置し、学習プログラムに対し、きめ細やかな対応が出来るように心がけた。



【『出前授業』の実施調査】

博物館には多くの学校団体が来館し、博物館を利用した各種学習を行っている。その中には、特別支援学校も数校含まれており、教師・児童が共に楽しく観覧している様子がみられる。しかし、特別支援学校の多くが、時間や距離の問題、さらには子どもの安全管理上来館を見合わせているという現実もある。博物館としては、より多くの子ども達に来館してもらい、沖縄の自然・文化・歴史について感じ、学ぶ場になればと考える。そこで今年度より、支援を要する子ども達（諸事情で来館が不可能な子）に対し、博物館より体験キットを持ち出し、子ども達に博物館学習の機会を与える“博物館出前講座”を計画中である。

2010年度は、博物館展示室の一つであるふれあい体験室の既存の体験キットを利用し、“博物館学校出前講座”の学習の有効性を検証することとした。緊急雇用者を学校現場に派遣し、検証授業をとおした先生方の意見収集を行うとともに、“博物館学校出前講座”用の体験キットの一部購入、収納ワゴン製作の為の業者との打ち合わせなど、次年度に向けての準備までを委託した。

・実施校

① 桜野特別支援学校　2011年１月14日

② 鏡が丘特別支援学校浦添分校　2011年１月19日



事前調整の様子



出前講座の様子



体験キット打ち合わせの様子

３．博物館体験学習教室

	期　日	題	講　師　名	内　容	場　所	参加者
1	2010. 8.25	「昆虫標本を作ろう」	佐々木健志（琉球大学風樹館学芸員） 松村雅史（沖縄昆虫同好会）	セミ、カミキリムシ、蝶などを基本に、昆虫の標本作りの基礎を学び、「標本を作る」という意味を皆で考える機会となった。	博物館実習室	22組 48名
2	2010. 10.23 ～10.24	「八角凧を作ろう」	徳村政三（セコム損保沖縄営業所所長） 補助講師：天願、池田、上運天（「おもちゃの会ピノキオ」より） アドバイザー：金城珍章（八重山凧愛好会副会長）	講師の指導の下、２日間かけて、八重山の伝統的な凧である八角凧を制作し、凧揚げまで実施した。	博物館実習室	12組 20名
3	2011. 1.16	「ムーチーを作ろう」	松本嘉代子	沖縄の伝統行事の食について学び、新館になって初めて親子でムーチーを作り、民家にて試食会まで。	博物館　実習室・屋外展示（民家）	19組 50名

沖縄の自然や歴史、文化と結びつけた体験的な活動を通して、郷土について関心を持ち、先人の知恵等を学ぶ機会としている。博物館の各分野（自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗）の展示と関連する体験を実施し、総合博物館としての豊かな学びの場を提供している。今年度は、主に自然史と民俗分野、特別展「海のクロスロード八重山（やいま）」にも関連した体験学習教室となり、総参加者数は、106名であった。

博物館における体験学習には、大勢のボランティア方々のご協力も欠かせず、今年度も、事前学習会から前日準備、当日の運営サポートに各回で総勢39名、月桃の葉等の提供者も合わせると総勢50名あまりの方々の協力を得、円滑に教室を開催することができた。













４．博物館文化講座

博物館文化講座は、博物館の展示内容と関連する自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗の各分野について分かりやすい内容で楽しく学習が出来ることを目的に1974年から始まった事業である。講演、展示解説、実技指導、現地研修などを通して、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施している。今年度の総受講者数は、1,786名であった。

今年度は、文化講座「沖縄の焼物のルーツを探る」に於いて、那覇市壺屋焼物博物館と連携し、「沖縄の焼物のルーツを探る①」を壺屋町民会自治会の協力を得て館外である壺屋町民会館で開催。後日、「沖縄の焼物のルーツを探る②」を沖縄県立博物館・美術館　講堂にて開催した。

【文化講座一覧】

回	期　日	演　題 講　師　名	場　所	参加者
395	2010.4.17	「港川人を訪ねて３」 【講師】高橋　巧（ガンガラーの谷担当課長） 新里　尚美（八重瀬町教育委員会）	八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館・港川フィッシャー遺跡・ガンガラーの谷	39
具志頭歴史民俗資料館と港川フィッシャーでは、主に新里氏に解説を、ガンガラーでは、高橋氏にガイドしていただき、八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館、港川フィッシャー遺跡、ガンガラーの谷を４時間で廻るコースを実施。担当学芸員の藤田学芸員と山崎学芸員からも発掘状況や出土資料などの話を聞き、沖縄の歴史や文化、自然に興味関心を持つような講座となった。				
396	2010.5.15	「古琉球と海域アジア」 【講師】上里　隆史（早稲田大学琉球・沖縄研究所客員研究員）	沖縄県立博物館･美術館　講堂	195
古琉球時代を一国史ではなく、海域世界の関係性で捉える海域史の考え方で講話が展開。那覇港の地理的条件や様々な人々の文化交流から琉球王国レベルの交易にまで結びついたことなど、多くの資料に基づいたユニークな見解で国家と地域の関係史から琉球史を解き明かす講座となった。				
397	2010.6.19	「江戸女性の衣生活」 【講師】長崎　巌（共立女子大学・教授）	沖縄県立博物館･美術館　講堂	82
封建社会において厳しい身分制度に在った男性に対し、女性には、"衣を楽しむ"という自由な世界が在り、身分制度に縛られなかった。女性の着物の柄などを長年の研究で収集した資料で紹介。日本の歴史の変遷を着物柄という視点から体系的に示し、日本本土に影響を与えた琉球の絣や、紅型の材料・原料の視点から捉えた本土伝承説、呉服屋と出版屋で仕組んだ着物の販売（ファッション誌のはしり）の話など、興味深い講演となった。				
398	2010.7.10	「沖縄県のジオパークを考える」 【講師】尾方　隆幸（琉球大学・教授）	沖縄県立博物館･美術館　講堂	41
「ジオパークとは何か？」の説明として、地球の大地を主題に挙げ、保全と教育とジオツーリズムを3本柱とし、“地球活動の遺産を主な見どころとする自然の公園”（GGN＝グローバル・ジオパーク・ネットワーク）と定義されている。ユネスコが支援するこの活動の取り組みの状況を元に沖縄の素材を紹介。産学官の連携を含めた普及啓蒙の必要性を感じさせる講演であった。				
特別	2010.8.19	「琉球という名前の由来」 【講師】小玉　正当（前（財）沖縄協会長）、文学博士等	沖縄県立博物館･美術館　講堂	180
「琉球」は中国が名付けた国名で、「沖縄」は沖縄国有の言葉に基づく島名であった。「琉球」が名称として初めて現れたのは「流求」という表記で、『隋書』の中に於いてである。「琉球」も「沖縄」もその名称に定着するまでには、いろいろな表記が見られる。言葉だけでなく文化や風習についても手書きの提示資料や沢山の研究資料を元に、解説がなさ、興味深い講演会となった。				
399	2010.8.21	「サンゴ礁の未来」 ～沖縄の島々からのメッセージ～ 【講師】土屋　誠（琉球大学・教授）	沖縄県立博物館･美術館　講堂	18
サンゴ礁から受ける恩恵の数々やその恩恵を次の世代に引き継ぐためにできることは何か、また、サンゴ礁を取り巻く様々な生態（サンゴ礁の友だち）の紹介と、サンゴ礁で生物が健康に暮らすためには陸上の森林や河川が健康であることが大切。様々なデータ資料が提示され、サンゴ礁の未来を考える人たちにとって有意義な講演となった。				
400	2010.9.25	「詩と歌でつづる八重山」 【講師】平田　太一（南島詩人）	沖縄県立博物館･美術館　講堂	190
講話を聞く従来の形式とは異なり、三線や太鼓にのせて詩を語り、さらには音楽に合わせたダイナミックな演舞があり、舞台表現を通した新しい文化講座となった。平田氏の世界観の原点となった小浜島の話や書き続けた詩の数々、地域興しの意味など、演舞した子ども達の自信に満ちた顔とダイナミックで雄大な演舞に平田氏の人づくりの素晴らしさが感じられる講座となった。				
401	2010.10.16	「海のクロスロード　八重山を考える」 【講師】前津　栄信（石垣市文化財審議会・委員長） 三木　健（沖縄･八重山文化研究会・会長） 大城　學（琉球大学・教授） 里井　洋一（琉球大学・教授）	沖縄県立博物館･美術館　講堂	150
開催中の特別展「海のクロスロード八重山（やいま）」の関連講座。４名の講師を招聘し、第一部に各々20分の基調報告、第二部にシンポジウム形式で八重山について語り合った。『八重山』を、経糸の八重山の文化と歴史、横糸の外との交流文化が巧く折り重なった『布』に例え、今後の八重山らしさの継続発展について意見交換も踏まえながら熱く語り合う講座となった。				

特別	2010.11.13	「白保竿根田原洞穴人と２万年前の八重山」 【講師】土肥　直美（琉球大学）： 米田　　穣（東京大学） 片桐千亜紀（沖縄県立埋蔵文化財センター）	沖縄県立博物館･美術館　講堂	135
開催中の特別展「海のクロスロード八重山（やいま）」の関連特別企画講座。３名の講師を招聘し、第一部に各々30分の基調報告、第二部にシンポジウムを行った。人骨そのものから抽出したコラーゲンに基づいた年代測定により２万年前のものと確定されたことに最大の価値があり、今後の調査の継続で新たな発見も期待でき、遺跡の保存整備と活用の重要性について語り合う講座となった。				
402	2010.11.20	「八重山民謡の伝播と変容」 【講師】新城　　亘（沖縄県立芸術大学非常勤講師） ゲスト：高宮城実人（俳優）	沖縄県立博物館･美術館　講堂	130
沖縄の芸能の中で八重山民謡がどのように伝播して変化してきたのか、八重山民謡の歴史的記述の比較や八重山民謡の同曲異名、形式と特徴についても実演を通して解説された。演奏者が互いに歌い継ぐ交互唄の紹介の際には、会場からも唄が返され、聴衆も一体となった講座となった。後半に高宮城氏を迎え、「歌劇」で歌われている「八重山由来の歌」が比較して歌われた。				
関連	2010.12.11	*沖縄の焼物のルーツを探る①* 「薩摩焼と壺屋焼」 －近年の考古学的成果から－ 【講師】渡辺　芳郎（鹿児島大学・教授）	館　外　壺屋町民会館 （壺屋町民会自治会）	80
那覇市立壺屋焼物博物館との合同企画「琉球陶器の来た道」の関連講座。薩摩焼と壺屋焼について資料画像を見ながら解説。中国人陶工による技術の伝承、図柄比較からみた技術伝播の様相、茶道に関連して磨かれていった造形と焼の技術についても語られ、窯元が近い為か陶工や関係者の参加も多く、活発な質疑応答の場面も見られた。地元の婦人会の方々が茶や茶菓子を準備してくださる等、地域密着型のアットホームな講座となった。				
403	2010.12.18	*沖縄の焼物のルーツを探る②* 「沖縄の近世陶器」 【講師】宮城　篤正（元沖縄県立芸術大学・学長） 金武　正紀（前那覇市教育委員会文化財課・課長） 新垣　　力（沖縄県立埋蔵文化財センター・主任） 池田　榮史（琉球大学法文学部・教授）	沖縄県立博物館･美術館　講堂	135
那覇市立壺屋焼物博物館との合同企画「琉球陶器の来た道」の関連講座。４名の講師を招聘し、第一部に各々30分の基調報告、第二部にシンポジウムを行った。池田氏をコーディネーターに迎え、休憩中に会場から寄せられた質問の声に応える形で進行。中国・朝鮮との貿易交流による関わりや湧田窯を初めとするこれまでの研究成果から壺屋焼に迫った。				
404	2011.1.29	「沖縄窯業史研究の今」 【講師】家田　淳一（佐賀県立九州陶器文化館学芸課・主幹） 仲宗根　求（読谷村立歴史民俗資料館・館長） 上原　　静（沖縄国際大学・教授） 阿利　直治（石垣市教育委員会・主査） 安里　　進（沖縄県立芸術大学・教授） 池田　榮史（琉球大学法文学部・教授）	沖縄県立博物館･美術館　講堂	200
那覇市立壺屋焼物博物館との合同企画「琉球陶器の来た道」の関連講座。６名の講師を招聘して行われ、第一部に各々40分の研究成果発表、第二部に池田氏の進行でディスカッションを行い、湧田、喜納、八重山焼等、沖縄各地の焼物研究と共に本土や中国との関係からの調査も含め、多面的な研究で沖縄の焼物史を再考していく必要性を確認。発掘調査に基づく研究成果発表は、多くの聴衆を魅了した。				
405	2011.2.19	「科学的な骨の話」 【講師】山崎　剛史（山階鳥類研究所・研究員） 江田　真毅（鳥取大学医学部機能形態統御学講座・助教） 深瀬　　均（琉球大学大学院医学研究科人体解剖講座・助教）	沖縄県立博物館･美術館　講堂	135
日本最大の鳥類標本コレクションの管理者でもある山崎氏の講演内容は、八重山諸島のカラスについての研究事例紹介であった。122個体の骨格標本と現地での観察調査などから、八重山諸島の島々に生息するカラスの生態を明らかにしていった。動物の保全活動に貢献する調査研究と共に、CT を駆使した最先端技術も発表された。				
406	2011.3.12	「グスクめぐり」 【講師】當間　嗣一（沖縄考古学会・副会長）	大里城跡、糸数城跡、玉城城跡	44
南部にある跡・糸数城跡・玉城城跡の３つの城跡を、琉球王国時代の人々の生活の様子や政治的背景、地形を巧みに利用して築かれた城壁構造など様々な解説を聞きながら巡った。いずれのグスクも戦中戦後の時代の中で大きく改変されてしまったが、沖縄の人々の祈りの聖地として、また、文化的遺産としての価値を考えさせられた。				



『港川人を訪ねて』武芸洞にて



『詩と歌でつづる八重山』



『沖縄窯業史の今』

5．学芸員講座

学芸員講座は、本館の学芸員が研究成果や収蔵品の調査成果等を報告すると共に、館を訪れる人々に博物館内部の紹介をする良い機会となっている。各分野の充実した講話は博物館をより身近に捉え、参観者の層を拡大する大切な役割を果たしている。総受講者数は、704名だった。

	日　程	分　野	講　師　名	演　題　内　容	定員	参加者
1	2010．4．17（土） 14：00～16：00	自然史 （生物）	千木良芳範	**「身近にある不思議を探して」** 近年、ヤンバルに関心の高い中、中南部の小動物に焦点を当て、住宅地が広がる場所で逞しく生きている小動物の姿を紹介。少し冒険をしてみると、身近に不思議な動物たちがいることに気付かされる。子どもたちからも質問が飛び交った。	80	74
2	2010．5．22（土） 14：00～16：00	人　類	藤田　祐樹	**「動物の運動と姿勢のひみつ」** 馬や鳥、ヒトの体のつくりと仕組みについて、学芸員と参加した子ども達から、様々なユニークな質問と答えが飛び交った。『テシモ』と命名された簡単な人体模型も各々制作。親子語り合いながら、動物の体の仕組みについて楽しく学ぶ場となった。	80	75
3	2010．6．26（土） 14：00～16：00	考　古	羽方　　誠	**「沖縄の墓」** 本土とは違った歴史や特徴（形態や種類）を持つ沖縄の墓の種類や埋葬の方法、調査方法などが、考古学的観点から語られ、発掘調査に基づく画像資料や先行研究者の調査データの解説によりより理解が深まり、講座終了後も多くの参加者が残って様々な質問が出たことからも関心の高さを窺うことが出来た。	80	126
4	2010．7．24（土） 10：00～12：00	民　俗	岸本　　敬	**「ソテツの葉っぱで虫カゴ作り」** 子どもが家の手伝いをするのが当たり前だった時代、子どもたちは手伝いを終え、夕食までの「遊びの時間」を利用し、様々な遊びが工夫され生み出されてきた。身近な植物から制作された道具の数々を紹介。後半は、参加者全員でソテツの葉から虫カゴを制作した。	20	35
5	2010．8．4（水） ～6（金） 13：00～17：00	全分野	各学芸員	**「夏休み子ども相談会」** 博物館の学芸員が、小中学生を対象に夏休みの自由研究のヒントや研究の仕方をアドバイス。自分の好きなテーマについて、「本を調べてみたけどもっと知りたい」「何から始めて良いのかわからない」などの質問に参考資料の紹介もしながら答えました。	なし	5
6	2010．8．18（土） 14：00～16：00	教　育 普　及	池原　盛浩	**「学芸員のお仕事ってな～に」** 知っているようで知らなかった博物館についての紹介と、学芸員のお仕事について、画像も見ながら分かりやすく解説。備品台帳の記入について疑似体験を親子で楽しむ姿が展示室のあちこちで見られた。	40	11
7	2010．8．28（土） 14：00～16：00	歴　史	崎原　恭子	**「那覇港 - 往来する人とモノ～展示室探訪のツボ～」** 那覇港は、500年間続いた琉球王国の歴史を語るうえで重要なカギであり、“首里那覇港図”や“琉球国惣絵図（間切り集成図）”を手掛かりに、展示室を探訪するツボ（展示を10倍楽しむポイント）が紹介され、最後に交易時代に扱われた香辛料などを紹介。手に取って匂いを嗅ぐ参加者もいた。	80	52

	日　程	分　野	講　師　名	演　題　内　容	定員	参加者
8	2010. 9. 11（土） 14：00～16：00	自然史 (生物)	田中　　聡	「ここだけのトカゲのはなし」 トカゲとはどんな動物かという基本的な内容から始まり、琉球列島のトカゲ類の多様性の特徴を世界的な分布をふまえて紹介。研究事例をふまえた説明、生態や行動、個体数激減の現状など未発表の「ここだけのはなし」があった。調査研究のコツなども実技を交えて披露。	80	37
9	2010. 10. 23（土） 14：00～16：00	美　術 工　芸	與那嶺一子	「八重山上布のはなし」 八重山上布とは、どういうものか？材料や制作工程について、模型やビデオを織り混ぜて分かりやすく解説。また、厳しい環境の中で発展してきた織物の歴史や改良されてきた技術の数々の説明と共に、この織物文化の継承の為に何が出来るのかを考える機会となった。後半は、特別展の会場にて解説会が行われた。	80	57
10	2010. 11. 27（土） 14：00～16：00	自然史 (地学)	仲里　　健	「琉球石灰岩と人々との関わり」 身近なところにある琉球石灰岩の形成の過程や特徴について、専門用語を交えて説明。水に溶ける性質などから様々な形に姿を変える地形。海岸線にある岩の浸食状態で海水面の状態や津波石の研究が出来ることなど、様々な研究の活用対象と成り得る琉球石灰岩と沖縄の人々との関わりについて理解を深めた。	80	53
11	2010. 12. 25（土） 14：00～16：00	自然史 (生物)	濱口　寿夫	「オカヤドカリの生活」 天然記念物なのに普通に見ることが出来るオカヤドカリ（方言名：アーマングァー）を、実際に観察したり、生殖生態の調査報告から生態を解き明かす。天然記念物の指定とは、その地域のシンボル的生物を皆で守っていくためのもの。海岸の開発により減少する自然海岸風景、人間と小動物への良い環境づくりとは何か。	40	30
12	2011. 1. 22（土） 14：00～16：00	歴　史	岸本　弘人	「近現代分野の収蔵品紹介」 博物館にある多くの収蔵品の受入れ状況や、多くの人々から預かってきた品々の取り扱いや保存・保管の紹介をし、戦後から復帰ごろにかけての様々な歴史的価値を持った貴重な収蔵品を資料としてエピソードと共に紹介。講座終了後は間近で資料を見た参加者から質問が飛び交った。	80	24
13	2011. 2. 26（土） 14：00～15：30 15：30～ （展示解説会）	人類	山崎　真治	「港川人の時代を掘るⅡ」 １万８千年前に沖縄にいた港川人の研究の最前線を紹介。新たな人類化石の発見を目指し、県内各地で調査研究中。糸満市真栄平鉱山フィッシャー遺跡、南城市サキタリ洞（ガンガラーの谷内）、石垣市白保竿根田原洞穴遺跡など数々の発掘調査報告が行われ、座学終了後は、展示室での解説会も実施された。	80	68
14	2011. 3. 26（土） 14：00～16：00	美　術 工　芸	平川　信幸	「美術品鑑定の現場」 博物館での美術品購入の実際と、調査研究の様子を紹介。資料の登録や予算で購入される資料に関する鑑定の様子、博物館資料としての位置づけや価値づけが問われる鑑定の現場の様子を紹介。収集委員会での審議に向けての資料の調査や諸調整は、日々の研究と審美眼によってなされていることが理解できた。	80	57


『沖縄の墓』


『動物の運動と姿勢のひみつ』


『ソテツの葉っぱで虫かご作り』

6．展示解説会

常設展の展示解説会は、展示資料を前に、学芸員がパネル文だけでは補いきれない「博物館ならではの最新の調査報告や情報」を踏まえた内容を紹介している。今年度は新たに教育普及担当も加わり、ふれあい体験室の役割について解説した。参加者の内訳は、博物館ボランティアが半数を占め、その他年間パスポートや友の会会員等のリピーターの参加が定着している。昨年度は、各学芸員が２回ずつ担当し、全20回開催したが、今年度は、要望の多い企画展・特別展の展示解説会を増やすため、常設展の展示解説会は各学芸員が１回ずつ担当し、全12回165名（定員15名、平均参加人数14名）の参加を集めた。

また、年間行事計画にはないが、企画展・特別展の展示解説会も行った。「新収蔵品展」を１回、「海のクロスロード八重山」を６回、「琉球陶器の来た道」を２回、「骨の科学」を２回実施した。いずれも、各展示担当学芸員が、展示会の裏話なども交えながら丁寧に解説した。全11回、180名の参加があった。



歴史の観点から琉球を読み解く



あもがなしの衣装から



ハンズオンとは何か



生物分布と島嶼性の話



伝統工芸から読み解く琉球



貝塚から見る昔の暮らし

	日 程	講師名・分野	参加者人 数		日 程	講師名・分野	参加者人 数
1	2010/４/８	藤田祐樹（人類）	16	7	2010/10/14	平川信幸【美術工芸）	10
2	2010/５/13	與那嶺一子（美術工芸）	15	8	2010/11/11	崎原恭子（歴史）	14
3	2010/６/24	岸本弘人（歴史）	18	9	2010/12/16	仲里健（自然史・地学）	16
4	2010/７/８	田中聡（自然史・生物）	15	10	2011/１/13	山崎真治（人類）	10
5	2010/８/12	羽方誠（考古）	15	11	2011/２/10	濱口寿夫（自然史・生物）	10
6	2010/９/９	岸本敬（民俗）	16	12	2011/３/３	池原盛浩（教育普及）	10

7．バックヤードツアー

バックヤードツアーは、昨年度まで博物館班班長と教育普及担当が月替わりで担当していたが、本年度から、より専門性を生かした内容を目指し、各学芸員が月毎に交替して実施した。昨年同様、安全管理面を考慮し、常に学芸員と文化の杜スタッフとの２名体制で臨んだ。

学芸員研究室～研究資料室（書庫）～自然史実験室～トラックヤード～写真撮影室～冷凍室～収蔵庫～工作室を基本コースとしたが、収蔵庫は各専門分野を中心に案内することにより、資料に関する質問にも的確に対応することができた。

普段は公開していない博物館の裏側を見学できるという特別感もあり、県外からの観光客を含め、毎回定員を超す希望者を集めた。全14回、168名（定員12名、平均参加人数12名）の参加者があった。公平性を保つため、１人の申込者につき、最大４名の申込みとした。また、各学芸員が月毎に交替して実施することにより、リピーターにも対応できる内容となった。

【バックヤードツアーの様子】



エントランスにて集合


ホワイエにて


自然史実験室にて

8．夏休み子ども相談週間

学芸員が児童生徒を対象に、沖縄の自然、歴史、文化に関する自由研究や調査研究などについて、展示資料や図書を活用しながら、調べ方やまとめ方のアドバイスを行った。館内でのチラシ・ポスターの呼びかけの他、近隣の小学校５校の全児童へのチラシ配布や新聞を通じて事前に相談内容を募集したが、参加者は小学生５名と少なかった。

参加希望者が減少傾向にある上、例年同様、動物や植物など、自然分野をテーマとする子供が多く、考古・歴史・美術工芸・民俗に関する質問は少ないなど、当館の特徴が生かしきれず、課題が残る内容となった。

9．博物館ボランティア活動

当館では、県民の自己啓発や学習の発表する場の提供、また、博物館支援活動を目的として「博物館ボランティア」を導入している。この活動は、多様化する来館者のニーズに対し、よりきめ細かなサービスへの寄与と自己学習の場となることを目指している。

今年度は、2010年５月12日に認証状交付式を行い、継続の博物館ボランティア72名が正式登録となった。後期の交付式（10月27日）には４期生が新たに登録し、総勢108名の登録となった。

ボランティア活動の内容は、特に支援の必要となる学校団体の受入れと、体験学習教室、ふれあい体験室での来館者支援を行っている。

今年度は、昨年度までの流れと違い、新規登録者（４期生）に関しては、基本講座を受け終えた時点で養成講座修了証書を交付し、10月の専門講座終了後に希望者のみ（36名）正式に博物館ボランティアとして登録した。

９月～10月までの専門講座の内容に各分野の学芸員による「ふれあい体験室」、常設展示室、講座室（または実習室）での講義を取り入れた。「ふれあい体験室」の活用も目的とし、ハンズオン資料と常設展示室との関連付けを図る目的もあってのことである。専門講座には、４期生のみならず、１～３期生の参加も呼びかけ、活動を共にすることにより、さらにボランティア同士の繋がりも深まる実践的な講座を開催した。

運営面では、博物館友の会にボランティア通信の編集や発送、ボランティア室運営面でのサポートをいただき、指定管理者（文化の杜共同企業体）からは、教育普及での企画以外にも、各展示会などでのワークショップ等、実働的な運営面でのサポートがあった。旧館とは大きく違った体制のもと、ボランティア活動をどのように計画・実施するか試行錯誤を繰り返しながらも少しずつ調整を図っている。

今年度は、ボランティアの活動も活発で、学校対応の際のプログラム改変の際の勉強会にも意欲的に参加し、展示解説の面でも解説を得意とするメンバーで資料の考案や準備、県への提案等意欲的な姿が見られた。また、児童への声掛けを工夫したり、支援の必要な児童を気にかけたりなど教育普及担当だけでは対応の難しい場面にも細やかに気を配る場面も多々あった。博物館の学校対応に関する教育普及活動は、県の企画調整と文化の杜の運営、友の会による支援、ボランティアによるサポートで成り立っている。移動展の際にも、友の会からのキャラバン隊の他、個人でサポートに来てくれた方もいた。

キャラバン隊は、主に教育普及のワークショップのサポートや展示解説の補助を。個人での参加は、受付対応などの補助に入っていただいた。

本年度の博物館ボランティアの総活動人数は約1,806人だった。

10. ふれあい体験室

ふれあい体験室は、新館建設の柱の１つとして設置された施設であり、博物館常設展入口に位置するこの体験室では、感覚を働かせた「ふれあう」体験を通して、総合展示室や部門展示室の資料に興味・関心をもってもらう窓口となっている。このような体験室を常設展示の１つとして設置したのは県内では初めてである。

この展示室には、体験キットと呼ばれる道具が27種類準備されており、これらは、体験室のテーマである「自然のしくみ」や「先人の知恵」を知る目的を達成する為の組み立てや作業を行う道具のことで、博物館において沖縄の自然、考古、歴史、美術工芸及び民俗などそれぞれの分野の展示資料と補完関係にもなるように意図されている。

当体験室は職員１名（文化の杜共同企業体）と、１日３交替の博物館ボランティアスタッフで運営されており、文化の杜はスタッフ研修も行っている。新館オープンから昨年までに博物館が募集し、養成しているボランティアスタッフは、４期目に入り総勢108名となっているが、曜日毎に６つの班を構成。各所属班内で世話係が連絡調整することにより、安定した活動を維持する協力体制が構築されており、文化の杜のスタッフと共にふれあい体験室の運営の大きな役割を担っている。

各体験キットは、すべてがふれることのできるものであり、教育普及資料として位置づけられるもので、来館者が資料に触れあうことで目的が達成するものとして準備されており、職員や親子、一般の方々といった様々な人が参加する雰囲気作りを心がけている。ここでは、能動的に"沖縄の「自然のしくみ」や「先祖の知恵」"を発見・再発見することができる展示としている。　基本的に小学校中学年（３年生以上）を対象としているが、テーマに沿った展示手法の工夫により、幼児から就学年齢の子ども、または大人にとっても楽しめる空間創りを目指している。

今年度のふれあい体験室の利用者は、40,556人、（１日平均134名）を数えた。開設より３年を迎え、利用者層が安定し、ふれあい体験室が対象とする世代が見えてきた年であった。

利用者の年齢は、０才児～小学校６年生くらいまでの子どもと大人で、親子で行動をする世代が多くを占めており、展覧会に訪れる来館者をはじめ、特別支援学校や館周辺住民のリピーターも増えている。

今年度の新たな試みとして、ふれあい体験室ワークショップ「ぼく、わたしのてづくりおもちゃ」（文化の杜共同企業体主催）を実施した。ふれあい体験室の有効利用とアダン葉細工の普及を目的に、毎週土曜日、親子を対象としたワークショップである。参加者は年間を通し、全４種類の作品を仕上げると「てづくりおもちゃの達人」に認定される。その影響もあり、定着したリピーターづくりができたのではないかと考える。２月には、参加者からの要望で、那覇市内の保育園の親子レクリエーションで出前講座を開催した。その他にも、体験キットの更なる活用方法や展覧会に関連する体験を企画した。多くの体験者からは、体感できる喜びの感想も聞くことができた。

今後は、ふれあい体験室の、利用者層が幅広く取り扱える体験キットの活用方法を提案していくことや、新たな体験キット開発が課題になるだろう。


御三味


いろいろな玩具


石で築く


漆 ～飾る楽しみ～

※上記の他、23のキットが稼働中。

平成22年度アイヌ工芸品展「アイヌ―美を求める心」～関連体験コーナー「アイヌの衣を着てみよう」の設置～アイヌ民族衣装の着衣体験コーナーを室内に設置した。衣装は「アットゥシ」・「チカラカラペ」・「ルゥンペ」の３種類、全５着。刺繍や切伏せが施された模様の大胆さに感激する様子がみられた。





ふれあい体験室ワークショップ

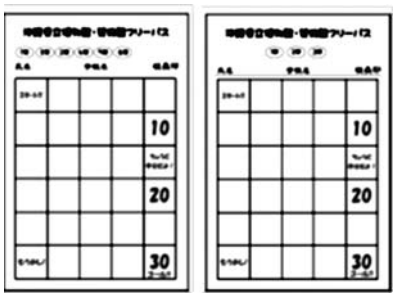
毎週土曜日の午前に、４回に分けてアダン葉細工をカラフルな画用紙に置き換えて製作するワークショップを「ふれあい体験室」にて文化の杜が企画、実施している。（詳細はＰ134参照）



通常の土曜日の光景

（宮平妃奈子）

11.　沖縄県立博物館・美術館のフリーパス





沖縄県立博物館・美術館では、県内の小中学生が博物館・美術館を知る機会とし、また、同館を身近に感じてもらい、何度も足を運んで欲しいとする目的で、「沖縄県立博物館・美術館フリーパス」の作成し、HP に掲載。小・中学校へダウンロードと印刷・作成を呼びかけている。「沖縄県立博物館・美術館フリーパス」は、学校で印刷・作成し、裏面に校長印を押印します（サンプル：博物館・美術館作成）。表紙は、沖縄の自然、歴史、文化に関する図案を基本としますが、自らデザインした図柄でもよく、裏面にはマス目があり、来館の際にスタンプが押印出来る形になっている。利用の対象は、県内の小・中学生で、学校の授業の一環、または個人での来館の際に持参して利用します。スタンプの押印数については、遠隔地や離島などの学校の生徒にはスタンプの数を調整するなどとして、配慮を行っている。

今年度から新たな試みとし、ゴールした児童生徒には、情報センターにおいて名前入りの「フリーパス終了証」と記念品（オリジナルクリアファイルと消しゴムなど）をプレゼントしている。

12.　職場研修受入

学校の校内研修をはじめとする、博物館の教育普及と関連のある団体の職場研修依頼を受け入れ、学芸員のミニ講座やバックヤードツアー、学校受け入れの概要説明などを行った。学校連携事業の中での学校団体観覧については、博物館を利用して学び、学習プログラムを組み立てるという学習プログラムの流れを説明した。また、フリーパスや IPM などの博物館が取り組んでいる内容の周知を図った。

【実施団体】

①	南風原高等学校職員研修	５月20日	14：00～17：00・・・・バックヤードを含む展示室の解説
②	港川中学校初任者研修	７月27日	11：00～12：00・・・・バックヤードツアーなど
③	新規採用　初任者宿泊研修	８月６日	９：30～11：00・・・・ミニ講座　博物館教育普及事業について
④	伊計小中学校校内研修	８月６日	13：30～　　・・・・バックヤードツアーなど

上記の教育普及担当の対応以外にも、県から直接依頼のあった研修に、濱口班長をはじめ、各分野の専門学芸員が研修等にあたっている。

13. 職場体験受入

博物館では、2003年度から、学校の計画する就業体験学習を受け入れている。(2006・2007年度は新館移転準備のため、休止)。今年度からは、文化の杜が問い合わせと対応の窓口となり、指定管理者が担う総合案内や展示交流員など、主に来館者サービスに従事する業務を体験した。体験内容として、総合案内・展示交流員・もぎり・情報センター・ふれあい体験室・ミュージアムショップ・清掃班・警備班などが挙げられる。

【受け入れ校】

①	石田中学校（４名）６月30日～７月２日（３日間）	②	上山中学校（５名）６月30日～７月２日（３日間）
③	首里中学校（４名）７月５日～７日（３日間）	④	仲西中学校（３名）７月７日～９日（３日間）
⑤	浦添工業高等学校（10名）７月７日～９日（３日間）	⑥	鏡原中学校（３名）９月７日～９日（３日間）
⑦	大里中学校（５名）11月10日～12日（３日間）	⑧	識名小学校（10名）11月30日（１日間）※１
⑨	仲西小学校（３名）８月31日（１日間）	⑩	松島中学校（２名）１月26日～27日（２日間）

※１　沖縄県キャリアセンター―ジョブシャドウイング事業の受け入れを行った。「ジョブシャドウイング」は米国で定着している職業教育の一つであり、中学生や高校生が半日程度、企業に赴いて従業員に密着し、職場での仕事ぶりを観察する、というものである。今回は、10名の児童が、それぞれ博物館、美術館、文化の杜の職員に割り振られ、来館者対応や会議の場に同席した。

14. 普及資料の貸出

【今年度の外部への貸出】

団 体 名：デイサービス ViVi まわし
行 事 名：昔懐かし豆腐作り（回想法：眠っていた記憶を呼び覚ます）
貸出期間：2011年２月８日（火）～２月14日（月）
貸出資料：石臼、アジマー、トーフウーキ、豆腐箱、シンメーナービ、カマンタ、その他

博物館の教育普及資料を貸出しており、貸出可能な資料は、黒糖づくり、豆腐づくり、民具等で、教育普及資料の活用について、学芸員及びボランティアが支援している。

民具に関しては、今年度も昨年度に引き続き、主に民具体験プログラムを申込した学校団体に対して、当館にてボランティアのサポートによるプログラム実施の中で使用している。また、名護の桜野特別支援学校や鏡が丘特別支援学校浦添分校への学校出前講座でもキットの一部として使用した。当館内外、様々な場面での活用が可能な資料である。

普及資料の貸出には、「資料利用申請書（教育普及資料の借用）」を提出していただいた後、「資料利用許可書(教育普及資料等の貸出)」を発行するまでの手続き等がある為、貸出希望日から一ヶ月前には申請していただくよう協力をお願いしている。(資料借用、返却の際の資料の運搬は、借主の責任となっている。)





Ⅳ. 資料収集・保存管理

1．収蔵資料現在高

2011年３月31日現在

分類		購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質	611	26,483	3,048	1	30,143	55,852
	動物	1,506	18,629	512	141	20,788	
	植物	202	4,716			4,918	
	菌類	3				3	
人類資料		54	19	6		79	79
美術工芸	絵画	97	548	2	4	651	10,168
	書跡	180	451	49	6	686	
	彫刻	6	115	136	7	264	
	陶磁器	431	3,364	465	538	4,798	
	漆器	231	233	195	19	678	
	染織	1,289	1,709	51	27	3,076	
	その他	13	2			15	
歴史資料		2,840	7,893	478	455	11,666	11,666
考古資料		301	3,548	2,821		6,670	6,670
民俗資料		623	4,335	1,072	137	6,167	6,167
総計		8,387	72,045	8,835	1,335	90,602	90,602

2．2010（平成22）年度新収蔵資料高

2010年４月１日～2011年３月31日

分類		購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質		4			4	4
	動物						
	植物						
	菌類						
人類資料		14				14	14
美術工芸	絵画						8
	書跡						
	彫刻						
	陶磁器		3			3	
	漆器						
	染織		5			5	
	その他						
歴史資料		1	28	134	329	492	492
考古資料		4				4	4
民俗資料			5			5	5
総計		19	45	134	329	527	527

3．2010（平成22）年度新収蔵資料目録

【購入】

2010年４月１日～2011年３月31日

分類	資料名	数量	資料提供・購入先	
人類	アメリカインディアン女性・頭骨模型	1		
	アボリジニ男性・頭骨模型	1		
	アフリカン男性・頭骨模型	1		
	アジア人女性・頭骨模型	1		
	アジア人男性・頭骨模型	1		
	アジア人若い男性・頭骨模型	1		
	ヨーロッパ人女性・頭骨模型	1		
	ヨーロッパ人男性・頭骨模型	1		
	アフリカ－アメリカ人女性・頭骨模型	1		
	アフリカ－アメリカ人男性・頭骨模型	1		
	ヨーロッパ人年をとった男性・頭骨模型	1		
	成人男性骨格模型	1		
	チンパンジー交連骨格	1		
	14～16ヵ月子供非交連骨格	1		
考古	貝製品（複製）	4	宮古島市教育委員会	沖縄県宮古島市浦底遺跡
歴史	高等弁務官の旗（紋章入り）（大）	1	琉米歴史研究会	中城村

【寄贈】　2010年４月１日～2011年３月31日

分類		資料名	数量	資料提供・購入先	
自然史	地質	瑪瑙（メノウ）石垣島採取	4	木村憲久	石垣市
歴史		沖縄国際海洋博覧会大人用特定時間入場券	1	川端　登	うるま市
		沖縄国際海洋博覧会キーホルダー	1	川端　登	うるま市
		ハイネの原画をもとにした版画	5	袖井林二郎	東京都新宿区
		16mmフィルム	12	柴田幸子	デンマーク
		観光絵はがき	5	柴田幸子	デンマーク
		絵はがき	3	柴田幸子	デンマーク
		本因坊道策より濱比嘉親雲上宛の免状（写）	1	太田雅勝	兵庫県神戸市
美術工芸	陶器	パナリ焼壺	2	古波蔵保男	那覇市
		掻落エジプト文嘉瓶	1	宮里栄徳	うるま市
	染織	芭蕉経縞着物	1	中村俊子	渡嘉敷村
		芭蕉格子着物	1	中村俊子	渡嘉敷村
		青地龍瑞雲峻山模様繻珍裂	1	古波蔵保男	那覇市
		青地扇流水草花模様着物	1	古波蔵保男	那覇市
		絹白地沖縄風景模様帯	1	本間宇瑠男	神奈川県
民俗		石厨子	1	中村栄昌	北谷町
		三線	3	金城宮夫	那覇市
		位牌	1	小波津春雄	浦添市

【取集】　2010年４月１日～2011年３月31日

分類	資料名	数量	資料提供・購入先	
	旧大安禅寺洪鐘銘（拓本）	4	県文化課	那覇市
	ブリキトランク	1	県史料編集室	南風原町
	美ら島沖縄総体2010関連資料	86	県高校総体推進課	那覇市
	海邦国体チラシ	1	沖縄県公文書館	南風原町
	マップハンカチーフ	1	与那嶺一子	南風原町
	マップハンカチーフしおり	1	与那嶺一子	南風原町
	沖縄サミットのうちわ	1	与那嶺一子	南風原町
	今日のNHK	1	与那嶺一子	南風原町
	戦跡をめぐるポストカード	1	与那嶺一子	南風原町
	東南植物楽園ポストカード	1	与那嶺一子	南風原町
	真実は不屈だ	1	与那嶺一子	南風原町
	さいばんしょ	1	与那嶺一子	南風原町
	新聞切抜き 沖縄戦後秘史シリーズ　「スポーツをひらく」	1	与那嶺一子	南風原町
	テレビ25年・NHK	1	与那嶺一子	南風原町
	眞相はこうだ!!	1	与那嶺一子	南風原町
	日本領土のしおり	1	与那嶺一子	南風原町
	給料袋	1	与那嶺一子	南風原町
	明細書	1	与那嶺一子	南風原町
	最新沖縄諸島詳図	1	与那嶺一子	南風原町
	手振り旗（朝日）	2	与那嶺一子	南風原町
	第82回選抜高校野球大会　興南高校優勝記念タオル	1	与那嶺一子	南風原町
	第82回選抜高校野球大会　興南高校出場記念手ぬぐい	1	与那嶺一子	南風原町
	第82回選抜高校野球大会　興南高校優勝ポスター	1	与那嶺一子	南風原町
	第92回全国高校野球選手権大会　興南高校全国制覇ポスター	1	与那嶺一子	南風原町
	琉球新報新聞特集号　2010年４月７日 春の選抜大会優勝記念特集	1	与那嶺一子	南風原町
	県内新聞号外・速報・特集	21		

【移管】　2010年４月１日～2011年３月31日

分類	資料名	数量	資料提供・購入先	
歴史	沖縄県関係映像フィルム	329	沖縄県立図書館	那覇市

４．所蔵指定文化財

【国指定文化財（重要文化財)】　　2011年３月31日　現在

種　別	名　　称	員数	指定年月日	所在の場所	所有者
典　　籍	おもろさうし	22冊	昭48．6．6	沖縄県立博物館・美術館	沖縄県
〃	混効験集	２冊	〃	〃	〃
工 芸 品	銅鐘（旧首里城正殿鐘）	１口	昭53．6．15	〃	〃
〃	梵鐘（旧円覚寺殿前鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧円覚寺殿中鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧円覚寺楼鐘）	〃	〃	〃	〃
歴史資料	明孝宗勅諭 琉球国中山王尚真宛	１巻	平11．6．7	〃	〃

【県指定文化財（有形文化財)】　　2011年３月31日　現在

種　別	名　　称	員数	指定年月日	所在の場所	所有者
絵　　画	絹本着色花鳥図（殷元良筆）	１幅	昭54．4．9	沖縄県立博物館・美術館	〃
〃	紙本着色雪中雉子の図（殷元良筆）	〃	〃	〃	〃
〃	紙本墨画竹の図（殷元良筆）	〃	昭57．3．4	〃	〃
〃	紙本着色奉使琉球図（朱雀年筆）	１巻	〃	〃	〃
〃	紙本着色冊封使行列図	〃	平15．7．11	〃	〃
彫　　刻	木彫円覚寺白象並びに趣意書木札	１躯１枚	昭31.12.14	〃	沖縄県
〃	世持橋勾欄羽目	１括	〃	〃	〃
〃	旧円覚寺関係木彫資料	35点	平15．7．11	〃	〃
工 芸 品	三線江戸与那	１丁	昭31.12.14	〃	〃
〃	聞得大君御殿雲龍黄金簪	１本	〃	〃	〃
〃	黒塗螺鈿遊雁絵大文庫	１合	〃	〃	〃
〃	黒塗堆錦山水絵大文庫	〃	〃	〃	〃
〃	黒塗螺鈿雲龍文内金箔蓋付椀	１口	〃	〃	〃
〃	枝梅竹文赤絵椀	〃	昭54．9．3	〃	〃
〃	線彫染付魚文皿	〃	〃	〃	〃
〃	色象嵌粟絵菊花皿	〃	〃	〃	〃
〃	象嵌色差面取砲瓶	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧霊応寺鐘）	〃	昭60．6．18	〃	〃
〃	梵鐘（旧普門禅寺鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧天竜精舎鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	銅鐘（旧天尊殿鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	銅鐘（旧天妃宮鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	銅鐘（旧一品権現鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧大安禅寺鐘）	〃	昭63．1．12	〃	〃
〃	黒漆薔薇堆錦軸盆	１枚	平２．２．６	〃	〃
〃	黒漆山水楼閣人物螺鈿机	１基	〃	〃	〃
〃	朱漆山水楼閣人物箔絵丸型東道盆	１具	〃	〃	〃
〃	朱漆巴紋牡丹沈金大御供飯	〃	〃	〃	〃
〃	白密陀山水楼閣人物漆絵箔絵角盆	1枚	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧永福寺鐘）	１口	〃	〃	〃
〃	三線盛嶋開鐘附胴	１丁	平６．３．15	〃	〃
書　　跡	程順則の書	１巻	昭42．4．11	〃	〃
〃	扁額「徳高」　鄭元偉書	１面	平元９.29	〃	〃
〃	扁額「凌雲」　林麟焻書	１面	〃	〃	〃
古 文 書	宮古島下地の首里大屋子への辞令書	１幅	昭31.12.14	〃	〃
〃	伊平屋島仲田の首里大屋子への辞令書	１通	昭53．4．1	〃	〃
〃	羽地間切の屋我のろへの辞令書	１幅	昭56．3．20	〃	〃
典　　籍	評定所格護定本　中山世鑑	６冊	昭31.12.14	〃	〃
〃	評定所格護定本　中山世譜	19冊	〃	〃	〃
歴史資料	銅鐘残欠（旧波上宮朝鮮鐘）	１口	昭60．6．18	〃	〃
〃	安国山樹花木記碑	１基	平元．９．29	〃	〃

５．修理事業

博物館資料は貴重な資料であり、その多くは同じ物を二度と収集することができないものばかりである。収集した資料を博物館では温湿度を管理し万全の処置を講じているが中には不幸にも収集した時点で破損してしまっていたり、長い時間の経過に耐えきれず劣化してしまっているものもある。

本事業はこうした資料の状態を改善し、永く県民の重要な財産として継承し、将来的に展示の質の向上を図ることを目的とする。

【事業内容】

１）資料名：孫億筆　花鳥之図　１幅
　　画稿　　軸装　21枚

２）修理内容：

孫億筆　花鳥之図　１幅

① 繕前に写真撮影を行い状態を調査。
② 具、朱印の安定を計るため、ハクリ止めを行う。
③ 紙の欠失、亀裂箇所に適する補修絹で補絹を施す。
④ 紙の折れが生じている箇所、および今後明らかに生じると思われる箇所に、折れ伏せを入れる。
⑤ 層裂、軸首、鐶、上軸、中軸、掛け紐等を新調する。
⑥ 納箱として、太巻添軸桐印籠文化財箱を新調する。収納保存にあたっては太巻添軸で巻き、折れ破損の要因を軽減する。また、木綿の袱紗新調し表具を包み収納箱に保存する。
⑦ 復の際は必ず科学分析を行う。

画稿　軸装　21枚

① 修繕前に写真撮影を行い状態を調査。
② 汚れを除去。
③ 汚れやセロハンテープの除去。
④ 裏打ちを行い、資料の状態を強化し法量を調整。
⑤ 糊は化学糊を一切使用しない。
　料紙は伝統的な方法で制作された漉紙のみを使用する。
⑥ 収納箱として中性紙の帙を新調し、画稿を広げて保管できるようにした。
⑦ 修復の際は必ず科学分析を行う。



絵画の衣装にあたる表具裂の色を合わせているところ。

３）修理業者：石川堂　　（代表：当間　博、沖縄県うるま市石川2738-11-２F）

４）予算執行額：704,834円

（平川　信幸）

６．レプリカ等製作事業

本事業は、当館常設展示室の展示および今後開催する様々な企画展・特別展に対応するため、レプリカ・剥製・模型等を製作することを目的としている。

2010年度は、宮古島市教育委員会が所蔵する浦底遺跡出土のシャコガイ製貝斧３点、イモガイ製円盤状製品１点の複製品を委託製作した。



（羽方　誠）

7．資料収集事業　－資料収集－

資料収集事業は、文化財の収集活動によって沖縄の遺産を保存管理し、調査研究を踏まえた展示を通して本県の教育文化の振興・向上をめざした事業である。常設展示において魅力ある展示を構成する上では、欠落している部分があるので、資料収集事業は不可欠である。本事業では、沖縄における文化及び自然史的価値の高い資料を計画的に収集している。

2010年度は、歴史資料「高等弁務官の旗（紋章入り）（大）」１件を購入した。

高等弁務官は、1950年に設置された米国民政府（USCAR）のトップとして1957年に設けられた役職である。沖縄側のトップである琉球政府の行政主席を任命する権利や琉球政府の立法院で議決された法案に対する拒否権の権限を持つほど、沖縄にとって強大な権力の象徴であった。1957年７月に初代のムーアが就任し、1969年１月に就任したランパートまで六代にわたる高等弁務官が歴任した。

当資料は、高等弁務官の執務室に掲げられていた旗であり、歴代高等弁務官によって引き継がれた旗である。六代目にあたるランパートが沖縄の施政権返還（1972年）によって離職したのち、その子息によって沖縄の米軍基地内にあった沖縄軍隊博物館に預けられた高等弁務官資料群の一部である。高等弁務官に直接関係する資料はこれまで博物館で収蔵しておらず、またほかに購入することができないため貴重な資料である。



高等弁務官の旗（紋章入り）（大）



紋章（拡大）

（崎原　恭子）

8．資料収集事業　－基金－

【事業概要】

沖縄県立博物館・美術館の収蔵資料は、沖縄の歴史・文化史を語るため後世に伝えるべき資料である。中でも先の大戦で戦火を潜り抜けてきた琉球王国時代の資料は文化的価値の高いものであり、当館ではこのような資料を収集し常設展や企画展を活性化させることにより、県民の資質の向上と先人の知恵を学ぶ場を提供し、豊かな沖縄の創造を目指している。

また、資料購入活動の一つである、沖縄県美術品等取得基金（以下「基金」という）は貴重な琉球資料を購入し、流失させないことを目的の一つとしている。

沖縄県立博物館・美術館では、沖縄の歴史文化の高さと豊かさをあらわす琉球資料を、今後も基金により収集を継続し、展示会等の活動を活性化させていく。


調査の様子（調査資料にラベルをつけて整理している。この後、ラベルと一緒に資料を撮影する。）

【進捗状況】

2010年は2009年に購入した資料の整理および基金への資金補填期間となっている。そのため、収集委員会を招集し、その結果に基づいて行う美術品等取得計画書の作成を文化課へ依頼していない。但し、時期に当基金で購入予定資料の所有者との調整、今後基金購入資料としての条件を満たす資料情報の収集を行った。

（平川　信幸）

９．資料貸出

○目　　的：危険生物ハブクラゲ被害防止のための普及啓発に活用
　主　　催：沖縄県衛生環境研究所
　会　　場：沖縄県衛生環境研究所入口付近及び所外の説明会
　貸出期間：2010年５月４日～2011年３月31日
　貸出資料：ハブクラゲ模型

○事 業 名：2,000円札発行10周年記念「沖縄のシンボル　守礼門」展
　主　　催：那覇市博物館（歴史博物館）
　会　　場：那覇市歴史博物館　企画展示コーナー
　貸出期間：2010年６月29日～９月６日
　貸出資料：守礼門模型、記念メダル等資料　他　10件

○事 業 名：企画展「ぎのわん昔のおもちゃ展　～見よう！遊ぼう！ぎのわんおもちゃ箱！～」
　主　　催：宜野湾市立博物館
　会　　場：宜野湾市立博物館　企画展示室
　貸出期間：2010年７月７日～８月27日
　貸出資料：玩具資料（張り子など）44点

○事 業 名：企画展「宮古にもちこまれた動物たち～どうしてここにいるんだろう～」
　主　　催：宮古島市総合博物館
　会　　場：宮古島市総合博物館　特別企画展示室
　貸出期間：2010年７月８日～９月18日
　貸出資料：インドクジャク剥製、キジ剥製、セマルハコガメ剥製

○事 業 名：第49回企画展「そうだ！海だ！海藻だ！～いのちをつなぐ海の森～」
　主　　催：ミュージアムパーク茨城県自然史博物館
　会　　場：ミュージアムパーク茨城県自然史博物館
　貸出期間：2010年７月10日～９月20日
　貸出資料：ジュゴン剥製

○事 業 名：企画展「沖縄の鍛冶屋」
　主　　催：沖縄市立郷土博物館
　会　　場：沖縄市立郷土博物館　特別展示室
　貸出期間：2010年10月18日～2011年１月７日
　貸出資料：鍛冶資料４点（「箱ふいご」、「金床」、「タライ」、「掛け軸」）

○事 業 名：大塚勝久「島の原風景」写真展（国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター開所10周年記念事業）
　主　　催：環境省那覇自然環境事務所
　会　　場：国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター
　貸出期間：2010年12月７日～12月28日
　貸出資料：「小浜島空撮」写真パネル、「竹富沖（水中）」写真パネル

○事 業 名：夜明けまえ　日本写真開拓史　四国・九州・沖縄編
　主　　催：東京都写真美術館
　会　　場：東京都写真美術館　２階展示室
　貸出期間：2011年２月22日～５月17日
　貸出資料：プリント写真（「熊本鎮台沖縄分遣隊」、「明治維新の慶賀使一行」）

10. 写真貸出

博物館・美術館では、県民の財産である収蔵資料の普及的活用の一環として、写真画像等の貸出も行っている。毎年多くの写真借用・資料撮影関連の依頼があり、2010年度は博物館班に186件の依頼があった。主な貸出資料としては「進貢船図」「冊封使行列図」「首里那覇港図」でその利用目的の主なものは、書籍・冊子等の出版物への掲載であった。近年、ホームページへの掲載やDVD作製への使用依頼も増えてきている。

（宮平　真由美）

美 術 館

Ⅰ　調査研究等の活動
Ⅱ　展示活動
Ⅲ　教育普及活動
Ⅳ　資料収集・保存管理

Ⅰ．調査研究等の活動

１．調査研究の概要

調査研究は美術館活動の、重要な柱の一つである。これまで本美術館では、収集作品調査及び、企画展開催に伴う調査研究に重点的に取り組んできた。2010年度は、本美術館活動のさらなる充実を目指し、各学芸員が調査研究に取り組んだ。調査研究の内容は、県内外の作家及び作品に関する調査研究、作品の保存修復に関する調査研究等で、成果についてはコレクション展及び企画展等で公開している。

以下、2010年度（平成22）に当館及び学芸員が行った調査研究活動の状況を報告する。

【調査研究内容】

① 美術品の収集に関する調査研究
② 美術品の保存科学に関する調査研究
③ 美術品の修復に関する調査研究
④ 展示技術に関する調査研究
⑤ 教育普及に関する調査研究
⑥ 美術情報提供システムの活用に関する調査研究
⑦ ボランティア育成支援に関する調査研究
⑧ 美術館の振興に関する調査研究

【調査研究体制】

調査研究活動は学芸員及び嘱託員で実施し、画像を含む調査によって得られたデータは研究用データベースに保存され、展示企画及び各研究に活用されている。（瑞慶山　昇）

２．調査・研究・講演・著作論文等

翁長　直樹（美術館副館長兼美術館班班長）

○調査・研究

・「安谷屋正義展」のための現物作品調査（2010年４月10日、５月15日、９月11日）
　調査先：琉球大学図書館（西原）首里高校　浦崎彦志（那覇）
・「比嘉康雄展」のための作品調査（沖縄市ご遺族宅）（2010年７月14日、８月25日、９月８日、10月12日）
・石垣博隆　宮良信成氏作品調査（石垣市作家・ご遺族宅）（2010年８月２日～３日）
・「玉那覇正吉展」のための調査（サンフランシスコ）（2011年２月20日～25日）
　調査先：スタンレー・スタインバーグ、ジェーンデュレイ

○講　演

・名　　称：九州高校生文化祭講評
　期　　日：2010年６月20日
　依頼機関：沖縄県高校生文化連盟（於：パレット市民劇場）
・名　　称：沖縄ニシムイ美術村について
　期　　日：2012年２月26日
　依頼機関：近畿大学（於：近畿大学四谷ストウデュム　東京）
・名　　称：「母なる神－比嘉康雄展」関連シンポジウム（パネリストとして参加）
　期　　日：2011年11月５日
・名　　称：「母なる神－比嘉康雄展」関連シンポジウム（パネリストとして参加）
　期　　日：2012年１月23日
　実施期間：伊豆フォトミュージアム　伊豆
・名　　称：「安谷屋正義展－モダニズムのゆくえ」関連シンポジウム（コーディネーターとして参加）
　期　　日：2012年２月12日
・名　　称：「安谷屋正義展－モダニズムのゆくえ」関連シンポジウム（コーディネーターとして参加）
　期　　日：2012年３月４日

○著作論文等

・日本経済新聞「美の美　美術に見る沖縄の女性」（2010年８月～９月）全10回掲載
・「比嘉康雄　戦後写真･美術の中で」『母たちの神－比嘉康雄展』沖縄県立博物館･美術館　2010年11月２日

・「安谷屋正義の近代－そして、その後」『安谷屋正義展－モダニズムのゆくえ』沖縄県立博物館・美術館
2011年１月19日

瑞慶山　昇（主任学芸員）

○調査・研究

・企画展「安谷屋正義展」に関する研究（那覇市）（2010年４月～12月）
・企画展「玉那覇正吉展」に関する作品調査（宜野湾市、サンフランシスコ）（2010年10月～３月）
・画　家「平田善吉」作品調査（那覇市、南城市）（2010年４月～2011年３月）
・画　家「下地明増」作品調査（宮古島市）（2010年２月26日～３月５日）

豊見山　愛（主任学芸員）

○調査・研究

・石垣在住美術家調査（収集候補作品）（2010年11月30日～12月２日）
調 査 先：石垣島（石垣博孝氏、宮良信成氏ご遺族宅）
・南洋群島美術会の画家（和田香苗）遺族への聞き取り調査（2010年11月30日～12月２日）
調 査 先：ご遺族宅（神奈川県大和市）
・アジア女性アーティスト展（仮称）のための調査（2011年２月15日～18日）
調 査 先：台湾（国立台北藝術大学、台北市立美術館、元華芸術空間、頼純純氏アトリエ、他）
・アジア女性アーティスト展（仮称）のための調査（2011年３月11日～15日）
調 査 先：シンガポール（国立シンガポール美術館、ほか）

大城　仁美（主任学芸員）

○調査・研究

・「比嘉康雄展」作品調査・状態点検（2010年７月13・14・20・21・27日／８月３・４・17・18・24・25・29日／９月１・８・13日／10月13日）
調 査 先：比嘉康雄邸（沖縄市）／比嘉信子氏（比嘉康雄氏夫人）、仲宗根はづき氏（同ご息女）
・「比嘉康雄展」作品調査（2010年９月９日）
調 査 先：ギャラリー　サロン・ド・ミツ（那覇市）／代表：新川美津氏

新里　義和（主任学芸員）

○調査・研究

・「東松照明展」のための作品調査（2010年11月４日－11月５日）
調 査 先：長崎県美術館（長崎）
・＜大和コレクション展Ⅱ＞のための作品調査（2010年11月５日－11月６日）
調 査 先：株式会社大和プレス（広島）
・太宰府天満宮アートプログラム Ryan Gander“You have my word”展調査（2011年２月10日－２月11日）
調 査 先：太宰府天満宮文化研究所（福岡）

○講演

・名　　称：東松照明＜アッサラーム・アレイクン＞展　　東松照明氏、石川文洋氏対談コーディネーター
期　　日：2010年７月24日
依頼機関：アッサラーム・アレイクン実行委員会
・名　　称：平成22年度糸満青少年の家自主事業「デジタル一眼レフカメラ教室」
期　　間：2010年８月15日
依頼機関：沖縄県立糸満青少年の家
・名　　称：「とかしき島環境フォトフェスタ」
期　　間：2011年２月26日～27日
依頼機関：国立沖縄青少年交流の家

○著作論文

・『沖縄本ナビゲーション』＜写真集＞　沖縄タイムス　2010年５月24日
・「東松照明写真展『アッサラーム・アレイクン』に寄せて」　琉球新報　2010年７月15日

吉田　祥子（美術品調査嘱託員）

○調査・研究等

・下地明増作品調査（宮古島市）（2010年４月26日～27日）

・金城美智子作品調査（那覇市）（2010年６月４日・17日）
・棟方志功作品ほかの美術品調査（那覇市）（2010年６月24日）
・大城精徳作品ほかの美術品調査（浦添市）（2010年７月12日）
・嘉数能愛作品ほかの美術品調査（那覇市）（2010年７月15日）
・城間喜宏作品ほかの美術品調査（那覇市）（2010年７月20日）
・玉那覇正吉作品調査（宜野湾市）（2010年12月21日）

仲村　美奈子（嘱託員）

○調査・研究
・大城皓也絵画作品状態調査（浦添市）（2010年12月10日、2011年２月21・22・24日、３月１日・２日）
・大宰府天満宮アートプログラム Ryan Gander “You have my world” 展調査（2011年２月10日～２月11日）
調 査 先：大宰府天満宮文化研究所（福岡）

○著作論文
・「ライデン国立民族学博物館ならびにライデン大学収蔵の日本資料について」平成23年度アーカイブス・カレッジ（史料管理学研修会）

Ⅱ．展示活動

１．調査研究の概要

「企画し成長する美術館」をミッションに、沖縄やアジアの地域特性を考慮にいれた、オリジナリティのある展示を考察した。

コレクション展では、コレクションギャラリー３で「沖縄の色彩」と題し、色彩の固有性について俯瞰した。「儀間比呂志版画展」では、戦争をテーマにした迫真の木版画に、「喜村朝貞のコラージュ」はパピエ・コレの楽しさに、多くの注目を集めた。「ガイアへの帰還～ Color of Asia」、「メコン4525km－管洋志写真展」では、アジア地域への洞察を深めた。さらに、現代美術の今を伝える、寄託作品による、大和コレクション「ドイツ現代美術を中心に」、「ライアン・ガンダー」の両展示は、特に沖縄県民からの支持を得た。

企画展示では、沖縄美術研究の核となる「沖縄の美術シリーズ」２回目として、安谷屋正義展が開催された。膨大なエスキースを含めた、重厚な展示内容に、多くの美術ファンを驚嘆させた。イザイホーなど、沖縄の祭祀の魅力に溢れた「比嘉康雄」展では、惜しまれつつも夭折した写真家の、スタンスを確立するものであった。どちらも、本美術館の核となるコレクションであり、調査研究に基づいた構成であった。　　（豊見山　愛）

２．コレクション展（常設展）

【コレクションギャラリー１】

○「儀間比呂志版画展」
会　期：前期　2010年４月24日（土）～７月４日（日）
　　後期　2010年７月７日（火）～９月５日（日）
担　当：仲村　美奈子
内　容：版画作品コレクション展第２弾として、儀間比呂志の木版画59点を展示した。
『戦がやってきた』（1979年）、『沖縄の悲哭』（1982年）、『りゅう子の白い旗』（1985年）、『沖縄戦朝鮮人軍夫と従軍慰安婦』（1995年）に収められている、儀間比呂志の戦争版画シリーズを中心に体系的に展覧することによって、儀間比呂志が伝えたいテーマを再確認し捉えなおす機会とした。

○「組み合わせから生まれるイメージ～喜村朝貞のコラージュ～」
会　期：2010年９月11日（土）～2011年１月23日（日）
担　当：瑞慶山　昇
内　容：喜村朝貞は、琉球大学美術工芸科を1955年に卒業後、沖縄工業高等学校や首里高等学校で教師として造形教育に携わりながら、表現活動を続けてきた作家である。1970年代からグループ展や個展を開催し、斬新で実験的な表現の試みを行った。特に、1976年にタイムホールで開催された、前衛的なグループ展「76展」に出品した作品は、前衛的表現を強く追求するものであった。喜村朝貞の作品は斬新なデザイン的感覚に特色があり、油彩、版画作品の他に、シュールなコラージュ作品やデカルコマニー、

ファイバーワーク（糸の造形）など、多様な技法や素材を使用した制作に取り組んでいる。
本展示では、当美術館が収蔵する喜村朝貞コラージュ作品の中から、1970年～1990年に制作された作品33点を紹介した。

○「メコン4525km－管洋志写真展」
会　期：前期　2011年２月１日（土）～３月21日（月）
後期　2011年３月23日（水）～５月８日（日）
担　当：大城　仁美
内　容：管洋志はアジアの国々をフィールドに、人間を中心に撮り続ける写真家である。
当館が収蔵する「メコン4525km」（2002年発表）は、管が1969年から30余年に渡りメコン流域の６つの国々を取材した中から、1984年～2001年の間の60点による作品群で、本展示ではメコン源流を有する中国から、河口ヴェトナムへの流れで紹介した。
管が国や民族や文化をも超えて感じると言う、日本にも通底するコスモロジーの存在を探りながら、同じアジアに生きる我々の過去･現在･未来を考える契機とする。

【コレクションギャラリー２】
○「ガイアへの帰還～ Color of Asia」
会　期：2010年４月24日（土）～９月５日（日）
担　当：國吉　亮子
出品作家：・宮城　和邦　　・カヒーペ・エンダーヤ・イメルダ（フィリピン）
・ドノ・ヘリ（インドネシア）　　・プラバンドノ・エディ（インドネシア）
内　容：アジア諸国に共通する社会的思想や色彩感覚を持った作家を紹介し、制作された作品を鑑賞する中で、アジア人としての同一性（identity）を感じる機会とし、沖縄県とそれを取り巻くアジア諸国の作家の紹介と共に、美術館の収集理念の啓蒙の機会とする。

○「大和コレクションⅠ・ドイツ現代美術を中心に」
会　期：2010年９月11日（土）～2011年１月23日（日）
担　当：豊見山　愛
内　容：ドイツ北西部のデュッセルドルフ芸術アカデミーを中心に、ヨーゼフボイス、ゲルハルト・リヒター、ベルント＆ヒラ・ベッヒャー、トーマス・シュッテなどの作品を展観し、ナチスの抑制から復興した現代美術を展観した。ほかに、塩田千春、奈良美智＋杉戸洋、ミコライ・ポリンスキーなど、ドイツにゆかりのあるアーティストを加えて、現代美術の隆盛を展観するものとした。

○「大和コレクションⅡ Ryan Gander ライアン･ガンダー　－ATTEMPTING TO REMAIN LIGHT ON ONES FEET－」展
会　期：2011年２月１日（火）～５月８日（日）
担　当：新里　義和
内　容：本展覧会は当館に寄託予定の大和コレクションを紹介する大和コレクション展の PART.２である。
今回は、イギリス出身の若きコンセプチュアルアートの旗手として世界のアートシーンで活躍中のライアン・ガンダーのビデオインスタレーションを含む21点の作品で構成し、各作品が関連しながら会場全体が一つの作品として見えるよう配慮した。

【コレクションギャラリー３】
○「沖縄の色彩」
会　期：2010年４月24日（土）～2011年５月８日（日）
担　当：豊見山　愛
内　容：本展覧会では、これまでの近代から現代にいたる沖縄美術通史に加えて、沖縄系移民など沖縄在外におけるアーティストの眼を通した、多視覚的な構成を試みた。色彩の地域的固有性をテーマにしたなかで、色彩の感じ方が、たんに好みだけではなく、風習や文化にちなむことを例に挙げて、紫外線の多い沖縄独自の色彩感覚を考察するきっかけとなれば、幸いである。

３．企画展　『母たちの神―比嘉康雄展』

会　　期：2010年11月２日（火）～2011年１月10日（月）（58日間）
会　　場：美術館企画ギャラリー１・２
観 覧 料：一般1000 [800] 円　大高生 700 [560] 円　中小生 300 [240] 円
　　＊[　] 内は20名以上の団体料金及び前売料金
観覧者数：4,559名
予 算 額：14,925,749円

【開催趣旨】
比嘉康雄（ひが・やすお）は、戦後沖縄を代表する写真家の一人であると共に、民俗学の中でも大きな功績を残した人物である。
B52爆撃機の墜落事故をきっかけに嘉手納署の警察官の職を辞し、写真家となった、激動期の沖縄を象徴する写真家とも言える。初期のころは、「赤い街」「生まれ島沖縄」などのような現状を訴えるような写真から、宮古のまつりに出会い、沖縄の古層に降りて行くようになる。
その後、比嘉は「神々の古層」をはじめ「神々の原郷　久高島」などの著作を世に出す。やがて琉球弧の祭祀の撮影を通して、沖縄人の生活・文化の根幹となる思想を求めるようになる。本展では、比嘉が生前に出版のため編纂した『母たちの神―琉球弧の祭祀世界―』を紹介しながら、比嘉康雄の求めた思想から導かれる祭祀の現状を、芸術、民族、哲学などの各方面から、多面的に検証する。近代の終焉と言われ、閉塞状態にある現代社会において、比嘉康雄展を通して、沖縄の近現代、そしてアジアの中に沖縄を置きなおし、比嘉を通じて今後の沖縄の新たな可能性を探る契機としたい。

【開催形式】
主　　催：沖縄県立博物館・美術館／沖縄県教育委員会
後　　援：沖縄県写真協会、全日本写真連盟沖縄支部、沖縄県文化協会、NHK 沖縄放送局、沖縄テレビ放送株式会社、琉球放送株式会社、琉球朝日放送株式会社、㈱エフエム沖縄、株式会社ラジオ沖縄、沖縄タイムス社、琉球新報社、タイフーンfm、朝日新聞社、日本経済新聞那覇支局、株式会社平凡社、株式会社日本カメラ社、株式会社学研マーケティング（CAPA）、南城市、宮古島市、石垣市
特別協力：比嘉康雄展実行委員会

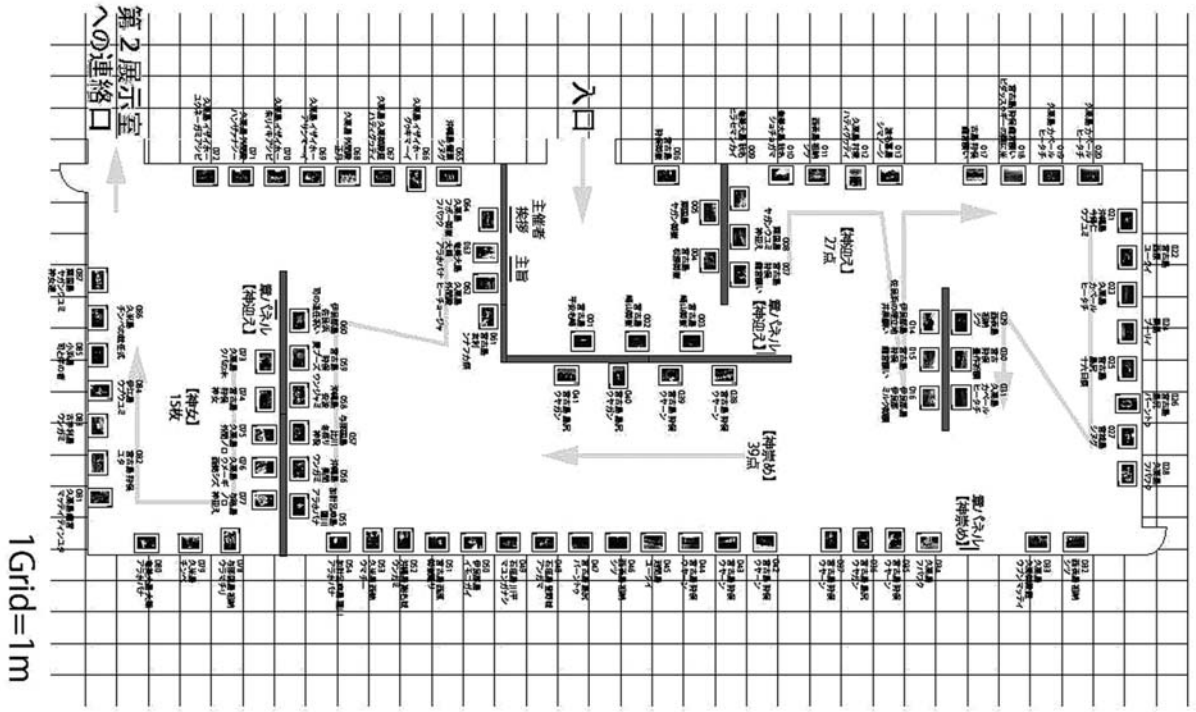
【展示内容】
比嘉康雄が生前に編纂した『母たちの神―琉球弧の祭祀世界』を踏襲し、祭祀の時系列を基本に作品を配列。島と地域を織り交ぜた構成とした。展示作品は、本展覧会のためのモダンプリント（ゼラチン・シルバー・プリント）162点。

序　章　宮古島（東平安名崎、御嶽）、粟国島（御嶽）　６点
第１章　神迎え（かみんけー）　27点
　　宮古島、粟国島、奄美・秋名、西表島、久高島、渡名喜島、今帰仁村、黒島、宮城島
第２章　神崇め（かみあがみ）　39点
　　宮古島、池間島、石垣島、伊良部島、大宜味村謝名城、久米島、奄美・加計呂麻島、国頭村奥間、与那国島、国頭村安波、久高島、奄美・大熊、本部町備瀬
第３章　神女（かみんちゅ）　15点
　　宮古島、久高島、奄美・与路島、与那国、久米島、奄美・大熊、古宇利島、伊江島、小浜島、粟国島
第４章　神願い（かみにがい）　35点
　　池間島、伊是名島、渡名喜島、宮古島、国頭村奥間、伊良部島、石垣島白保、伊江島、久高島、阿嘉島、粟国島、伊平屋島、久米島、与那国島
第５章　神遊び（かみあしび）　19点
　　久高島、宮古島、国頭村安田、東村平良、大宜味村、石垣島白保、西表島、奄美・秋名、波照間島
第６章　神送り（かみうくい）　21点
　　久高島、伊平屋島、多良間島、古宇利島、石垣島、西表島、渡名喜島、粟国島

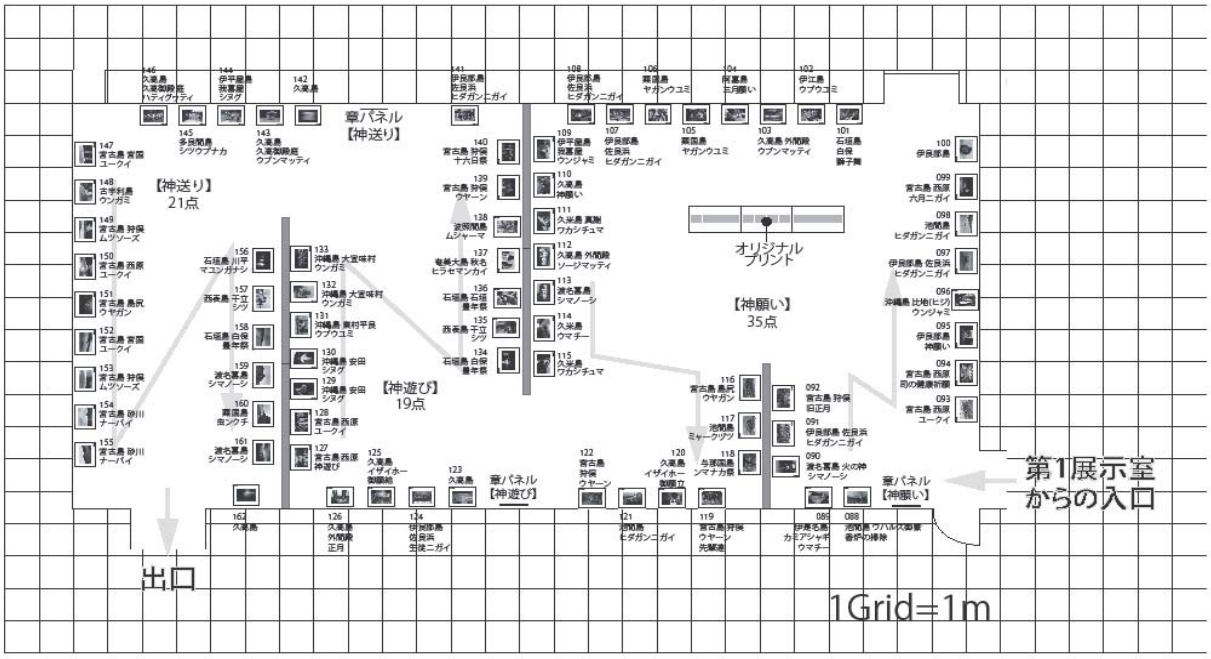
資料展示：作家年表、作家著作物、オリジナルプリント、オリジナルファイル

【関連事業】○開会式・内覧会　　2010年11月２日(火)　10：00～11：30
【関連催事】＊教育普及事業にて紹介

【展示平面図】



「母たちの神―比嘉康雄展」　レイアウト図（第１展示室）



「母たちの神―比嘉康雄展」　レイアウト図（第２展示室）



テープカット風景



第１章「神迎え」展示風景

（大城仁美）

３．企画展　沖縄の美術シリーズ２

60年代沖縄を駆け抜けた画家の軌跡『安谷屋正義展―モダニズムのゆくえ』

会　　期：2011年１月19日（水）～３月13日（日）（45日間）
会　　場：美術館企画ギャラリー１・２
観 覧 料：大人800円、高校・大学生500円、小・中学生300円
観覧者数：3,296人

【開催趣旨】
県立美術館では、郷土出身作家の企画展を開催し、その足跡をたどるとともにそれぞれの作家の、芸術の精華を展望する「沖縄の美術シリーズ」を開催している。２弾目は、1960年代の沖縄美術界をリードした画家、安谷屋正義（1921～1967）を取り上げる。安谷屋正義は戦後、ニシムイ美術村の第２世代の作家として出発し、第１世代の名渡山愛順などと世代的、理論的な対峙を通し、鮮明にモダニズム（近代主義）を打ち立て、次の世代に引き継いだ美術家である。初期は具象的表現を模索し、50年代から構成的になり、58年には代表作「塔」を発表し、60年代には「滑走路」「望郷」など時代のイコンとなるような作品を生み出したが67年に急逝する。安谷屋正義は美術だけでなく、広く文化に関わり、社会的発言も多く沖縄の文化・社会・政治にも言及した。その当時影響を受けた人々には神話的な作家でありながら、70年代以降の人々には、その作品や人物像はほとんど知られていない。本展覧会においては作品を展示するとともに、その時代と現在とを対比し沖縄美術の指針を考える契機とした。本展は、安谷屋正義の画業の軌跡を作品から通観し、画業の精神とその世界を県民が鑑賞することで、沖縄の美術を理解していただくものである。

【開催形式】
主　　催：沖縄県立博物館・美術館、沖縄県教育委員会
後　　援：沖縄県美術家連盟、沖縄県文化協会、株式会社沖縄タイムス社、琉球新報社、NHK 沖縄放送局、沖縄テレビ放送株式会社、琉球放送株式会社、琉球朝日放送株式会社、㈱ラジオ沖縄、株式会社エフエム沖縄、㈱エフエム那覇

【展示内容】
本展示会では、安谷屋正義（1921～1967）の作品を制作年代別に第１章～第４章で展示構成し、具象から抽象へと展開された表現形態の変遷をたどる。また、安谷屋の生きた時代背景や、関連資料を展示し、総体的に画家、安谷屋正義の人間像を浮かび上がらせ安谷屋芸術を展望する。

（１）　各章の概要
①　第１章（～1949年）
安谷屋正義は東京美術学校を繰り上げ卒業し、戦後大分市から46年に帰沖し、沖縄諮詢会に文化部芸術課諮詢会に採用される。そこで米軍のためのクリスマスカード作成や、油絵などを描いていたが、辞任して1948年に通称ニシムイ美術村に住宅兼アトリエ建設。画家仲間とともに、昼間は絵を描き、夜は芸術談義に明け暮れた。

作品は焼け野原となった那覇のスケッチや、油絵の習作時代、米軍のために書いた作品。首里城のスケッチなどが展示される。 油彩約10点　その他水彩・ドローイング等。

② 第２章（1950～1958年）

ニシムイの画家たちの中で、絵画運動を起こし、五人展として活動する。活動したメンバーは安谷屋正義のほか、安次嶺金正、玉那覇正吉、具志堅以徳、金城安太郎。安谷屋正義の最初に画風を確立する時期である。

近代的な線と力感にあふれた「仮象」「起重機」「孤影」など、東京の研修時代に描いた作品と代表作「塔」など約25点　その他水彩、水彩・ドローイング等。

③ 第３章（1959～1965年）

五人展解散後、創斗会を結成して絵画の論理と実践を通して、自らの絵の道を究め、若手を育てた時期。また沖縄の美術のみでなく、新聞紙上などで文化をリードした。

初期のころの垂直線から水平線が導入された作品「暁」、中期の代表作「滑走路」「誘導路」「爆音」色面が勝ることにより叙情性が強くなる「街」「港」「残照」、構成風な「春の海」「出航」など、そして中期のもうひとつの代表作「望郷」など油彩画19点、その他水彩・ドローイング等。

④ 第４章（1966～1967年）

この時期の安谷屋正義は現実的社会的な事象問題と造形的な問題を統合しようする。色面の構成と基地などの金網のモチーフ、あるいは伝統的な造形を取り入れようと模索を繰り返す。後期の抽象的色面構成の秀作「街Ａ，Ｂ，Ｃ」基地をモチーフにした「壁の詩Ａ」「基地の周辺」。そして絶筆である「道」など油彩23点その他水彩・ドローイング等。

（２） 展示作品数

油彩画（77点）、水彩画（45点）、ドローイング（200点）、計（322点）

【関連催事】※詳細は教育普及事業にて紹介

今回の企画展関連催事として以下の事業を行った。

◇講演（上映）会『かたき土をやぶりて』
日　時：2011年１月30日(日)　14：00～16：00
会　場：沖縄県立博物館・美術館　講堂
トーク：森口豁、今郁義

◇シンポジウム（１）『安谷屋正義の時代』
日　時：2011年２月12日(土)　14：00～16：00
会　場：沖縄県立博物館・美術館　講堂
パネリスト：稲嶺成祚、大城立裕、山田寛
コーディネーター：翁長直樹

◇シンポジウム（２）『モダニズムを超えて』
日　時：2011年３月４日(金)　19：00～21：00
会　場：沖縄県立博物館・美術館　講堂
パネリスト：宮城明、上原誠勇、粟国久直、与那覇大智、山城知佳子
コーディネーター：翁長直樹

◇ギャラリー・トーク
日　時：2011年１月29日(土)　15：00～16：00
トーク：星雅彦

◇絵画修復報告会『安谷屋正義作油彩画修復を終えて』
日　時：2011年２月５日(土)　15：00～16：00
講　師：中居

◇キュレーター・トーク
日　時：① 2011年１月21日(金)　18：00～21：00
② 2011年２月18日(金)　18：00～21：00
③ 2011年３月11日(金)　18：00～21：00
トーク：翁長直樹



開会式テープカット



内 覧 会

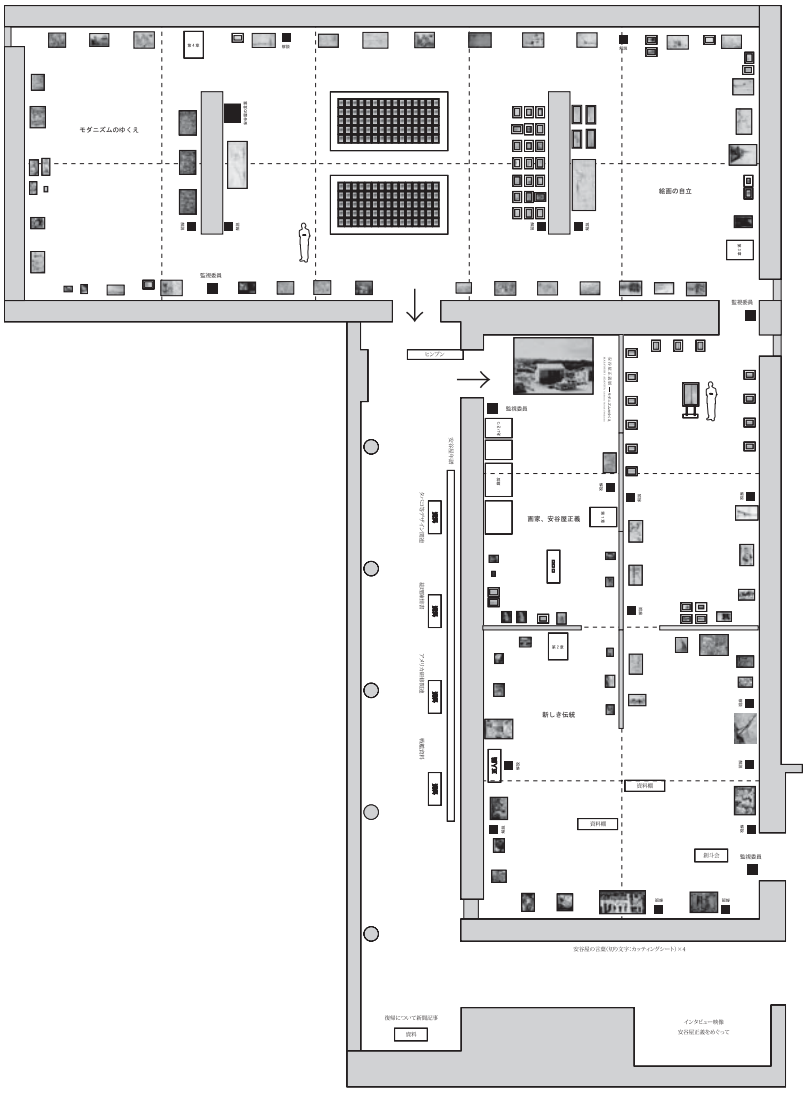


展 示 室



展 示 作 品

【展示平面図】



（翁長　直樹）

Ⅲ. 教育普及活動

１．美術館教育普及活動の概要

美術館の教育普及活動は、「鑑賞活動の支援プログラム」「実技体験の支援プログラム」「発表活動の支援プログラム」という３つの柱に沿って展開している。

鑑賞活動のプログラムでは、展示解説ボランティアによる「対話式鑑賞法」の推進を図った。また作品理解をすすめるために、定期的に学芸員によるキュレーター・トーク、作品制作者やその関係者によるアーティスト・トークなどを展示室で実施するとともに、美術講座なども実施した。

教育普及活動は、館内だけのプログラムではなく、県立という施設に鑑み、アウトリーチ活動の充実を目指し、出張美術館（本物だから得られる感動）を実施した。

２．鑑賞活動支援

開館記念展より継続で、作品の鑑賞をより深めるために各展示担当によるキュレーター・トークや、作品の制作を行った作家や関係者を招き、アーティスト・トーク、ギャラリー・トークを行った。また来館者に対して鑑賞ボランティアによる「鑑賞ツアー」を展示室内で作品を観ながら行った。

【キュレーター・トーク】

ボランティアの方々や一般の方に対し、各展示会担当学芸員がその展示作品や作家、また展示内容について解説を行うことで、展示に対し関心や理解を深めるために講義を行った。



キュレーター・トークの様子

展示会タイトル	講 師 名	日　　時	場　　所	参加者
「沖縄の色彩－沖縄美術の流れvol.3」	豊見山　愛	2010年４月24日15：00～16：00	コレクションギャラリー３	６名
「ガイヤへの帰還～color of Asia～」	國吉　亮子	2010年５月 1日15：00～16：00	コレクションギャラリー２	８名
「儀間比呂志　版画展」	仲村美奈子	2010年６月５日15：00～16：00	コレクションギャラリー１	27名
「大和コレクション展Ⅰ～ドイツ現代美術を中心に」	豊見山　愛	2010年９月11日15：00～16：00	コレクションギャラリー２	14名
「組み合わせから生まれるイメージ～喜村朝貞のコラージュ」	瑞慶山　昇	2010年10月２日15：00～16：00	コレクションギャラリー１	９名
「母たちの神－比嘉康雄展①」	大城　仁美	2010年11月６日15：00～16：00	企画ギャラリー１・２	15名
「母たちの神－比嘉康雄展②」	大城　仁美	2010年12月４日15：00～16：00	企画ギャラリー１・２	12名
「安谷屋正義展～モダニズムのゆくえ①」	翁長　直樹	2011年２月５日15：00～16：00	企画ギャラリー１・２	28名
「安谷屋正義展～モダニズムのゆくえ②」	翁長　直樹	2011年３月11日19：00～20：00	企画ギャラリー１・２	22名
「ライアン・ガンダー展」	新里　義和	2010年３月12日15：00～16：00	コレクションギャラリー２	９名

【アーティスト（ギャラリー）・トーク】

ボランティアの方々及び一般の方に向け、常設展示室（コレクションギャラリー）や企画展示室の展示作家及び作品の理解を深めるための講座。展覧の展示作家やその関係者等を招き実施。



管　洋志氏のトーク風景

展示会タイトル	講 師 名	日　　時	場　　所	参加者
「ガイヤへの帰還～color of Asia～」	宮城和邦（画家）	2010年５月15日15：00～	コレクションギャラリー２	14名
「儀間比呂志　版画展」	儀間比呂志（版画家）	2010年６月19日15：00～	コレクションギャラリー１	24名
「大和コレクション展Ⅰ～ドイツ現代美術を中心に」	奈良美智（美術家） 杉戸　洋（美術家）	2010年10月１日18：30～	講堂	270名
「組み合わせのイメージ～喜村朝貞のコラージュ～」	稲嶺成祚（美術家）	2010年10月16日15：00～	美術館講座室	14名
「母たちの神－比嘉康雄展」	①港　千尋（写真家） ②波照間永吉 （芸大教授） ×高良　勉 （批評家） ③内間　豊（NPO法人久高島理事） ×高良　勉 （批評家）	①2010年11月20日15：00～ ②2010年12月11日15：00～ ③2010年12月25日15：00～	企画ギャラリー１・２	①34名 ②45名 ③36名
「大和コレクション展Ⅰ～ドイツ現代美術を中心に～」『消えゆく国境』	ティトゥス・スプリー （琉大教員）	2011年１月22日15：00～	美術館講座室	18名
「安谷屋正義展～モダニズムのゆくえ」	星雅彦（美術批評家）	2011年１月29日15：00～	企画ギャラリー１・２	26名
「沖縄の色彩－沖縄戦後美術の流れvol.Ⅲ」	彦坂　尚嘉（美術家）	2011年２月６日15：00～	コレクションギャラリー３	12名
「ライアン・ガンダー展」	井上間従文 （琉大講師）	2011年２月19日15：00～	コレクションギャラリー２	17名
「メコン4525km－管洋志写真展」	管　洋志（写真家）	2011年３月５日 15：00～	美術館講座室	65名

【鑑賞ツアー】

鑑賞ボランティアが来館者に対し行う展示作品の鑑賞活動。案内役を中心に「対話式鑑賞法」による鑑賞の形をとり、作品に対する思いや感想などを伝え合い、共感する中で作品の理解や関心を深めた。



鑑賞ツアーの様子

日　　時	ツアー場所	参加者
2010年９月11日16：00～	コレクション・ギャラリー２　「大和コレクション展Ⅰ～ドイツ現代美術を中心に～」	８名
2010年10月２日16：00～	コレクション・ギャラリー１　「喜村朝貞のコラージュ~組み合わせから生まれたメッセージ~」	６名
2010年11月６日16：00～	コレクション・ギャラリー２　「大和コレクション展Ⅰ～ドイツ現代美術を中心に～」	３名
2010年12月４日16：00～	企画展「母たちの神－比嘉康雄展－」	５名
2011年２月５日16：00～	企画展「安谷屋正義展」	６名
2011年３月19日16：00～	コレクション・ギャラリー２　「ライアン・ガンダー展」	７名

3．バックヤード・ツアー

月１回の定期に収蔵庫や修復室、工作室といった通常一般開放していない部分を案内する事業を始めた。参加者は、普段目にすることのない部屋やその役割等の説明を受ける中で、学芸員の仕事について知る機会にもなった。



バックヤード・ツアーの様子

	実 施 日 時	担当学芸員	参加者
1	2010年４月10日　11：00～	國吉　亮子	５名
2	2010年５月８日　11：00～	新里　義和	２名
3	2010年６月５日　11：00～	國吉　亮子	４名
4	2010年７月10日　11：00～	新里　義和	６名
5	2010年８月７日　11：00～	新里　義和	12名
6	2010年９月４日　11：00～	國吉　亮子	８名
7	2010年10月２日　11：00～	大城　仁美	９名
8	2010年11月６日　11：00～	豊見山　愛	３名
9	2010年12月４日　11：00～	瑞慶山　昇	６名
10	2011年１月15日　11：00～	翁長　直樹	８名
11	2011年２月５日　11：00～	大城　仁美	２名
12	2011年３月５日　11：00～	瑞慶山　昇	７名

4．ボランティア育成講座

美術館ボランティア対象の講座で、「鑑賞ツアー」の勉強会を兼ねた。内容は主に各展覧会（常設展・企画展）について、担当学芸員より展覧会の開催趣旨の説明や展示作家及び作品の紹介を行った。



ボランティア育成講座の風会

①　設展示に関する講座

講　座　日	担　　当	内　　容
2010年８月７日（土）	國　吉　亮　子	オリエンテーリング（W・S 含む）
2010年８月21日（土）	豊見山　　愛	大和コレクション展Ⅰについて
2010年９月４日（土）	瑞慶山　　昇	喜村朝貞展について
2011年３月５日（土）	大　城　仁　美	管洋志展について

②　画展覧会に関する講座

講　座　日	担　　当	内　　容
2010年11月27日（土）	大　城　仁　美	比嘉康雄展について
2011年１月29日（土）	翁　長　直　樹	安谷屋正義展について

5．コレクション・企画展関連シンポジウム

企画展「母たちの神-比嘉康雄展」「安谷屋正義展－モダニズムのゆくえ」及び2012年開催予定の「女性美術展（仮）」に関連した催事を開催した。関係者を招いての基調講演や、県内外の有識者や美術家をパネリストとしたシンポジウムの行い、多角的な方面からの取組みを試みた。

（１）　比嘉康雄展関連

①　「今なぜ比嘉康雄か」

日　　時：2010年11月７日（日）14：00～　　場　所：博物館講座室

パネリスト：比嘉豊光（写真家）、高良勉（詩人）、安里英子（フリーランス・ライター）、
翁長直樹（当館副館長）

コーディネーター：後田多敦（海邦市民文化センター理事）

② 琉球弧の祭祀世界と生死観－魂の発見と女・神・母たちの世界－」

日　　時：2010年12月５日（日）13：00～　　場　所：講堂

１．映像上映　（２本）

① 大重潤一郎氏制作：「沖縄久高島　　原郷ニライカナイへ～比嘉康雄の魂～」

② 比嘉　豊光氏制作：「比嘉康雄の世界－神々への視線－宮古島・狩俣」　50分

２．シンポジウム

パネリスト：赤嶺　政信（琉球大学　教授）　稲福みき子（沖縄国際大学　教授）

奥濱　幸子（沖縄民俗研究者）　西谷　修（東京外語大学　教授）

コーディネーター：安里　英子（フリーランス・ライター）

③「比嘉康雄、その（写魂）と（写今）－沖縄写真史の中で－」

日　　時：2010年12月25日（日）14：00～　　場　所：講堂

１．クロス・トーク　「比嘉康雄について」

東松　照明（写真家）×仲里　効（批評家）

２．パネルディスカッション

「写真家　比嘉康雄　沖縄写真史の中で」

パネリスト：赤坂　憲雄（民俗学者）　小橋川共男（写真家）

小原　真史（映像作家）　仲里　効（批評家）

土屋　誠一（沖縄県立芸術大学講師・美術批評家）

コーディネーター：大城　仁美（当館学芸員）



比嘉康雄シンポジウム①の様子

（２） 安谷屋正義展関連

①「安谷屋正義の時代」

日　　時：2011年２月12日（日）14：00～　　場　所：講堂

パネリスト：大城立裕（小説家）山田實（写真家）稲嶺成祚（画家）

コーディネーター：翁長直樹（当館副館長）



安谷屋正義シンポジウムの様子

④「モダニズムを越えて」

日　　時：2011年３月４日（金）19：00～　　場　所：美術館講座室

パネリスト：宮城明（画家・県立芸術大学教授）上原誠勇（画廊経営）

与那覇大智（画家）山城知佳子（映像アーティスト）粟国久直（画家）

コーディネーター：翁長直樹（当館副館長）

（３） 女性美術研究シンポジウム（2012年開催予定展覧会関連催事）

日　　時：2011年10月９日（土）13：30～　　場　所：講堂

テ ー マ：「沖縄から女性美術を考える」

基調講演：「女性の目で見た戦後沖縄」

講師：宮城晴美（沖縄女性史家）

アーティスト・トーク：久場とよ×山元文子、宮良瑛子×中島イソ子

聞き手：崎山律子（フリージャーナリスト）

日本・アジア・沖縄から「女性美術」を考える

「日本の女性画家1930年～1950年代」

講師：小勝禮子（岐阜県立美術館学芸課長）

「アジアの女性アーティスト」

講師：ラワンチャイクン寿子（福岡アジア美術館収集展示係長）

「沖縄の若手アーティスト」

根間智子（美術家）×豊見山愛学芸員

＊映像のみ　山城知佳子（美術家）作品　「沈む声、赤い息」劇場版



久場とよ氏×山元文子

6．ワークショップ

今年度は、常設展の展示内容に関連した講座と共に、映像を題材としたワークショップを開催した。

（1） 2010年６月16～22日「絵本の読み聞かせ」
- ・内　容：儀間比呂志制作の絵本の読み聞かせ
- ・読み聞かせボランティア：山川喜美子（沖縄地域児童文庫連絡協議会事務局長）
- ・対　象：市内保育・幼稚園　園児、来館親子
- ・場　所：館内エントランス、屋外展示民家

（2） 2010年７月３・４日、10・11日「美術館の CM を作ろう」
- ・内　容：映像作品の制作（歴史・制作過程の実践・講評）
- ・講　師：大山健二（映像作家）　比嘉　洋（沖縄映像センター）
- ・対　象：中学生以上
- ・場　所：県民スタジオ


CM 制作の様子

（3） 2011年１月16日（日） ９：30～12：30
「組み合わせから広がる世界　立体コラージュをつくろう」
- ・内　容：箱の中で雑誌や写真を使い奥行きや空間を表現する
- ・講　師：上原秀樹（造形作家）
- ・対　象：小学生～一般（未就学児は保護者同伴にて参加可）
- ・場　所：県民･子供アトリエ

7．教員向けの講座

県内の図工科及び美術科の教員対象に、鑑賞授業についての指導向上や美術館を利用した鑑賞授業の方法などを紹介し、学校現場での教育普及に役立ててもらうことを目的とし開催した。

（1） 日　時：８月12・13日　9：00～17：00　（２日間同内容の講座）
（2） 対　象：県内幼稚園、小中学校、高等学校、特別支援学校
（3） 内容：① 美術館概要・主要活動紹介
② 教育普及活動事業の体験（キュレータートーク、バックヤードツアー）
③ 鑑賞授業（ティーチャーズ・キッド使用による）の実践報告
講師：島筒　格（琉大附属中学校　教諭）

8．アウトリーチ（移動美術館）

「美術室が美術館！」

（1） 期　　間：2010年11月25日（木） ５～６校時　12月７・10日（火・金）
（2） 場　　所：琉球大学教育学部附属中学校、沖縄県立博物館・美術館
（3） 対　　象：全１学年対象
（4） 実施目的
① 収蔵されている作品を実際に学校に持ち込み、生徒の目の前で鑑賞する機会とする
② 「鑑賞授業」を通して、鑑賞活動や言葉よる表現活動から、発想力、想像力、感性などを育成する機会とする
③ 県立美術館と学校との連携を図る機会とする
④ 県内の中学生に沖縄や沖縄ゆかりの美術家を知る機会とする
⑤ 県企画展に興味を持つ


琉球大学教育学部附属中学校での様子

（5） 内　容
① 学校での鑑賞授業(琉球大学教育学部附属中学校：島筒格教諭担当)
② 美術館での鑑賞（担当学芸員による作品解説有）
③ 学校での振り返り学習

９．美術館ガイドブック製作



□美術館ガイドブック「しろいへやのひみつ」

幼児･児童生徒が美術館に興味･関心をいだき、望ましい鑑賞を進めることができる手引き書の作成を目的に、美術館ガイドブック「しろいへやのひみつ」を発行した。

今回発行されたガイドブックは、幼児から小学校低学年の授業での読み聞かせを想定した大型絵本仕様となっており、子供たちには美術館に興味関心を向けさせられるよう、また、指導者には鑑賞の観点から教材化の手がかりになるよう、様々な工夫が施された画期的な内容となっている。

１　タイトル　美術館ガイドブック「しろいへやのひみつ」

２　規　　格　・幼児・児童生徒用本編：４色オフセットカラー印刷　絵本形式　　規格：Ａ３版
・指導書：Ａ５版　２色刷り
・たんけんマップ：Ａ２版折り込み
・電子ブックバージョン（HP にて公開）

３　発行部数　1,000部

４　作成委員会

１）本書の内容、構成等については作成委員会を設置し検討する。

２）作成委員会は、県内の学校及び教育関係者６名と、美術館班の職員で構成する。

美術館ガイドブック作成委員会

西村　貞雄（琉大名誉教授　沖縄県美術教育推進協議会　役員）…… 委員長
玉城　哲人（沖縄女子短期大学　准教授　児童教育科第二部科長）… 副委員長
戸ヶ瀬哲平（沖縄県立島尻特別支援学校　教諭）
小橋川　啓（沖縄県立那覇特別支援学校　教諭）
仲間　亜矢（浦添市立前田小学校　教諭）
金城　美華（浦添市立宮城小学校　教諭）
新里　義和（県立博物館・美術館　主任学芸員）

Ⅳ. 作品収集・保存管理

1．収蔵作品現在高

2011年３月31日現在

分　類	購　入	寄　贈	移　管	寄　託	総　計
平　面	654	2,061	9	319	3,043
立　体	25	85	0	14	124
映　像	20	4	0	0	24
そ の 他	14	6	0	52	72
総　計	713	2,156	9	385	3,263

2．2010（平成22）年度新収蔵作品高

2011年３月31日現在

分　類	購　入	寄　贈	移　管	寄　託	総　計
平　面	28	58	0	229	315
立　体	0	5	0	8	13
映　像	3	1	0	0	4
そ の 他	0	0	0	10	10
総　計	31	64	0	247	342

※ 寄託作品229点のうち111点は、H19・H20・H21年度にかけて、伊藤豊吉氏、サンリース株式会社 伊藤多美子氏、五洋製作所株式会社 伊藤多美子氏より寄託された作品を、一括して寄託手続し直したものである。

3．2010（平成22）年度　新収蔵作品目録

【購入】　2010年４月１日～2011年３月31日

分類		作家名	作品名	制作年	素材・技法	数量
平面	絵画	伊藤　清永	紺地小	1938年	油彩、キャンバス	1
		山元　恵一	林の夢	1952年	フロッタージュ、紙、コンテ	1
		安谷屋正義	壁の詩B	1955年	キャンバス、油彩	1
		安次嶺金正	森	1961年	キャンバス、油彩	1
		大城　精徳	有刺鉄線の島	1961年	キャンバス、油彩	1
		宮城　健盛	湖紋	1968年	キャンバス、油彩	1
		城間　喜宏	無題	1968年	板、アクリル	1
		稲嶺　成祚	B52とカラカラー	1969年	キャンバス、油彩	1
	版画	翁長　自修	無題	1969年	紙、ミメオグラフ（謄写版）	1
	絵画	金城　明一	糸満にて	1982年	キャンバス、油彩	1
		大嶺　實清	無題	不明	板、漆喰	1
		宮良　信成	天心	1970年代	油彩、キャンバス	1
		宮良　信成	舞	1970年代	油彩、キャンバス	1
		石垣　博孝	地平線	1976年	油彩、キャンバス	1
		石垣　博孝	ミカドアゲハ	1978年	油彩、キャンバス	1
		下地　明増	サバニと漁師	1985年	キャンバス、油彩	1
		下地　明増	きびの山	1988年	キャンバス、油彩	1
	写真	山城知佳子	Anyway…	2004年	ラムダプリント エディション1/5	1
	インスタレーション	山城知佳子	オキナワ TOURIST	2004年	DVカム　エディション1/5	1
		山城知佳子	アーサ女（インスタレーションバージョン）	2008年	video　DVカム・写真付き　エディション1/5	1
		山城知佳子	あなたの声は私の喉を通った	2009年	video DV カム エディション1/5	1

平面	写真	石川　直樹	「ARCHIPERAGO」シリーズ 南014_宝島	2009年	Type-C プリント エディション 1/12	1
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」シリーズ 南023_奄美大島	2009年	Type-C プリント エディション 1/12	1
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」シリーズ 南022_奄美大島	2009年	Type-C プリント エディション 1/12	1
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」シリーズ 南032_沖永良部	2009年	Type-C プリント エディション 1/12	1
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」シリーズ 南042-043_与論島	2009年	Type-C プリント エディション 1/12	1
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」シリーズ 南045_与論島	2009年	Type-C プリント エディション 1/12	1
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」シリーズ 071_本島	2009年	Type-C プリント エディション 1/12	1
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」シリーズ 本島i_i 004	2009年	Type-C プリント エディション 1/12	1
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」シリーズ 渡名喜_i 003	2009年	Type-C プリント エディション 1/12	1
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」シリーズ 渡名喜 img002	2009年	Type-C プリント エディション 1/12	1

【寄贈】　　2010年４月１日～2011年３月31日

分類		作家名	作品名	制作年	素材・技法	点数	寄贈者
立体	その他	タカエズ，トシコ	森（黒）	1987年	ストーンウェア	1	タカエズ，トシコ
		タカエズ，トシコ	森（灰）	1987年	ストーンウェア	1	〃
		タカエズ，トシコ	森（黄）	1987年	ストーンウェア	1	〃
平面	絵画	平田　善吉	花	1970～80年代	キャンバス、油彩	1	平田哲生
		平田　善吉	花	1970～80年代	キャンバス、油彩	1	〃
		平田　善吉	根	1970～80年代	キャンバスボード、油彩	1	〃
		平田　善吉	不明	1970～80年代	キャンバスボード、油彩	1	〃
		平田　善吉	花	1970～80年代	キャンバスボード、油彩	1	〃
		平田　善吉	花	1970～80年代	キャンバスボード、油彩	1	〃
		平田　善吉	花	1970～80年代	キャンバスボード、油彩	1	〃
	版画	普天間　敏	島の詩	1969年	石膏版画	1	星　雅彦
		翁長　自修	遠い記憶	不明	紙、ミメオグラフ（謄写版）	1	〃
	絵画	稲嶺　成祚	鳥と人	1979年	キャンバス、油彩	1	〃
		城間　喜宏	饒舌と沈黙	不明	板、石膏など	1	〃
		近藤　良悦	老いたるアダムとイブ	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		近藤　良悦	寒林	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		近藤　良悦	雪の海	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		近藤　良悦	水墨画	不明	紙本墨画	1	〃
		近藤　良悦	水墨画	不明	紙本墨画	1	〃
		近藤　良悦	猫	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		近藤　良悦	自画像　木々を背に	不明	キャンバス、油彩	1	〃

平面	絵画	近藤　良悦	赤の雪山	不明	紙本着彩	1	星　雅彦
		近藤　良悦	われら死すべき運命なりわれらのものもすべても	不明	紙、墨	1	〃
		近藤　良悦	鬼か？　自画像	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		近藤　良悦	太陽と湖（十和田湖）	不明	紙、墨	1	〃
		石垣　博孝	あたま売り	1967年	油彩、キャンバス	1	石垣博孝
		石垣　博孝	布ものがたり	1967年	油彩、キャンバス	1	〃
		石垣　博孝	はんにゃ	1998年	油彩、キャンバス	1	〃
		石垣　博孝	仲間入り	2001～2006年	油彩、キャンバス	1	〃
		下地　明増	さとうきび	不明	キャンバス、油彩	1	下地　文
		下地　明増	さとうきびの束	不明	キャンバス、油彩	1	〃
立体	彫刻	儀保　克幸	はなそめ	2006年	楠に彩色	1	久場とよ
		儀保　克幸	ここにいるわたし	2009年	楠	1	〃
映像	インスタレーション	山城知佳子	「沈む声、赤い息」 ビデオインスタレーション (特別版)	2010年	video（２枚組） エディション1/1 DV カム	1	山城知佳子
平面	写真	石川　直樹	「ARCHIPERAGO」 シリーズ 南036_沖永良部	2009年	顔料系インクジェットプリント エディション1/12	1	石川直樹
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」 シリーズ　悪石島_i 010	2009年	顔料系インクジェットプリント エディション1/12	1	〃
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」 シリーズ　悪石島001	2009年	顔料系インクジェットプリント エディション1/12	1	〃
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」 シリーズ 悪石島_i 011	2009年	顔料系インクジェットプリント エディション1/12	1	〃
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」 シリーズ 南000-001_鹿児島	2009年	顔料系インクジェットプリント エディション1/12	1	〃
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」 シリーズ 宝島_i 009	2009年	顔料系インクジェットプリント エディション1/12	1	〃
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」 シリーズ 南026_徳之島	2009年	顔料系インクジェットプリント エディション1/12	1	〃
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」 シリーズ 南039_沖永良部	2009年	顔料系インクジェットプリント　エディション1/12	1	〃
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」 シリーズ 南049_本島	2009年	顔料系インクジェットプリント エディション1/12	1	〃
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」 シリーズ　南072_本島	2009年	顔料系インクジェットプリント エディション1/12	1	〃
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」 シリーズ 南069_本島	2009年	顔料系インクジェットプリント エディション1/12	1	〃
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」 シリーズ 南050_本島	2009年	顔料系インクジェットプリント エディション1/12	1	〃
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」 シリーズ 渡名喜島_i 003	2009年	顔料系インクジェットプリント エディション1/12	1	〃
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」 シリーズ 渡名喜島_i 007	2009年	顔料系インクジェットプリント エディション1/12	1	〃

平面	写真	石川　直樹	「ARCHIPERAGO」シリーズ 座間味島_i 006	2009年	顔料系インクジェットプリント エディション1/12	1	〃
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」シリーズ 南007_宮古島	2009年	顔料系インクジェットプリント エディション1/12	1	〃
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」シリーズ 南016_石垣島	2009年	顔料系インクジェットプリント エディション1/12	1	〃
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」シリーズ 南013_石垣島	2009年	顔料系インクジェットプリント エディション1/12	1	〃
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」シリーズ 南030_鳩間島	2009年	顔料系インクジェットプリント エディション1/12	1	〃
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」シリーズ 南036_波照間島	2009年	顔料系インクジェットプリント エディション1/12	1	〃
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」シリーズ 南017_西表島	2009年	顔料系インクジェットプリント エディション1/12	1	〃
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」シリーズ 南050_与那国島	2009年	顔料系インクジェットプリント エディション1/12	1	〃
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」シリーズ 09IN_Arch_Kinmonto_02	2009年	顔料系インクジェットプリント エディション1/12	1	〃
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」シリーズ 南064_本島	2009年	顔料系インクジェットプリント　エディション1/12	1	〃
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」シリーズ 南005_座間味	2009年	顔料系インクジェットプリント エディション1/12	1	〃
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」シリーズ 南021_西表島	2009年	顔料系インクジェットプリント エディション1/12	1	〃
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」シリーズ 09IN_Arch_Taiwan_17	2009年	顔料系インクジェットプリント エディション1/12	1	〃
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」シリーズ 南049_与那国島	2009年	顔料系インクジェットプリント エディション1/12	1	〃
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」シリーズ 09IN_Arch_Taiwan_02	2009年	顔料系インクジェットプリント エディション1/12	1	〃
		石川　直樹	「ARCHIPERAGO」シリーズ 渡名喜島	2009年	顔料系インクジェットプリント エディション1/12	1	〃

【寄託】　2010年４月１日～2011年３月31日

分類		作　家　名	作　　品　　名	制作年	素材・技法	点数	提供者
平面	絵画	名渡山　愛順	風景	1959年	キャンバス、油彩	1	松岡　啓
		名渡山　愛順	糸満乙女「稲摺節」	1954年	キャンバス、油彩	1	株式会社 りゅうせき 代表取締役 社長 金城克也
		名渡山　愛順	組踊　二童敵討　「護佐丸」	1961年	キャンバス、油彩	1	〃

平面	絵画	名渡山　愛順	老人踊	1962年	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	組踊　「護佐丸」	1964年	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	里之子	1965年	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	伊野波節	1965年	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	湊くり節	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	諸屯	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	四ッ竹	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	谷茶前	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	女こてい節	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	組踊　花売りの縁　「森川の子」	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	組踊　高平良萬歳敵討	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	琉球の花嫁（古典調）	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	浜千鳥	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	しゅんだう	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	組踊　手水の縁　「波平山戸」	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	組踊　執心鐘入「宿の女」	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	なんだき節	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	宮城クワディーサー	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	太鼓小	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	海のチンボーラー	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	むんじゅる	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	組踊　執心鐘入「中城若松」	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	琉球の舞姫	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	赤田風節	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	紺地絣の女	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	伊野波節	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	胡弓を弾く	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	上り口説	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	汀間当	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	むんじゅる	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	不詳	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	紅型の晴着をつけた琉球の女	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	貫花	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	若衆こてい節	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	琉球の三味線	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	本花風	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	黒朝	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	浜千鳥	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	本嘉手久節の踊子	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	伊野波節	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	銭鳴ひゃー	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	花風	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		名渡山　愛順	木綿花	不明	キャンバス、油彩	1	〃
その他	その他	不　　詳	名渡山愛順資料	不明	スケッチブックに資料を貼付	1	〃
平面	絵画	不　　詳	赤田風節	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		大嶺　政寛	不明	1960年	紙、油彩	1	〃
		久場　とよ	追憶	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		垣花　恵子	山羊のいる島	1990年		1	〃
		砂川　則男	時	1990年		1	〃
		知名　久夫	パラダイス　ロード	1990年		1	〃

平面	絵画	長嶺　斉	子供の領分	1990年		1	〃
		瑞慶山　昇	夜の幻と夢の中でⅡ	1991年		1	〃
		新垣　正一	収穫	1992年		1	〃
		比嘉　正彦	波	1992年		1	〃
		しろま せいゆう	ニライカナイ	1993年		1	〃
		知念　秀幸	南風（ふぇーかじ）A	1993年		1	〃
		高島　彦志	南風の記憶（Ⅰ）	1994年		1	〃
		大城久美子	季･･･夏の黒い花Ⅰ	1994年		1	〃
		よねだ はるひこ	あやつり人形	1995年		1	〃
		古謝　肇	ブルーなドア	1996年		1	〃
		友利　栄作	風防樹林	1997年		1	〃
		具志　恒勇	通り過ぎた風景	1998年		1	〃
		新垣　盛秀	位相への窓	1998年		1	〃
		長浜美佐子	迷夢の記憶	1998年		1	〃
		野津　唯市	毛あしびー	1998年		1	〃
		ウルカ　トム	環（赤）	1999年		1	〃
		池原　優子	筆跡２	1999年	水彩	1	〃
	原画	赤嶺　雅	［communication tool］	1999年７月	デジタル版画：写真・銅版画によるコンピュータ加工プリンター出力、UV カット アクリル使用	1	〃
	絵画	石井　友人	BLOCK NOISE IMAGE (SELF PORTRAIT)	2006年	キャンバス、油彩	1	株式会社 大和プレス 佐藤　辰美
		石井　友人	イメージ　6　（人）	2006年	キャンバス、油彩	1	〃
		石井　友人	Window	2007年	キャンバス、油彩	1	〃
	写真	金氏　徹平	we can see a monster	2003年	Ｃプリント、アルミマウント、額付	1	〃
	絵画	川原　直人	In The Light		キャンバス、油彩	1	〃
		川原　直人	In The Light		キャンバス、油彩	1	〃
		鬼頭　健吾	COSMIC DUST			1	〃
		鬼頭　健吾				1	〃
その他	その他	鬼頭　健吾	MILK		石鹸	1	〃
	ミクストメディア	鬼頭　健吾			ミクストメディア	1	〃
立体	その他	鯉江　良二	泥ing			1	〃
		鯉江　良二	泥ing			1	〃
		鯉江　良二	泥ing			1	〃
		鯉江　良二	ブラボール	1993-94年		1	〃
		鯉江　良二	ブラボール	1993-94年		1	〃
		鯉江　良二	ブラボール	1993-94年		1	〃
		鯉江　良二	ALUMI-AKUOT	1998年		1	〃
		鯉江　良二	ALUMI-AKUOT	1998年		1	〃
		鯉江　良二	ALUMI-AKUOT	1998年		1	〃
		鯉江　良二	ALUMI-AKUOT	1998年		1	〃

平面	絵画	小林　正人	星の絵具		キャンバス、油彩	1	〃
		小柳　　裕	Tuned	2006年	キャンバス、油彩	1	〃
		小柳　　裕	無題	2008年	紙、パステル	1	〃
		坂川　　守	クラリネットポルカ１・２		キャンバス、油彩	1	〃
		笹口　　数	untitled		アクリル樹脂板、カンバス	1	〃
	写真	杉本　博司	U.S. WALKER, NEW YORK, 1978			1	〃
		田口　和奈	黒から白へⅠ～Ⅳ		Ｃタイププリント	1	〃
	絵画	田中　秀和	無題		キャンバス、油彩	1	〃
		田中　秀和	無題		キャンバス、油彩	1	〃
		田中　秀和	無題		キャンバス、油彩	1	〃
		中川　トラヲ	猫はきっといろいろ食べている		キャンバス、油彩	1	〃
		奈良美智+杉戸洋	STUDY　1		キャンバス、油彩	1	〃
		奈良美智+杉戸洋	STUDY　2		キャンバス、油彩	1	〃
		西原　巧織	かおうま（56-１）		キャンバス、油彩	1	〃
	写真	春木　麻衣子	無題		Ｃタイププリント	1	〃
		春木　麻衣子	Easer		Ｃタイププリント	1	〃
	絵画	政田　武史	乗り移られている	2006年	キャンバス、油彩	1	〃
		政田　武史	思いで連鎖	2007年	キャンバス、油彩	1	〃
		政田　武史	池に落とした物の色	2007年	キャンバス、油彩	1	〃
		政田　武史	名前を呼んでいる	2007年	キャンバス、油彩	1	〃
		宮本　隆司	KOBE 1995 After the Earthquake	1995年		1	〃
		宮本　隆司	KOBE 1995 After the Earthquake	1995年		1	〃
	写真	村上　隆	ポリリズム		FRP、田宮模型（GI）	1	〃
	絵画	村上　隆	727	1996年	キャンバス、アクリル	1	〃
		村上　隆	Signboard TAKASHI（1992）			1	〃
		村上　隆	Signboard TAKASHI			1	〃
	写真	森山　大道	Utada Hikaru 20020619			1	〃
		森山　大道	Utada Hikaru 20020619			1	〃
		クリストファー・ウィリアムズ	1964 Renault Dauphine-Four R-10 95…		ゼラチン・シルバー・プリント	1	〃
立体	その他	ゲルハルト・リヒター	直立する５枚のガラス板	2002年	ガラス板、鋼鉄製部品	1	〃
その他	その他	スコット・ハグ&マイケル・マグナン	「BB FTT」,「DVDR」,「C3PO」,「21B」,「FIGHT OR FLIGHT」他２	2005年		1	〃
		パメラ・ローゼンクランツ	Where do we go when we go in for Sports?	2007年	黒く塗装された木製の輪５つ	1	〃
		パメラ・ローゼンクランツ	I almost forgot that ASICS means Anima Sana In Corpore Sano	2007年	スニーカー、石膏、シリコンゴム	1	〃
		パメラ・ローゼンクランツ	I always forget that the Ground means the Contrary of Anima Sana In Corpore Sano	2007年	Ｃタイププリント、ライトボックス	1	〃
平面	写真	ベルント&ヒラ・ベッヒャー	WASSERTURM VERVIERS BELGIEN			1	〃
		ベルント&ヒラ・ベッヒャー	WASSERTURM DUISBURG-MEIDERICH			1	〃
		ベルント&ヒラ・ベッヒャー	WASSERTURM ZECHE CONCORDIA OBERHAUSEN			1	〃
		ベルント&ヒラ・ベッヒャー	WASSERTURM GREENCASTLE PENNSYLVANIA USA			1	〃

平面	その他	ベルント＆ヒラ・ベッヒャー	WASSERTURM KIRKHAMGATE BEI REEDS ENGLAND			1	〃
		ベルント＆ヒラ・ベッヒャー	WASSERTURM VESCHIEBEBAHNHOF MANNHEIM			1	〃
		ミコライ・ポリンスキー	Portrait of Miss M.	2006年	ペインティング7点組(キャンバス、アクリル絵具)、Miss M.の私物7点、段ボール、木枠	1	〃
		ヨーゼフ・ボイス	Meeting of Lady Rosebery, Joseph Beuys and Buckminster Fuller, 1974	1974年		1	〃
		ヨーゼフ・ボイス				1	〃
		ヨーゼフ・ボイス	Galerie Ilverich			1	〃
		ヨーゼフ・ボイス	Organisation der Nichtwähler, Freie Volksabstimmung			1	〃
		孫　本長	黄土高原01	不明	絹本／墨彩色	1	五洋製作所株式会社伊藤多美子
	絵画	孫　本長	黄土高原02	不明	絹本／墨彩色	1	〃
		孫　本長	黄土高原03	不明	絹本／墨彩色	1	〃
		孫　本長	黄土高原04	不明	絹本／墨彩色	1	〃
		孫　本長	黄土高原05	不明	絹本／墨彩色	1	〃
		孫　本長	黄土高原06	不明	絹本／墨彩色	1	〃
		孫　本長	黄土高原07	不明	絹本／墨彩色	1	〃
		孫　本長	黄土高原08	不明	絹本／墨彩色	1	〃
		孫　本長	黄土高原09	不明	絹本／墨彩色	1	〃
		孫　本長	黄土高原10	不明	絹本／墨彩色	1	〃
		孫　本長	黄土高原11	不明	絹本／墨彩色	1	〃
		孫　本長	黄土高原12	不明	絹本／墨彩色	1	〃
		孫　本長	黄土高原13	不明	絹本／墨彩色	1	〃
		孫　本長	黄土高原14	不明	絹本／墨彩色	1	〃
		孫　本長	黄土高原15	不明	絹本／墨彩色	1	〃
		孫　本長	黄土高原16	不明	絹本／墨彩色	1	〃
		孫　本長	黄土高原17	不明	絹本／墨彩色	1	〃
		孫　本長	黄土高原18	不明	絹本／墨彩色	1	〃
		孫　本長	黄土高原19	不明	絹本／墨彩色	1	〃
		孫　本長	黄土高原20	不明	絹本／墨彩色	1	〃
		孫　本長	黄土高原21	不明	絹本／墨彩色	1	〃
		孫　本長	黄土高原22	不明	絹本／墨彩色	1	〃
		孫　本長	黄土高原23	不明	絹本／墨彩色	1	〃
		孫　本長	黄土高原24	不明	絹本／墨彩色	1	〃
		孫　本長	黄土高原25	不明	絹本／墨彩色	1	〃
		孫　本長	黄土高原26	不明	絹本／墨彩色	1	〃
		孫　本長	黄土高原27	不明	絹本／墨彩色	1	〃
		孫　本長	黄土高原28	不明	絹本／墨彩色	1	〃
		孫　本長	黄土高原29	不明	絹本／墨彩色	1	〃
		孫　本長	黄土高原30	不明	絹本／墨彩色	1	〃
		孫　本長	黄土高原31	不明	絹本／墨彩色	1	〃
		孫　本長	黄土高原32	不明	絹本／墨彩色	1	〃

平面	絵画	孫　本長	黄土高原33	不明	絹本、墨彩色	1	〃
		BUINGOC TU	The Girl and Fish	不明	漆絵	1	伊藤　豊吉、伊藤多美子
		CHAROON BOONSUAN	不明	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		Nguyen Truong Linh	不明	不明	漆絵	1	〃
		Nguyen Truong Linh	不明	不明	漆絵	1	〃
		Nguyen Truong Linh	不明	不明	漆絵	1	〃
		BUI XUAN PHAI	不明	1980年	キャンバスに油彩	1	サンリース株式会社伊藤多美子
		BUI XUAN PHAI	不明	不明	キャンバスに油彩	1	〃
		Dan Nguyen Tran	不明	不明	板に漆	1	〃
		Dan Nguyen Tran	不明	不明	板に漆	1	〃
		Dan Nguyen Tran	不明	不明	板に漆	1	〃
		Dang Xuan Long	不明	不明	板に漆	1	〃
		Hoi dat Viet	Hoi dat Viet	1999年	板に漆	1	〃
		Le Thanh Tri	不明	1995年	板に漆	1	〃
	版画	LETOAN	不明	不明	紙、版画	1	〃
		LETOAN	不明	不明	紙、版画	1	〃
	その他	Lung	不明	不明	ポスター	1	〃
	絵画	M.NEWBNBG	不明	不明	紙、水彩	1	〃
		NIOA	不明	不明	紙、水彩	1	〃
		Pham Hoang Vah	不明	1998年	板に漆	1	〃
		PICHAI NIRAND	不明	1995年	キャンバスに油彩	1	〃
		PICHAI NIRAND	不明	不明	キャンバスに油彩	1	〃
		PICHAI NIRAND	不明	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		PICHAI NIRAND	不明	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		Pratuang Emjaroen	不明	不明	キャンバスに油彩	1	〃
		Pratuang Emjaroen	不明	不明	キャンバスに油彩	1	〃
		SANGAD PUI-OK	不明	不明	キャンバスに油彩	1	〃
		SAWASDI TANTISUK	WINDSWEPT FIELD	1985年	キャンバスに油彩	1	〃

平面	版画	SULAPOL SANKUM	軒先２（仮題）	1992年	紙に水彩	1	〃
		SULAPOL SANKUM	軒先２（仮題）	不明	紙に水彩	1	〃
		TU DUYEN	不明	1995年	紙に木版（彩色）	1	〃
		TU DUYEN	不明	1995年	紙に木版（彩色）	1	〃
		TU DUYEN	不明	1997年	紙に木版（彩色）	1	〃
		TU DUYEN	不明	不明	紙に木版（彩色）	1	〃
		TU DYEN	不明	不明	絹本着色	1	〃
	絵画	Tuong Quang	不明	1991年	板に漆	1	〃
		Tuong Quang	不明	1998年	板に漆	1	〃
		Yim	不明	不明	紙、水彩	1	〃
		Yim	不明	不明	紙、素描	1	〃
		グエン・カン	科挙行列	1943年	漆、板	1	〃
		グエン・カン	白馬	不明	漆、板	1	〃
		グエン･ティエン･チュオン	トータム遊びをする女性	1968年	漆、板	1	〃
		タイン,チュオン	不明	1995年	板に油彩	1	〃
		タイン,チュオン	『僕と僕』のための習作	1997年	板に油彩	1	〃
		タイン,チュオン	『僕と僕』のための習作	1997年	板に油彩	1	〃
		タイン,チュオン	『僕と僕』のための習作	1997年	板に油彩	1	〃
		タイン,チュオン	『僕と僕』のための習作	1997年	板に油彩	1	〃
		タイン,チュオン	『僕と僕』のための習作	1997年	板に油彩	1	〃
		タイン,チュオン	『僕と僕』のための習作	1997年	板に油彩	1	〃
		タイン,チュオン	『僕と僕』のための習作	不明	板に油彩	1	〃
		タイン,チュオン	不明	1997年	板に油彩	1	〃
		タイン,チュオン	不明	1998年	板に漆	1	〃
		タイン,チュオン	不明	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		パタヤン	不明	1974年	キャンバス／油彩	1	〃
		リン・チー	不明	1971年	絹に水彩	1	〃
		リン・チー	不明	1990年	絹に水彩	1	〃
		リン・チー	不明	不明	絹に水彩	1	〃
		リン・チー	不明	不明	絹に水彩	1	〃
		リン・チー	不明	不明	絹に水彩	1	〃
		リン・チー	不明	不明	絹本／彩色	1	〃
		リン・チー	Meo den sapa	不明	絹本／彩色	1	〃
		レー・スワン・チエウ	祭礼	1999年	漆、板	1	〃
		レー・タイン・チー	水上市場	1997年	漆、板	1	〃
		不　明	女学校（識字教室）	不明	漆、板	1	〃
		〃	不明	1949年	キャンバスに油彩	1	〃
		〃	不明	1986年	板に漆	1	〃
		〃	不明	不明	板に漆	1	〃
		〃	不明	不明	板に漆	1	〃
		〃	不明	不明	板に漆	1	〃
		〃	不明	不明	キャンバスに油彩	1	〃
		〃	不明	不明	紙に水彩	1	〃
		〃	不明	不明	紙に水彩	1	〃
		〃	不明	不明	紙に水彩	1	〃
		〃	不明	不明	紙に水彩	1	〃

平面	版画	不　明	不明	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		〃	不明	不明	キャンバス、油彩	1	〃
		不　明	不明	不明	紙、版画	1	〃
その他	その他	不　明	不明	不明	版木	1	〃
		〃	不明	不明	版木	1	〃

4．作品収集事業

本美術館は、県民に多様な芸術鑑賞の機会や創造性を高める場を提供し、地域の芸術文化の拠点となると同時に、芸術文化活動を通じて、アジア地域や沖縄の発展に貢献する国際化の拠点となることを目的としている。収集事業は、本県独自で個性あるコレクションを形成するために不可欠な事業である。

平成21年度は２回の収集委員会を開催し、コレクションの核となる県内作家の作品や、アメリカを代表する陶芸作家の一人である、県系二世のタカエズ・トシコ氏の作品、国内外の現代作家58人の127点の作品、アジアの現代美術の作品など、290点（購入39点、寄贈119点、寄託132点）を収集した。いずれも、充実した展示活動を行う上で重要な作品である。

（瑞慶山　昇）

5．保存管理業務

1）保存環境の整備

年に２回の全館燻蒸、部分燻蒸を行い、毎月保存環境調査（IPM モニタリング）を実施し、また毎週一度、展示室内、収蔵庫内の温度湿度管理を行っている。

2）収蔵作品並びに展覧会出品作品の保存修復（洗浄を含む）

収蔵作品の修復、並びに美術館企画展「安谷屋正義展」（会期：2011年１月19日～３月13日）の展示作品、油絵71点に展示のための応急的な修復処置を行った。

①　収蔵作品修復

絵画保存修復：中井久代

2011年１月７日～３月23日

大嶺　政寛　　「龍潭池畔」　　（1943年、キャンバス、油彩）　800×995 mm

～修復前の状態～

支持体は中目の亜麻布キャンバス。絵具の厚塗りによるキャンバスの変形が見られた。透過光で裏面を見ると、深い亀や剥落箇所に沿ってキャンバスが透けている。キャンバスの張りしろ部分に裂けや生地の欠損。画面右下方に小さな穴。側面タックス（釘）の錆。裏面、木枠、キャンバスと木枠の隙間に著しく埃、汚れの付着。

～修復処置概要～

①剥落止め　②木枠の取り外し　③裏面清掃　④殺菌　⑤変形修正　⑥画面洗浄（３回）　⑦キャンバス穴の補修　⑧ストリップ・ライニング　⑨ルース・ライニング　⑩木枠張り込み　⑪ワニス塗布　⑫欠損箇所の充填・整形　⑬補彩　⑭ワニス塗布

② 安谷屋正義展展示作品修復リスト
作業期間：2010年７月８日～10月15日
スタッフ：中井久代、仲村美奈子、大城彩美、山城　芽

	作　品　名	素材・技法	制作年	外寸法（縦×横×厚mm）	修復処置作業
1	プロムナード	キャンバス、油彩	1958年	768×540×30	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。剥落止め。
2	珊瑚礁の海	キャンバス、油彩	1959年	690×1040×30	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。剥落止め。ワニスの除去。
3	街（C）	キャンバス、油彩	1967年	835×1215×30	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。剥落止め。
4	街（A）	キャンバス、油彩	1967年	845×1205×30	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。剥落止め。
5	街（B）	キャンバス、油彩	1967年	930×1340×30	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。剥落止め。
6	檣頭	キャンバス、油彩	1959年	1345×1015×30	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。
7	厨子甕（赤）（裏書：「厨子甕」「赤い厨子甕」）	キャンバス、油彩	1954年	1145×1475×40	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。剥落止め。
8	誘導路	キャンバス、油彩	1964年	955×2075×30	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。
9	復興	キャンバス、油彩	1957年	650×950×30	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。剥落した絵具片の接着。キャンバスの変形修正。
10	柵	キャンバス、油彩	1966年	650×950×30	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。ワニス除去。剥落止め。
11	孤影	キャンバス、油彩	1958年	690×1045×30	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。剥落止め。
12	木のある風景	キャンバス、油彩	1950年	865×765×55	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。剥落止め。
13	建設	キャンバス、油彩	1957年	950×670×80	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。ワニス除去。剥落止め。変形修正。
14	野	キャンバス、油彩	1964年	650×950×30	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。
15	基地（裏書に「野の塔」）	キャンバス、油彩	1964年	640×940×30	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。
16	玉那覇正吉氏像	キャンバス、油彩	1950年	1020×770×60	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。ワニス除去、新しいワニスの塗布。
17	かんな	キャンバス、油彩	1951年	690×700×45	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。
18	町角	キャンバス、油彩	1966年	770×1040×30	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。
19	古城	キャンバス、油彩	1966年	770×950×30	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。ワニス除去。
20	春の海	キャンバス、油彩	1963年	690×1040×30	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。ワニス除去。
21	無想	キャンバス、油彩	1967年	700×1050×35	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。剥落止め。ワニス除去。
22	壁の詩（C）	キャンバス、油彩	1966年	680×830×30	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。ワニス除去。剥落止め。
23	道	キャンバス、油彩	1966年	635×755×33	裏面清掃、殺菌。剥落止め。画面洗浄。
24	古習	キャンバス、油彩	1966年	630×750×30	裏面清掃、殺菌。剥落止め。画面洗浄。
25	陶器之静物	キャンバス、油彩	1954年	680×800×55	裏面清掃、殺菌。剥落止め。画面洗浄。
26	まち習作B	キャンバス、油彩	1966年	525×755×35	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。
27	基地の周辺	キャンバス、油彩	1966年	630×940×35	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。
28	（タイトル不明）	キャンバス、油彩	－	602×470×50	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。

29	港（習作Ⅳ）	キャンバス、油彩	1966年	375×455×55	裏面清掃、殺菌。面洗浄。
30	りんご（D）	ボード、油彩	1953年	355×425×55	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。 剥落止め。
31	壁の詩A	キャンバス、油彩	1966年	560×833×34	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。
32	水影	キャンバス、油彩	1959年	696×1046×30	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。
33	コンポジション（習作2）	キャンバス、油彩	1956年	770×544×32	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。
34	鉄骨（B）	キャンバス、油彩	1956年	770×540×32	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。 剥落止め。
35	港（習作Ⅰ）	キャンバス、油彩	1966年	570×870×70	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。
36	港（習作Ⅱ）	キャンバス、油彩	1966年	531×947×63	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。
37	基地（習作）	キャンバス、油彩	1966年	633×960×50	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。 亀裂の背接着。
38	街	キャンバス、油彩	1961年	794×1156×80	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。
39	航跡	キャンバス、油彩	1960年	950×768×32	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。 剥落止め。ワニス除去。
40	花（菊）	キャンバス、油彩	1967年	847×726×55	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。 剥落止め。変形修正。補彩。
41	鳥	キャンバス、油彩	1966年	770×1043×33	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。
42	出航（眠れる港）	キャンバス、油彩	1963年	692×1042×30	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。 ワニス除去。
43	父の像	キャンバス、油彩	1951年	690×613×50	裏面清掃、殺菌。剥落止め。 画面洗浄。ワニス除去。
44	母の像	キャンバス、油彩	1951年	687×610×50	裏面清掃、殺菌。剥落止め。 画面洗浄。
45	港（習作Ⅱ）	キャンバス、油彩	1966年	528×790×65	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。
46	暁	キャンバス、油彩	1960年	566×947×32	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。 剥落止め。
47	ジングルベルの頃	キャンバス、油彩、 クレヨン	1966年	910×606×35	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。
48	（タイトル不明）	キャンバス、油彩	－	455×652×35	裏面清掃、殺菌。剥落止め。 画面洗浄。
49	（タイトル不明）	キャンバス、油彩	－	650×805×35	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。
50	首里風景（Ⅰ）	ボード、油彩	1951年	520×600×４	裏面清掃、殺菌。剥落止め。 画面洗浄。
51	花（カーネーション）	キャンバス、油彩	1967年	487×623×40	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。 剥落止め。
52	首里城趾を望む（首里 高校の見える風景）	ボード、油彩	1949年	379×288×５	裏面清掃、殺菌。剥落止め。画面洗浄。 ワニス除去。新しいワニスの塗布。補彩。
53	自画像	キャンバス、油彩	1949年	600×497×50	裏面清掃、殺菌。剥落止め。画面洗浄。 ワニス除去。新しいワニスの塗布。
54	節子像（Ⅱ）	キャンバス、油彩	1967年	610×487×45	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。
55	節子像（Ⅰ）	ボード、油彩	1949年	600×498×５	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。 ワニスの塗布。
56	海（日の出の海）	ボード、油彩	1954年	561×637×６	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。ワ ニス除去、新しいワニスの塗布。
57	父	キャンバス、油彩	1948年	692×612×50	裏面清掃、殺菌。剥落止め。 画面洗浄。ワニス除去。 新しいワニスの塗布。 充填、補彩。

58	仮像	油彩、キャンバス	1957年	744×1014×70	裏面清掃、殺菌。剥落止め。 画面洗浄。ワニス除去。
59	１時５分前	油彩、キャンバス	1951年	1452×1045×80	裏面清掃、殺菌。剥落止め。 画面洗浄。
60	石壁の家	油彩、キャンバス	1954年	954×1212×40	裏面清掃、殺菌。剥落止め。 画面洗浄。
61	厨子甕（白）	油彩、キャンバス	1954年	1150×970×45	裏面清掃、殺菌。剥落止め。 画面洗浄。
62	起重機	油彩、キャンバス	1956年	1012×1345×32	裏面清掃、殺菌。剥落止め。 画面洗浄。
63	柵	油彩、キャンバス	1956年	1028×1358×47	裏面清掃、殺菌。剥落止め。 画面洗浄。
64	新世紀	油彩、キャンバス	1956年	680×565×31	裏面清掃、殺菌。剥落止め。 画面洗浄。
65	城門	油彩、キャンバス	1959年	805×576×35	画面洗浄。裏面彩色の剥落止め。 裏面洗浄。
66	帰り途	油彩、キャンバス	1962年	692×1045×35	裏面清掃、殺菌。剥落止め。 画面洗浄。
67	野火	油彩、キャンバス	1965年	768×1210×38	裏面清掃、殺菌。剥落止め。第一次画面洗浄。第二次画面洗浄。
68	爆音	油彩、キャンバス	1965年	769×1270×55	裏面清掃、殺菌。剥落止め。 画面洗浄。ワニス除去。
69	中城より西原望む	ボード、油彩	1950年	598×701×５	裏面清掃、殺菌。剥落止め。画面洗浄。付着物の除去。ワニス除去。新しいワニスの塗布。
70	港	油彩、キャンバス	1960年	650×1000	裏面清掃、殺菌。剥落止め。 画面洗浄。ワニス除去。
71	壁の詩B	キャンバス、油彩	1966年	650×800×35	裏面清掃、殺菌。画面洗浄。

３）収蔵作品の状態調査

専門の絵画修復家に収蔵作品の状態調査を依頼した。

絵画保存修復：中井久代

2011年１月７日～３月23日

保存状態総合評価　◎良好○要観察●要保存修復処置

点数	作　家　名	作　品　名	状　態	処　置　提　案
1	大嶺　政寛	風景シリーズ１	●	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧
2	大嶺　政寛	風景シリーズ２	●	③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧
3	大嶺　政寛	沖縄の墓シリーズ１	●	③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧
4	大嶺　政寛	沖縄の墓シリーズ２	●	③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧
5	大嶺　政寛	沖縄の墓シリーズ３	●	③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧
6	大嶺　政寛	沖縄の墓シリーズ４	●	③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧
7	大嶺　政寛	沖縄の墓シリーズ５	●	③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧
8	大嶺　政寛	真玉橋	●	③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧
9	大嶺　政寛	中城御殿　正門	●	③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧
10	大嶺　政寛	漏刻門	●	③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧
11	大嶺　政寛	南ヌ窯	●	③ ④ ⑨ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧
12	大嶺　政寛	歓会門	●	③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧
13	大嶺　政寛	緑樹	●	③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧
14	大嶺　政寛	沖縄の花	●	③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧
15	大嶺　政寛	沖縄の石橋	●	③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧
16	大嶺　政寛	尚子像	●	③ ④ ⑨ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧
17	大嶺　政寛	崇元寺　石門	●	③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧
18	大嶺　政寛	石門	●	③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧
19	大嶺　政寛	静物	●	③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

①　キャンバスの繕い　　②　変形修正　　③　剥落止め

④　画面洗浄＋裏面清掃　　⑤　キャンバスの木枠張り込み　　⑥　充填・整形

⑦　補彩　　⑧　ワニス塗布　　⑨　ワニス除去

4）収蔵作品の額装

館内コレクションギャラリーでの展示ならびに企画展覧会出品の作品のマウントのない作品のマットおよび額を新調した。

喜村朝貞コラージュ作品21点　マウント作成（大衣サイズ）
安谷屋正義展水彩画作品28点　マウント、額装／「塔」エスキース　13点　マウント、額装（大衣サイズ）
マット色：クリーム　　額サイズ：大衣（394×509mm）　　本紙サイズ

No	作　品　名	マウント窓（短辺×長辺mm）	内寸法_縦×横
1	船　エスキース	242×340	252×358
2	古習　エスキース	236×345	253×360
3	壁の詩　エスキース	230×344	253×360
4	エスキース	214×290	222×294
5	エスキース	230×352	240×362
6	エスキース	158×240	164×250
7	船　エスキース	230×325	240×336
8	船　エスキース	232×344	262×378
9	鳥　エスキース	235×345	254×356
10	岸壁　エスキース	235×365	250×378
11	港　エスキース	236×347	254×360
12	収容所　エスキース	207×300	220×314
13	航跡　エスキース	223×345	254×358
14	エッチング2	157×247	320×250
15	野　エスキース	237×344	253×360
16	檣頭　エスキース	229×345	360×254
17	野　エスキース	226×345	250×354
18	航跡　エスキース	235×308	318×254
19	エスキース	228×344	256×358
20	遠い街　エスキース	214×290	222×300
21	素描２	229×345	356×252
22	素描１	230×345	356×252
23	苑　エスキース	238×345	254×360
24	エスキース	238×348	254×360
25	孤影　エスキース	235×340	257×360
26	エスキース	243×350	253×360
27	エスキース	230×347	262×354
28	廃船　エスキース	158×242	164×250

安谷屋正義展油彩画作品７点　額装

	作　品　名	キャンパスサイズ(mm)	額サイズ(mm)	額装
1	（タイトル不明）	652×455	655×462	白マット額
2	ジングルベルの頃	910×606	905×610	白マット額
3	鉄骨（B）	727×500	732×508	白マット額
4	花（菊）	652×530	655×535	白マット額
5	（タイトル不明）	410×242	412×273	白マット額
6	首里城趾を望む（首里高校の見える風景）	379×288	380×300	金縁（入子あり）
7	りんご（D）	227×158	232×160	金縁（入子あり）

安谷屋正義展油彩画作品７点　額装

	作　品　名	キャンパスサイズ(mm)	額サイズ(mm)	額装
1	（タイトル不明）	652×455	655×462	白マット額
2	ジングルベルの頃	910×606	905×610	白マット額
3	鉄骨（B）	727×500	732×508	白マット額
4	花（菊）	652×530	655×535	白マット額
5	（タイトル不明）	410×242	412×273	白マット額
6	首里城趾を望む（首里高校の見える風景）	379×288	380×300	金縁（入子あり）
7	りんご（D）	227×158	232×160	金縁（入子あり）

6．作品貸出

2010年度は、下記のとおり１件２点の作品を他館での展示のために貸出した。

展覧会名：DAIWA PRESS VIEWING ROOM vol.12
会　　場：大和プレスビューイングルーム
借用期間：2010年10月８日～2011年２月10日

作家名	作 品 名	制作年	技　法　素　材	サイズ（cm）	ジャンル
八谷和彦	メーヴェ 1/4	2003年	模型用エンジン、FRP、バルサ、発泡材など	84.0×220.0	その他
村上　隆	ポリリズム		FRP　田宮模型（GI）	69.7×63.7×79.0	平面

＊寄託作品（大和コレクション）

文化の杜共同企業体
（指定管理者）

Ⅰ　文化の杜共同企業体概要
Ⅱ　運営方針
Ⅲ　組織
Ⅳ　文化の杜共同企業体・美術館
　　企画アドバイザー会議
Ⅴ　展示活動
Ⅵ　教育・イベント活動
Ⅶ　広報・交流事業
Ⅷ　調査・研究等の活動
Ⅸ　その他

Ⅰ．文化の杜共同企業体概要

沖縄県立博物館・美術館の管理・運営には、開館した2007年（平成19）11月１日から指定管理者の文化の杜共同企業体（代表・平良知二、通称「文化の杜」）があたっている。

文化の杜共同企業体は、㈱沖縄文化の杜（代表取締役社長・平良知二）、㈱沖縄タイムス社（代表取締役社長・豊平良考）、㈱国際ビル産業（代表取締役社長・井上宏）の３社で構成。出資比率は代表者の㈱沖縄文化の杜が８割、㈱沖縄タイムス社と㈱国際ビル産業がそれぞれ１割となっている。㈱沖縄文化の杜は文化事業等を企画・展開し、シンクタンク的な役割も兼ねる会社として2007年１月に㈱沖縄タイムス社の100％出資で設立した。㈱沖縄タイムス社は新聞社として1948年７月の創立、常に県民の立場に立って沖縄の言論界をリードしつつ戦後沖縄の文化振興の一翼を担ってきた。㈱国際ビル産業は1966年に設立され、県内の文化施設やホテル、病院等の管理を行い、衛生・設備管理や警備などで実績がある。

この３社が連携して立ち上げた文化の杜共同企業体は、それぞれの得意分野を生かし、沖縄県立博物館・美術館の管理・運営にあたっている。開館からの指定管理者の期限は2011年３月31日まで。

Ⅱ．運営方針

館の管理・運営にあたっては沖縄県立博物館・美術館の設置目的および基本方針、管理規則等に基づき、博物館・美術館という複合施設としての利点を生かし、県民はもとより国内外からの来館者が満足していただくよう、公正・公平で開かれた館運営に努めている。

日本博物館協会は21世紀にふさわしい博物館の新しい理念として「対話と連携」を提唱し、これを管理運営の中心に据えることが博物館の機能を向上させ、生涯学習時代の要請に応えていく道であるとしている。文化の杜においてもこのような精神に基づき、「県民主体」をモットーに、いつでも、誰でも気軽に利用できる施設を目指している。加えて、県民が愛着の持てる、県民による県民のための博物館・美術館を目指し、①沖縄の文化振興の拠点施設とする②「沖縄ルネサンス」を創出する人材育成の拠点化③アジア・海外との交流・連携の促進④沖縄ブランドの確立⑤県民ぐるみの取り組みの推進―の５つの管理運営方針を掲げてきた（下記参照）。

2010年度は沖縄県立博物館・美術館の第一期目の指定管理者として、文化の杜が館を管理・運営する最終年度であった。過去の実績と蓄積したノウハウを存分に発揮し、博物館班や美術館班と緊密に連携し、文化の杜共同企業体が美術館企画ギャラリーで主催する年４つの企画展と博物館班や美術館班が主催する企画展や特別展、沖縄県主催の沖縄県芸術文化祭等をスムーズに展開・運営する方針で臨み、成功を収めた。

沖縄の文化振興の拠点施設とする

沖縄県の芸術文化に関する最先端の情報が集積する場であり、かつその情報を離島地域を含めて、県内外に発信する拠点施設とする。

「沖縄ルネサンス」を創出する人材育成の拠点化

県民が沖縄・琉球の歴史文化を学び知識と愛着を育み、それらを生かして「沖縄ルネサンス」を創出する人材を育てる場とする。常に県内外の博物館・美術館と交流し、県内の類似施設とも連携を強化してお互いの役割を最大限発揮できるように取り組む。活動のプロセスそのものを人材育成にも結びつける。

アジア地域との交流・連携の促進

かつて交易国家として繁栄し、近代には多くの海外移住者を輩出した本県の歴史を踏まえ、アジア近隣地域や中南米など海外のウチナーンチュとの交流・連携を積極的に進める。「アジアの中の沖縄」の観点に立ち、東京経由ではない独自のネットワークを構築し、地元企業の強みを生かして「沖縄の個性」を発揮することに努める。

沖縄ブランドの確立

各種企画や事業、教育普及活動を通して、沖縄ブランドを育成、発展させる拠点とする。観光立県沖縄の魅力ある観光資源としての役割を担い、最新情報の発信により沖縄の魅力を広く内外にPRする。

県民ぐるみの取り組み推進

「県民主役」を基本とし、県民による新しい文化創造を目指す。「県民の視点」を基本に「県民ぐるみ」の取り組みで、環境対策にも積極的に対応するほか地域との連携、県民参加のあり方を工夫し教育普及活動を

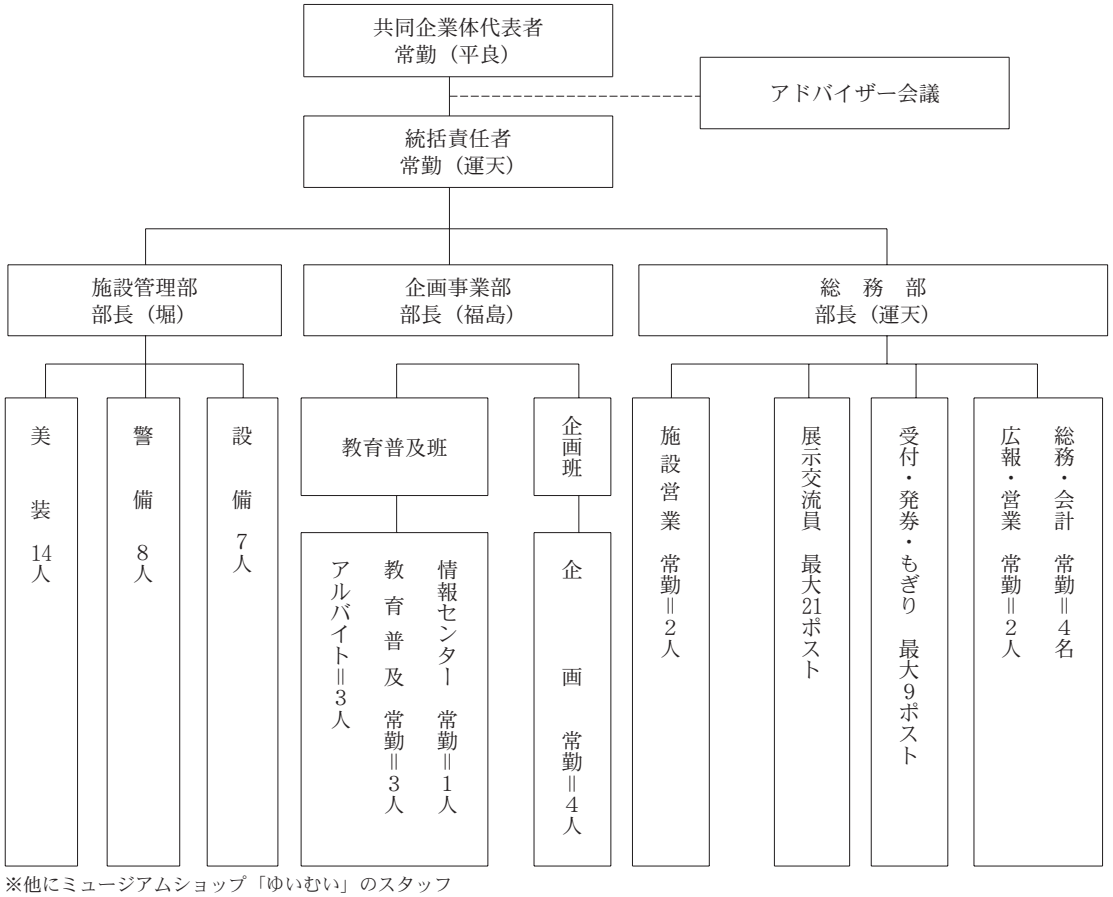
積極的に推進する。

日本博物館協会は21世紀にふさわしい博物館の新しい理念として「対話と連携」を提唱し、これを管理運営の中心に据えることが博物館の機能を向上させ、生涯学習時代の要請に応えていく道であるとしている。文化の杜においてもこの精神に基づき、「県民主体」をモットーとして、いつでも、誰でも気軽に利用できる施設を目指し、県民に開かれた公正・公平な運営を指針としている。

Ⅲ. 組織

文化の杜共同企業体は、平良知二代表の下、運天寛栄統括責任者を現場責任者に、総務部、企画事業部（企画、教育普及の２班で構成)、施設管理部（警備班、設備班、美装班の３班で構成）の３部制で県立博物館・美術館を管理・運営している。

また、外部有識者の助言機関として指定管理者に決まった2007年秋から、企画展実施等について助言・指導していただくアドバイザー会議を設置している。



※他にミュージアムショップ「ゆいむい」のスタッフ
※他にカフェのスタッフ（業務委託）

【職員構成】　　2010年４月１日現在

班	氏　名	担　当　業　務
代　表	平　良　知　二	共同企業体の統括に関すること
統　括	運　天　寛　栄	指定管理業務の統括、総務全般、県や博物館・美術館との現場調整に関すること
総　務　班	平　良　亜希子	共同企業体予算管理、人事管理（発券、総合案内、展示交流員等）に関すること
	仲　程　香　野	総務全般、企画・受注事業等に関すること、広報に関すること
	島　袋　百　恵	総務補助、クーポン券やその他総務全般に関すること
	金　城　正　仁	営業、広報に関すること
	喜　納　春　樹	企画、施設貸出に関すること
	宮　里　宗　彦	施設管理、県民ギャラリーに関すること
教育普及班	福　島　輝　一	教育普及の総括に関すること
	中　村　　愛	教育普及（博物館業務）に関すること
	町　田　恵　美	教育普及（美術館業務）に関すること
	川　平　優　樹	教育普及業務の補助
	玉　城　淳　子	情報センターの管理・運営に関すること
	渡　部　貴　子	ふれあい体験室、教育普及に関すること
企画事業班	福　島　輝　一（兼任）	企画事業の総括に関すること
	謝　花　佐和子	企画展、受託業務、自主事業に関すること
	金　城　美奈子	企画展、受託業務、自主事業に関すること
	仲　里　なぎさ	企画展、受託業務、自主事業に関すること
	國　吉　貴　奈	企画展、受託業務、自主事業に関すること
施設管理班	堀　　末　治	施設管理全般の統括に関すること
	友　知　政　行	警備の統括に関すること
	上　地　克　己	設備の統括に関すること
	與那嶺　裕　哉	清掃の統括に関すること
総合案内・発券・もぎり		来館者に対する諸対応、発券業務、観覧券のもぎりに関すること
展　示　交　流　員		展示室における監視、誘導、解説等に関すること

【人事異動】　　2011年３月31日現在

部　署	氏　名	適　用
転入		
施設管理	榮　山　晃　平	国際ビル産業（2010年６月１日）
統括	上　地　兼　恵	沖縄タイムス社（2010年７月１日）
施設管理	仲村渠　　司	国際ビル産業（2010年10月18日）
教育普及	大　濱　萌　子	採用（2011年３月１日）
転出		
施設管理	與那嶺　裕　哉	国際ビル産業（2010年５月31日）
教育普及・企画事業	福　島　輝　一	沖縄タイムス社（2010年６月27日）
統括	運　天　寛　栄	沖縄タイムス社（2010年６月30日）
退職		
施設管理	宜　保　　暁	2010年10月31日付
教育普及	川　平　優　樹	2010年12月31日付

Ⅳ. 文化の杜共同企業体・美術館企画アドバイザー会議

指定管理者が行う企画展４本と関連事業についての助言や指導をしていただくために、外部有識者５人をアドバイザーとして、毎月一回程度実施した。前年度に引き続き、オブザーバーとして翁長直樹副館長が参加した。

2010年度の委員は、次の通りである。

文化の杜共同企業体・美術館企画アドバイザー名簿（2010年４月１日～2011年３月31日）

氏　名		所　属	職　名
学識経験者	安　里　　進	沖縄県立芸術大学	教授
美術館運営者	大　田　和　人	キャンプタルガニー	主
美術館学芸員	岡　本　亜　紀	浦添市美術館	学芸員
学識経験者	田　中　睦　治	沖縄県立芸術大学	教授
学識経験者	西　村　貞　雄	琉球大学	名誉教授
オブザーバー	翁　長　直　樹	沖縄県立博物館・美術館	副館長兼班長

開催日

回	月　日	時　間	場　所	出席者
第33回	４月27日（火）	18：00～19：30	特別会議室	安里進、大田和人、岡本亜紀、田中睦治、西村貞雄、翁長直樹副館長
第34回	５月27日（木）	18：00～19：30	博物館講座室	大田和人、岡本亜紀、田中睦治、西村貞雄、翁長直樹副館長
第35回	６月25日（金）	18：00～19：30	特別会議室	安里進、大田和人、岡本亜紀、田中睦治、西村貞雄、翁長直樹副館長
第36回	７月28日（水）	18：00～19：30	博物館講座室	安里進、大田和人、岡本亜紀、田中睦治、西村貞雄
第37回	８月18日（水）	18：00～19：30	特別会議室	安里進、大田和人、岡本亜紀、田中睦治、西村貞雄、（県民キューレーター）國吉宏昭、三嶋啓二、大湾聡
第38回	９月29日（水）	18：00～19：30	特別会議室	大田和人、岡本亜紀、田中睦治、西村貞雄
第39回	10月27日（水）	18：00～19：30	特別会議室	安里進、大田和人、岡本亜紀、田中睦治、西村貞雄
第40回	12月1日（水）	18：00～19：30	特別会議室	安里進、大田和人、岡本亜紀、西村貞雄
第41回	１月19日（水）	18：00～19：30	特別会議室	安里進、大田和人、岡本亜紀、西村貞雄
第42回	２月23日（水）	18：00～19：30	特別会議室	安里進、大田和人、岡本亜紀、西村貞雄
第43回	３月23日（水）	18：00～19：30	特別会議室	安里進、大田和人、岡本亜紀、田中睦治、西村貞雄

Ⅴ. 展示活動

１．展示活動概要（美術館企画展）

文化の杜共同企業体は、2010年度の年間テーマである「美術館・博物館を楽しむ」を企画展の基本方針とした。このテーマに沿って、多彩な美術館企画展を４回実施した。４月からGWまでは女性を中心に全国的に人気の高い「いわさきちひろ展」、５月から６月までは、当館における日本画の初の本格的な展覧会となる「遠き道―はて無き精進の道程」を開催。日本画の普及とともに視覚にハンディキャップのある方も絵画鑑賞を楽しめる展覧会として画期的であった。夏休み期間を中心に開催した「沖縄マンガ」展では沖縄を素材にしたマンガや県出身のマンガ家を取り上げた。また、県民キューレーター公募展である「ちゅくいむじゅくい　風土と建築」は2009年９月から公募、審査を行い、2010年９月にその集大成となる展覧会を開催した。

４展の合計入場者数は36,578人。展覧会の予算総額は35,493,054円となった。

（1）「いわさきちひろ展」

会　　期：2010年４月３日（土）～５月９日（日）（開催日数：33日）
場　　所：美術館企画ギャラリー１・２
観 覧 料：一般800円、高校生・大学生500円、小学生・中学生300円
観覧者数：18,085人（１日平均約548人）
予 算 額：18,132,254円

【開催趣旨】
日本を代表する絵本画家、いわさきちひろ（1918～1974）。ちひろは子どもや赤ちゃんを多く描いており、水彩画と水墨画の技術を用いて描かれた子どもたちは愛らしく、表情豊かに表現されている。また、自らも体験した戦争をテーマとした作品も多く残しており、彼女の作品には子どもの幸せと平和への願いが込められている。戦後65年という節目の開催にあたり、作中の子どもたちを通して平和を考えていく美術展として企画し、事前公募によって寄せられた作品の感想やメッセージも展示する参加型の展覧会とした。

【開催形式】
主　　催：文化の杜共同企業体／沖縄県立博物館・美術館／ちひろ美術館／沖縄タイムス社
協　　賛：株式会社国建

【展示内容】
原画作品113点、複製作品（ピエゾグラフ）８点、遺品、関係資料、ビデオ上映、閲覧書籍193点を展示。プレイベントワークショップで制作した銘苅小学校５年生の水彩画作品も感想文とともに展示した。また、事前公募のメッセージ全325点のうち178点をいわさきちひろ作品とともにギャラリー内に掲出し、閲覧コーナーには全メッセージを閲覧できるファイルを設置した。

【関連催事】
１）ギャラリートーク
日　　時：４月３日（土）11：00～11：40
場　　所：企画ギャラリー内
講　　師：松方路子（安曇野ちひろ美術館学芸員）
参加人数：46人

２）講演会「ちひろの世界―絵を楽しむために―」
日　　時：４月３日（土）14：00～15：30
場　　所：講堂
講　　師：松本猛（安曇野ちひろ美術館館長）
内　　容：ちひろの長男である松本猛氏による作品画像や写真をスクリーンに投影しながら、人柄やエピソードを交えた作品鑑賞法についての講演。サイン会も実施し、好評を得た。
参加人数：91人

３）特別講演会「いわさきちひろの絵と人」
日　　時：５月７日（金）18：30～20：00
場　　所：講堂
講　　師：松本善明（財団法人いわさきちひろ記念事業団副理事長）
内　　容：ちひろの夫である松本善明氏を招いての講演で、当初の予定にはなかったが特別に実現した。多数の来場者があり、講演会終了後にはサイン会を実施した。
参加人数：169人


絵本のよみきかせの様子

４）絵本のよみきかせ・おはなし会
日　　時：４月10日（土）・17日（土）・24日（土）・５月１日（土）・８日（土）
13：30～14：00、14：30～15：00（１日２回）　５日×２回＝合計10回開催

場　　所：企画ギャラリー内閲覧コーナー、博物館屋外展示場（民家内）
講　　師：沖縄女子短期大学児童文化研究クラブ、沖縄地域児童文庫連絡協議会
内　　容：展示された７冊の絵本を中心に、２団体が読み聞かせを行った。アートバルーンや指遊びなども取り入れて、イベントの導入とした。
参加人数：合計359人

5）ワークショップ「水彩画・たらしこみ」
日　　時：４月11日（日）、18日（日）、25日（日）14：00～16：00
場　　所：県民アトリエ
講　　師：西村貞雄（琉大名誉教授）
内　　容：ちひろがよく用いた「たらしこみ」の技法を体験し、絵の具のにじみを楽しみながら絵を描くワークショップ。
参加人数：合計61人


展示会場の様子１


展示会場の様子２

【展示平面図】



（仲里　なぎさ）

（2）「遠き道－はて無き精進の道程」

会　　期：2010年５月18日（火）～６月６日（日）（開催日数：18日）
場　　所：美術館企画ギャラリー１・２
観 覧 料：一般800円、高校・大学生500円、小・中学生300円
観覧者数：4,046人（１日平均約225人）
予 算 額：4,589,701円

【開催趣旨】
当展覧会は、現代日本画の普及と、視覚にハンディキャップのある方々に対する絵画の鑑賞方法の普及という２点の「普及」を趣旨に企画された。
展示作品は公募展出品作品に公募展以外の作品を加えた大作のみで構成しており、現在の日本画のトレンドを総覧することができ、日本画の鑑賞機会の少ない沖縄では貴重な展覧会である。
また、視覚障がい者の絵画の鑑賞機会となるように、平面鑑賞レリーフの設置などを実施した。ハンディキャップのある方々にとっての美術鑑賞に対する理解を深める機会になった。

【開催形式】
主　　催：文化の杜共同企業体／沖縄県立博物館・美術館
協　　賛：株式会社国建
協　　力：国際ロータリー第2580地区

【展示内容】
現代日本画69点。梅原幸雄「花筏」、土屋禮一「椿樹」、平山英樹「天廻地廻」、宮いつき「ヴォカリーズ」など。
視覚障がい者向けには、作品横にレリーフ等12点を設置し、作品の構図や絵肌を触って鑑賞する方法（ハンズオン展示）を試みた。また、視覚障がい者向けに分かりやすく解説された音声ガイド32点を設置した。

【関連催事】
１）ギャラリートーク
内　容：ギャラリー内で出品作家の方々に作品紹介をしていただいた。全５回開催。
①日　　時：５月18日（火）10：30～12：00
講　　師：福井爽人（東京芸大名誉教授）、平山英樹（沖縄県立芸術大学教授）
参加人数：18人
②日　　時：５月23日（日）13：00～13：30
講　　師：土屋禮一（金沢美術工芸大学教授）
参加人数：15人
③日　　時：５月29日（土）13：00～14：00
講　　師：西田眞人（京都市立芸術大学教授）、宮いつき（多摩美術大学教授）、
岡村桂三郎（多摩美術大学教授）、坂本藍子、加藤晋（日展会員）、伴戸玲伊子
参加人数：28人
④日　　時：５月30日（日）13：00～14：00
講　　師：那波多目功一（院展理事）、梅原幸雄（東京芸術大学教授）、西田俊英（広島市立大学教授）
参加人数：26人
⑤日　　時：６月６日（日）13：00～13：30
講　　師：高橋天山（日本美術院評議員）
参加人数：28人

２）鑑賞ガイドツアー・ワークショップ（※視覚障がい者向け、事前予約制、定員各10名）
日　時：５月28日（金）16：00～18：00　参加者：26人、ボランティア40人
５月29日（土）12：00～14：00　参加者：３人、ボランティア20人
講　師：栗田晃宣（香川県立盲学校）、田中隆（蜜蝋ペン開発者 ㈲安久工機）、西田眞人、宮いつき、
岡村桂三郎、坂本藍子、加藤晋、伴戸玲伊子
内　容：ボランティアによるガイドツアー（60分）は、参加者を展示会場に誘導し、コミュニケーションを図

りながら作品解説を行った。ワークショップ（60分）は、「触図筆ペン」（別称：みつろうくん、描くとすぐに蜜蝋が固まり触って確認できるペン）を活用し、参加者が出品作家と共に自由なテーマで描いた。ボランティアは今回の展覧会で募集し、総勢40人余りが参加協力した。

3）日本画講座

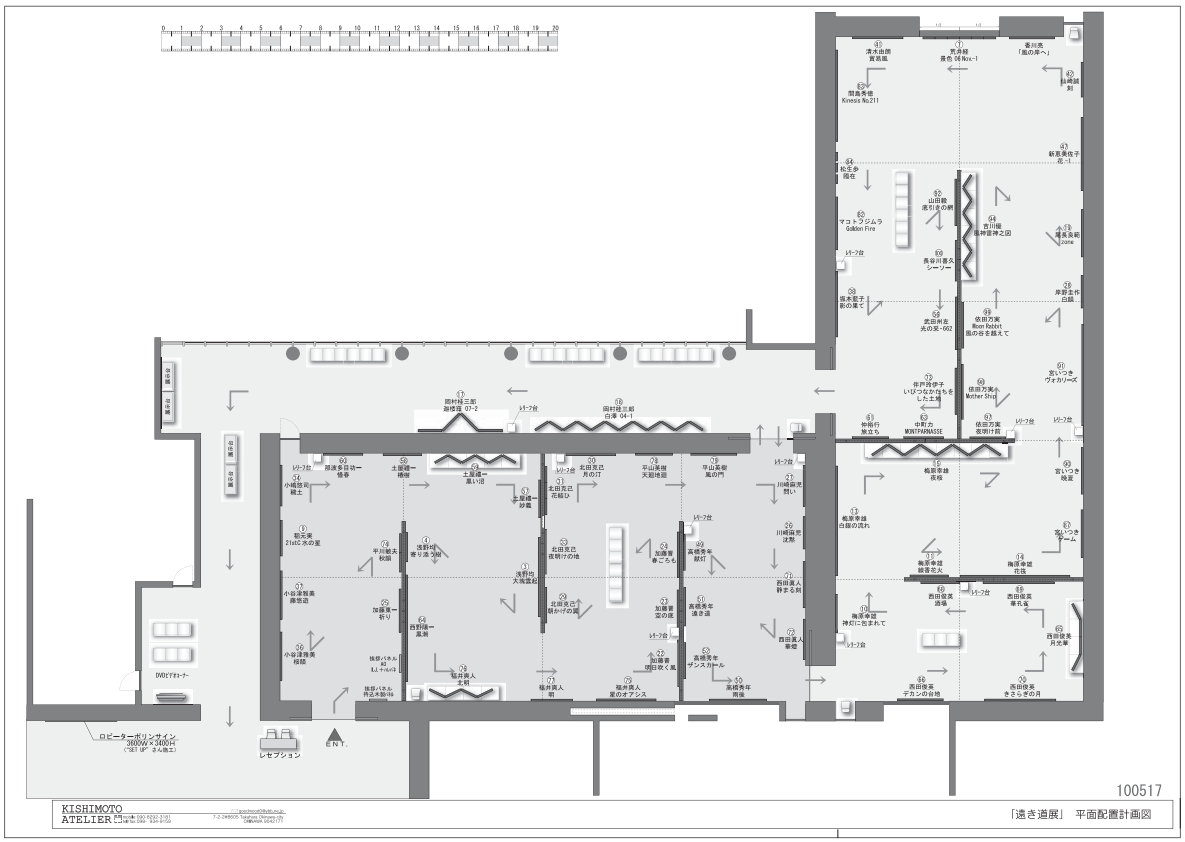
日　　時：５月30日（日）14：30～15：30
場　　所：講堂
講　　師：西田俊英（院展評議員･広島市立大学教授）
内　　容：公募展作品が出来るまでの様子をスライドで解説
参加人数：28人



開会式テープカットの様子


ギャラリートークの様子

【展示室平面図】



（謝花佐和子）

（3）「沖縄マンガ」展

会　　期：2010年７月１日（木）～８月29日（日）（開催日数：52日）
場　　所：美術館企画ギャラリー１・２
観 覧 料：一般800円、高校生・大学生500円、小学生・中学生300円
観覧者数：11,775人（１日平均約226人）
予 算 額：6,875,558円

【開催趣旨】
時代や社会、人々の深層心理を反映させながら日本独自の発展を遂げたマンガ。こうしたなか沖縄でもマンガは多く描かれ、全国でも個性的なマンガムーブメントを生み出してきた。風刺マンガや沖縄戦マンガなど、沖縄マンガの系譜や『コミックおきなわ』といった全国でも珍しいローカルマガジンの紹介など、多様性に溢れる「沖縄マンガ」の世界を通観し、その全体像を浮かび上がらせるものとする。

【開催形式】
主　催：文化の杜共同企業体／沖縄県立博物館・美術館
協　力：京都国際マンガミュージアム／沖縄キリスト教学院大学／コミックチャンプルー／沖縄県観光商工部／沖縄お仕事啓発まんがコンテンツ事業部／日本マンガ家協会沖縄支部／ヒューマンアカデミー那覇校
協　賛：株式会社国建／株式会社バラエティ・アートワークス／株式会社コンピュータ沖縄

【展示内容】
本展では全国で活躍するマンガ家など50人以上の作家の原画（295点）、書籍など約800点の作品・資料を展示。

【関連催事】
１）大城さとし先生のマンガ実演（「おばぁタイムス」作者）
日　　時：７月24日（土）13：30～17：00
場　　所：企画ギャラリー内　マンガ工房
参加人数：125人

２）なかいま強先生のマンガ実演（「わたるがぴゅん！」作者）
日　　時：７月31日（土）14：00～14：40　＊終了後、エントランスホールでコミック即売＆サイン会を実施
場　　所：企画ギャラリー内マンガ工房
参加人数：177人

３）シンポジウム「マンガ等コンテンツを活用した地域興し」
主　　催：文化の杜共同企業体／沖縄県
後　　援：内閣府沖縄総合事務局経済産業部／沖縄タイムス社
日　　時：８月５日（木）14：00～16：00
場　　所：講堂
内　　容：第一部　基調講演１「"文化産業"立国に向けて」森田僚（経済産業省文化情報関連産業課係長）
第二部　基調講演２「マブヤー成功方程式と地域との連携」畠中敏成（株式会社マブヤー企画社長）
第三部　パネルディスカッション
コーディネーター：比嘉明彦（株式会社海邦総研研究員）
パネリスト：畠中敏成（株式会社マブヤー企画社長）、兼久政彦（株式会社バラエティ・アートワークス）、栗田智明（株式会社インデックス沖縄社長）、玉那覇靖（県観光商工部産業政策課主幹）
コメンテーター　森田僚（経済産業省文化情報関連産業課係長）
参加人数：177人
参 加 費：無料（ただし参加には観覧券、または半券が必要）

４）マンガ講座「政治漫画の風刺力」
日　　時：８月14日（土）14：00～14：40
場　　所：美術館講座室
講　　師：渡嘉敷唯夫（マンガ家）

参加人数：８人
参 加 費：無料（ただし参加には観覧券、または半券が必要）



開会式テープカットの様子



「なかいま強先生のマンガ実演」の様子

【展示室平面図】



（金城美奈子）

（4） 県民キューレーター展「ちゅくいむじゅくい　風土と建築」

会　　期：2010年９月７日（火）～10月３日（日）（開催日数：24日）
場　　所：美術館企画ギャラリー１・２
観 覧 料：一般600円、高校生・大学生400円、小学生・中学生300円
観覧者数：2,672人（１日平均約111人）
予 算 額：5,948,042円

【開催趣旨】
文化の杜共同企業体は、沖縄県民が主体的に美術館の企画にかかわる機会を提供するため、「県民キューレーター展」を設定し、2010年度の企画展の一つとして実施した。広く企画案を募集し、数多くの応募の中から厳正

なる審査の結果、「ちゅくいむじゅくい風土と建築実行委員会」（代表 国吉宏昭）による企画が採用された。
同企画は、「ちゅくいむじゅくい（創意工夫）」の視点から私たちの住む街や建築を考えようとするものである。沖縄古来の集落の様子から戦後、復帰にかけての激動期を土木・建築の視点でながめ、さらに時代とともに失われた地域コミュニティの再生の可能性を、近年の取り組みの事例から探ることを目的とした。

【開催形式】
主　催：文化の杜共同企業体／沖縄県立博物館・美術館／ちゅくいむじゅくい風土と建築実行委員会
協　賛：株式会社国建／金秀建設株式会社／株式会社佐久本工機／株式会社屋部土建／大成建設株式会社

【展示内容】
「表現としての建築」を示すために制作された彫刻家と建築家によるオブジェや、設計の思考プロセスを示した現役の建築家による作品展示などのほか、解説パネル、写真パネルなど、展示数約200点。
また、若手建築家から広く公募したアイディアコンペの応募作品49点もギャラリー内に展示した。

【関連催事】
1）プレイベント
内　容：展覧会の事前学習会として、８回の講演会やワークショップを行った。沖縄の建築や環境、街づくりに詳しい専門家を招き、展覧会の内容を深めるきっかけとした。

①学習会vol.１「都市と環境」
日　　時：５月14日（金）18：00～21：00
場　　所：美術館講座室
講　　師：又吉康仁
参加人数：10人

②学習会vol.２「建築から見た沖縄」
日　　時：５月28日（金）18：00～20：00
場　　所：博物館講座室
講　　師：福村俊治（建築家）
参加人数：10人

③学習会vol.３「ちゅくいむじゅくい」
日　　時：６月19日（土）18：00～20：00
場　　所：博物館講座室
講　　師：佐久川一（建築家）
参加人数：10人


まちあるきワークショップ」の様子

④学習会vol.４「まちの記憶を記録する―過去を掘り下げ、今を見つめ、未来を描く―」
日　　時：７月２日（金）18：00～20：00
場　　所：博物館実習室
講　　師：宮道喜一（NPO 法人まちなか研究所）
参加人数：10人

⑤学習会vol.５「まちあるきワークショップ」
日　　時：７月17日（土）9：45～13：00
場　　所：那覇市泊、おもろまち
講　　師：一柳亮太（まちあるきライター）
参加人数：６人

⑥学習会vol.６「地域と環境」
日　　時：７月17日（土）18：00～20：00
場　　所：美術館講座室
講　　師：西銘史則（沖縄環境分析センター）
参加人数：10人

⑦竹の造形入門「竹のトンネルを作ろう」
日　　時：８月７日（土）、８日（日）
場　　所：名護市名護城公園
講　　師：島袋正敏（山原ものづくり塾）
参加人数：約20人

⑧学習会vol.７「建築文化と風土」
日　　時：８月13日（金）18：00～20：00
場　　所：博物館実習室
講　　師：照屋寛公（建築家）
参加人数：10人


「竹のトンネルをつくろう」の様子

2）ワークショップ「モンゴルのゲルに学ぶ―みんなでつくる段ボールハウス」
日　　時：９月12日（日）10：00～12：00
場　　所：博物館屋外展示場（民家側）
内　　容：段ボールを素材にみんなで力を合わせて大きな家を作った。多くの親子が参加し、家について学びながら、楽しいイベントとなった。
参加人数：30人

3）シンポジウム「ちゅくいむじゅくいで考える地域社会の未来」
日　　時：９月12日（日）14：00～16：00
場　　所：講堂
内　　容：県内で活躍している建築家をパネリストに迎え、沖縄の現在の暮らしや街づくりについて考えるシンポジウム
パネリスト：砂川敏彦、島袋正敏、親泊仲真、佐久川一、照屋寛公、福村俊治
参加人数：68人

4）まちあるき「石川・名護の建造物めぐり」
日　　時：９月23日（木）9：00～16：00
場　　所：うるま市、名護市
内　　容：石川市と名護市の歴史的な建造物を講師に解説してもらいながら見学した。充実した内容のガイドツアーとなり、好評を博した。
講　　師：宮里実夫、岸本林
参加人数：20人

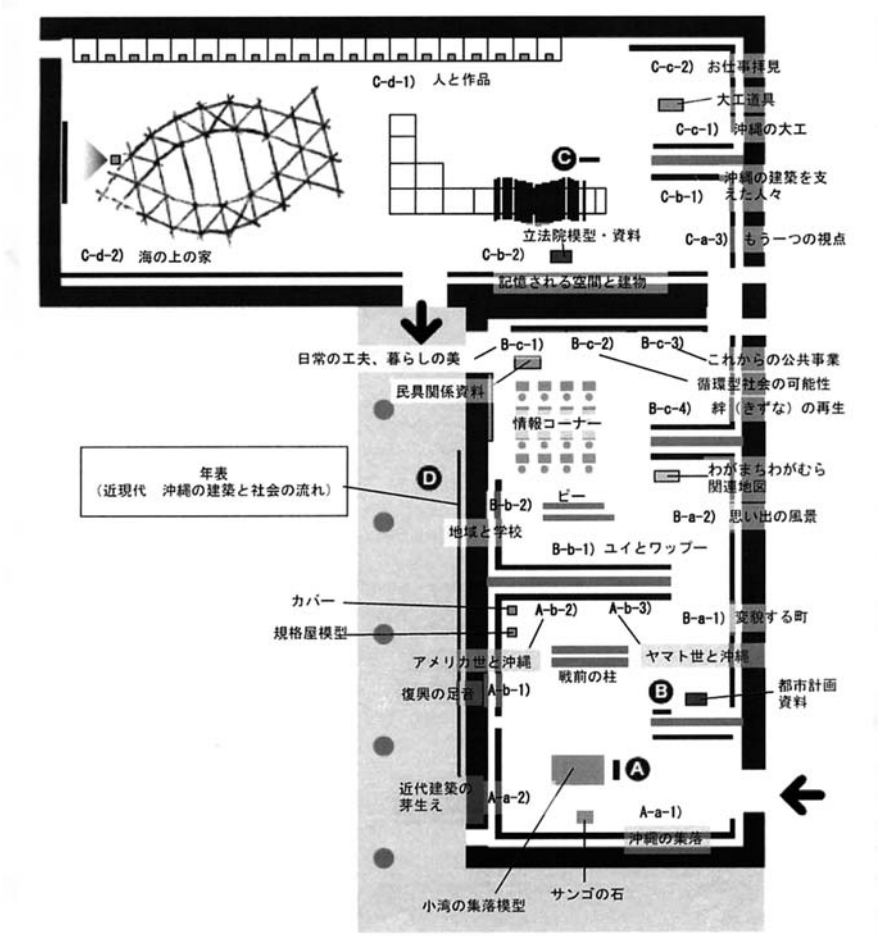
5）まちあるき「真嘉比・新都心ウォークラリー」
日　　時：９月25日（土）10：00～12：00
場　　所：那覇市真嘉比
内　　容：新しい街として開発が日々進む真嘉比地区を歩いた。新しい街の背後には、古い記憶が存在することを気づくきっかけとなった。
講　　師：一柳亮太
参加人数：15人



展示会場（ギャラリー１）の様子


展示会場（ギャラリー２）の様子

【展示室平面図】



（國吉　貴奈）

２．展示活動概要（自主事業展覧展）

自主事業としての展覧会は、まず４月に博物館特別展示室で「石川直樹写真展」を開催。美術館班と協力して若手作家を招き、関連催事も積極的に行い、好評を得た。また、情報センターを来館者により気軽に利用してもらうために、その活用の一端として、国際博物館の日に併せて「図録展示会」を開催した。同じく情報センターで開催した「定点　慰霊の日」については、昨年度に続き二度目の実施であり、毎年恒例の展示会として継続していきたい。

（１）「石川直樹写真展　ARCHIPELAGO」

会　　期：2010年４月13日（火）～５月９日（日）（開催日数：25日）
場　　所：博物館特別展示室１・２
観 覧 料：一般500円、高校生・大学生300円、小学生・中学生：100円
観覧者数：2,172人（１日平均約87人）
予 算 額：788,474円

【開催趣旨】
世界中を旅している若き写真家、石川直樹の写真展。「ARCHIPELAGO」とは、「群島、多島海」の意であり、この写真展を通して国境によって区切られた地図を自明のものとせず、島の連なりとして世界を捉えなおすという試みである。展示作品のうち、琉球列島関係の作品は美術館の収蔵委員会に諮られる予定もあり、美術館班からの強い要望もあり開催に至った。

【開催形式】
主催：文化の杜共同企業体

【展示内容】

南はトカラ列島から奄美、沖縄、宮古、八重山、台湾、北は北海道やその周辺の離島、サハリン、クイーンシャーロット諸島に至る日本の南北に点在する島々を撮影した作品を展示。およそ10年間に渡り撮影された写真の中から約100点を展示した。

【関連催事】

1）プレイベント「写真×映像」

日　　時：４月11日（日）18：30～20：30
場　　所：美術館屋外展示場
内　　容：石川直樹写真展のプレイベントとして、美術館屋外展示場で、10人の県内外作家による映像作品の上映とクロストークを実施。映像作品は美術館壁面に投射した。
出　　演：石川直樹、津波博美、平良亜弥、他８人
料　　金：500円（「石川直樹写真展」入場チケット付き）
参加人数：73人

2）ギャラリートーク

日　　時：４月13日（火）、５月３日（月）、４日（火）11：00～11：30
場　　所：展示室内
内　　容：撮影者である石川直樹本人による展示会場での展示作品の解説など
料　　金：無料（展示室入場料金）
参加人数：48人（４月13日）／29人（５月３日）／24人（５月４日）

3）対談

日　　時：４月13日（火）14：00～15：30
場　　所：展示室内
講　　師：石川直樹（写真家）、須藤義人（沖縄大学）
内　　容：石川直樹と映像民俗学者の須藤義人による同展覧会名「ARCHIPELAGO（群島）」をテーマにした対談
料　　金：無料（展示室入場料金）
参加人数：52人


展示会場で開催した対談の様子

4）講演会「世界を旅して、写真を撮ること」

日　　時：５月２日（日）16：00～17：00
場　　所：講堂
講　　師：石川直樹（写真家）
料　　金：展覧会チケット（または半券）提示
参加人数：104人

5）ワークショップ「島をつくろう」

日　　時：５月１日（土）13：00～15：00
場　　所：アトリエ
内　　容：発泡スチロールでオリジナルの島をつくり、水に浮かべて展示
料　　金：100円
参加人数：親子７組13人

6）ワークシート

日　　時：会期中随時
場　　所：展示室内
内　　容：展示作品に自由にタイトル（名前）をつけてもらうワークシートを用意、ファイリングして展示室内に設置、閲覧できるようにした。
料　　金：無料（展示室入場料金）
参加人数：23人

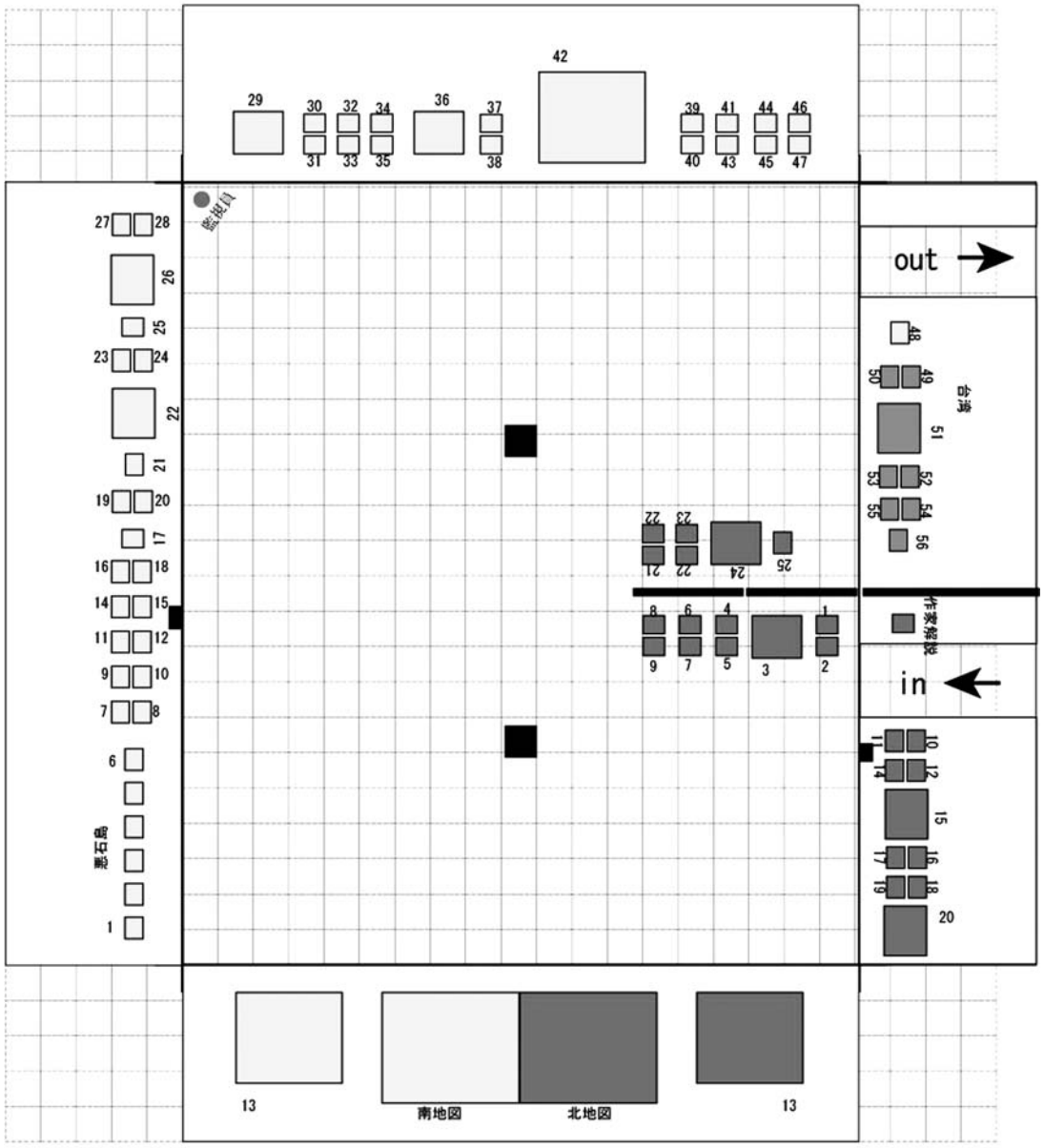


開会式テープカットの様子



内覧会での作者自身による作品説明

【展示室平面図】



（福島　輝一）

（2）「展示会図録展」

会　　期：５月11日（火）～５月30日（日）（開催日数：18日）
場　　所：情報センター
観 覧 料：無料

【開催趣旨】
毎年５月18日は全世界で博物館活動の普及と向上を目的に、「国際博物館の日」と定められており、当館でも県民に博物館・美術館をより親しんでもらうために、無料入館日の設定や、ポスター展示などを実施した。情報センターでもこれらの開催に併せて、博物館の歩みを展覧会図録で紹介すべく、旧館時代からの貴重な図録を特別ブースに設置し、観覧者が自由に手に取ることができるようにした。

【開催形式】
主催：文化の杜共同企業体

【展示内容】
展覧会図録約100冊を展示。「安谷屋正義遺作展」（1961年、琉球政府立博物館発行）、「日本古美術展～くらしの中の美」（1971年、琉球政府立博物館）など。

（玉城　淳子）

（3） 写真展「定点　慰霊の日」

会　　期：2010年６月16日（火）～６月27日（日）（開催日数：11日）
場　　所：情報センター
観 覧 料：無料

【開催趣旨】
毎年、６月23日の「慰霊の日」に記録されてきた写真を展示することにより、「慰霊の日」の制定意義を改めて考えるきっかけとしたい。この展示会を通して「人々の記憶」、「土地の歴史」、「平和とは何か」ということについて広く問いかけ、また記憶を継承するための企画とする。

【開催形式】
主　　催：文化の杜共同企業体
写真協力：沖縄タイムス社

【展示内容】
「慰霊の日」が制定された1961から2010年まで、沖縄タイムス紙面掲載および所蔵の「慰霊の日」の写真を経年で展示。沖縄タイムス社所蔵写真35点。

（謝花　佐和子）

３．県民ギャラリー

県民に広く発表の場を提供し、文化・芸術の振興を図るための場として一般への貸出を行った。
ギャラリー１に比べるとギャラリー３の稼働率が低いが、どの部屋も前年を上回る稼働率となった。

貸出件数	参加作家数	稼働率		
		ギャラリー１	ギャラリー２	ギャラリー３
68件	2,734人	83.8%	78.2%	63.7%

（宮里　宗彦）

Ⅵ. 教育・イベント活動（自主活動）

１．ワークショップ・観察会等

１）ふれあい体験室ワークショップ

ふれあい体験室の活性化とリピーターづくりを目指したワークショップ。2010年１月から月１回開催してきた工作教室が好評であったため、４月から毎週土曜日に定期的に開催。１日４回実施（10：00、10：30、11：00、11：30）し、各回ともふれあい体験室スタッフが指導した。

ふれあい体験室前エントランスホールで開催し、参加費は100円とした。

４月「ぼく、わたしのてづくりおもちゃ/馬グヮーをつくる」
日　　時：４月３日（土）、10日（土）、17日（土）、24日（土）
内　　容：アダン葉細工をカラフルな色画用紙で再現。４月のテーマは「馬グヮー」
参 加 者：合計58人（３日12人、10日13人、17日11人、24日22人）

５月「ぼく、わたしのてづくりおもちゃ/金魚と風車づくり」
日　　時：５月１日（土）、８日（土）、15日（土）、22日（土）、29日（土）
内　　容：アダン葉細工をカラフルな色画用紙で再現。５～６月のテーマは「金魚、風車」
参加人数：合計114人（１日40人、８日18人、15日８人、22日37人、29日11人）
６月「ぼく、わたしのてづくりおもちゃ/金魚と風車づくり」
日　　時：６月５日（土）、19日（土）、26日（土）
内　　容：アダン葉細工をカラフルな色画用紙で再現。５～６月のテーマは「金魚、風車」
参加人数：合計41人（５日15人、19日８人、26日18人）

７月「ぼく、わたしのてづくりおもちゃ/カエルづくり」
日　　時：７月３日（土）、10日（土）、17日（土）、24日（土）、31日（土）
内　　容：アダン葉細工をカラフルな色画用紙で再現。７～９月のテーマは「カエル」
参加人数：合計112人（３日23人、10日19人、17日14人、24日28人、31日28人）

８月「ぼく、わたしのてづくりおもちゃ/カエルづくり」
日　　時：８月７日（土）、14日（土）、21日（土）、28日（土）
内　　容：アダン葉細工をカラフルな色画用紙で再現。７～９月のテーマは「カエル」
参加人数：合計81人（７日30人、14日34人、21日14人、28日３人）

９月「ぼく、わたしのてづくりおもちゃ/カエルづくり」
日　　時：９月４日（土）、11日（土）、18日（土）、25日（土）
内　　容：アダン葉細工をカラフルな色画用紙で再現。７～９月のテーマは「カエル」
参加人数：合計49人（４日14人、11日４人、18日21人、25日10人）

10月「ぼく、わたしのてづくりおもちゃ/星っコロづくり」
日　　時：10月２日（土）、９日（土）、16日（土）、23日（土）、31日（土）
内　　容：アダン葉細工をカラフルな色画用紙で再現。10～12月のテーマは「星っコロ」
参加人数：合計53人（２日８人、９日15人、16日14人、23日５人、31日11人）

11月「ぼく、わたしのてづくりおもちゃ/星っコロづくり」
日　　時：11月６日（土）、13日（土）、20日（土）、27日（土）
内　　容：アダン葉細工をカラフルな色画用紙で再現。10～12月のテーマは「星っコロ」
参加人数：合計35人（６日９人、13日９人、20日10人、27日７人）

12月「ぼく、わたしのてづくりおもちゃ/星っコロづくり」
日　　時：12月４日（土）、11日（土）、18日（土）、25日（土）
内　　容：アダン葉細工をカラフルな色画用紙で再現。10～12月のテーマは「星っコロ」。12月は完成した星コロをクリスマスツリーに飾り、エントランスに展示した。

参加人数：合計50人（４日10人、11日13人、18日７人、25日20人）




12月のふれあい体験室ワークショップ「星っコロづくり」の様子

１月「ぼく、わたしのてづくりおもちゃ/はぶぐぁーづくり」
日　　時：１月１日（土）、８日（土）、15日（土）、22日（土）、29日（土）
内　　容：アダン葉細工をカラフルな色画用紙で再現。１～３月のテーマは「はぶぐぁー」
参加人数：合計50人（４日10人、11日13人、18日７人、25日20人）

２月「ぼく、わたしのてづくりおもちゃ/はぶぐぁー」
日　　時：２月５日（土）、12日（土）、19日（土）、26日（土）
内　　容：アダン葉細工をカラフルな色画用紙で再現。１～３月のテーマは「はぶぐぁー」
参 加 者：合計37人（５日６人、12日13人、19日６人、26日12人）

３月「ぼく、わたしのてづくりおもちゃ/はぶぐぁー」
日　　時：３月５日（土）、12日（土）、19日（土）、26日（土）
内　　容：アダン葉細工をカラフルな色画用紙で再現。１～３月のテーマは「はぶぐぁー」
参 加 者：合計48人（５日７人、12日11人、19日14人、26日16人）

２）ゴールデンウイークイベント
①「Chiri（チリ）でちぎり絵」
実 施 日：５月２日（日）、３日（月）、４日（火）、５日（水）13：00～17：00
場　　所：正面玄関横
内　　容：ヤンバルクイナや港川人など博物館常設展の展示資料を描いた５種類のイラストに紙をはって完成させる「ちぎり絵」のワークショップ。
　昨年のGWに次いで２回目。好評のため今回も開催した。材料は展示会終了後のポスター、チラシを使用。
参加人数：合計248人（２日81人、３日71人、４日53人、５日43人）
参 加 費：100円



「ちぎり絵」の様子

②「館を探検しよう」
実 施 日：５月５日（水）13：00～17：00
場　　所：正面入り口前に出題コーナーを設置、答えは展示場内
内　　容：小中学生を対象に展示物に関するクイズをプリントで出題し、回答者にはサメの化石の歯をプレゼント
参 加 者：28人
参 加 費：100円

３）土曜おやこ造形教室
身近な素材を使って子どもたちに「創る」楽しさを知ってもらうシリーズとして、各回とも県民アトリエにて開催した。

第１回　７月３日（土）9：30～12：00
　講　　師：砂川惠光（旺玄会）
　内　　容：１回目の素材は『絵の具』。講師を迎え、親子を対象に自由に作品を制作してもらうプログラムを２週にわたり開催。
　参 加 者：４人
　参 加 費：1,000円（子供一人追加につき500円）

第２回　８月７日（土）9：30～12：00
　講　　師：砂川惠光（旺玄会）
　内　　容：２回目の素材は『紙』
　参加人数：８組（子供）10人
　参 加 費：1,000円（子供一人追加につき500円）

第３回　９月11日（土）9：30～12：00
　講　　師：砂川惠光（旺玄会）
　内　　容：３回目の素材は『粘土』。講師を迎え、親子対象として開催する講座と場所を提供して、自由に制作してもらった。２週に渡り開催。
　参加人数：２組（子供２人）
　料　　金：1,000円（お子様一人追加につき500円）

４）プレイスペース
　さまざまな材料で自由に造形を楽しんでもらうワークショップを県民アトリエで開催した。

第１回　７月10日（土）9：30～11：00
　参 加 者：15人　　参加費：200円

第２回　８月14日（土）9：30～12：00
　参加人数：３人　　参加費：200円

第３回　９月11日（土）13：30～15：00
　参加人数：６人　　参加費：200円

５）お面づくり＋パフォーマンス
　日　　時：７月19日（祝・月）　13：00～17：00　　場　所：正面玄関横、エントランス
　講　　師：堀尾貞治（現代美術家）
　内　　容：現代美術家の堀尾貞治と芸術集団空気を講師に迎え、お面づくりとそのお面を使ったパフォーマンスを行った。
　参 加 者：25人
　参 加 費：300円

６）なついち
　参加作家：堀尾貞治、カニメガ、ぎすじみち、石垣克子、ナカハジメ、ぐりもじゃサスケ、言事堂、おきらく亭すい好、THE HUMANCHAIN、燃えるゴミ
　日　　時：７月19日（土）　17：00～19：30
　場　　所：正面玄関軒下及び民家
　内　　容：現代美術家の堀尾貞治のパフォーマンス「百均絵画」に倣い、県内作家にも百円作品を提供してもらい、気軽にアート作品を買ってもらうことで作家紹介の機会になることを目的に実施。他、投げ銭ライブ等を行い多くの来場者で賑わった。
　参 加 者：89人


「なついち」の開催風景

7）折り紙教室「博物館を作ろう」

日　　時：７月25日（日）、８月１日（日）13：00～16：00　　場　所：エントランスホール

講　　師：宮里ミエ子（日本折り紙協会）、社会教育指導員 OB 会、那覇市中央公民館折り紙千羽鶴

内　　容：ノグチゲラ、ハブ、カニ、カクレクマノミ、シーサーを折り、台紙に貼って折り紙ジオラマを作る工作教室。また、講師である宮里氏が制作した進貢船などの作品も展示し、多くの来館者の目を楽しませた。

参 加 者：合計148人（７月25日74人、８月１日74人）

参 加 費：100円

8）夏休み企画「博物館を調査せよ！」

日　　時：８月１日（日）～、開館時間内いつでも

配布場所：博物館常設展示室入口

企画・作成：中村愛（文化の杜共同企業体）

内　　容：親子連れをターゲットに、博物館常設展の更なる理解を深めることを目的とした。参加者は興味のあるテーマのワークシート（７種）を選び、展示から答えを 探し出す。

配布枚数：4,900枚（全７種）

9）正月催事

① 新春の舞

日　　時：１月１日（土）14：00～14：40　　場　所：エントランス

出　　演：沖縄県立芸術大学芸能専攻学生有志

内　　容：琉球舞踊および演奏

観覧者数：84人



「書き初め会」の様子

② 書き初め会

日　　時：１月２日（土）14：00～15：20

場　　所：屋外展示場民家、及び館周辺（パレード）

講　　師：伊江隆人（美術家）

内　　容：アダン筆と巨大ワラ筆を使って行う書き初めを実施。
しまくとぅばで沖縄の生き物たちの名前を書き、完成した作品（全長20m）を手に館周辺をパレードするパフォーマンスもあわせて実施。その後、当館３Ｆのロビーにて10日間程展示した。

参加者人数：30人

参 加 費：無料

③ 巨大カルタ会

日　　時：１月２日（土）16：00～16：40

場　　所：エントランス

内　　容：琉球張り子作家・豊永盛人作の「沖縄おもしろカルタ」の巨大版を使用して、沖縄の言葉（しまくとぅば）のカルタ会を開催。

参 加 者：10人



「巨大カルタ会」の様子

④ お正月工作教室「トコぴょん歩くうさぎのおもちゃづくり」

日　　時：１月10日（月・祝）　１日４回実施　10：00、11：00、14：00、15：00

場　　所：正面玄関前

講　　師：上運天研成（おもちゃの会ピノキオ会長）おもちゃの会ピノキオのみなさん

内　　容：干支のうさぎをモチーフに、手作りの仕掛けで坂道を歩く木製のおもちゃづくり

参 加 者：105人

参 加 費：300円

10）「骨を組み立ててみよう！」（博物館企画展「骨の科学」展関連講座）

日　　時：３月６日（日）、３月19日（日）　①　14：00～15：00　　②　16：00～17：00

場　　所：博物館企画展示室
講　　師：藤田祐樹（当館学芸員）
内　　容：イヌ、ネコ、キツネ、カラス、タヌキなど、ばらばらになった動物の骨を組み立てながら、骨の構造について学ぶ講座
参 加 者：16人（各回定員27名、企画展入館料金が必要）

11）「かんたんレプリカ作り」　（博物館企画展「骨の科学」展関連講座）
①　日　　時：２月13日（日）・27日（日）13：00～16：00（随時、所要時間15分）
　　場　　所：１階エントランス
　　人　　数：34名（各日60名、当日先着）　　参加費：200円
②　日　　時：２月27日（日）13：00～16：00（随時、所要時間15分）
　　場　　所：１階エントランス
　　人　　数：40名（各日60名、当日先着）
　　内　　容：お湯でやわらかくなる粘土を使って、ネコ・ホンドタヌキ・ハシブトガラスの大腿骨、アオザメの歯、リュウキュウムカシキョンの下顎のレプリカを作る講座
　　参 加 費：200円


「かんたんレプリカづくり」の様子

12）出張開催ふれあい体験室ワークショップ
「ぼく、わたしのてづくりおもちゃ」出前講座 in わかさ保育園
日　　時：2011年２月26日（土）9：30～12：00
場　　所：わかさ保育園（沖縄県那覇市松山1丁目28 - １）
内　　容：アダン葉細工をカラフルな色画用紙で再現
対　　象：わかさ保育園　児童親子　〈計70組〉
参 加 費：１組につき100円


わかさ保育園での開催風景

13）東日本大震災義援金のためのワークショップ
日　　時：2011年３月19（土）・20（日）・21日（月祝）10：00～12：00、13：00～16：00
場　　所：１階エントランス
内　　容：チャリティーイベント。参加費100円は全て「日本赤十字社東北関東大震災義援」に送る。
募 金 額：52,078円（３日間）
①「かんたんレプリカ作り」
　お湯でやわらかくなるねんどを使ってサメの歯やアンモナイトのレプリカを作るイベント
②「chiri（チリ）でちぎり絵」
　博物館の展示物イラストをもとに、当館の展示会終了後のポスター・チラシを材料にちぎり絵を作るイベント

（中村　愛、町田　恵美、渡部　貴子）

２．映画上映

『アンを探して』上映会＆ 報告会
日　　時：８月21日（土）　18：00～20：30　　場　　所：講堂
講　　師：宮平貴子（映画監督）
内　　容：国際映画祭「第５回アジアン・フェスティバル・オブ・ファースト・フィルム」で最優秀作品賞および最優秀監督賞を受賞した同映画の上映と監督の宮平貴子（沖縄県出身）による全国各地を巡回した「映画『アンを探して』と行く7000キロの旅」の報告会を催した。夏休み企画として高校生以下を無料とした。
料　　金：一般1,200円、高校生以下無料
参 加 者：51人

（町田　恵美）

3．平成22年度文化庁メディア芸術人材支援事業

（1） 事 業 名：2010年度文化庁メディア芸術人材育成支援事業　沖縄メディア芸術構築事業
（2） 実施期間：2010年７月１日（木）～2010年11月３日（水）
（3） 実施内容

メディア芸術の中から、「マンガ」と「映像」の分野について実施した。美術館企画展「沖縄マンガ展」の開催にあわせて沖縄のマンガについて考える場を設け、またマンガの新展開としてアニメーションやフィギアなどの領域にも触れ、コンテンツとしての可能性も示唆することを目的とした。実演やワークショップ等のイベントを通して実作者の育成に繋げた。映像の分野では「CM」に焦点を当て、その仕組みから映像制作の技術を体得し、新たな映像表現の人材発掘の機会になり得た。

（町田　恵美）

【マンガ関連】

① マンガ講座「なんだこりゃ～沖縄！」続編トークショー
日　　時：７月17日(土)　14：00～15：00　　場　　所：美術館講座室
講　　師：わうけいさお（「なんだこりゃ～沖縄！」著者)、新城和博（ボーダーインク）
参 加 者：35人

② ワークショップ「ストーリーマンガの描き方」
日　　時：８月１日（日）　13：30～15：00／15：10～16：40（２コマ連続講座）
場　　所：美術館講座室
講　　師：島袋直子（コミックチャンプルー編集長）
参 加 費：700円（材料費）
参 加 者：12人

③ マンガ講座「沖縄マンガ講座」
日　　時：８月８日（日）　14：00～15：30　　場　　所：美術館講座室
講　　師：大城宜武（沖縄キリスト教学院大学教授）
参 加 者：15人

④ ライブパフォーマンス
日　　時：８月15日（日）　18：00～20：00　　場　　所：講堂
出　　演：ヒューマンアカデミー声優コース、五條真由美
参 加 者：185人

⑤ シンポジウム「マンガを学問する」
日　　時：８月20日（金）　18：00～20：00　　場　　所：講堂
基調講演：うえやまとち（マンガ家『クッキングパパ』作者）
シンポジウム：コーディネーター；大城宜武（沖縄キリスト教学院大学教授）
パネリスト：うえやまとち、吉村和真（京都精華大学准教授)、西村貞雄（琉球大学名誉教授、彫刻家、子供造形表現)、喜名朝飛（マンガ家、『幕末風来伝斬郎汰』作者）
司　　会：島袋直子（コミックチャンプルー編集長）
参 加 者：38人

⑥ ワークショップ「イラストを描こう」
講　　師：喜名朝飛（マンガ家、『幕末風来伝斬郎汰』作者）
日　　時：８月21日（土）　14：00～16：00
場　　所：博物館実習室
参 加 費：500円（材料費）
参 加 者：12人


ワークショップ「イラストを描こう」の様子

【映像】

① CM が出来るまで-デジタル時代の映像の作り方
日　　時：７月４日（日）　14：00～16：00
場　　所：スタジオ
講　　師：大山健二（CG & SOUND STUDIO GRANMUSE)、比嘉洋（株式会社沖縄映像センター）
内　　容：映像制作の歴史（編集技術の移り変わり）
参 加 者：19人

② ワークショップ：「CM を作ろう」
日　　時：７月10日（土）、11日（日）、17日（土）、18日（日） 13：00～17：00
　　11月３日（水）14：00～15：00
場　　所：スタジオ
講　　師：大山健二（CG & SOUND STUDIO GRANMUSE）、比嘉洋（株式会社沖縄映像センター）
内　　容：１グループ３～４人程度で３つのグループに分け、グループ単位で制作を行う。
　　１日目：CM コンテの作り方、CM コンテ制作実践/２日目：CM 撮影のコツ、撮影実践
　　３日目：CM 編集の奥義、編集実践/４日目：編集実践/別日：作品上映会
参加者：12人

（町田　恵美、金城美奈子）

４．おもろ夜会

おもろ夜会 vol.７「とぅばらーま夜会」
日　　時：11月20日（土）　19：00～21：00　（18：00　開場）
場　　所：美術館屋外展示場
後　　援：在沖八重山郷友会連合会
料　　金：一般1000円（1500円）、高校・大学生500円（800円）、小中学生無料
　　※（　　）内は博物館特別展「八重山」展覧会セット券
総入場者数：602人
プログラム：第一部「全島とぅばらーま大会、とぅばらーま糸満大会、北部地区とぅばらーま大会の優勝者・準優勝者によるとぅばらーま」
　　第二部「飛び入り参加者によるとぅばらーま」
　　第三部「ゲストによるとぅばらーま」
　　１．比屋根孝子氏＆玉城由美子氏
　　２．宮良康正氏＆山本藍氏
　　３．ポール石垣氏（アルトサックス）＆真栄平達氏（キーボード）

出店業者：ドーシャカレー、茶花、みどりのそば、大城物産
内　　容：第７回目となる「おもろ夜会」は、博物館で開催中の「海のクロスロード　八重山」の開催を記念し、八重山を代表する叙情歌「とぅばらーま」を紹介するイベントとして実施した。沖縄本島で開催されている３つのとぅばらーま大会の過去の優勝者、準優勝者に加え、豪華ゲストによる「とぅばらーま」を一堂に会し、来場者には満月の下で個性豊かな「とぅばらーま」の世界を堪能してもらうことができた。

（金城　美奈子）

５．しまくとぅばプロジェクト

しまくとぅばの価値や重要性を認識し、活性化と可能性を広げる目的で開館年の2007年に発足した「しまくとぅばプロジェクト」は、毎月１回さまざまな催しを開催した。

（１） しまくとぅば連続講座「池間方言教室」
日　　時：５月～７月（夏期）、９月～11月（秋期）、１月～３月（冬期）14：00～16：00
場　　所：美術館講座室、博物館講座室
講　　師：仲間博之（加計学園参与、元宮古高校校長）
内　　容：前年度（2009年度）２月に開催した「池間方言教室」が好評だったため、年間を通して開講することとなった。夏期、秋期、冬期と３期に分けて開催し、各期全６回の連続講座とした。
参加人数：39人
受 講 費：1000円（事前申込制）

（２） 八・八・八・六に思いをのせよう―琉歌をつくってみませんか？―
日　　時：５月29日（土）　14：00～16：15（13：30開場）　　場　　所：博物館講座室
講　　師：名嘉真恵美子（沖縄タイムス短歌時評担当、沖縄文学賞審査員、識名園歌会学生の部選者）

内　　容：講師による琉歌の講義を行った後、参加者自身で各々琉歌をつくって作品発表会を行い、鑑賞しあった。
参加人数：31人
資 料 代：300円（事前申込制）

（3） シンポジウム「しまくとぅばと戦争(イクサ)」
日　　時：６月18日（金）　18：00～20：30（17：30開場）
場　　所：講堂
コーディネーター：仲里効（映像批評家）
パネリスト：嶋津与志（沖芸連事務局長）、石原昌家（沖縄国際大学名誉教授）、小那覇安剛（琉球新報記者）、比嘉豊光（写真家）
内　　容：６月23日の慰霊の日を前に、「しまくとぅば」を通して沖縄戦を考えるシンポジウムを開催。沖縄戦下でしまくとぅばを使うこと、戦後になって戦争体験者がしまくとぅばで記憶を語ることなど、４名のパネリストがそれぞれの分野から発言した。
参加人数：45人
資 料 代：300円

（4） 宮里先生にならう実用的なウチナーグチ講座
日　　時：７月17日（土）　14：00～16：00　　場　　所：博物館講座室
企　　画・立案：上原美智子（しまくとぅばプロジェクトメンバー）
講　　師：宮里朝光（沖縄語普及協議会会長）
内　　容：日常生活で活用できる「うちなーぐち会話集」を使い、実用的な言い回しやよく使う場面など、具体的な事例を学ぶ講座
参加人数：18人
参 加 費：無料

（5） てぃー、わた、うしるくぶー　～しまくとぅばで覚えるからだの名前～
日　　時：８月28日（土）　14：00～15：30
場　　所：博物館屋外展示場 民家
企　　画・立案：仲原穣（しまくとぅばプロジェクトメンバー）
講　　師：比嘉陽花（「比嘉座」座長）、比嘉座スタッフ
内　　容：しまくとぅばでからだの名前や感情を表す言葉などを学ぶ講座
参加人数：21人
参 加 費：無料

（6） しまくとぅばとアイデンティティ
日　　時：９月18日（土）　16：00～21：00
場　　所：（第１部）博物館講座室、（第２部）講堂
内　　容：９月18日の「しまくとぅばの日」に合わせて、「しまくとぅば」の現状やその意義を考える機会とし、講演会や上映会、パネルディスカッションを行った。
・第一部16：00～18：00
講　演　安田常雄（国立歴史民俗博物館副館長）
上映会　「しまくとぅばで語る戦世」上映（約１時間）＊字幕なし・テキスト付き
・第二部18：20～21：00
コーディネーター：比嘉豊光氏（写真家）
パネリスト：安田常雄（国立歴史民俗博物館副館長）、島袋正敏（山原ものづくり塾塾長）、石垣金星（県文化財保護指導員）、下地和宏（宮古郷土史研究会会長）
参加人数：64人
資 料 代：500円

（7） 八重山民謡としまくとぅば
日　　時：10月16日（土）　12：00～13：30
場　　所：博物館屋外展示場民家

講　　師：新城亘（沖縄県立芸術大学、琉球大学講師）、西岡敏（沖縄国際大学教授）
内　　容：博物館特別企画「海のクロスロード八重山展」と関連して、しまくとぅばプロジェクトでは初めてとなる八重山の言葉についてのイベントを開催。八重山民謡を聞きながら、歌詞や解説を通して八重山の言葉に触れる機会とした。



民家内で開催された「八重山民謡としまくとぅば」の様子

（8）“しまくとぅば”の未来―少数派の言語とその再活性化―
日　　時：11月13日（土）　13：00～17：45（12：30開場）
場　　所：講堂
コーディネーター：西岡敏
講　　師：石垣直、高榮珍、ブガエワ・アンナ、角田太作、かりまたしげひさ
主　　催：沖縄国際大学総合研究機構南島文化研究所、しまくとぅばプロジェクト
共　　催：琉球新報社、文化の杜共同企業体
後　　援：NHK 沖縄放送局、沖縄テレビ放送、ラジオ沖縄、週刊レキオ、FM 沖縄
内　　容：沖縄国際大学・南島文化研究所が毎年行っている「第32回南島文化市民講座」と共同開催した。第１部ではそれぞれの言語の専門家５人による基調講演を行い、第２部ではパネルディスカッションを行った。「しまくとぅば」を世界各地に存在する少数派言語と広義にとらえ、植民地政策、あるいはグローバル化のなかで排除された言語―ブヌン語、済州島方言、アイヌ語、ワロゴ語、そして琉球語を取り上げ、その復興、活性化について話し合う場とした
参加人数：90人
受 講 代：一般500円／学生300円

（9）しまくとぅばであそぼう～沖縄のわらべうた
日　　時：12月23日（木・祝）14：00～15：30
場　　所：ふれあい体験室
講　　師：宮城葉子（てぃーだぬやがま家ー主宰）
内　　容：親子を対象にわらべ歌を通して、しまくとぅばに接する機会を設けた。絵本やぬいぐるみ、お手玉を使って楽しく学べる場とした。また、ふれあい体験室で開催することにより、自由に参加できる雰囲気作りを心がけた。
参加人数：約30人
参 加 費：無料

(10)　八・八・八・六に思いをのせよう２－琉歌をつくろう！
日　　時：2011年１月30日（日）14：00～16：00
場　　所：博物館実習室
講　　師：名嘉真恵美子（沖縄タイムス短歌時評担当）、前城淳子（琉球大学准教授）
内　　容：しまくとぅばに親しんでもらうためのイベントとして、講師を招き、琉歌についての説明を聞きながら、実際に自分で琉歌をつくってみるワークショップの第２回目。参加者の作った琉歌を２月中は情報センターで貼り出しており、来館者にも琉歌にふれてもらえる場とした。
参加人数：７人
参 加 費：300円

（國吉　貴奈）

６．職場体験等の受け入れ

社会貢献のひとつとして地域社会へ広く開かれた館を目指すとともに、また次世代教育の一環として生徒・児童の職場体験やジョブシャドウウイング事業を積極的に受け入れた。館内の多様な業務を体験できるように、展示交流員、ふれあい体験室、ミュージアムショップ、警備班、美装班などの様々な部署に協力してもらい、受け入れ態勢を整えた。

（１） 職場体験

①	那覇市立石田中学校２年生	４人/６月30日（水）～７月２日（金） ９：00～16：00
②	那覇市立上之山中学校２年生	１人/６月30日（水）～７月２日（金） ９：00～16：00
③	那覇市立首里中学校２年生	４人/７月５日（月）～７月７日（水） ９：00～16：00
④	浦添市立中西中学校２年生	３人/７月７日（水）～７月９日（金） ９：00～16：00
⑤	沖縄県立浦添工業高等学校２年生	10人/７月７日（水）～７月９日（金） ９：00～16：00
⑥	那覇市立鏡原中学校２年生	３人/９月７日（火）～９月９日（木） ９：00～16：00
⑦	南城市立大里中学校２年生	５人/11月10日（水）～11月12日（金） ９：00～16：00
⑧	那覇市立松島中学校２年生	２人/１月26日（水）～１月27日（木） ９：00～16：00

（２） ジョブシャドウウイング（主催：沖縄県キャリアセンター）

那覇市立識名小学校　６年生10人　/11月30日（火）　10：00～12：00

（島袋　百恵）

Ⅶ. 広報・交流事業

１．広報事業

広報は、当館の展覧会や事業・活動を県民や観光客に広くかつ細かくアピールしながら博物館・美術館活動への理解を深めてもらうとともに一層の集客を図った。年間を通しては、展覧会や講演会、解説会などを盛り込んだ年間計画表「沖縄県立博物館・美術館の年間行事案内」（パンフレット）を作成し、展覧会ごとにパンフレットやポスターを配布して広報に務めたほか、県内外のマスコミ・情報誌･旅行雑誌等に積極的な PR をお願いした。

当館で開催される展示会と関連イベント、教育普及事業、講演会、県民ギャラリー等の催しについては前年度同様、週明けの毎週月曜日までに今週の「県立博物館・美術館　週間展示会・イベント情報」を作成し、県内の主な新聞社（沖縄タイムス社、琉球新報社）やテレビ局（琉球放送、琉球朝日放送、NHK 沖縄放送局、沖縄テレビ、沖縄ケーブルネットワーク）、ラジオ局（琉球放送 RBC i ラジオ、NHK 沖縄放送局、ラジオ沖縄、FM 沖縄、FM レキオ、fm タイフーン）に FAX やメールでデータを送信し、県民への情報の告知や取材をお願いした。

さらに、当館主催の講座や講演会、展覧会に連動するシンポジウムやアーティストトーク、催しの告知・募集については、募集期間前あるいは開催前にその都度、新聞社、テレビ局、ラジオ局、雑誌社、イベント情報誌等に原稿や資料を送信し、掲載や取材・報道を要請した。また、外部講師や関係者には文化の杜スタッフの案内で放送局や新聞社へのあいさつ回りをお願いし、催し物の PR に努めてきた。県民ギャラリーの利用者や当館で展示会を予定している関係者にも、県内マスコミを訪問して展示会をアピールするようアドバイスも行っている。沖縄タイムス紙では休館日を除いて朝刊情報面の「今日の県立博物館・美術館」のコーナーや文化面、社会面等に、展覧会や講演会、県民ギャラリーの催事情報を掲載。琉球新報紙や新聞副読誌なども情報面や文化面、社会面で展覧会や催事情報を載せてもらった。

県外向けには、観光雑誌での PR や、様々なウェブサイトの催事情報案内を利用して広報に努めた。

また、沖縄タイムス社が琉球放送（RBC）や琉球朝日放送（QAB）のテレビ、RBC i ラジオ、FM 沖縄、大型ビジョン（パレットくもじ、県庁前交差点、サンエー那覇メインプレイスに設置されている３か所）に持っている CM 放送枠を活用し、美術館企画展「いわさきちひろ」展、「遠き道―はて無き精進の道程」展、「沖縄マンガ展」の CM を放送し、展覧会をPRした。加えて集客対策費を利用して、博物館特別展「海のクロスロード八重山」、美術館企画展「安谷屋正義」展などでも TVCM の放映や新聞広告の掲載を行い、誘客を図った。

一方、年間を通して、那覇市内外の主要ホテル、文化施設、レンタカー会社、小・中・高校、那覇市観光協会の観光案内所には、「沖縄県立博物館・美術館の年間行事案内」、展覧会ごとのチラシやポスターを配布して誘客に努めた。中南部の道路沿いにある公共掲示板や自治体の掲示板約150カ所には、展覧会の度にポスターを張り替えて博物館・美術館へ誘っている。

沖縄の空の玄関・那覇空港にはANA側到着ロビーの柱面に大型の電照広告（縦140センチ×横105センチ）を２面設置し、通年で沖縄県立博物館・美術館をPRした。

県民の足・沖縄都市モノレール（ゆいレール）の各車両の乗降口上の広告（縦約26センチ×横約130センチ）は年間を通して、展覧会ごとに案内図柄を張替えて展覧会をアピールした。

館の建つ那覇市おもろまちの那覇新都心通り会が発行する月間ミニコミ誌「新都心かわら板」にも展覧会情報を掲載し、地域に県立博物館・美術館の行事を強くアピールした。

その他、2010年度も誘客の一環でタクシー運転手や観光協会のガイド研修なども受け入れ、館の魅力をアピールしたり、小中高校生の職場体験･見学も積極的受け入れて、博物館･美術館活動を紹介しながら支援の拡大を図った。

また、「平成22年度　全国高校総体〈美ら島沖縄総体〉」の大会ガイドマップを作成し、館のPRとともに大会の支援・協力を行った。

（仲程　香野）

２．地域イベントへの参加

那覇新都心通り会へ積極的に参加し、月に１回発行される「新都心かわら板」への情報提供などを行った。

また、おもろまちと博物館・美術館をつなげるまつりとして10月15日（土）、16日（日）に「2010年アートde博・美まつり」（主催：2010年アートde博・美まつり実行委員会、共催：文化の杜共同企業体）を開催。バンドなどのライブパフォーマンスや那覇国際高校放送部の映像作品上映会、安岡中学校吹奏楽部の演奏、近隣地域の飲食店による屋台出店などもあり、地域と密着したイベントで博物館・美術館のPRを行った。

（運天　寛栄）

Ⅷ. 調査・研究等の活動

１．調査・視察等

金城美奈子

○調査・視察

・「岡本太郎と沖縄」展に関する出張（川崎市岡本太郎美術館、岡本太郎記念館、東京近代美術館）（2011年１月31日～２月３日、2011年３月11日～３月13日）

仲里なぎさ

○調査・視察

・「いわさきちひろ展」関連出張（安曇野ちひろ美術館／長野県）（2010年５月11日～５月14日）

・「古代エジプト神秘のミイラ展」に関する出張（古代オリエント博物館／東京都、放送大学／千葉県）（2010年６月20日～23日、８月23日～24日）

・次年度展覧会のための調査（石垣市宮良の豊年祭）（2010年７月23日～24日）

・次年度展覧会のための展覧会視察（千葉市美術館､名古屋市博物館、弥生文化博物館、国立民族学博物館）（2010年７月29日～８月２日）

中村　愛

○調査・視察

・博物館学連携ワークショップ研修（国立民族学博物館／大阪府）（2011年２月19日～２月21日）

町田恵美

○調査・視察

・「太宰府天満宮アートプログラムvol.6 Ryan GANDER展」視察（太宰府天満宮／福岡県）（2011年２月10日～２月11日）

仲程香野

○調査・視察

・2010年度沖縄県博物館協会秋の研修会参加（笠利･農村改善センター／鹿児島県）（2010年11月５日～11月６日）

Ⅸ. その他

1．職員研修

① 日　　時：2010年４月５日（月）10：00～17：00
　場　　所：博物館講座室
　内　　容：出張報告・業務総括会
　　ａ）2009年度の出張報告。訪問した施設の運営状況、展覧会視察等の報告
　　ｂ）各班の業務について前年度の総括および新年度に向けての情報提供・意見交換
　　ｃ）文化の杜の全体業務、運営方法について

② 日　　時：４月21日～６月30日　毎週水曜日（計10回）　18：15～19：45
　場　　所：ふれあい体験室
　講　　師：前泊清美（琉球大学／沖縄国際大学非常勤講師）
　内　　容：英会話勉強会
　　レベルは初級レベルの英会話とし、日常の館運営において英語で基本的な接客、対応ができるようになることを目的とした。文化の杜常勤スタッフを中心に、文化の杜雇用フロントスタッフ（総合案内、発券）の希望者を対象として実施

③ 日　　時：５月29日（金）15：00～16：30
　場　　所：美術館講座室
　講　　師：大堀哲（長崎歴史文化博物館館長）
　内　　容：長崎歴史文化博物館は、調査・研究や教育普及などの学芸部門も含めて、平成17年度に全国で初めて指定管理者制度が本格的に導入された館である。同館の大堀哲館長を招いて、指定管理者による運営管理の現状と課題を聞いた。
　参 加 者：25人

② 日　　時：９月７日（月）10：00～12：00
　場　　所：博物館講座室
　講　　師：千木良芳範（博物館副館長）
　参 加 者：16人

③ 日　　時：10月19日（月）10：00～12：00
　場　　所：博物館講座室
　講　　師：翁長直樹（美術館副館長）
　参 加 者：16人　　（運天　寛栄）

2．スタッフ接客研修

① 日　　時：５月９日（日）および５月20日（木）14：00～17：00
　場　　所：博物館講座室
　講　　師：濱口寿夫（当館博物館班班長）「博物館・美術館の役割、組織体制について」
　　仲里　健（当館学芸員）「IPM について」
　　中村　愛（文化の杜共同企業体）「マニュアル研修」
　内　　容：新年度に向けての全体研修
　参 加 者：計139人

② 日　　時：10月14日（火）18：15～19：30
　場　　所：博物館講座室
　講　　師：中村愛（文化の杜共同企業体）
　内　　容：アルバイトスタッフを対象とした展示交流員としての心得や接客マナーについての講習
　参 加 者：12人（文化の杜所属４人、友の会８人）　　（中村　愛）

3．特別展・企画展研修

① 日　　時：５月17日（月）17：00～18：30
場　　所：博物館講座室、博物館企画展示室、美術館企画ギャラリー
対象展示会：博物館企画展「新収蔵品展」、美術館企画展「遠き道」
講　　師：岸本敬（当館学芸員）、森賢司（遠き道展実行委員長）、謝花佐和子（文化の杜共同企業体）
参　加　者：43人

② 日　　時：６月30日（水）18：15～20：15
場　　所：博物館講座室、博物館企画展示室、美術館企画ギャラリー
対象展示会：美術館企画展「沖縄マンガ展」、博物館「古代エジプト 神秘のミイラ展」
講　　師：金城美奈子（文化の杜共同企業体）、福島輝一（文化の杜共同企業体）
参　加　者：60人

③ 日　　時：９月５日（火）18：15～19：30
場　　所：博物館講座室、美術館企画ギャラリー
対象展示会：美術館企画展「ちゅくいむじゅくい―風土と建築」
講　　師：国吉貴奈（文化の杜共同企業体）
参　加　者：47人

④ 日　　時：９月30日（木）18：15～19：30
場　　所：博物館講座室、博物館企画展示室
対象展示会：博物館特別展「海のクロスロード　八重山」
講　　師：與那嶺一子（当館学芸員）、岸本弘人（当館学芸員）
参　加　者：50人

⑤ 日　　時：11月３日（火）18：15～19：30
場　　所：博物館講座室、美術館企画ギャラリー
対象展示会：美術館企画展「母たちの神―比嘉康雄」
講　　師：大城仁美（当館学芸員）
参　加　者：48人

⑥ 日　　時：2011年１月20日（木）18：15～19：45
場　　所：博物館講座室、博物館企画展示室、美術館企画ギャラリー
研修内容：美術館企画展「安谷屋正義展」、博物館企画展「琉球陶器の来た道」
講　　師：翁長直樹（美術館副館長）、平川信幸（当館学芸員）、中村愛（文化の杜共同企業体）
参 加 者：42人

（中村　愛）

4．消防訓練等

① 消防総合訓練
日　　時：６月14日（月）９：30～11：00
内　　容：通報、避難誘導、消火訓練
参 加 者：館職員、文化の杜スタッフ総員

② 普通救命講習（１）
日　　時：12月20日（月）14：00～17：00
内　　容：那覇市消防本部（救急救命士および消防隊員）の指導を受けて、心肺蘇生法、AED、異物除去を学び、普通救命講習終了証（Ⅰ）の取得を目指した。
参 加 者：文化の杜スタッフ、総合案内、もぎりスタッフ　20人

③　普通救命講習（2）

日　　時：2011年２月７日（月）14：00～17：00

内　　容：心肺蘇生法、AED、異物除去

参 加 者：文化の杜スタッフ、総合案内、もぎりスタッフ　20人

④　普通救命講習（3）

日　　時：2011年３月22日（月）14：00～17：00

内　　容：心肺蘇生法、AED、異物除去

参 加 者：県職員、文化の杜スタッフ、展示交流員　18人

（堀　末治）

5．観光庁「博物館等の文化施設における外国人旅行者受け入れに関する調査業務」実施協力

業務内容：外国人旅行者を対象とした通訳案内士によるガイドツアーの実施およびツアー終了後のアンケート調査

事前研修：2011年１月26日　14：00～16：00　通訳案内士への当館博物館学芸員による事前ガイド研修実施

ツアー実施期間：2011年２月１日（火）～２月６日（日）、２月11日（金）～13日（日）（計９日間）

ツアー内容：博物館常設展示室を30分程度で説明。使用言語は英語、中国語、韓国語。

担 当 者：仲程香野（文化の杜共同企業体）、小林千里（JTB グローバルマーケティング＆トラベル）

（仲程　香野）

全館共同事業

Ⅰ．学芸員実習
Ⅱ．国際博物館の日
Ⅲ．移動展
Ⅳ．燻蒸・消毒処理
Ⅴ．刊行物
Ⅵ．展覧会一覧

Ⅰ．学芸員実習

１．博物館実習

当館では、1969年に最初の実習生を受け入れてから、2006、2007年度の新館準備のための休止年度を除き毎年学芸員実習を実施してきた。2000年度までは、実習生の在籍する大学毎に個別に実習期間を設置して対応してきたが、2001年度以降は年２回に集約して実施している。

2010年度の学芸員実習の内容は下記のとおりである。

１．実習内容と指導職員

前期：６月21日～７月２日		後期：８月16日～27日	
講義・実習	指 導 者	講義・実習	指 導 者
博物館施設・管理運営・事業概要	濱口	博物館施設・事業概要	濱口
美術館施設・事業概要	瑞慶山	美術館施設・事業概要	瑞慶山
資料の保存管理	仲里	IPM への取り組み	仲里
常設展示の展示意図	全学芸員	常設展示の展示意図	全学芸員
自然史資料取扱実習	田中	自然史資料取扱実習	藤田・山崎
考古資料取扱実習	羽方	考古資料取扱実習	羽方
美術工芸資料取扱実習	與那嶺	美術工芸資料取扱実習	與那嶺
歴史資料取扱実習	岸本弘・崎原	歴史資料取扱実習	岸本弘
民俗資料取扱実習	岸本敬	民俗資料取扱実習	岸本敬
資料写真撮影実習	宮平真	図書資料取扱実習	山崎
新収蔵品展撤収作業	全学芸員	資料写真撮影実習	宮平真
教育普及業務（教育普及活動）	池原・宮平妃	教育普及業務（教育普及活動）	池原・宮平妃
中城御殿発掘現場見学	濱口	課題研究（常設展示観覧者調査）	濱口
課題研究（常設展示観覧者調査）	濱口		

２．実習生

前　期			後　期		
1	有　馬　雄　大	琉球大学	1	丸　山　未紗貴	琉球大学
2	平　良　　渉		2	野　原　晴　菜	
3	當　山　ちひろ		3	小　針　由　紀	
4	澤　田　健　吾		4	赤　嶺　祐　作	
5	渡久地　花英手		5	伊　佐　尚　磯	
6	浦　崎　直　規	沖縄国際大学	6	比　嘉　しおり	沖縄国際大学
7	大　城　いずみ		7	宮　里　知　恵	
8	金　城　唯　仁		8	山　田　麻紀子	
9	大　城　博　義		9	仲宗根　めぐみ	
			10	久　貝　祐　子	東海大学
			11	呉　屋　るり葉	北九州市立大学
			12	宮　城　久　俊	山口大学
			13	池　間　美沙樹	岡山理科大学

（濱口　寿夫）

2．美術館実習

美術館では、県内大学や県出身者で県外の大学で学芸員資格取得を目指す実習生を対象に、2010年度は８月16日（月）～８月27日（金）の10日間、学芸員実習を下記のとおり実施した。

【実習内容と指導職員】

講 義 ・ 実 習	担　当	講 義 ・ 実 習	担　当
美術館活動概要及び施設・設備	瑞慶山	IPM への取り組み	仲　里(博)
博物館活動概要及び施設・設備	濱　口(博)	資料の保存･修復の実際	仲　村
美術館業務の考え方と実際　Ⅰ	翁　長	資料の修復実習	〃
美術館業務の考え方と実際　Ⅱ	瑞慶山	展示企画	新　里
平面資料の取り扱い（写真）	新　里	常設展示の実際　Ⅰ	仲　村
平面資料の取り扱い（水彩画・版画）	瑞慶山	常設展示の実際　Ⅱ	國　吉
平面資料の取り扱い（油彩画）	豊見山	常設展示の実際　Ⅲ	豊見山
立体資料の取り扱い（彫刻）	翁　長	企画展の実際　Ⅰ	〃
調査研究概要	瑞慶山	企画展の実際　Ⅱ	大　城
作品調査の方法	吉　田	観覧者調査・集計・分析（演習）	瑞慶山
情報処理（情報のデータベース化）	〃	教育普及事業　Ⅰ	國　吉
資料収集事業概要	瑞慶山	教育普及事業　Ⅱ	新　里

【実習生】

山城まき子（琉球大学）
奥間　絵梨（沖縄県立芸術大学）
富田ひとみ（　　〃　　）
久田　五月（多摩美術大学）
国吉みなみ（京都造形芸術大学）
峯村いずみ（　　〃　　）

（瑞慶山　昇）

Ⅱ．国際博物館の日

名　　称：５月18日「国際博物館の日」
会　　期：2010年５月11日（火）～５月30日（日）　（18日間）
会　　場：パネル展：エントランスホール　ワークショップ：ふれあい体験室前

【開催趣旨】

毎年５月18日は、全世界で博物館活動の普及と向上を目的に、国際博物館会議（通称 ICOM：イコム）によって「国際博物館の日」と定められている。日本博物館協会の会員である当博物館・美術館もこれに伴い、より多くの人々に博物館活動を広く報せ、博物館・美術館に対してより興味・関心、親近感を抱かせるとともに、博物館・美術館や社会教育の意義をさらに普及・啓発するために行う。

【実施内容】

パネル展示の場所は2009年度と同様エントランスホールとし来館者の目につきやすいようにした。初めての取り組みとして全館無料入館と美術館キュレータートークを実施した。また今年は博物館学芸員講座が無料入館日と重なって実施された。

○パネル展　５月11日（火）～５月30日（日）
　パネル展の目的、ICOM・「国際博物館の日」の説明、今年度の行事や講座などの紹介、沖博協加盟館の紹介、「沖縄の博物館ガイド」の紹介、展示会の様子、学芸員の仕事、ボランティア・友の会・happ 等の活動の様子、指定管理者の仕事、過去に実施した展覧会のチラシ展示、

○無料入館日　５月22日（土）のみ

○バックヤードツアー　５月22日（土）のみ
　時　　間：（午前）第１回　博物館　10：00～11：00
　　　　　第２回　美術館　11：00～12：00
　　（午後）第３回　博物館　13：00～14：00
　受　　付：9：00～　総合案内にて
　定　　員：当日先着36名（各回とも12名まで）
　参 加 料：無料

○ワークショップ　ぼく、わたしのてづくりおもちゃ「金魚と風車をつくる！」　５月22日（土）のみ
　時　　間：１回目　10：00　　２回目　10：30　　３回目　11：00　　４回目　11：30
　受　　付：９：00～　ふれあい体験室にて
　定　　員：当日先着40名（各回とも10名まで）
　参 加 料：100円

○キュレータートーク　５月22日（土）のみ
　コレクションギャラリー１　14：10～14：40
　コレクションギャラリー２　14：50～15：20
　コレクションギャラリー３　15：30～16：00

○学芸員講座「動物の運動と姿勢のひみつ」５月22日（土）のみ
　時　　間：14：00～16：00
　場　　所：博物館講座室
　定　　員：80名（当日先着）
　参 加 料：無料

（岸本　弘人）

Ⅲ．移動展

　名　　称：第３回沖縄県立博物館・美術館移動展
　会　　期：2010年10月29日（金）～31日（日）9：00～17：00（23日は10：00～）
　開 催 地：石垣市民会館
　観 覧 料：無料
　予算執行額：6,148,475円
　入場者数：6,829名

【開催趣旨】
　ふだん沖縄県立博物館・美術館に足を運ぶことの出来ない離島や遠隔地の方々に移動展の展示を見てもらうことによって、沖縄県の自然、歴史、文化の広域普及を図り、美術作品を鑑賞する機会を提供する。

【開催形式】
主　　催：沖縄県立博物館・美術館、石垣市、石垣市教育委員会、文化の杜共同企業体
特別協力：株式会社八重山毎日新聞
協　　力：八重山港運株式会社、株式会社八重山日報社、新生美術協会
協　　賛：琉球海運株式会社

【展示内容】

博物館資料：「世界の化石と輝く石」　恐竜の骨格標本、岩石、鉱物
「沖縄の自然、歴史、文化」　沖縄の自然、歴史、文化に関する総合展示
美術館資料：名渡山愛順の絵画

【関連催事】

①名　　称：「かんたんインスタント凧を作ろう」
会　　場：石垣市民会館　中ホールロビー
会　　期：2010年10月30日（土）・31日（日）
11：00　11：30　14：00　14：30
対　　象：一般
定　　員：１日あたり10名
材 料 費：100円

②名　　称：「キッズキュレーター」
会　　場：石垣市民会館　展示ホール
会　　期：2010年10月29日（金）　11：00～12：00
対　　象：一般
参 加 料：無料
協　　力：石垣市立崎枝小中学校

③名　　称：「キュレータートーク」
会　　場：石垣市民会館　展示ホール
会　　期：2010年10月29日（金）～31日（日）
14：00～15：00
対　　象：一般
参 加 料：無料
講　　師：豊見山愛


「かんたんインスタント凧を作ろう」


「キッズキュレーター」

【展示品リスト― 博物館 ―】

〈地学〉

No.	名　　称	数量	種　別	No.	名　　称	数量	種　別
1	サウロロフス	1	資　料	18	水晶	2	資　料
2	サウロロフスの皮膚化石	1	資　料	19	カルサイト	1	資　料
3	プロバクトサウルス	1	資　料	20	重晶石	1	資　料
4	プロトケラトプス	1	資　料	21	レインボーストーン	1	資　料
5	プロトケラトプスの卵	1	資　料	22	黒曜石	1	資　料
6	マンモスの歯	1	資　料	23	メノウ	2	資　料
7	マンモスの毛	1	資　料	24	赤鉄鉱	1	資　料
8	カルカロドン	1	資　料	25	黄鉄鉱	1	資　料
9	アンモナイト	2	資　料	26	黄銅鉱	1	資　料
10	ハロビア	1	資　料	27	ガーネット	1	資　料
11	リュウキュウジカ	1	資　料	28	ザクロ石片麻岩（南極）	1	資　料
12	リュウキュムカシキョン	1	資　料	29	蛍光鉱物一式	6	資　料
13	珪化木	1	資　料	30	アメジスト	1	資　料
14	三葉虫	1	資　料	31	地質図	1	パネル
15	貝化石	3	資　料	32	蛍光鉱物説明用	1	パネル
16	植物化石	1	資　料	33	地質年表	1	パネル
17	魚化石	1	資　料	34	古地理図	1	パネル

〈生物〉

No.	名　　称	数量	種　別	No.	名　　称	数量	種　別
1	イリオモテヤマネコ	1	本剥製	15	オオフウチョウ	1	本剥製
2	ケナガネズミ	1	本剥製	16	ハブ（久米島）	1	本剥製
3	カンムリワシ	1	本剥製	17	ヒメハブ	1	本剥製
4	ヤンバルクイナ	1	本剥製	18	リュウキュウヤマガメ	1	本剥製
5	ヤンバルクイナ（ヒナ）	1	本剥製	19	リュウキュウアユ	1	本剥製
6	サンコウチョウ（オス）	1	本剥製	20	コアジサシ	1	本剥製
7	サンコウチョウ（メス）	1	本剥製	21	ジャワマングース	1	本剥製
8	アカショウビン	1	本剥製	22	ニホンイタチ	1	本剥製
9	カワセミ	1	本剥製	23	ニホンキジ	1	本剥製
10	アカヒゲ	1	本剥製	24	ニホンスッポン	1	本剥製
11	キンバト	1	本剥製	25	シロアゴガエル	1	複　製
12	コノハズク	1	本剥製	26	グリーンアノール	1	複　製
13	ホウロクシギ	1	本剥製	27	サンゴ礁模型	1	模　型
14	カツオドリ	1	本剥製				

〈人類〉

No.	名　　称	数量	種　別
1	港川人復元模型	1	模　型

〈歴史〉

No.	名　　称	数量	種　別	No.	名　　称	数量	種　別
1	荻堂式土器	1	資料	10	貝（ゴホウラ、イモガイ、ヤコウガイ）	3	資　料
2	大当原式土器	1	資料	11	貝匙	1	資　料
3	下田原式土器	1	資料	12	石斧	2	資　料
4	骨製鏃	1	資料	13	類須恵器の壺	1	資　料
5	骨製簪	1	資料	14	青磁碗・皿	2	資　料
6	蝶形骨器	3	資料	15	白磁小皿	2	資　料
7	貝輪	5	資料	16	染付碗・皿	2	資　料
8	貝斧	2	資料	17	炭化米	1	資　料
9	貝符	3	資料	18	線刻石板	1	資　料

〈歴史〉

No.	名　　称	数量	種　別	No.	名　　称	数量	種　別
1	旧首里城正殿鐘（万国津梁の鐘）（複製）	1	金　工　品	17	青空教室〈坂本万七氏撮影〉	1	写真パネル
2	かんざし	6	金　工　品	18	サーターグルマ〈坂本万七氏撮影〉	1	写真パネル
3	金円通宝・世高通宝・大世通宝	3	古　銭　類	19	糸満の漁業〈坂本万七氏撮影〉	1	写真パネル
4	鳩目銭（一括）	10	古　銭　類	20	魚市〈坂本万七氏撮影〉	1	写真パネル
5	琉球通宝（円形）	2	古　銭　類	21	嘉手納海岸に上陸した米軍	1	写真パネル
6	琉球通宝（楕円形）	2	古　銭　類	22	戦闘中の米軍・至近弾をうける	1	写真パネル
7	中山世鑑〈巻１・４〉（複製）	2	古文書・典籍	23	瓦礫と化した首里教会	1	写真パネル
8	おもろさうし〈巻121〉（複製）	2	古文書・典籍	24	戦い終わって山から下りる避難民	1	写真パネル
9	宮古島下地の首里大屋子への辞令書（複製）	1	古文書・典籍	25	収容所で発行されたウルマ新報	1	写真パネル
10	琉球国惣絵図（間切集成図）東風平・具志頭・兼城・高嶺・真壁・摩文仁・喜屋武間切（複製）	1	地図資料	26	戦後のヤミ市	1	写真パネル
11	琉球切手初日カバー	10	現代資料	27	第九回沖縄議会の状況－志喜屋知事	1	写真パネル
12	首里城開園	1	写真パネル	28	八重山琉米文化会館での紙芝居	1	写真パネル
13	首里城正殿〈鎌倉芳太郎氏撮影〉	1	写真パネル	29	Ｂ52墜落事故	1	写真パネル
14	尚円王御後絵〈鎌倉芳太郎氏撮影〉	1	写真パネル	30	主席当選を果たした屋良主席	1	写真パネル
15	弁財天堂と天女橋〈坂本万七氏撮影〉	1	写真パネル	31	返還協定調印式をテレビでみまもる屋良主席	1	写真パネル
16	首里城継世門外の赤田町〈鎌倉芳太郎氏撮影〉	1	写真パネル	32	通貨交換所風景	1	写真パネル

〈美術工芸〉

No.	名　　称	数量	種　別	No.	名　　称	数量	種　別
1	首里那覇港図屏風	1	絵　画	15	紅型ができるまで～隈取り～	1	染　色
2	たまうどん石獅子	1	彫　刻	16	紅型ができるまで～仕上がり～	1	染　色
3	湯庫	1	漆　器	17	沖縄の染織地図　(パネル)	1	染　色
4	屋根獅子	1	陶磁器	18	染織裂（久米島紬）	1	染　色
5	沖縄の書跡（ミニパネル・Ａ３）	1	書　籍	19	染織裂（読谷山花織）	1	染　色
6	和歌短冊「雪中子曰」	1	書　籍	20	染織裂（知花花織）	1	染　色
7	和歌短冊「里山吹」	1	書　籍	21	染織裂（紅型裂）	1	染　色
8	魏学賢書茶掛「秋風引」	1	書　籍	22	染織裂（道屯織）	1	染　色
9	木綿白地飛鳥に琉水蛇籠葵菖蒲文様衣裳（複製）	1	染　色	23	染織裂（琉球絣）	1	染　色
10	紅型の道具	1	染　色	24	染織裂（芭蕉布）	1	染　色
11	紅型たできるまで（ミニパネル・Ａ３）	1	染　色	25	染織裂（宮古上布）	1	染　色
12	紅型ができるまで～糊置き～	1	染　色	26	染織裂（八重山上布）	1	染　色
13	紅型ができるまで～色差しその１（配色）～	1	染　色	27	染織裂（与那国織）	1	染　色
14	紅型ができるまで～色差しその２（二度差し）～	1	染　色				

〈民俗〉

No.	名　　称	数量	種　別	No.	名　　称	数量	種　別
1	ピギダー（八重山凧）	1	資　料	11	ヌールグヮー（張り子）	1	資　料
2	六角凧（八重山凧）	1	資　料	12	ジュリウマ（張り子）	1	資　料
3	八角凧（八重山凧）	1	資　料	13	鹿と猿（張り子）	1	資　料
4	カビドイ（宮古凧）	1	資　料	14	象と猿（張り子）	1	資　料
5	マッタクー（巨大）	1	資　料	15	阿麻和利（張り子）	1	資　料
6	マッタクー	1	資　料	16	鯉乗り童子（張り子）	1	資　料
7	風弾	1	資　料	17	虎グワー（張り子）	1	資　料
8	ヤカジ	1	資　料	18	ハーリーブニ（張り子）	3	資　料
9	ホートゥグヮー（張り子）	1	資　料	19	シーシーメーサー（張り子）	1	資　料
10	ウッチリクブサー（張り子）	2	資　料	20	チンチン馬グヮー（張り子）	1	資　料

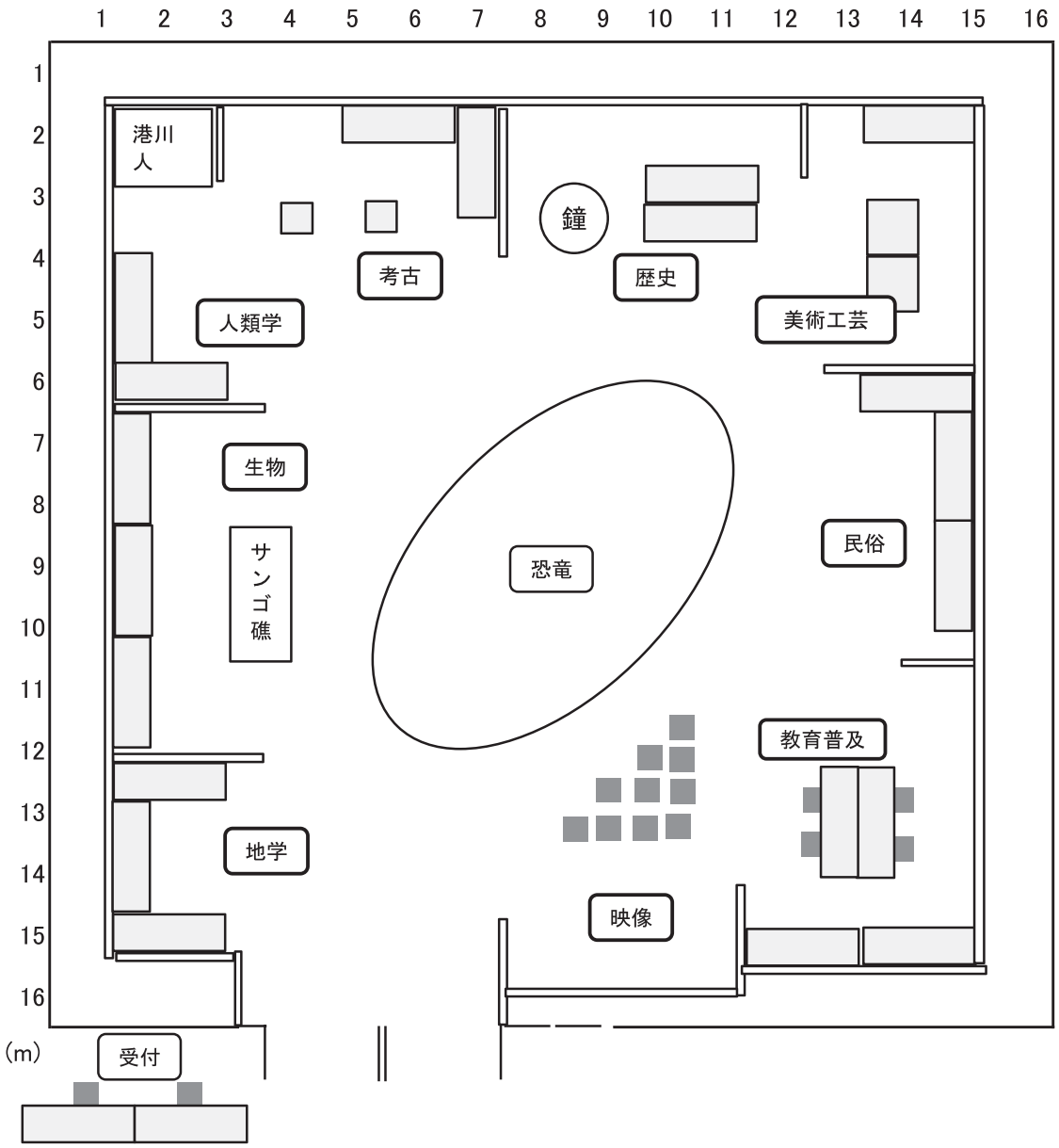
〈教育普及〉

No.	名　　称	数量	種　別	No.	名　　称	数量	種　別
1	ティール	1	竹	9	ミーカガン	2	モンパの木
2	バーキ	2	竹	10	お手玉	5	布・豆・シシダマ
3	ボール	20	ゴム	11	籠	1	藁？
4	クバンヌー	2	クバの葉	12	サンゴと生きる	1	体験キット
5	アダン葉サバ	2	アダンの葉	13	この骨だれの？	1	体験キット
6	クバガサ	2	クバの葉	14	石で築く	1	体験キット
7	サギゾーキ	1	竹	15	御三味	1	体験キット
8	ガンシナ	2	藁・クバの葉？				

【展示品リスト― 美術館 ―】

作品番号	作　品　名	所　蔵　先	制 作 年	素　　材	サイズ（cm）
1	首里城内瑞泉門	沖縄県立博物館・美術館	1937年	油彩、キャンバス	45.7×530
2	手縞格子を着る	名渡山愛擴氏	1941-42年	油彩、キャンバス	96.4×79.5
3	婦人像	名渡山愛擴氏	1945年	油彩、キャンバス	44.6×37.0
4	郷愁	沖縄県立博物館・美術館	1946年	油彩、キャンバス	100.3×80.2
5	かすり	名渡山愛擴氏	1946年	油彩、キャンバス	512×440
6	雪の日の梅	名渡山愛擴氏	1946年	油彩、キャンバス	26.1×212
7	雪の祖母山を望む	名渡山愛擴氏	1946年	油彩、キャンバス	44.7×37.2
8	裸婦（ワシントン美術学校にて）	沖縄県立博物館・美術館	1951年	油彩、キャンバス	60.5×48.5
9	アメリカ風景	名渡山愛擴氏	1951年	油彩、キャンバス	47.7×59.7
10	裸婦	名渡山愛擴氏	1953年	油彩、キャンバス	710×89.4
11	セーターの娘	名渡山愛擴氏	1953年	油彩、キャンバス	652×53.2
12	組踊　二童敵討「護佐丸」	名渡山愛擴氏	1961年	油彩、キャンバス	79.0×64.2
13	老人踊	名渡山愛擴氏	1962年	油彩、キャンバス	70.7×63.5
14	若夏	名渡山愛擴氏	1956年	油彩、キャンバス	116.1×89.9
15	八重山宮良殿内	名渡山愛擴氏	1965年	油彩、キャンバス	48.9×58.9
16	枕ならべたる夢のつれなさや	名渡山愛擴氏	1967年	油彩、キャンバス	144.1×110.7
17	柳	名渡山愛擴氏	1967年	油彩、キャンバス	114.8×89.4
18	髪	名渡山愛擴氏	1968年	油彩、キャンバス	630×510
19	伊野波節を踊る	名渡山愛擴氏	1968年	油彩、キャンバス	1612×129.2
20	しゅんだう	名渡山愛擴氏	不明	油彩、キャンバス	144×110.7
21	エスキース・デッサン	名渡山愛擴氏	不明	紙、油彩	

【展示平面図】





開会式の様子



会場の様子

（羽方　誠）

Ⅳ. 燻蒸・消毒処理

2010年度は2007年度から実施している総合的妨害虫管理（IPM）の運用を継続して行い、活動として、年２回の全館を休館しての燻蒸・消毒処理、簡易燻蒸・消毒処理、IPM モニタリング等を行い、毎月１回の IPM 全体会議にて連絡・報告などを行っている。収蔵資料の保存管理のため、定期的な消毒作業を行い、保存環境の適正化に努めている。

１）2010年度　全館燻蒸・消毒処理

第１回　全館燻蒸・消毒

期　　間：2010年６月7日（月）～６月15日（火）９日間
消毒箇所：全館
使用薬剤：シフェノトリン（商品名：ミラクン GX）
投 薬 量：0.7～７ｇ/m以下
処理方法：シフェノトリンを気化し、害虫に呼吸毒として作用させ殺虫

第２回　燻蒸・消毒

期　　間：2011年１月23日（日）（閉館後）～１月25日（火）３日間
消毒箇所：収蔵庫・バックヤード（美）・十周準備室
使用薬剤：シフェノトリン（商品名：ミラクン GX）
投 薬 量：0.7～７ｇ/m以下
処理方法：シフェノトリンを気化し、害虫に呼吸毒として作用させ殺虫

２）簡易燻蒸・消毒処理

各トラックヤードに自動噴霧装置設置（博物館３ヶ所、美術館２ヵ所、県民ギャラリー１ヶ所）を設置、毎日深夜に散布（スミスリン乳剤）し、開閉する場所の害虫駆除を実施している。

また、必要に応じて作品等の燻蒸・消毒を「ふくろう君」（二酸化炭素）を実施している。

（宮里　宗彦）

Ⅵ. 刊行物

（全体）

	刊　行　物　名	種　類	部　数	規格（頁）	内　　容
1	沖縄県立博物館・美術館　年報３号	定　期	1,500	A4(119)	前年度の博物館・美術館活動報告
2	沖縄県立博物館・美術館　行事案内－平成22年度－	〃	50,000	A3(四折)	博物館・美術館行事案内
3	第３回移動展　　パンフレット	〃	1,000	A4(11)	移動展　　パンフレット
4	〃　　ポスター	〃	200	A2	〃　　告知ポスター
5	〃　　チラシ	〃	1,000	A4	〃　　告知チラシ

（博物館班）

	刊　行　物　名	種　類	部　数	規格（頁）	内　　容
1	沖縄県立博物館・美術館　博物館紀要　第４号	定　期	1,000	A4(119)	博物館学芸員の調査研究報告書
2	平成22年度博物館教育普及活動	〃	1,000	A4(126)	博物館教育普及活動報告
3	博物館学校団体見学マニュアル	不定期	10,000	A3(二つ折)	博物館学校団体見学の手引き
4	新収蔵品展－平成21年度収蔵資料－	〃	1,000	A4(19)	博物館企画展　　図録
5	海のクロスロード　八重山	不定期	1,000	A4(91)	博物館特別展　　図録
6	〃　　ポスター	〃	1,000	B2	〃　　告知ポスター
7	〃　　チラシ	〃	30,000	A4	〃　　告知チラシ
8	白保竿根田原洞穴と２万年前の八重山　チラシ	〃	1,000	A4	〃 シンポジウム 告知チラシ
9	琉球陶器の来た道	〃	1,000	A4(198)	博物館企画展　　図録
10	〃　　ポスター	〃	2,000	B2	〃　　告知ポスター
11	〃　　チラシ	〃	30,000	A4	〃　　告知チラシ
12	アイヌ－美を求める心　　ポスター	〃	1,300	B2	博物館企画展　　告知ポスター
13	〃　　チラシ	〃	27,000	A4	〃　　告知チラシ
14	骨の科学	〃	500	A5(92)	博物館企画展　　図録
15	〃　　ポスター	〃	500	B2	〃　　告知ポスター
16	〃　　チラシ	〃	5,000	A4	〃　　告知チラシ

（美術館班）

	刊　行　物　名	種　類	部　数	規格（頁）	内　　容
1	美術館ガイドブック	不定期	1,000	A3(28)	利用者のためのガイドブック
2	美術館教育普及報告書　平成22年度	定期	1,000	B5(30)	美術館教育普及活動報告
3	母たちの神－比嘉康雄展	不定期	800	A5変型(290)	美術館企画展　　図録
4	〃　　ポスター	〃	1,500	B2	〃　　告知ポスター
5	〃　　チラシ	〃	40,000	A4	〃　　告知チラシ
6	安谷屋正義展－モダニズムのゆくえ	〃	800	A4変型(207)	美術館企画展　　図録
7	〃　　ポスター	〃	1,500	B2	〃　　告知ポスター
8	〃　　チラシ	〃	57,000	A4	〃　　告知チラシ

（指定管理者）

	刊　行　物　名	種　類	部　数	規格（頁）	内　　容
1	石川直樹写真展　　ポスター	不定期	200	B2	指定管理者企画展　告知ポスター
2	〃　　チラシ	〃	7,000	A4	〃　　告知チラシ
3	いわさきちひろ展　　ポスター	〃	3,000	B2	指定管理者企画展　告知ポスター
4	〃　　チラシ	〃	50,000	A4	〃　　告知チラシ
5	遠き道－はて無き精進の道程－　　ポスター	〃	1,500	B2	指定管理者企画展　告知ポスター
6	〃　　チラシ	〃	50,000	A4	〃　　告知チラシ
7	沖縄マンガ展	〃	1,000	B5(64)	指定管理者企画展　図録
8	〃　　ポスター	〃	1,500	B2	〃　　告知ポスター
9	〃　　チラシ	〃	10000	A4	〃　　告知チラシ
10	ちゅくいむじゅくい　風土と建築　　ポスター	〃	2,000	B1	指定管理者企画展　告知ポスター
11	〃　　チラシ	〃	4,000	A4	〃　　告知チラシ

Ⅵ. 展覧会一覧（2010年度）

	展示会名	場　所	主　催	期　間
1	いわさきちひろ展	美術館企画ギャラリー１・２	文化の杜共同企業体／沖縄県立博物館・美術館／ちひろ美術館／沖縄タイムス社	４／３～５／９
2	石川直樹写真展　ARCHIPELAGO	博物館特別展示室１・２	文化の杜共同企業体	４／13～５／９
3	展示会図録展	情報センター	文化の杜共同企業体	５／11～５／30
4	新収蔵品展－平成21年度収蔵資料－	博物館企画展示室	沖縄県立博物館・美術館	５／14～６／６
5	遠き道－はて無き精進の道程	美術館企画ギャラリー１・２	文化の杜共同企業体／沖縄県立博物館・美術館	５／18～６／６
6	東川町へのトリビュート写真展 「郷愁のコスモロジー」	博物館特別展示室１	沖縄大学映像民俗学研究フォーラム	５／29～６／６
7	写真展「定点　慰霊の日」	情報センター	文化の杜共同企業体	６／16～６／27
8	第16回　九州高文連　美書写展	美術館企画ギャラリー１・２	沖縄県高等学校文化連連盟	６／18～６／20
9	古代エジプト　神秘のミイラ展	博物館特別展示室１・２、企画展示室	古代エジプトミイラ展実行委員会	６／25～８／20
10	沖縄マンガ展	美術館企画ギャラリー１・２	文化の杜共同企業体／沖縄県立博物館・美術館	７／１～８／29
11	台中市文化局　台中展	博物館特別展示室１・２、企画展示室	台中市文化局	８／28～９／12
12	県民キュレーター展 「ちゅくいむじゅくい　風土と建築」	美術館企画ギャラリー１・２	文化の杜共同企業体／沖縄県立博物館・美術館／ちゅくいむじゅくい風土と建築実行委員会	９／７～10／３
13	大優勝旗展	エントランスホール	沖縄県高等学校野球大会／学校法人興南学園／朝日新聞社／毎日新聞社	９／12～９／20
14	海のクロスロード　八重山	博物館特別展示室１・２、企画展示室	沖縄県立博物館・美術館	９／24～11／23
15	沖縄県芸術文化祭	美術館企画ギャラリー１・２	沖縄県文化振興課	10／16～10／20
16	母たちの神－比嘉康雄展	美術館企画ギャラリー１・２	沖縄県立博物館・美術館／沖縄県教育委員会	11／２～１／10
17	三館合同展「宝庫からのメッセージ～琉球・沖縄の貴重資料」	県民ギャラリー１・２・３	琉球大学附属図書館／沖縄県立図書館／沖縄県立博物館・美術館	11／30～12／12
18	掘り出された琉球王国のグスク及び関連遺産群～いにしえの眠りからめざめた世界の宝～	博物館特別展示室２	「琉球王国のグスク及び関連遺産群」世界遺産登録10周年記念事業実行委員会	12／７～12／26
19	アイヌ－美を求める心－	博物館特別展示室１・企画展示室	財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構／沖縄県立博物館・美術館／文化の杜共同企業体	12／３～１／10
20	安谷屋正義展－モダニズムのゆくえ	美術館企画ギャラリー１・２	沖縄県立博物館・美術館／沖縄県教育委員会	１／19～３／13
21	第２回沖縄ねんりんピック かりゆし美術展	博物館企画展示室	沖縄県社会福祉協議会	１／20～１／23
22	琉球陶器の来た道	博物館特別展示室１・２	沖縄県立博物館・美術館／那覇市立壺屋焼物博物館／沖縄県教育委員会／那覇市	１／22～３／６
23	骨の科学	博物館企画展示室	沖縄県立博物館・美術館	２／４～３／21
24	大嶺薫コレクション展	博物館特別展示室２	沖縄県立博物館・美術館	３／15～４／10
25	茅原南龍書業50年記念展	美術館企画ギャラリー１・２	茅原書藝會	３／23～３／31

その他の活動

Ⅰ．沖縄県博物館協会
Ⅱ．全国組織との関わり
Ⅲ．沖縄博物館友の会
Ⅳ．happ（美術館友の会）

Ⅰ．沖縄県博物館協会

当館からの参加者については「博物館　Ⅰ．調査研究等の活動　７．職員研修」の項を参照のこと。

【総会・春の研修会】

期　　日：2010年６月18日（金）、19日（木）
場　　所：読谷村文化センター
顕彰者報告：2010年度顕彰者：大城和喜、仲原弘哲
総　　会：議案第１号　2009年度事業報告
　　議案第２号　2009年度決算報告　会計監査結果報告
　　議案第３号　2010年度事業計画案
　　議案第４号　2010年度予算案
研　　修：講演　「マスコミや人にアクションをおこさせるには」　安村敏信（東京都板橋区立美術館）
　　事例発表１　「取材を行う立場から」　与儀武秀（沖縄タイムス社）
　　事例発表２　「沖縄県立博物館・美術館における広報・宣伝・集客の取組み」
　　濱口寿夫（沖縄県立博物館・美術館；県）、仲程香野（同；指定管理者）
現地研修：山田グスク　解説：千木良芳範・羽方誠（沖縄県立博物館・美術館）

【秋の研修会】

期　日：2010年11月５日（金）、６日（土）
場　所：笠利農村環境改善センター
　　講演１：「近世奄美諸島史の到達と課題―『奄美史談』と薩摩進攻400年後」
　　弓削政己（奄美郷土研究会）
　　講演２：「「奄美遺産」を活かしたまちづくりへの提言」　中山清美（奄美博物館）
　　現地研修：赤木名城、赤木名集落、原野農芸博物館

（濱口　寿夫）

Ⅱ．全国組織との関わり

１．日本博物館協会

１．日本博物館協会

（１）　評議会
期　　日：2010年６月８日（火）
場　　所：商工会館（東京）
参 加 者：千木良芳範

（２）　全国博物館館長会議
期　　日：2010年６月９日（水）
場　　所：文部科学省講堂
参 加 者：千木良芳範

（３）　第58回全国博物館大会
期　　日：2010年11月24日（水）、25日（木）
場　　所：奈良県新公会堂
参 加 者：牧野浩隆

２．全国科学博物館協議会

（１）　第１回総会
期　　日：2010年６月10日（木）
場　　所：国立科学博物館
参 加 者：千木良芳範

（２）　第２回総会
期　　日：2011年２月24日（木）、25日（金）
場　　所：千葉県立中央博物館
参 加 者：千木良芳範

（前田　直昭）

２．九州博物館協議会

（１） 総会
期　　日：2010年５月27日（木）、28日（金）
場　　所：熊本県立美術館
参 加 者：牧野浩隆
（２） 研修会
期　　日：2010年11月11日（木）、12日（金）
場　　所：宮崎県総合博物館
参 加 者：千木良芳範

（前田　直昭）

３．美術館連絡協議会

下記会議については、2010年度は欠席した。
・2010年度総会（東京）

（翁長　直樹）

Ⅲ．沖縄博物館友の会

沖縄博物館友の会は、「博物館の事業に積極的に参加、協力し、さらに会員相互の教養を高め、親睦をはかる」ことを目的として1980年（昭和55年）に発足した。本年度の会員の内訳は、普通会員244名、賛助会員７社、家族会員36家族（74名）となっております。

博物館ボランティア活動への支援、文化の杜共同企業体と契約している博物館常設展示室への展示交流員事業等を実施しています。

事業のさらなる活発化を図り、会員への情報等のサービス向上を推進しているところです。

2010度（平成22年）の活動内容と事業内容は次の通りである。

【講演会】
○沖縄博物館友の会　文化講演会
『崎間麗進先生が語る　戦前の首里と那覇のくらしと文化』
日　　時：2011年３月18日（金）
内　　容：戦前の首里と那覇の街を当時の風物・民俗行事・こどもの遊びなど実体験をもとに崎間麗進先生が詩情豊かに語りました。（参加者：150名余）

【散策会】
○長虹堤跡を訪ねて
日　　時：2010年７月24日（土）
内　　容：崇元寺橋、美栄橋、七つ墓、長寿寺跡まで、阿波根直孝氏の解説で実施した。（参加者：23名）

【県内研修】
○離島研修「伊是名・伊平屋・古宇利島」
日　　時：2010年９月26日（日）～27日（月）
内　　容：琉球王朝の祖の出身地伊平屋島･伊是名島を地元の方の案内で一周した。伊平屋島ではクマヤ洞穴、念頭平松、屋蔵墓、そして伊是名島へは渡し船で渡り、星空観察、尚円王御庭公園、逆田、銘苅家住宅、伊是名玉陵等第二尚氏ゆかりの地を巡った。帰路古宇利島を一周した。（参加者：17名）

○中部地区グスク巡り

日　　時：2010年12月５日（日）

内　　容：越来城跡、白椿の家、尚宣威の墓、座喜味城跡、屋良ムルチ、知花城跡、鬼大城の墓、安慶名城跡を友の会グスクサークルの与儀達憲さんの解説で実施した。（参加者：27名）

【県外研修】

○琉球使節の足跡を訪ねてⅡ「江戸・日光の旅」

日　　時：2011年１月13日（木）～15日（土）

内　　容：“琉球慶賀使・謝恩使一行の2,000キロの旅絵巻を訪ねて”薩摩藩蔵屋敷跡、皇居（江戸城跡）、日光東照宮、宝物館、上野東照宮を見学し、さらに東京国立博物館、江戸東京博物館、日本民芸館等崎原恭子学芸員の解説で見学を実施した。（参加者：14人）

【施設見学会】

○南風原文化センター・陸軍病院壕見学会

日　　時：2010年８月15日（日）

内　　容：友の会会員照屋清雄さん、仲間孝蔵さんの解説で見学した。（参加者：17名）

【交流員研修】

○休館日を利用しての展示交流員館外研修

日　　時：2011年１月17日（月）

内　　容：浦添ようどれ館・浦添ようどれ・浦添城跡等仲間孝蔵さんの解説で実施。世界遺産中城城跡・護佐丸の墓を中城城跡共同管理協議会のボランティアガイドの解説で見学した。（参加者：28名）

【会員への情報提供】

○博物館事業及び催し物の案内状発送

○友の会事業の講演会・研修旅行案内及び会誌・会報発行

【サークル活動】

○家譜サークル（毎月２回勉強会実施）

○グスクサークル

○辺境サークル

【博物館サポート】

○博物館特別展・企画展のポスター・図録等の発送作業

○博物館ボランティア活動の支援

○「ボランティア通信」の印刷・発送業務

○博物館常設展示室展示交流員の配置業務

（友の会事務局）

Ⅳ. happ（美術館友の会）

happ とは2005年（平成17年）に沖縄県立美術館の活躍をサポートする NPO 団体として誕生した。happ とは、happy や happen の起源となるスカンジナビア語の「happ（幸福)」からきている。h＝happiness（しあわせ)・happening（できごと)、a＝art（アート)、p＝people（人々)、p＝place（場所）の意味を込めている。

アートを身近に感じ、アートを創造するような活動を通して、それぞれの「happ＝しあわせ」を見つけられる場所を作っていきたいと考え、主に美術館の活動をサポートしていく。

2010年度活動内容

	事　業　名	事　業　内　容	日　　時	開　催　場　所	参加人数
1	文化講座	マネから現代まで。沖縄で考える、現代アートの入門の入門集中講座	2010年６月５日 	美術館講座室	40名
2	文化講座	E-MAD in OKINAWA	2010年７月７日～ 2011年１月19日まで 全14回	Happ ボランティア室	12名
3	ワーク・ショップ	キッズカメラマン体験教室	2010年10月９日 10/10, 10/16, 10/17 10/23　全５回	県民スタジオ、エントランス	150名
4	芸術文化発信事業	沖縄のアート情報HPの運営	一年を通じて	Web にて	
5	交流事業	Art ミュージアムコンサート	2011年３月12日	エントランス	180名
6	展覧会事業	ヴィデオパフォーマンスによる、オキナワ・アート・アクション！ 	2011年３月19日～21日、 27日	・博物館講座室 ・コザＺスペース、 ・沖縄大学 ミニシアター ・伊江島はにくすに ホール	300名

（事務局）

関係法規抄録

◯博物館法
◯博物館法施行令
◯博物館法施行規則
◯博物館の登録に関する規則
◯沖縄県立教育機関組織規則（抄）
◯沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例
◯沖縄県立博物館・美術館管理規則
◯沖縄県立博物館・美術館館長執務規程
◯博物館・美術館学芸業務嘱託員設置規程
◯博物館・美術館教育普及業務嘱託員設置規程
◯美術品調査嘱託員設置規程
◯美術品保存修復嘱託員設置規程
◯沖縄県立博物館保管資料の利用に関する取扱要領

関係法規抄録

◯博物館法

昭和26年12月１日　法律第285号
〔最終改正〕平成19年６月27日　法律第 96 号

第１章　総　則

（この法律の目的）

第１条　この法律は、社会教育法（昭和24年法律第207号）の精神に基き、博物館の設置及び運営に関して必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もつて国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

（定　義）

第２条　この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法 による公民館及び図書館法（昭和25年法律第118号）による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、民法（明治29年法律第89号）第34条の法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人（独立行政法人（独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第２条第１項に規定する独立行政法人をいう。第29条において同じ。）を除く。）が設置するもので第２章の規定による登録を受けたものをいう。

２　この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、民法第34条 の法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。

３　この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料をいう。

（博物館の事業）

第３条　博物館は、前条第１項に規定する目的を達成するため、おおむね左に掲げる事業を行う。

（１）　実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。

（２）　分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。

（３）　一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。

（４）　博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。

（５）　博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。

（６）　博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。

（７）　博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。

（８）　当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法（昭和25年法律第214号）の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。

（９）　他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。

(10)　学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。

２　博物館は、その事業を行うに当つては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

（館長、学芸員その他の職員）

第４条　博物館に、館長を置く。

２　館長は、館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。

３　博物館に、専門的職員として学芸員を置く。

４　学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。

５　博物館に、館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。

６　学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

（学芸員の資格）

第５条　次の各号の一に該当する者は、学芸員となる資格を有する。

（１）　学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの。

（２）　大学に２年以上在学し、前号の博物館に関する科目の単位を含めて62単位以上を修得した者で、３年以上学芸員補の職にあつたもの。

（３）　文部科学省大臣が、文部科学省令で定めるところにより、前各号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めた者。

２　前項第２号の学芸員補の職には、博物館の事業に類する事業を行う施設における職で、学芸員補の職に相当する職又はこれと同等以上の職として文部科学省大臣が指定するものを含むものとする。

（学芸員補の資格）

第６条　学校教育法（昭和22年法律第26号）第90条第１項 の規定により大学に入学することのできる者は、学芸員補となる資格を有する。

第７条　削　除

（設置及び運営上望ましい基準）

第８条　文部科学大臣は、博物館の健全な発達を図るために、博物館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを教育委員会に提示するとともに一般公衆に対して示すものとする。

第９条　削　除

第２章　登　録

（登　録）

第10条　博物館を設置しようとする者は、当該博物館について、当該博物館の所在する都道府県の教育委員会に備える博物館登録原簿に登録を受けるものとする。

（登録の申請）

第11条　前条の規定による登録を受けようとする者は、設置しようとする博物館について、左に掲げる事項を記載した登録申請書を都道府県の教育委員会に提出しなければならない。

（１）　設置者の名称及び私立博物館にあつては設置者の住所。

（２）　名　称。

（３）　所在地。

２　前項の登録申請書には、左に掲げる書類を添附しなければならない。

（１）　公立博物館にあつては、設置条例の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び予算の歳出の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面。

（２）　私立博物館にあつては、当該法人の定款若しくは寄附行為の写又は当該宗教法人の規則の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び収支の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面。

（登録要件の審査）

第12条　都道府県の教育委員会は、前条の規定による登録の申請があつた場合においては、当該申請に係る博物館が左に掲げる要件を備えているかどうかを審査し、備えていると認めたときは、同条第１項各号に掲げる事項及び登録の年月日を博物館登録原簿に登録するとともに登録した旨を当該登録申請者に通知し、備えていないと認めたときは、登録しない旨をその理由を附記した書面で当該登録申請者に通知しなければならない。

（１）　第２条第１項に規定する目的を達成するために必要な博物館資料があること。

（２）　第２条第１項に規定する目的を達成するために必要な学芸員その他の職員を有すること。

（３）　第２条第１項に規定する目的を達成するために必要な建物及び土地があること。

（４）　１年を通じて150日以上開館すること。

（登録事項等の変更）

第13条　博物館の設置者は、第11条第１項各号に掲げる事項について変更があつたとき、又は同条第２項に規定する添付書類の記載事項について重要な変更があつたときは、その旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

２　都道府県の教育委員会は、第11条第１項各号に掲げる事項に変更があつたことを知つたときは、当該博物館に係る登録事項の変更登録をしなければならない。

（登録の取消）

第14条　都道府県の教育委員会は、博物館が第12条各号に掲げる要件を欠くに至つたものと認めたとき、又は虚偽の申請に基いて登録した事実を発見したときは、当該博物館に係る登録を取り消さなければならない。但し、博物館が天災その他やむを得ない事由により要件を欠くに至つた場合においては、その要件を欠くに至つた日から２年間はこの限りでない。

２　都道府県の教育委員会は、前項の規定により登録の取消しをしたときは、当該博物館の設置者に対し、速やかにその旨を通知しなければならない。

（博物館の廃止）

第15条　博物館の設置者は、博物館を廃止したときは、すみやかにその旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

２　都道府県の教育委員会は、博物館の設置者が当該博物館を廃止したときは、当該博物館に係る登録をまつ消しなければならない。

（規則への委任）

第16条　この章に定めるものを除くほか、博物館の登録に関し必要な事項は、都道府県の教育委員会の規則で定める。

第17条　削　除

第３章　公立博物館

（設　置）

第18条　公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

（所　管）

第19条　公立博物館は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会の所管に属する。

（博物館協議会）

第20条　公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

２　博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

第21条　博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者の中から、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

第22条　博物館協議会の設置、その委員の定数及び任期その他博物館協議会に関し必要な事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

（入館料等）

第23条　公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。

（博物館の補助）

第24条　国は、博物館を設置する地方公共団体に対し、予算の範囲内において、博物館の施設、設備に要する経費その他必要な経費の一部を補助することができる。

２　前項の補助金の交付に関し必要な事項は、政令で定める。

第25条　削　除

（補助金の交付中止及び補助金の返還）

第26条　国は、博物館を設置する地方公共団体に対し第24条の規定による補助金の交付をした場合において、左の各号の一に該当するときは、当該年度におけるその後の補助金の交付をやめるとともに、第１号の場合の取消が虚偽の申請に基いて登録した事実の発見に因るものである場合には、既に交付した補助金を、第３号及び第４号に該当する場合には、既に交付した当該年度の補助金を返還させなければならない。

（１）　当該博物館について、第14条の規定による登録の取消があつたとき。

（２）　地方公共団体が当該博物館を廃止したとき。

（３）　地方公共団体が補助金の交付の条件に違反したとき。

（４）　地方公共団体が虚偽の方法で補助金の交付を受けたとき。

第４章　私立博物館

（都道府県の教育委員会との関係）

第27条　都道府県の教育委員会は、博物館に関する指導資料の作成及び調査研究のために、私立博物館に対し必要な報告を求めることができる。

２　都道府県の教育委員会は、私立博物館に対し、その求めに応じて、私立博物館の設置及び運営に関して、専門的、技術的の指導又は助言を与えることができる。

（国及び地方公共団体との関係）

第28条　国及び地方公共団体は、私立博物館に対し、その求めに応じて、必要な物資の確保につき援助を与えることができる。

第５章　雑　則

（博物館に相当する施設）

第29条　博物館の事業に類する事業を行う施設で、国又は独立行政法人が設置する施設にあつては文部科学大臣が、その他の施設にあつては当該施設の所在する都道府県の教育委員会が、文部科学省令で定めるところにより、博物館に相当する施設として指定したものについては、第27条第２項の規定を準用する。

附　則　（平成19年６月27日法律第96号）　抄

（施行期日）

第１条　　この法律は、公布の日から起算して６月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

○博物館法施行令

昭和27年３月20日　政令第 47 号
〔最近改正〕昭和34年４月30日　政令第157号

（政令で定める法人）

第１条　博物館法（以下「法」という。）第２条第１項の政令で定める法人は、次に掲げるものとする。

１　日本赤十字社。

２　日本放送協会。

（施設、設備に要する経費の範囲）

第２条　法第24条第１項に規定する博物館の施設、設備に要する経費の範囲は、次に掲げるものとする。

１　施設費　施設の建築に要する本工事費、附帯工事費及び事務費。

２　設備費　博物館に備えつける博物館資料及びその利用のための器材器具の購入に要する経費。

附　則

この政令は、公布の日から施行する。

○博物館法施行規則

昭和30年10月４日 文部省令第24号
〔最終改正〕平成18年３月31日 文部科学省令第11号

第１章　大学において修得すべき博物館に関する科目の単位

（博物館に関する科目の単位）

第１条　博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第５条第１項第１号の規定により大学において修得すべき博物館に関する科目の単位は、次の表に掲げるものとする。

科　目	単位数
生涯学習概論	1
博物館概論	2
博物館経営論	1
博物館資料論	2
博物館情報論	1
博物館実習	3
視聴覚教育メディア論	1
教育学概論	1

備考

１　博物館概論、博物館経営論、博物館資料論及び博物館情報論の単位は、これらの科目の内容を統合した科目である博物館学の単位をもつて替えることができる。ただし、当該博物館学の単位数は、６を下ることはできないものと

する。
2　博物館経営論、博物館資料論及び博物館情報論の単位は、これらの科目の内容を統合した科目である博物館学各論の単位をもつて替えることができる。ただし、当該博物館学各論の単位数は、四を下ることはできないものとする。
3　博物館実習は、博物館（法第２条第１項に規定する博物館をいう。以下同じ。）又は法第29条の規定に基づき文部科学大臣若しくは都道府県の教育委員会の指定した博物館に相当する施設（大学においてこれに準ずると認めた施設を含む。）における実習により修得するものとする。
4　博物館実習の単位数には、大学における博物館実習に係る事前及び事後の指導の一単位を含むものとする。

第２条　削除

第２章　学芸員の資格認定

（資格認定）

第３条　法第５条第１項第３号の規定により学芸員となる資格を有する者と同等以上の学力及び経験を有する者と認められる者は、この章に定める試験認定又は無試験認定（以下「資格認定」という。）の合格者とする。

第４条　資格認定は、毎年少くとも各１回、文部科学大臣が行う。
2　資格認定の施行期日、場所及び出願の期限等は、あらかじめ、官報で告示する。

（試験認定の受験資格）

第５条　左の各号の一に該当する者は、試験認定を受けることができる。
1　学士の学位を有する者
2　大学に２年以上在学し、62単位以上を修得した者で３年以上学芸員補の職（学芸員補に相当する職又はこれと同等以上の職として文部科学大臣が指定するものを含む。以下同じ。）にあつた者
3　教育職員の普通免許状を有し、３年以上教育職員の職にあつた者
4　５年以上学芸員補の職にあつた者
5　その他文部科学大臣が前各号に掲げる者と同等以上の資格を有すると認めた者

（試験認定の方法及び試験科目）

第６条　試験認定は、大学卒業の程度において、筆記及び口述の方法により行う。

第　一　欄			第　二　欄
試　験　科　目		試験認定の必要科目	試験の方法
必須科目	生涯学習概論	上記科目の全科目	筆記
	博物館学		筆記及び口述
	視聴覚メディア論		筆記
	教育学概論		筆記
選択科目	文化史	上記科目のうちから受験者の選択する二科目	筆記
	美術史		筆記
	考古学		筆記
	民俗学		筆記
	自然科学史		筆記
	物理		筆記
	化学		筆記
	生物学		筆記
	地学		筆記

2　試験科目及び各試験科目についての試験の方法は、次表第一欄及び第二欄に定めるとおりとする。

（試験科目の免除）

第７条　大学又は文部科学大臣の指定する講習等において、前条に規定する試験科目に相当する科目の単位を１単位（博物館学にあつては６単位）以上修得した者又は講習等を修了した者に対しては、その願い出により、当該科目についての試験を免除する。
2　前項の文部科学大臣の指定する講習等における単位の計算方法は、大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）第21条第２項に定める基準によるものとする。

（２回以上の受験）

第８条　試験認定は、２回以上にわたり、それぞれ１以上の試験科目について受けることができる。

（無試験認定の受験資格）

第９条　左の各号の一に該当する者は、無試験認定を受けることができる。
1　学位規則（昭和28年文部省令第９号）による修士若しくは博士の学位又は専門職学位を有する者
2　大学において博物館に関する科目に関し二年以上教授、准教授、助教又は講師の職にあつた者
3　十年以上学芸員補の職にあつた者で都道府県の教育委員会の推薦する者
4　その他文部科学大臣が前各号に掲げる者と同等以上の資格を有すると認めた者

（無試験認定の方法）

第10条　無試験認定は、次条の規定により願い出た者について、博物館に関する学識及び業績を審査して行うものとする。

（受験の手続）

第11条　資格認定を受けようとする者は、受験願書（別記第１号様式により作成したもの）に左の各号に掲げる書類等を添えて、文部科学大臣に願い出なければならない。この場合において、住民基本台帳法（昭和42年法律第81号）第30条の７第３項の規定により同法第30条の５第１項に規定する本人確認情報の提供を受けて文部科学大臣が資格認定を受けようとする者の氏名、生年月日及び住所を確認することができるときは、第３号に掲げる住民票の写しを添付することを要しない。
1　受験資格を証明する書類
2　履歴書（別記第２号様式により作成したもの）
3　住民票の写し（出願前６月以内に交付を受けたもの）
4　写真（出願前１年以内に脱帽して撮影した手札形の写真を葉書大の厚紙にはり付け、裏面に住所、氏名（ふりがなを

つける。）及び生年月日を記載したもの）
5　試験認定の試験科目の免除を願い出る者については、その免除を受ける資格を証明する書類
6　無試験認定を願い出る者については、博物館に関する学識及び業績を明示する書類及び資料

（試験認定合格者及び試験認定科目合格者）

第12条　試験科目（試験科目の免除を受けた者については、その免除を受けた科目を除く。）のすべてについて合格点を得た者（試験科目の全部について試験の免除を受けた者を含む。）を試験認定合格者とする。ただし、第５条第１号の規定に該当する者については、１年間学芸員補の職の職務に従事した後に、試験認定合格者となるものとする。

2　試験認定合格者ではないが、１以上の試験科目について合格点を得た者を試験認定科目合格者とする。

（無試験認定合格者）

第13条　第10条の規定による審査に合格した者を無試験認定合格者とする。

（合格証書の授与等）

第14条　試験認定合格者（第12条第１項ただし書に規定する者を含む。）及び無試験認定合格者に対しては、合格証書（別記第３号様式によるもの）を授与する。

2　合格証書を有する者が、その氏名を変更し、又は合格証書を破損し、若しくは紛失した場合において、その事由をしるして願い出たときは、合格証書を書き換え又は再交付する。

（合格証明書の交付等）

第15条　試験認定合格者又は無試験認定合格者が、その合格の証明を願い出たときは、合格証明書（別記第４号様式によるもの）を交付する。

2　試験認定科目合格者がその科目合格の証明を願い出たときは、科目合格証明書（別記第５号様式によるもの）を交付する。

（手数料）

第16条　次表の上欄に掲げる者は、それぞれその下欄に掲げる額の手数料を納付しなければならない。

上　　欄	下　　欄
1　試験認定を願い出る者	一科目につき1,300円
2　無試験認定を願い出る者	3,800円
3　合格証書の書換又は再交付を願い出る者	700円
4　合格証書の交付を願い出る者	700円
5　科目合格証明書の交付を願い出る者	700円

2　前項の規定によつて納付すべき手数料は、収入印紙を用い、収入印紙は、各願書にはるものとする。ただし、行政手続等における情報通信の技術の利用に関する法律（平成14年法律第151号）第３条第１項の規定により申請等を行った場合は、当該申請等により得られた納付情報により手数料を納付しなければならない。

3　納付した手数料は、どういう事由があつても返還しない。

（不正の行為を行つた者等に対する処分）

第17条　虚偽若しくは不正の方法により資格認定を受け、又は資格認定を受けるにあたり不正の行為を行つた者に対しては、受験を停止し、既に受けた資格認定の成績を無効にするとともに、期間を定めてその後の資格認定を受けさせないことができる。

2　試験認定合格者、無試験認定合格者又は試験認定科目合格者について前項の事実があつたことが明らかになつたときは、その合格を無効にするとともに、既に授与又は交付した合格証書その他当該合格を証明する書類を取り上げ、かつ、期間を定めてその後の資格認定を受けさせないことができる。

3　前二項の処分をしたときは、処分を受けた者の氏名及び住所を官報に公告する。

第３章　博物館に相当する施設の指定

（申請の手続）

第18条　法第29条の規定により博物館に相当する施設として文部科学大臣又は都道府県の教育委員会の指定を受けようとする場合は、博物館相当施設指定申請書（別記第６号様式により作成したもの）に次に掲げる書類等を添えて、国立の施設にあつては当該施設の長が、独立行政法人（独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第２条第１項に規定する独立行政法人をいう。第21条において同じ。）が設置する施設にあつては当該独立行政法人の長が文部科学大臣に、都道府県立の施設にあつては当該施設の長（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が、その他の施設にあつては当該施設を設置する者（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が当該施設の所在する都道府県の教育委員会に、それぞれ提出しなければならない。

1　当該施設の有する資料の目録
2　直接当該施設の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及び図面
3　当該年度における事業計画書及び予算の収支の見積に関する書類
4　当該施設の長及び学芸員に相当する職員の氏名を記載した書類

（指定要件の審査）

第19条　文部科学大臣又は都道府県の教育委員会は、博物館に相当する施設として指定しようとするときは、申請に係る施設が、次の各号に掲げる要件を備えているかどうかを審査するものとする。

1　博物館の事業に類する事業を達成するために必要な資料を整備していること。
2　博物館の事業に類する事業を達成するために必要な専用の施設及び設備を有すること。
3　学芸員に相当する職員がいること。
4　一般公衆の利用のために当該施設及び設備を公開すること。
5　一年を通じて百日以上開館すること。

2　前項に規定する指定の審査に当つては、必要に応じて当該施設の実地について審査するものとする。

第20条　削除

第21条　文部科学大臣又は都道府県の教育委員会の指定する博物館に相当する施設（以下「博物館相当施設」という。）が第19条第１項に規定する要件を欠くに至つたときは、直ちにその旨を、国立の施設にあつては当該施設の長が、独立行政法人が設置する施設にあつては当該独立行政法人の長が文部科学大臣に、都道府県立の施設にあつては当該施設の長（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が、その他の施設にあつては当該施設を設置する者（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が当該施設の所在する都道府県の教育委員会に、それぞれ報告しなければならない。

第22条　削除

第23条　文部科学大臣又は都道府県の教育委員会は、その指定した博物館相当施設に対し、第19条第１項に規定する要件に関し、必要な報告を求めることができる。

（指定の取消）

第24条　文部科学大臣又は都道府県の教育委員会は、その指定した博物館相当施設が第19条第１項に規定する要件を欠くに至つたものと認めたとき、又は虚偽の申請に基いて指定した事実を発見したときは、当該指定を取り消すものとする。

第４章　雑則

（従前の規程による学校の卒業者等）

第25条　第５条第１号に規定する学士の学位を有する者には、旧大学令（大正７年勅令第388号）による学士の称号を有する者を含むものとする。

第26条　第５五条第２号に規定する大学に２年以上在学し、62単位以上を修得した者には、旧大学令、旧高等学校令（大正７年勅令第389号）、旧専門学校令（明治36年勅令第61号）又は旧教員養成諸学校官制（昭和21年勅令第208号）の規定による大学予科、高等学校高等科、専門学校又は教員養成諸学校を修了し、又は卒業した者を含むものとする。

第27条　第９条第１号に規定する博士の学位を有する者には、旧学位令（大正９年勅令第200号）による博士の称号を有する者を含むものとする。

附則　（平成18年３月31日文部科学省令第11号）

（施行期日）

第１条　この省令は、平成十九年四月一日から施行する。

（助教授の在職に関する経過措置）

第２条　この省令の規定による改正後の次に掲げる省令の規定の適用については、この省令の施行前における助教授としての在職は、

准教授としての在職とみなす。

１　学校教育法施行規則第８条第１号ロ
２　博物館法施行規則第８条第２号
３　大学設置基準第14条第４号
４　高等専門学校設置基準第11条第３号
５　短期大学設置基準第23条第５号

◯博物館の登録に関する規則

昭和50年５月８日　教育委員会規則第５号
〔最終改正〕平成６年３月31日　教育委員会規則第２号

（趣旨）

第１条　この規則は、博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第16条の規定に基づき博物館の登録に関し、必要な事項を定めるものとする。

（登録原簿等の様式）

第２条　法第10条、第11条第１項及び第11条第２項に規定する登録原簿等の名称及び様式は、次の表に掲げるとおりとする。

根拠条項	名称	様式
法第10条	博物館登録原簿	第１号様式
法第11条第１項	博物館登録申請書	第２号様式
法第11条第２項	博物館資料目録	第３号様式

（博物館登録申請書の添付書類）

第３条　博物館登録申請書には、法第11条第２項に規定する書類のほか、職員名簿（第４号様式）を添付するものとする。

（登録要件の審査）

第４条　法第12条の規定による登録要件の審査及び法第14条第１項の規定による登録の取消しを県教育委員会が行う場合は、当該博物館に対し、必要な資料を求め実地調査及び学識経験者の意見を聴くことができる。

（登録事項等の変更）

第５条　法第13条第１項の規定による変更の届出は、そのつど博物館登録事項等変更届出書（第５号様式）によつて行うものとする。ただし、博物館資料目録の軽微な変更については、毎年３月末日に届け出るものとする。

（博物館の廃止）

第６条　法第15条の規定による博物館の廃止の届出は、博物館廃止届（第６号様式）により行うものとする。

（公示）

第７条　県教育委員会は、博物館の登録若しくは登録事項等の変更があつたとき、又は登録の取消し若しくはまつ消を行つたときは、その旨を沖縄県公報により公示するものとする。

附　則

（平成６年３月31日教育委員会規則第２号）

この規則は、平成６年４月１日から施行する。

第１号様式
（第２条関係）

No.

博物館登録原簿

備考	所在地	名称	※設置者の名称及び住所	事項		
				登録	年月日	記号番号
				録	年月日	第号
				登録変更	年月日	
					年月日	
				登録変更	年月日	
					年月日	

（※公立の場合は設置者の名称のみ記入）

第２号様式
（第２条関係）

博物館登録申請書

文書番号
年　月　日

沖縄県教育委員会　殿

申請者　氏名　　印

博物館法第１１条第１項の規定により、下記施設を博物館として登録されるよう別添関係書類等を添えて申請します。

記

設置者の名称

私立博物館設置者の住所

名称

所在地

備考　この申請書には、次の書類を添付すること。
（１）　公立博物館にあっては設置条例の写し、私立博物館にあっては、法人の定款若しくは寄附行為の写し又は宗教法人の規則の写し
（２）　館則の写し
（３）　直接博物館の用に供する建物及び面積を記載した書面並びにその図面
（４）　当該年度における事業計画書及び公立博物館にあっては予算の歳出の見積もり、私立博物館にあっては収支の見積もりに関する書類
（５）　博物館資料の目録並びに館長の氏名及び学芸員の種類ごとの氏名を記載した書面
（６）　学芸員は、その資格を有することを証するにたる書類

第３号様式
（第２条関係）

博物館資料目録

博物館名

資　料　の　種　別			資料の種類及び数量				
自然科学に関する資料							
人文科学に関する資料							
種別	番号	名称	規格	品質	数量	取得年月日	備考

第４号様式
（第３条関係）

職員名簿

博物館名

番号	氏名	職名	最終学歴	博物館職員としての勤務年数	担当職務	備考

第５号様式
（第５条関係）

博物館登録事項変更届出書

文　書　番　号
年　　月　　日

沖縄県教育委員会　殿

施　設　名
届出者氏名　　印

博物館法第１３条第１項の規定により、下記のとおり変更届を提出します。

記

変　更　年　月　日		年　　月　　日
変　更　の　理　由		
変 更 事 項 の 種 類		
変更事項の内容	旧	
	新	

第６号様式
（第６条関係）

博物館廃止届

文　書　番　号
年　　月　　日

沖縄県教育委員会　殿

施　設　名
届出者氏名　　印

博物館法第１５条第１項の規定により、下記のとおり届けます。

記

廃　止　年　月　日	年　　月　　日
廃　止　し　た　理　由	
廃 止 後 の 財 産 処 分	
その他参考となるべき事項	

◯沖縄県立教育機関組織規則（抄）

昭和47年５月15日　教育委員会規則第２号
〔最終改正〕平成19年10月30日　教育委員会規則第15号

（趣　旨）

第１条　この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）及び沖縄県立博物館･美術館の設置及び管理に関する条例（平成18年沖縄県条例第72号）に規定する教育機関の組織及び分掌事務その他必要な事項を定めるものとする。

（博物館・美術館）

第４条　沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）に、次の班を置く。

博物館班

美術館班

２　博物館・美術館の所掌事務は、次のとおりとする。

博物館班

（１）　博物館・美術館の博物館施設に係る資料（以下「博物館資料」という。）の収集、保管及び展示に関すること。

（２）　博物館資料の利用に関すること。

（３）　博物館施設及びその他施設の利用に関すること。

（４）　博物館資料の調査研究に関すること。

（５）　博物館資料の目録、図録、案内書、解説書、調査研究報告書等の作成及び頒布に関すること。

（６）　博物館資料についての講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。

（７）　他の博物館等との相互協力に関すること（美術館班が分掌して処理することが適当であると認められるものを除く）。

（８）　教育、学術又は文化に関する施設への協力及びその活動の支援に関すること（美術館班が分掌して処理することが適当であると認められるものを除く。）。

（９）　予算、決算その他会計事務に関すること。

(10)　公印の管守に関すること。

(11)　職員の服務及び福利厚生に関すること。

(12)　博物館・美術館協議会に関すること。

(13)　指定管理者との連絡調整に関すること。

(14)　他班の所掌に属さない事務に関すること。

美術館班

（１）　博物館・美術館の美術館施設に係る資料（以下「美術館資料」という。）の収集、保管及び展示に関すること。

（２）　美術館資料の利用に関すること。

（３）　美術館施設の利用に関すること。

（４）　美術館資料の調査研究に関すること。

（５）　美術館資料の目録、図録、案内書、解説書、調査研究報告書等の作成及び頒布に関すること。

（６）　美術館資料についての講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。

（７）　他の博物館等との相互協力に関すること（美術館班が分掌して処理することが適当であると認められるものに限る）。

（８）　教育、学術又は文化に関する施設への協力及びその活動の支援に関すること（美術館班が分掌して処理することが適当であると認められるものに限る。）。

（職制等）

第７条　総合教育センター、図書館、博物館・美術館、埋蔵文化財センター、青年の家及び少年自然の家（以下「教育機関」という。）に、所長又は館長（以下「所長等」という。）を置く。

２　所長等は、上司の命を受け、当該教育機関が所掌する事務を掌理する。

第９条　総合教育センター、図書館、博物館・美術館及び埋蔵文化財センターに、副所長又は副館長（以下「副所長等」という。）を置く。

２　副所長等は、上司の命を受け、所長等を補佐し、当該教育機関の事務を整理する。

第９条の２　博物館・美術館の班に、班長を置く。

２　班長は、上司の命を受け、班の分掌事務を処理する。

第12条　図書館及び博物館・美術館に、特に必要があるときは、副参事を置くことができる。

２　副参事は、上司の命を受け、特定重要事項を処理する。

第12条の３　図書館、博物館・美術館及び埋蔵文化財センターに、特に必要があるときは、主任専門員を置くことができる。

２　主任専門員は、上司の命を受け、専門的事務を処理する。

第13条　博物館・美術館に、特に必要のあるときは、主任学芸員を置くことができる。

２　主任学芸員は、上司の命を受け、博物館・美術館の専門的事務を処理する。

◯沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例

平成18年12月27日　条例第72号

（設　置）

第１条　歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料（以下「博物館・美術館資料」という。）を収集し、保管し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせて博物館・美術館資料に関する調査研究を行うため、博物館法（昭和26年法律第285号）第２条第１項に規定する博物館として沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）を設置する。

（位置及び施設）

第２条　博物館・美術館の位置は、那覇市おもろまち３丁目１番１号とする。

２　博物館・美術館は、次に掲げる施設をもって構成する。

（１）　博物館施設

（２）　美術館施設

（３）　その他施設

（事業）
第３条　博物館・美術館は、次に掲げる事業を行う。
（１）　博物館・美術館資料の収集、保管及び展示に関すること。
（２）　博物館・美術館資料の利用に関すること。
（３）　博物館・美術館の施設の利用に関すること。
（４）　博物館・美術館資料の調査研究に関すること。
（５）　博物館・美術館資料の目録、図録、案内書、解説書、調査研究報告書等の作成及び頒布に関すること。
（６）　博物館・美術館資料についての講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
（７）　他の博物館等との相互協力に関すること。
（８）　教育、学術又は文化に関する施設への協力及びその活動の支援に関すること。
（９）　前各号に掲げるもののほか、博物館・美術館の設置の目的を達成するために必要な事業に関すること。
（博物館・美術館の管理）
第４条　博物館・美術館の管理は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の２第３項の規定により、法人その他の団体であって教育委員会が指定するもの（以下「指定管理者」という。）に行わせるものとする。
（指定管理者の業務）
第５条　指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。
（１）　博物館・美術館の設置の目的を達成するために教育委員会が必要と認める事業の実施に関する業務
（２）　第11条の規定による観覧料の収受に関する業務、第12条の規定による観覧料の減免に関する業務、第13条ただし書の規定による観覧料の返還に関する業務その他の観覧料の収受に関する業務
（３）　第14条の規定による利用の許可に関する業務、第17条の規定による利用の許可の取消し等に関する業務、第18条第２項の規定による原状回復命令に関する業務その他の利用の許可に関する業務
（４）　第19条及び同条第３項において準用する第11条第５項から第７項までの規定による利用料金の収受に関する業務、第19条第３項において準用する第12条の規定による利用料金の減免に関する業務、第19条第３項において準用する第13条ただし書の規定による利用料金の返還に関する業務その他の利用料金の収受に関する業務
（５）　博物館・美術館の施設及び附属設備の維持及び修繕に関する業務
（６）　前各号に掲げるもののほか、博物館・美術館の管理運営に関して、教育委員会が必要と認める業務
（指定管理者の指定の申請）
第６条　第４条の規定による指定を受けようとするものは、教育委員会規則で定める申請書に事業計画書その他教育委員会規則で定める書類（以下「事業計画書等」という。）を添えて、教育委員会に提出しなければならない。
（指定管理者の指定）
第７条　教育委員会は、前条の規定による申請があったときは、次に掲げる基準により審査し、最も適切に博物館・美術館の管理を行うことができると認めるものを候補者として選定し、議会の議決を経て指定管理者を指定するものとする。
（１）　事業計画書等の内容が、県民の公平な利用を確保できるものであること。
（２）　事業計画書等の内容が、博物館・美術館の効用を最大限に発揮させるものであるとともに、効率的な管理がなされるものであること。
（３）　事業計画書に沿った管理を安定して行う物的及び人的能力を有するものであること。
（４）　前３号に掲げるもののほか、博物館・美術館の設置の目的を達成するために十分な能力を有するものであること。
（指定管理者の指定等の告示）
第８条　教育委員会は、前条の規定により、指定管理者を指定したときは、その旨を告示しなければならない。
２　前項の規定は、地方自治法第244条の２第11項の規定により、指定管理者の指定を取り消し、又は期間を定めて管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じた場合に準用する。
（休館日）
第９条　博物館・美術館の休館日は、次に掲げるとおりとする。
（１）　月曜日
（２）　12月29日から翌年の１月３日までの日
２　前項第１号に規定する休館日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日又は沖縄県慰霊の日を定める条例（昭和49年沖縄県条例第42号）第２条に規定する慰霊の日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもって、これに替えるものとする。
３　前２項の規定にかかわらず、指定管理者は、必要があると認めるときは、教育委員会の承認を得て、臨時に休館日に開館し、又は休館日以外の日に休館することができる。
（開館時間）
第10条　博物館・美術館の開館時間は、午前９時から午後６時（金曜日及び土曜日にあっては、午後８時）までとする。
２　前項の規定にかかわらず、指定管理者は、必要があると認めるときは、教育委員会の承認を得て、開館時間を臨時に変更することができる。
（観覧料）
第11条　常設展、企画展又は特別展を観覧しようとする者は、観覧料を指定管理者に納めなければならない。
２　常設展を観覧しようとする場合の観覧料は、別表第１に定める基準額に100分の70を乗じて得た額から当該基準額に100分の130を乗じて得た額までの範囲内で、指定管理者が定めるものとする。
３　企画展又は特別展を観覧しようとする場合の観覧料は、3,000円を超えない範囲内で、その都度指定管理者が定めるものとする。
４　前２項の規定にかかわらず、１年間を通して常設展、企画展又は特別展を観覧しようとする場合の観覧料は、別表第２に定める基準額に100分の70を乗じて得た額から当該基準額に100分の130を乗じて得た額までの範囲内で、指定管理者が定めるものとする。
５　指定管理者は、第２項から前項までの規定により、観覧料を定めようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けなければならない。観覧料を変更しようとするときも、同様とする。
６　教育委員会は、前項の承認をしたときは、これを告示するものとする。

7　観覧料は、指定管理者の収入とする。

（観覧料の減免）

第12条　指定管理者は、公益上その他特別の理由があると認めるときは、観覧料を減額し、又は免除することができる。

2　前項の規定にかかわらず、指定管理者は、教育委員会規則で定める場合は、教育委員会規則で定めるところにより、観覧料を減額し、又は免除するものとする。

（観覧料の返還）

第13条　既に納付した観覧料は、返還しない。ただし、必要があると認められる場合は、指定管理者は、その全部又は一部を返還することができる。

（利用の許可）

第14条　別表第３に掲げる博物館・美術館の施設又は附属設備（以下「施設等」という。）を利用しようとする者は、あらかじめ指定管理者の許可を受けなければならない。許可を受けた者（以下「利用者」という。）が許可を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

2　指定管理者は、博物館・美術館の管理上必要があると認めたときは、前項の許可をするに当たり、条件を付することができる。

3　指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、第１項の許可をしないことができる。

（１）　公の秩序を乱し、又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。

（２）　公益を害するおそれがあると認められるとき。

（３）　施設等を汚損し、損傷し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。

（４）　前３号に掲げるもののほか、施設等の管理上支障があると認められるとき。

（利用期間）

第15条　施設等を引き続いて利用することができる期間は、教育委員会規則で施設等ごとに定める日数以内とする。ただし、指定管理者が特別の理由があると認めるときは、教育委員会規則で定めるところにより、当該期間を変更することができる。

（権利の譲渡等の禁止）

第16条　利用者は、施設等を利用する権利を譲渡し、又は転貸してはならない。

（許可の取消し等）

第17条　指定管理者は、利用者が次の各号のいずれかに該当するときは、第14条第１項の許可を取り消し、又は施設等の利用を制限し、若しくはその停止を命ずることができる。

（１）　この条例若しくはこの条例に基づく規則又はこれらに基づく指示に違反したとき。

（２）　偽りその他不正な手段により許可を受けたとき。

（３）　許可に付した条件に違反したとき。

（４）　第14条第３項各号のいずれかに該当するに至ったとき。

（原状回復の義務）

第18条　利用者は、施設等の利用を終えたとき、又は前条各号のいずれかの規定に該当することにより利用の許可を取り消されたときは、速やかに施設等を原状に回復しなければならない。

2　指定管理者は、利用者が前項の義務を履行しないときは、その原状回復に必要な措置をとるべきことを命ずることができる。

（利用料金）

第19条　利用者は、施設等の利用に係る料金（以下「利用料金」という。）を指定管理者に納めなければならない。

2　利用料金は、別表第３に定める基準額に100分の70を乗じて得た額から当該基準額に100分の130を乗じて得た額までの範囲内で、指定管理者が定めるものとする。

3　第11条第５項から第７項まで、第12条及び第13条の規定は、利用料金について準用する。

（事業報告書の提出）

第20条　指定管理者は、毎年度終了後30日以内に、教育委員会規則で定めるところにより、事業報告書を作成し、教育委員会に提出しなければならない。

（博物館・美術館協議会）

第21条　博物館・美術館に、博物館・美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2　協議会の委員（以下「委員」という。）の定数は、15人以内とする。

3　委員の任期は、２年とする。ただし、欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4　前２項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

（教育委員会規則への委任）

第22条　この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附　則

（施行期日）

1　この条例は、公布の日から起算して１年を超えない範囲内において教育委員会規則で定める日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。（平成19年６月教育委員会規則第11号で、同19年11月１日から施行）

（準備行為）

2　第７条の規定による指定管理者の指定、第11条第５項の規定による観覧料の承認及び第19条第３項において準用する第11条第５項の規定による利用料金の承認並びにこれらに関し必要な手続その他の行為は、この条例の施行前においても、第６条から第８条まで、第11条第２項から第６項まで並びに第19条第２項並びに同条第３項において準用する第11条第５項及び第６項の規定の例により行うことができる。

（沖縄県立教育機関設置条例の一部改正）

3　沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）の一部を次のように改正する。

第１条中「、図書館法」を「及び図書館法」に改め、「及び博物館法（昭和26年法律第285号）第18条」を削り、「必要な事項」を「、必要な事項」に改める。

第５条及び第６条を削り、第６条の２を第５条とし、第７条を第６条とし、第７条の２を第７条とする。

第８条中「、第５条及び第６条の２」を「及び第５条」に改める。

（沖縄県立教育機関使用料徴収条例の一部改正）

4　沖縄県立教育機関使用料徴収条例（昭和47年沖縄県条例第37号）の一部を次のように改正する。

第２条第１項中「別表第１又は別表第２」を「別表」に改め、同条第２項を削る。

別表第１を削り、別表第２を別表とする。

別表第１（第11条関係）

区　分		基準額（１人につき）	
		個人の場合	団体の場合
博物館施設	一般	400円	320円
	大学生及び高校生	250円	200円
	中学生及び小学生	150円（県外の中学生及び小学生に限る）	120円（県外の中学生及び小学生に限る）
美術館施設	一般	300円	240円
	大学生及び高校生	200円	160円
	中学生及び小学生	100円（県外の中学生及び小学生に限る）	80円（県外の中学生及び小学生に限る）

備考

1　「一般」とは、「大学生及び高校生」及び「中学生及び小学生」のいずれにも該当しない者（小学校就学の始期に達するまでの者を除く。）をいう。

2　「大学生及び高校生」とは、大学の学生及び高等学校の生徒その他これらに準ずる者をいう。

3　「中学生及び小学生」とは、中学校の生徒及び小学校の児童その他これらに準ずる者をいう。

4　「団体の場合」とは、20人以上の団体で観覧する場合及び教育委員会規則で定める場合をいう。

別表第２（第11条関係）

区　分		基準額（１人につき）		
		一般	大学生及び高校生	中学生及び小学生
博物館施設	常設展	1,200円	750円	450円（県外の中学生及び小学生に限る）
	常設展、企画展及び特別展	4,200円	2,600円	1,600円（県内の中学生及び小学生にあっては、1,150円）
美術館施設	常設展	900円	600円	300円（県外の中学生及び小学生に限る）
	常設展及び企画展	3,900円	2,600円	1,300円（県内の中学生及び小学生にあっては、1,000円）

備考

1　「一般」とは、「大学生及び高校生」及び「中学生及び小学生」のいずれにも該当しない者（小学校就学の始期に達するまでの者を除く。）をいう。

2　「大学生及び高校生」とは、大学の学生及び高等学校の生徒その他これらに準ずる者をいう。

3　「中学生及び小学生」とは、中学校の生徒及び小学校の児童その他これらに準ずる者をいう。

別表第３（第14条、第19条関係）

1　施設利用料金

（1）　博物館施設利用料金

区　分		基準額（１日につき）
企画展示室	入場料を徴収しない場合	29,100円
	入場料を徴収する場合	87,300円
特別展示室	入場料を徴収しない場合	38,100円
	入場料を徴収する場合	114,300円
実　習　室	入場料を徴収しない場合	9,000円
	入場料を徴収する場合	27,000円
講　座　室	入場料を徴収しない場合	15,900円
	入場料を徴収する場合	47,700円

（2）　美術館施設利用料金

区　分		基準額（１日につき）
県民ギャラリー１		8,100円
県民ギャラリー２		7,500円
県民ギャラリー３		7,500円
県民ギャラリースタジオ		8,200円
県民アトリエ	入場料を徴収しない場合	7,000円
	入場料を徴収する場合	21,000円
子供アトリエ	入場料を徴収しない場合	7,500円
	入場料を徴収する場合	22,500円
企画展示室１	入場料を徴収しない場合	32,800円
	入場料を徴収する場合	98,400円

区　分		基準額（１日につき）
企画展示室２	入場料を徴収しない場合	40,700円
	入場料を徴収する場合	122,100円
講　座　室	入場料を徴収しない場合	9,100円
	入場料を徴収する場合	27,300円

（３）　その他施設利用料金

区　分		基準額（１時間につき）
講　　堂	入場料を徴収しない場合	3,400円
	入場料を徴収する場合	10,200円

２　附属設備利用料金

種　別	単　位	基　準　額
舞台器具	１回１点または一式につき	10,000円以内で教育委員会規則で定める額
音響器具	１回１点または一式につき	10,000円以内で教育委員会規則で定める額
照明器具	１回１点または一式につき	10,000円以内で教育委員会規則で定める額
冷房器具	１時間につき	3,000円以内で教育委員会規則で定める額
その他教育委員会規則で定める付属設備	１回１点または一式につき	10,000円以内で教育委員会規則で定める額

備考

１　「入場料」とは、入場料、会費、会場整理費その他名称のいかんを問わず、入場の対価として徴収するものをいう。

２　利用料金の基準額が１時間を単位として定められている施設等の利用者が許可された利用時間を超過して当該施設等を利用する場合における利用料金の基準額は、この表の区分に従い、次のとおりとする。

（１）　午前９時から午後６時（金曜日及び土曜日にあっては、午後８時）までの間は、超過時間30分間（30分間に満たない端数は、これを30分間とする。）につき、当該区分に定める基準額の２分の１の額に100分の120を乗じて得た額

（２）　午後６時（金曜日及び土曜日にあっては、午後８時）後は、超過時間30分間（30分間に満たない端数は、これを30分間とする。）につき、当該区分に定める基準額の２分の１の額に100分の150を乗じて得た額

◯沖縄県立博物館・美術館管理規則

平成19年3月16日　教育委員会規則第１号

（趣　旨）

第１条　この規則は、沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例（平成18年沖縄県条例第72号。以下「条例」という。）の規定並びに地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第23条第１号及び博物館法（昭和26年法律第285号）第19条の規定に基づき、沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（寄贈及び寄託）

第２条　博物館・美術館に資料を寄贈又は寄託しようとする者は、博物館・美術館資料寄贈申込書（第１号様式）又は博物館・美術館資料寄託申請書（第２号様式）を提出しなければならない。

２　受贈又は受託を決定したものについては、博物館・美術館資料受贈受諾書（第３号様式）又は博物館・美術館資料受託承認書（第４号様式）を交付するものとする。

３　寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、博物館・美術館の館長（以下「館長」という。）が必要と認めた場合はこの限りでない。

４　第２項の規定により寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。

５　第２項の規定により寄託を受けた資料は、寄託者の請求又は博物館・美術館の都合により返付する。

（寄贈資料及び寄託資料の管理等）

第３条　寄託された資料の管理は、博物館・美術館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

２　寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し、又は損傷したときは、県及び館長並びに指定管理者は、損害賠償の責任を負わないものとする。

（指定管理者の指定の申請）

第４条　条例第６条の規則で定める申請書は、指定管理者指定申請書（第５号様式）によるものとする。

２　条例第６条の規則で定める書類は、次に掲げる書類とする。

（１）　法人である団体にあっては、定款又は寄附行為及び登記事項証明書

（２）　法人でない団体にあっては、定款又は寄附行為に相当する書類及び代表者の身分証明書（市区町村長が発行するものに限る。）

（３）　申請に係る業務の実施の方法を記載した書類

（４）　最近の事業年度における事業報告書、貸借対照表、収支決算書、財産目録その他の経理的基礎を有することを明らかにする書類（申請の日の属する事業年度に設立された法人にあっては、その設立時における財産目録）

（５）　役員の氏名、住所及び履歴を記載した書類

（６）　前各号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める書類

（観覧券の交付）

第５条　指定管理者は、博物館・美術館の展示品を観覧しようとする者が所定の観覧料を納付した場合又は指定管理者により後納が認められた場合は、観覧券を交付するものとする。

（観覧料の免除）

第６条　条例第12条第１項の規定により観覧料の免除を受けようとする者は、あらかじめ観覧料免除申請書（第６号様式）を指定管理者に提出し、その承認を受けなければならない。
２　条例第12条第２項の規定により観覧料を免除することができる場合は、次のとおりとする。
（１）　県内の中学校の生徒及び小学校の児童並びにその他これらに準ずる者の引率者が教育課程に基づく教育活動として博物館・美術館の常設展を観覧する場合
（２）　県内の高等学校の生徒、その他これらに準ずる者及びその引率者が教育課程に基づく教育活動として博物館・美術館の常設展を観覧する場合
（３）　70歳以上の者が常設展を観覧する場合
（４）　身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第４項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者及びその介助員が常設展を観覧する場合

（入館の禁止等）

第７条　指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。
（１）　館内の秩序を乱すおそれがあると認められる者
（２）　その他指定管理者が適当でないと認める者

（施設利用の許可等）

第８条　条例別表第３に掲げる博物館・美術館の施設又は附属設備を利用しようとする者は、あらかじめ博物館・美術館施設利用許可申請書（第７号様式）を提出しなければならない。

（利用期間）

第９条　条例第15条本文に規定する教育委員会規則で施設等ごとに定める日数は、次の各号に掲げる施設等の区分に応じ当該各号に定める日数とする。
（１）　博物館施設の企画展示室及び特別展示室並びに美術館施設の企画展示室１及び企画展示室２並びにこれらの施設の冷房設備　６月
（２）　前号に掲げる施設等以外の施設　７日
２　条例第15条ただし書の規定により利用期間を変更しようとする者は、沖縄県立博物館・美術館利用期間変更願（第８号様式）を指定管理者に提出しなければならない。

（利用料金の免除）

第10条　条例第19条第３項において準用する第12条第２項の規定により利用料金を免除することができる場合は、沖縄県が条例第３条各号に掲げる事業を行うために利用する場合とする。
２　条例第19条第３項において準用する第12条第２項の規定により利用料金の免除を受けようとする者は、博物館・美術館施設利用許可申請書を提出する際に、併せて沖縄県立博物館・美術館利用料金免除申請書（第９号様式）を指定管理者に提出しなければならない。
３　指定管理者は、利用料金の免除を承認したときは、沖縄県立博物館・美術館利用料金免除承認書（第10号様式）を利用者に交付するものとする。

（事業報告書の内容等）

第11条　条例第20条の事業報告書は、次に掲げる事項を記載して提出するものとする。
（１）　博物館・美術館の管理運営に関する業務（以下「業務」という。）の実施状況
（２）　業務に係る収支状況
（３）　博物館・美術館の利用状況
（４）　前３号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める事項

（博物館・美術館協議会の組織等）

第12条　博物館・美術館協議会（以下「協議会」という。）の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。
２　協議会に会長及び副会長を置き、委員のうちから互選する。
３　会長は協議会を代表し、会務を総理する。
４　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
５　協議会の会議は、会長が招集し、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。
６　会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
７　協議会は協議のため必要があると認める場合は、調査を行い、又は専門家その他の関係者の出席を求め、意見若しくは説明を聴くことができる。
８　協議会の委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。
９　協議会の庶務は、博物館・美術館において処理する。
10　その他協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

（観覧料の割引）

第13条　条例別表第１備考４に規定する教育委員会規則で定める場合は、博物館施設又は美術館施設の常設展を観覧しようとする日と同じ日に博物館・美術館が行う他の展示と併せて観覧する場合とする。ただし、併せて観覧する他の展示の観覧料が無料の場合は、この限りでない。

（附属設備の利用料金の基準額）

第14条　条例別表第３第２項の表の教育委員会で定める額は、別表に掲げるとおりとする。

（補　則）

第15条　この規則に定めるもののほか、博物館・美術館の管理に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附　則

（施行期日）

１　この規則は、条例の施行の日〔平成19年11月１日〕から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

（準備行為として行う申請に必要な申請書等）

２　条例附則第２項の規定により準備行為として行う指定管理者の指定の申請に必要な申請書及び書類については、第４条の規定の例による。

（沖縄県立博物館の管理に関する規則等の廃止）

3　次に掲げる規則は、廃止する。

（1）　沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第13号）

（2）　沖縄県立博物館協議会規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第29号）

（沖縄県教育庁組織規則の一部改正）

4　沖縄県教育庁組織規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第１号）の一部を次のように改正する。

第31条第３号中「沖縄県立博物館」を「沖縄県立博物館・美術館」に改める。

第33条第４号中「沖縄県立博物館協議会」を「博物館・美術館協議会」に改める。

別表（第14条関係）

1　附属設備（冷房設備を除く。）の利用料金

種　別	品　名	単　位	基準額
舞台器具	演台	1台	300円
	花台	1台	100円
	司会台	1台	150円
音響器具	メインスピーカー	1式	1,000円
	コンデンサーマイク	1本	300円
	ワイヤレスマイク	1本	600円
	ダイナミックマイク	1本	200円
	ビデオテープレコーダー	1台	700円
	DVDプレーヤー	1台	1,250円
	CD・MDプレーヤー	1台	400円
	HD／DVDレコーダー	1台	1,250円
照明器具	ボーダーライト	1列	300円
	サスペンションライト	1列	500円
	アッパーホリゾンライト	1列	700円
	シーリングライト	1列	600円
	センターピンスポットライト	1台	400円
その他	書画カメラ	1台	800円
	ビデオプロジェクター	1台	1,400円
	電動スクリーン	1式	1,100円
	35ミリフィルム映写機	1式	5,000円

備考　附属設備利用料金の基準額は、１ステージごとの額とする。ただし、長時間連続して利用する場合は、４時間ごとに１ステージとみなす。

区　分		単　位	基準額
博物館施設	企画展示室	1時間までごとに	630円
	特別展示室	1時間までごとに	830円
	実習室	1時間までごとに	190円
	講座室	1時間までごとに	340円
美術館施設	県民ギャラリー1	1時間までごとに	170円
	県民ギャラリー2	1時間までごとに	160円
	県民ギャラリー3	1時間までごとに	160円
	県民ギャラリースタジオ	1時間までごとに	180円
	県民アトリエ	1時間までごとに	150円
	子供アトリエ	1時間までごとに	160円
	企画展示室	1時間までごとに	710円
	企画展示室2	1時間までごとに	880円
	講座室	1時間までごとに	200円
その他施設	講堂	1時間までごとに	590円

第１号様式
（第２条関係）

博物館・美術館資料寄贈申込書

年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館長　殿

申込者　住　所
氏　名　　印

私所有の下記の資料を沖縄県立博物館・美術館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。

記

1　種　　別

2　作　者　名

3　作　品　名

4　製作年月日

5　附　属　品

6　資料所在地

7　時価見積額

8　寄贈の理由

備考　用紙の大きさは、日本工業規格Ａ列４判とする。

第２号様式
（第２条関係）

博物館・美術館資料寄託申請書

年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館長　殿

申請者　住　所
氏　名　　印

私所有の下記の資料を沖縄県立博物館・美術館へ寄託したいので、受託されるよう申請します。

記

1　種　　別

2　作　者　名

3　作　品　名

4　製作年月日

5　附　属　品

6　資料所在地

7　寄託期間　　年　　月　　日　から
年　　月　　日　まで

備考　用紙の大きさは、日本工業規格Ａ列４判とする。

第３号様式
（第２条関係）

博物館・美術館資料受贈受諾書

年　　月　　日

殿

沖縄県立博物館・美術館長　印

年　　月　　日付け申込のあった博物館・美術館資料の寄贈については下記により受諾します。ただし、寄贈を受けた資料については、沖縄県立博物館・美術館管理規則第２条第４項の規定により返却されません。

記

１　種　　別

２　作　者　名

３　作　品　名

４　製作年月日

５　附　属　品

６　資料所在地

７　時価見積額

８　寄贈の理由

備考　用紙の大きさは、日本工業規格Ａ列４判とする。

第４号様式
（第２条関係）

博物館・美術館資料受託承認書

年　　月　　日

殿

沖縄県立博物館・美術館長　印

年　　月　　日付け申請のあった博物館・美術館資料の寄託については下記により受託します。

記

１　種　　別

２　作　者　名

３　作　品　名

４　製作年月日

５　附　属　品

６　受託期間　　年　　月　　日　から
　　年　　月　　日　まで

７　備　　考

備考　用紙の大きさは、日本工業規格Ａ列４判とする。

第５号様式
（第４条関係）

年　　月　　日

沖縄県教育委員会　殿

申請者　所　在　地
団体の名称
代表者の氏名　　印

指定管理者指定申請書

沖縄県立博物館・美術館の管理に係る指定管理者の指定を受けたいので、沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例第６条の規定により申請します。

添付書類
１　事業計画書
２　法人である団体にあっては、定款又は寄附行為及び登記事項証明書
３　法人でない団体にあっては、定款又は寄附行為に相当する書類及び代表者の身分証明書（市区町村長が発行するものに限る）
４　申請に係る業務の実施の方法を記載した書類
５　最近の事業年度における事業報告書、貸借対照表、収支決算書、財産目録その他経理的基礎を有することを明らかにする書類（申請の日に属する事業年度に設立された法人にあっては、その設立時における財産目録）
６　役員の氏名、住所及び履歴を記載した書類
７　前各号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める書類

備考　用紙の大きさは、日本工業規格Ａ列４判とする。

第６号様式
（第６条関係）

観覧料免除申請書

年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館
指定管理者　　殿

申請者　住　所
氏　名　　印
電　話

下記の理由により博物館・美術館観覧料の免除を受けたいので、沖縄県立博物館・美術館管理規則第６条第１項の規定に基づき申請します。

記

１　観覧者　団体名
引率者名
２　観覧者数　　人
３　観覧日時　　年　　月　　日（　　曜日）　　時～　　時
４　申請理由

……

承　認　証

殿

年　　月　　日付け申請の博物館・美術館の観覧料免除の件、申請どおり承認します。

年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館
指定管理者　　印

備考　用紙の大きさは、日本工業規格Ａ列４判とする。

第７号様式
（第８条関係）

博物館・美術館施設利用許可申請書

年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館
　指定管理者　　殿

申請者　氏　名　　印
　　電　話

下記により貴館施設を利用したいので、申請します。

記

１　利用者　団 体 名
　　代表者名　　印　　職業（　　）
　　住　　所　　電話

２　利用目的

３　利用する施設

４　利用する日時及び期間
　　自：　　年　　月　　日　　時　　分
　　至：　　年　　月　　日　　時　　分　　（　　）日間

５　予定参加人数　　人

……

許　可　証

年　　月　　日付け申請の（　　）使用の件、申請どおり許可します。

年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館
　指定管理者　　印

備考　用紙の大きさは、日本工業規格Ａ列４判とする。

第８号様式
（第９条関係）

沖縄県立博物館・美術館利用期間変更願

年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館
　指定管理者　　殿

申請者　住　　所
　　団　体　名
　　代表者氏名　　印
　　電話番号

沖縄県立博物館・美術館管理規則第９条第２項の規定により次のとおり利用期間の変更を願い出ます。

記

１　催物の名称

２　利用する日時及び期間
　　自：　　年　　月　　日　　時　　分
　　至：　　年　　月　　日　　時　　分　　（　　）日間

３　利用期間の変更を願い出る理由

４　備考

備考　用紙の大きさは、日本工業規格Ａ列４判とする。

第９号様式
（第10条関係）

沖縄県立博物館・美術館利用料金免除申請書

年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館
指定管理者　　殿

申請者　住　　所
団　体　名
代表者氏名　　印
電話番号

次のとおり利用料金の免除を申請します。

記

1　催物の名称

2　利用目的

3　催物の内容

4　利用する日時及び期間
自：　　年　　月　　日　　時　　分
至：　　年　　月　　日　　時　　分
（　　）日間

5　減額・免除を申請する理由

6　備考

備考　用紙の大きさは、日本工業規格Ａ列４判とする。

第10号様式
（第10条関係）

沖縄県立博物館・美術館利用料金免除承認書

年　　月　　日

殿

沖縄県立博物館・美術館
指定管理者　　印

次のとおり利用料金の免除を承認します。

記

1　催物の名称

2　利用目的

3　催物の内容

4　利用する日時及び期間
自：　　年　　月　　日　　時　　分
至：　　年　　月　　日　　時　　分
（　　）日間

5　利用料金免除額

6　備考

備考　用紙の大きさは、日本工業規格Ａ列４判とする。

◯沖縄県立博物館・美術館館長執務規程　　平成19年10月30日　教育委員会訓令第13号

（趣旨）

第１条　沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の館長（以下「館長」という。）を地方公務員法（昭和25年法律第261号）第３条第３項第３号に規定する非常勤の特別職とした場合における館長の執務等に関しては、別に定めるもののほか、この訓令によるものとする。

（任命及び任期）

第２条　館長は、博物館・美術館の管理運営に関し識見及び能力を有する者のうちから、教育委員会が任命する。

２　館長の任期は、１年以内とし、２回に限り更新することができる。

３　前項の規定にかかわらず、２回を超えて更新する必要がある場合には、教育庁文化課長は、教育庁総務課長と協議するものとする。

（報酬等）

第３条　館長の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和47年沖縄県規則第111号）に定めるところによる。

（勤務条件）

第４条　館長の勤務場所は、博物館・美術館とする。

２　館長の１月の勤務日数は16日以内とし、勤務する日は教育長が別に定める。

３　館長の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和47年沖縄県条例第43号）の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

（服務）

第５条　館長は、その職務の遂行に当たって、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。

２　館長は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。

３　館長は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職を退いた後も、また、同様とする。

４　館長は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

（解任）

第６条　教育委員会は、館長が次の各号のいずれかに該当すると認めたときは、任期内でも解任することができる。

（１）　館長の職務を怠ったとき。

（２）　前条の規定に違反したとき。

（３）　館長として不適当と認められる行為をしたとき。

（４）　心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなったとき。

（５）　任命の必要がなくなったとき。

（補則）

第７条　この訓令に定めるもののほか、館長を非常勤の特別職とした場合における館長の執務等に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附　則

この訓令は、平成19年11月１日から施行する。

◯博物館・美術館学芸業務嘱託員設置規程　　平成19年10月30日　教育委員会教育長訓令第26号

（設置）

第１条　沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の学芸業務を円滑に行うため、博物館・美術館学芸業務嘱託員（以下「嘱託員」という。）を設置する。

（身分）

第２条　嘱託員は、地方公務員法（昭和25年法律第261号）第３条第３項第３号に規定する非常勤の嘱託員とする。

（職務等）

第３条　嘱託員は、博物館・美術館の館長（以下「館長」という。）の指揮監督を受けて、次に掲げる業務を行う。

（１）　資料の調査、収集及び整理に関すること。

（２）　資料の保存、修復等に関すること。

（３）　展示に関すること。

（４）　その他博物館・美術館の事業に関すること。

（委嘱及び委嘱期間）

第４条　嘱託員は、次に掲げる者のうちから教育長が委嘱する。

（１）　博物館法（昭和26年法律第285号）第５条に規定する学芸員資格を有する者

（２）　前号に規定する学芸員資格を有する者と同等以上の能力を有すると認められる者

２　嘱託員の委嘱期間は、１年以内とし、２回に限り更新することができる。

３　前項の規定にかかわらず、２回を超えて更新する必要がある場合には、文化課長は、総務課長と協議するものとする。

（報酬等）

第５条　嘱託員の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和47年沖縄県規則第111号）に定めるところによる。

（勤務条件）

第６条　嘱託員の勤務場所は、博物館・美術館とする。

２　嘱託員の１月の勤務日数は、16日以内とし、勤務する日は、館長が別に定める。

３　嘱託員の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和47年沖縄県条例第43号）の規定の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

（服務）

第７条　嘱託員は、その職務の遂行に当たって、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。

２　嘱託員は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。
３　嘱託員は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職務を退いた後も、また、同様とする。
４　嘱託員は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

（解嘱）

第８条　教育長は、嘱託員が次の各号のいずれかに該当すると認めたときは、委嘱期間内でも解嘱することができる。
（１）　第３条に規定する職務を怠ったとき。
（２）　前条の規定に違反したとき。
（３）　嘱託員として不適当と認められる行為をしたとき。
（４）　心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなったとき。
（５）　委嘱の必要がなくなったとき。

（補則）

第９条　この訓令に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別に定める。

附　則

この訓令は、平成19年11月１日から施行する。

◯博物館･美術館教育普及業務嘱託員設置規程

平成19年10月30日　教育委員会教育長訓令第27号

（設置）

第１条　沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の教育普及業務を円滑に行うため、博物館・美術館教育普及業務嘱託員（以下「嘱託員」という。）を設置する。

（身分）

第２条　嘱託員は、地方公務員法（昭和25年法律第261号）第３条第３項第３号に規定する非常勤の嘱託員とする。

（職務等）

第３条　嘱託員は、博物館・美術館の館長（以下「館長」という。）の指揮監督を受けて、次に掲げる業務を行う。
（１）　教育普及プログラムの調査及び策定に関すること。
（２）　教育関係機関への学習支援に関すること。
（３）　ボランティア活動に関すること。
（４）　その他博物館・美術館の事業に関すること。

（委嘱及び委嘱期間）

第４条　嘱託員は、次に掲げる者のうちから教育長が委嘱する。
（１）　博物館法（昭和26年法律第285号）第５条に規定する学芸員資格を有する者
（２）　前号に規定する学芸員資格を有する者と同等以上の能力を有すると認められる者
２　嘱託員の委嘱期間は、１年以内とし、２回に限り更新することができる。
３　前項の規定にかかわらず、２回を超えて更新する必要がある場合には、文化課長は、総務課長と協議するものとする。

（報酬等）

第５条　嘱託員の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和47年沖縄県規則第111号）に定めるところによる。

（勤務条件）

第６条　嘱託員の勤務場所は、博物館・美術館とする。
２　嘱託員の１月の勤務日数は、16日以内とし、勤務する日は、館長が別に定める。
３　嘱託員の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和47年沖縄県条例第43号）の規定の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

（服務）

第７条　嘱託員は、その職務の遂行に当たって、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。
２　嘱託員は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。
３　嘱託員は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職務を退いた後も、また、同様とする。
４　嘱託員は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

（解嘱）

第８条　教育長は、嘱託員が次の各号のいずれかに該当すると認めたときは、委嘱期間内でも解嘱することができる。
（１）　第３条に規定する職務を怠ったとき。
（２）　前条の規定に違反したとき。
（３）　嘱託員として不適当と認められる行為をしたとき。
（４）　心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなったとき。
（５）　委嘱の必要がなくなったとき。

（補則）

第９条　この訓令に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別に定める。

附　則

この訓令は、平成19年11月１日から施行する。

◯美術品調査嘱託員設置規程

平成18年３月10日　教育委員会教育長訓令第１号
改正　平成19年10月30日　教育委員会教育長訓令22号

（趣旨）

第１条　この訓令は、県が収蔵する美術品等の調査業務を円滑に推進するため、美術品調査嘱託員（以下「嘱託員」という。）を設置し、あわせて、勤務条件その他身分の取扱いに関し必要な事項を定めるものとする。

（身分）
第２条　嘱託員は、地方公務員法（昭和25年法律第261号）第３条第３項第３号に規定する非常勤の嘱託員とする。
（職務）
第３条　嘱託員は、沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の館長（以下「館長」という。）の指揮監督を受けて、次に掲げる業務を行う。
（１）　県が収蔵する美術品の調査に関すること。
（２）　県が収蔵を予定している美術品の調査に関すること。
（３）　その他美術品の調査に関すること。
（委嘱等）
第４条　嘱託員は、沖縄県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が委嘱する。
２　嘱託員の委嘱期間は、１年以内とし、２回に限り更新することができる。
３　前項の規定にかかわらず、２回を超えて更新する必要がある場合には、文化課長は、総務課長と協議するものとする。
（報酬等）
第５条　嘱託員の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和47年沖縄県規則第111号）に定めるところによる。
（勤務条件等）
第６条　嘱託員の勤務場所は、博物館・美術館とする。
２　嘱託員の１月の勤務日数は16日以内とし、勤務する日は館長が定める。
３　嘱託員の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和47年沖縄県条例第43号）の規定の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。
（服務）
第７条　嘱託員は、その職務の遂行に当たって、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。
２　嘱託員は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。
３　嘱託員は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職務を退いた後も、また、同様とする。
４　嘱託員は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。
（解嘱）
第８条　教育長は、嘱託員が次の各号のいずれかに該当すると認めたときは、委嘱期間内でも解嘱することができる。
（１）　第３条に規定する職務を怠ったとき。
（２）　前条の規定に違反したとき。
（３）　嘱託員として不適当と認められる行為をしたとき。
（４）　心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなったとき。
（補則）
第９条　この訓令の施行に関し必要な事項は、教育長が別に定める。
附　則
この訓令は、平成18年４月１日から施行する。
附　則（平成19年10月30日教育委員会教育長訓令第22号）
この訓令は、平成19年11月１日から施行する。

○美術品保存修復嘱託員設置規程

平成18年３月10日　教育委員会教育長訓令第２号
改正　平成19年10月30日　教育委員会教育長訓令23号

（趣旨）
第１条　この訓令は、県が収蔵する美術品の保存修復業務を円滑に推進するため、美術品保存修復嘱託員（以下「嘱託員」という。）を設置し、あわせて、勤務条件その他身分の取扱いに関し必要な事項を定めるものとする。
（身分）
第２条　嘱託員は、地方公務員法（昭和25年法律第261号）第３条第３項第３号に規定する非常勤の嘱託員とする。
（職務）
第３条　嘱託員は、沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の館長（以下「館長」という。）の指揮監督を受けて、次に掲げる業務を行う。
（１）　県が収蔵する美術品の保存及び修復に関すること。
（２）　県が収蔵する美術品の保存状態の調査及び管理に関すること。
（委嘱等）
第４条　嘱託員は、沖縄県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が委嘱する。
２　嘱託員の委嘱期間は、１年以内とし、２回に限り更新することができる。
３　前項の規定にかかわらず、２回を超えて更新する必要がある場合には、文化課長は、総務課長と協議するものとする。
（報酬等）
第５条　嘱託員の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和47年沖縄県規則第111号）に定めるところによる。
（勤務条件等）
第６条　嘱託員の勤務場所は、博物館・美術館とする。
２　嘱託員の１月の勤務日数は16日以内とし、勤務する日は館長が定める。
３　嘱託員の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和47年沖縄県条例第43号）の規定の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。
（服務）
第７条　嘱託員は、その職務の遂行に当たって、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。

2　嘱託員は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。
3　嘱託員は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職務を退いた後も、また、同様とする。
4　嘱託員は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

（解嘱）

第８条　教育長は、嘱託員が次の各号のいずれかに該当すると認めたときは、委嘱期間内でも解嘱することができる。
（１）　第３条に規定する職務を怠ったとき。
（２）　前条の規定に違反したとき。
（３）　嘱託員として不適当と認められる行為をしたとき。
（４）　心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなったとき。

（補則）

第９条　この訓令の施行に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附　則

この訓令は、平成18年４月１日から施行する。

附　則（平成19年10月30日教育委員会教育長訓令第23号）

この訓令は、平成19年11月１日から施行する。

◯沖縄県立博物館保管資料の利用に関する取扱要領

平成14年３月14日　教育長決裁

（目　的）

第１条　この要領は、沖縄県立博物館が保管する資料（以下「資料」という。）の利用について必要な事項を定めるものとする。

（定　義）

第２条　この要領において利用とは、次の各号に掲げることをいう。
（１）　展示会等における原資料等の借用。
（２）　同資料の撮影。
（３）　原資料等を被写体として製作された写真原板や印画などの借用。
（４）　撮影等による複製品の製作。
（５）　原資料等の閲覧。
（６）　教育普及資料の借用。

（許可の基準）

第３条　博物館長（以下「館長」という。）は、教育・学術・文化等に係わる事業、学術研究の推進並びに文化の向上に資する事業、又は館長が特に必要と認めた場合において資料の利用を許可することができる。ただし、次の各号の一に掲げる事項はこの限りでない。
（１）　資料の保存に悪影響が生じると認められる場合。
（２）　好ましくない用途に供されると認められる場合。
（３）　館の事務処理に支障が生じると認められる場合。
（４）　資料のうち、ほかに権利を有する者があるものについて、事前に書面による同意を得ていない場合。
（５）　過去に目的外使用の事実又は許可条件に違反する事実があると認められる場合。
（６）　その他、許可することが適当でないと認められる場合。

（許可申請の手続き）

第４条　資料の利用を希望する者は、以下の各号に応じ、資料利用申請書（以下「申請書」という。）に事業の趣旨や主体者、事業計画等を記載した企画書等を添えて館長に利用開始14日前までに、申請しなければならない。
（１）　原資料等の借用（第１号様式）
（２）　写真撮影、原板・印画の借用（第２号様式）
（３）　複製品の製作（第３号様式）
（４）　原資料等の閲覧（第４号様式）
（５）　教育普及資料の借用（第５号様式）

（審査及び決定）

第５条　前条の規定による申請があった場合、館長は次の各号に掲げる事項について、審査し、許可するかどうかを決定しなければならない。
（１）　事業の趣旨及び内容。
（２）　事業の主体者。
（３）　事業計画。
（４）　その他必要な事項。

（許可書の交付）

第６条　資料利用を許可する決定を行ったときは、次の各号により当該申請者に対し別表のとおりの条件を付した資料利用許可書（以下「許可書」という。）を交付するものとする。ただし、館長が特に必要と認めた軽微なものについては、その限りでない。
（１）　原資料等の借用（第１－１号様式）
（２）　写真撮影、原板・印画の借用（第２－１号様式）
（３）　複製品の製作（第３－１号様式）
（４）　原資料等の閲覧（第４－１号様式）
（５）　教育普及資料の借用（第５－１号様式）
２　館長は前項のほか、必要と認められる場合は、別に条件を付することができる。

附　則

この要領は、平成14年４月１日から実施する。

別表（第６条関係）各申請の資料利用の許可条件

利用申請の内容（各申請様式）	資料利用の許可条件	
	共通条件	個別条件
原資料等の借用（第１号様式）	①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。 ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。 ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。 ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。 ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。	①資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。 ②資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。 ③貸与期間は原則として２ヶ月以内とする。 ④借用によって生じた成果品を当館に１部（１点）を納付すること。
写真撮影、原板・印画の借用（第２号様式）		①撮影は原則として休館日の午後に行うこと。 ②製作された写真デュープやビデオ、CD 等を当館に無償で１部（１点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。 ③写真原板の貸与期間は３週間以内とする。 ④郵送費は申請者が負担すること。 ⑤資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
複製品の製作（第３号様式）		①撮影は原則として休館日の午後に行うこと。 ②撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。 ③製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。 ④製作された写真デュープやビデオ、CD 等を当館に無償で１部（１点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。 ⑤写真原板の貸与期間は３週間以内とする。 ⑥資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
原資料等の閲覧（第４号様式）		①展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。 ②閲覧する資料は、原則として１日５点以内とする。 ③閲覧によって得られた成果（論文や著作等）は、当館に１部（１点）納付すること。
教育普及資料の借用ののの（第５号様式）		①与期間は１週間以内とする。 ②資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。 ③資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。 ④万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。

第１号様式（第４条関係）

資 料 利 用 申 請 書
（原資料等の借用）

平成　　年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館長　殿

代表者名：　　印
申請者　団 体 名：
（担当者氏名　　）
住　　所：〒

TEL：
FAX：

下記により原資料等の館外利用を許可くださるようお願いします。

記

事　業　名			
借用希望期間	年　月　日 ～　月　日		
目　的			
展示等場所			
資　料　名		員　数	備　考
１． ２． ３． ４．			

※留意事項
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
⑥資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。
⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
⑧貸与期間は原則として２ヶ月以内とする。
⑨借用によって生じた成果品を当館に１部（１点）を納付すること。
前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第１－１号様式（第６条関係）

資 料 利 用 許 可 書
（原資料等の借用）

博　美　第　　号
平成　　年　　月　　日

殿

沖縄県立博物館・美術館長

平成　　年　　月　　日付けで申請のあった資料の館外利用については、下記により許可します。

記

事　業　名			
借用希望期間			
目　的			
展示等場所			
資　料　名		員　数	備　考
１． ２． ３． ４．			

※許可条件
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
⑥資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。
⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
⑧貸与期間は原則として２ヶ月以内とする。
⑨借用によって生じた成果品を当館に１部（１点）を納付すること。
前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第１号様式（第４条関係）

資 料 利 用 申 請 書
（写真撮影、原板・印画の借用）

平成　　年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館長　殿

代表者名：　　印
申請者　団 体 名：
（担当者氏名　　）
住　　所：〒
TEL：
FAX：

下記により資料の写真撮影、原板・印画の利用を許可くださるようお願いします。

記

利　用　区　分		１　写真原板使用　　２　撮影　　３　掲載　　※〇で囲む			
希望日時・期間		年　月　日　～　月　日　　時　～　時			
目的	事　項	名　称	部　数	制作予定日	備　考
	出版物 映　画 テレビ ＤＶＤ Ｃ　Ｄ その他				
資　料　名			数　量	仕　様	備　考
１． ２． ３．					

※留意事項
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
⑦製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で１部（１点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
⑧写真原板の貸与期間は３週間以内とする。
⑨郵送費は申請者が負担すること。
⑩資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第１－１号様式（第６条関係）

資 料 利 用 許 可 書
（写真撮影、原板・印画の借用）

博　美　第　　号
平成　　年　　月　　日

殿

沖縄県立博物館・美術館長

平成　　年　　月　　日付けで申請のあった資料の利用については、下記により許可します。

記

利　用　区　分		１　写真原板使用　　２　撮影　　３　掲載　　※〇で囲む			
希望日時・期間		年　月　日　～　月　日　　時　～　時			
目的	事　項	名　称	部　数	制作予定日	備　考
	出版物 映　画 テレビ ＤＶＤ Ｃ　Ｄ その他				
資　料　名			数　量	仕　様	備　考
１． ２． ３．					

※許可条件
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
⑦製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で１部（１点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
⑧写真原板の貸与期間は３週間以内とする。
⑨郵送費は申請者が負担すること。
⑩資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第３号様式（第４条関係）

資 料 利 用 申 請 書
（複製品の製作）

平成　　年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館長　殿

代表者名：　　印
申請者　団 体 名：
（担当者氏名　　）
住　　所：〒
TEL：
FAX：

下記により複製品製作のため資料の利用を許可くださるようお願いします。

記

利 用 区 分	１　写真原板使用　　２　撮影　　３　掲載　　※〇で囲む				
借用希望期間	年　　月　　日 ～　　月　　日				
目　　的					
製 作 仕 様					
製 作 予 定 日	平成　　年　　月　　日	製作点数	点	販売価格	円
資　料　名		数　量	仕　様	備　考	
１． ２． ３．					

※留意事項
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
⑦撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。
⑧製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。
⑨製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で１部（１点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
⑩写真原板の貸与期間は３週間以内とする。
⑪資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第３－１号様式（第６条関係）

資 料 利 用 許 可 書
（複製品の製作）

博　美　第　　号
平成　　年　　月　　日

殿

沖縄県立博物館・美術館長

平成　　年　　月　　日付けで申請のあった特別利用については、下記により許可します。

記

利 用 区 分	１　写真原板使用　　２　撮影　　３　掲載　　※〇で囲む				
借用希望期間	年　　月　　日 ～　　月　　日				
目　　的					
製 作 仕 様					
製 作 予 定 日	平成　　年　　月　　日	製作点数	点	販売価格	円
資　料　名		数　量	仕　様	備　考	
１． ２． ３．					

※許可条件
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
⑦撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。
⑧製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。
⑨製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で１部（１点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
⑩写真原板の貸与期間は３週間以内とする。
⑪資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第４号様式（第４条関係）

資 料 利 用 申 請 書
（原資料等の閲覧）

平成　　年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館長　殿

代表者名：　　印
申請者　団 体 名：
（担当者氏名　　）
住　　所：〒
TEL：
FAX：

下記により原資料等の閲覧を許可くださるようお願いします。

記

目　　的				
閲覧希望日時	平成　　年　　月　　日　　時～　　時		閲覧人員	
資　　料　　名		員　数	備　　考	
1. 2. 3. 4. 5.				

※留意事項

①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること
⑥展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。
⑦閲覧する資料は、原則として１日５点以内とする。
⑧閲覧によって得られた成果（論文や著作等）は、当館に１部（１点）納付すること。
前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第４－１号様式（第６条関係）

資 料 利 用 許 可 書
（原資料等の閲覧）

博　美　第　　号
平成　　年　　月　　日

殿

沖縄県立博物館・美術館長

平成　　年　　月　　日付けで申請のあった資料の閲覧については、下記により許可します。

記

目　　的				
閲 覧 日 時	平成　　年　　月　　日　　時～　　時		閲覧人員	
担当学芸員				
資　　料　　名		員　数	備　　考	
1. 2. 3. 4. 5.				

※許可条件

①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること
⑥展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。
⑦閲覧する資料は、原則として１日５点以内とする。
⑧閲覧によって得られた成果（論文や著作等）は、当館に１部（１点）納付すること。
前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第５号様式（第４条関係）

資 料 利 用 申 請 書
（教育普及資料の借用）

平成　　年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館長　殿

申請者　代表者名：　　印
団 体 名：
（担当者氏名　　）
住　　所：〒
TEL：
FAX：

下記により教育普及資料の利用を許可くださるようお願いします。

記

利　用　区　分	１学校（学年・学級）行事　　２地域・団体行事　　３その他		
希望日時・期間	年　月　日（　時）～　年　月　日（　時）		
行　事　名		参加人員	
目　的			

資　料　名	数　量	備　考
１． ２． ３． ４．		

※留意事項
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
⑥貸与期間は１週間以内とする。
⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
⑧資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。
⑨万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。
前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第５－１号様式（第６条関係）

資 料 利 用 許 可 書
（教育普及資料の借用）

博　美　第　　号
平成　　年　　月　　日

殿

沖縄県立博物館・美術館長

平成　　年　　月　　日付けで申請のあった資料利用については、下記により許可します。

記

利　用　区　分	１学校（学年・学級）行事　　２地域・団体行事　　３その他		
希望日時・期間	年　月　日（　時）～　年　月　日（　時）		
行　事　名		参加人員	
目　的			

資　料　名	数　量	備　考
１． ２． ３． ４．		

※許可条件
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
⑥貸与期間は１週間以内とする。
⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
⑧資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。
⑨万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。
前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

沖縄県立博物館・美術館年報　No.４

2011（平成23）年11月30日

編集・発行：沖縄県立博物館・美術館
住　　所：〒900-0006
沖縄県那覇市おもろまち３丁目１番地１号
Ｔ　Ｅ　Ｌ：０９８-９４１-８２００（代表）
Ｆ　Ａ　Ｘ：０９８-９４１-２３９２（代表）
ホームページ：http://www.museums.pref.okinawa.jp
（沖縄県立博物館・美術館ホームページ）
印　　刷：株式会社 国 際 印 刷
住　　所：〒901-0147
沖縄県那覇市宮城１丁目13番９号（TEL：098-857-3385）

○この刊行物は、672,000円の経費により600部作成しました。